



国際ロータリー 第274地区

1988-1989

地区協議会報告書

昭和63年5月8日(日)

会 場／唐津シーサイドハイツ
唐津シーサイドホテル

ホストクラブ／唐津ロータリークラブ

1988～'89 国際ロータリーのテーマ

ロータリーに活力を— あなたの活力を

PUT LIFE INTO ROTARY—
YOUR LIFE



ロイス・アビー

1988～'89年度 国際ロータリー会長



目 次

地区協議会プログラム	1 頁
歓迎のことば	ホストクラブ会長 古川 軫三 2 頁
あいさつ	ガバナー 田中丸 善一郎 3 頁
新年度方針	ガバナーノミニー 辻 庚一 6 頁
部門別研究部会組織表	10 頁
部門別研究部会報告	
会長部会	11 頁
幹事部会	28 頁
クラブ奉仕部会	46 頁
拡大・会員増強部会	64 頁
職業奉仕部会	80 頁
社会奉仕(含青少年奉仕)部会	97 頁
国際奉仕部会	115 頁
地区委員部会	147 頁
閉会のことば	148 頁

1988~'89国際ロータリー第274地区

地区協議会プログラム

開催日 昭和63年5月8日(日)

会場 唐津シーサイドハイツ(唐津市東唐津)

懇親会場 唐津シーサイドホテル(唐津市東唐津)

ホストクラブ 唐津ロータリークラブ

11:00~12:30 カウンセラー・リーダー・副リーダー直前打ち合わせ会

12:00~13:00 登録

13:00~13:10 開会・点鐘

国歌・ロータリーソング「奉仕の理想」

歓迎のことば ホストクラブ唐津RC会長 古川軫三

13:10~13:30 あいさつ ガバナー 田中丸 善一郎
紹介

ガバナーノミニー、パストガバナー、

カウンセラー、リーダー、副リーダー

13:30~13:50 新年度の方針 ガバナーノミニー 辻 庚一

13:50~14:05 休憩(移動)

14:05~16:00 部門別研究会(8部会)

16:00~16:15 休憩(移動)

16:15~16:25 新年度地区予算について 次期地区幹事 野口春陽

16:25~17:10 部門別研究会報告(7部会) 各リーダー

17:10~17:20 あいさつ ガバナー 田中丸 善一郎

17:20~17:30 閉会のことば ガバナーノミニー 辻 庚一

17:30~17:45 移動(懇親会場へ)

17:45~19:00 懇親会



歓迎のことば

ホストクラブ会長 古川 軫三
(唐津R.C.)

ホストクラブを代表致しまして一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、国際ロータリー第274地区の地区協議会を開催致しましたところ、何かとご多用中にも拘りませず、又遠路かくも多数のご参集を賜わりまして、まことに有難うございました。

又、田中丸ガバナーを始め、カウンセラー・リーダー・副リーダーをお勤め頂きます皆様、本当にご苦労様でございます。宣しくお願い申し上げます。

さて、辻ガバナー・ノミニーは、去る2月米国ナッシュビルで開催されました国際協議会に出席され、色々な要請課題を受けて来られましたが、既にロイス・アビ一次期R・I会長のご方針を受け、新年度に向けての活動方針と申しますか、抱負をお持ちのようあります。新たなる観点から親しくご指導頂けるものと存じます。

本日ご参集の皆様は、7月から地区及びクラブの要として、夫々のお立場でご活躍なさるわけであります。奉仕の理想実現の為、共に手を携え前進致したいと思う次第であります。

尚、ホストクラブと致しましては、何分にも不慣れの為、不行き届きの点も多々あろうかと存じますが、何卒友愛の心を以ってご寛容頂き、本日の協議会が実り多いものとなりますよう、皆様のご協力を宣しくお願い申し上げます。

甚だ簡単粗鄙ではございましたが、歓迎のご挨拶と致します。有難うございました。



ご挨拶

国際ロータリー第274地区

ガバナー 田中丸 善一郎

いよいよ新しい年度、皆さんのご活躍の年度が間近かになってまいりました。

新年度のテーマは、ここに掲げてありますように、“PUT LIFE INTO ROTARY — YOUR LIFE” ということですが、正にロータリーの中に没入して、献身的なお骨折を頂く年になるものと思います。

皆さん方は、ロータリーについての識見、熱意そしてリーダーとしての資格と経験を十分そなえた方々ばかりで、夫々のクラブのご信頼を一身に集めておられる方たちであります。来る7月1日から1年間、たいへんご苦労をおかけすることと存じます。しかし、今迄気づかなかつた友情の深さ、会員の能力の豊かさ、そしてロータリアンの連帯感のすばらしさを知ることによってご苦労は十分に報いられることと思います。

さて、そこで私は皆さん方が仕事をして行かれます上で、知っておられた方がよいであろうと思われる第274地区の現況についてご報告をしておきます。地区内の会員数は3月末現在で2,458名です。これは年度始めの時と比べますと49名の増加となっております。各クラブの内訳を分類して申しますと、佐世保クラブが106名で最多会員を擁するクラブですが、それを含めて100人台から80人台のクラブが6ございます。そして70人台から50人台までのクラブが19、その下の、40人台から30人台までのクラブが20クラブという分類になります。会員数には地域の特性上可なりの格差がございます。

従って運営の面において同一に行きませんし、委員会活動の実際にも違いが生じてきます。

多人数のクラブでは質の管理と共に量の管理に於ても一工夫が必要です。例会時間の配分、親睦イベントの組み方、情報伝達の方法等色々の面でご苦労がおありのことだと思います。又、少人数の所は「親睦はうまくいくが、地域の特性上、会員の増強が難かしい、何か名案はなかろうか」という点が公式訪問した時に悩みの種のようでした。委員会活動を充実させる面でもご苦労がおありのようでした。

ついでに申しますと、ロータークトの数は14クラブで246名、インターラクトは21クラブに550名おります。

さて、例会の出席率について申し上げますと、この274地区では常に100%を堅持しておられる優

秀クラブが7つあります。これは誠に立派というほかありません。そして90%台が30、80%台が7つ、70%台のクラブが1つという現状であります。

おかげさまでポリオプラス寄付は2月末で 5,589万8千円集っております。因みに全国で一番の地区は第265地区（これは福井、京都、奈良、滋賀を含む地区です）が第1位で1億89万円、最低地区は第273地区（宮崎、鹿児島）で3千6万円となっております。

それから昨年7月から2月までに地区内で新しくポールハリスフェローになられた会員は222名で、当地区的財団への寄付額は17万3,795ドルになっています。因みに累計での上位は佐世保クラブが第1位で16,500%、伊万里西クラブがそれに次いで11,000%、そして佐世保西クラブが9,500%、長崎北東クラブが9,200%、そして長崎東クラブが9,100%となっていて、まことに立派な成績です。

それから米山奨学会への寄付ですが当地区的12月末の実績は、633万7,500円で、最高は長崎北クラブ、次いで佐世保クラブ、福江クラブで、そして佐世保北クラブの順であります。累計では上位から佐世保、長崎北、佐世保南、長崎クラブの順になっております。

地区内の行事として私がやって参りました主なものは、昨年3月にナッシュビルでの国際協議会を終って帰朝してから、休む暇もなく、次年度会長研修会、続いてこの地区協議会、そして国際大会、これはミュンヘンで行われましたが、それに出席して帰って、7月1日、年度の開始、そして公式訪問を7月14日鹿島クラブを皮切りに、11月15日島原南クラブまで、45クラブを回りました。その間地区的年次大会、またインタークトの年次大会、そして財団奨学生の選考会、それに地区委員の会合等がありました。又、青少年交換学生の派遣及び受入れもいたしました。そしてライラの大会も充実したものであります。更に今年に入って、地区的情報セミナーが組みこまれ、それから分区毎のI・G・Fが6回終了いたしました。そのほか、米山奨学生の選考会が先日終りましたが、ローターアクトの年次大会は6月の11~12日に予定されており、それが終ってやっとガバナー卒業ももう間もなくということになりました。

しかし、まだ先が長い感じです。新しい年に入りまして、シンガポールで行われる国際ロータリーの規定審議会に代表として出席し、また韓国ソウルで開催される国際大会には、直前ガバナーが実行委員長として出席するように決っておりますので、パストガバナーとしての道もまだまだ遠く続くようです。一昨年、福江の年次大会でR.I.会長代理をつとめられたジョージ・アーセーノ氏のことばではありませんが「私たちが今迄やってきた仕事は、私たちが将来やらなければならない努力にくらべたらほんの一部に過ぎない」という実感が重くのしかかっております。

ガバナーをやってみて、全国のロータリアンの中に言葉は悪いですが、いわゆるロタキチと呼ばれる「手綱要覧が背広を着て歩いている」というような、心の底からロータリーに浸りきっている熱烈な会員がたくさんおられることを知りました。皆さんの中にも、万事に精通して、BELIVE IN ROTARY というか、PUT LIFE INTO ROTARY の方がおられることと思います。「入れて学べ」と申しますが、恐らくロータリー生活が身についている方ばかりだと思います。

やはりロータリーというものは魅力にみちた集団です。80年も続いてきていることがその証拠です。皆さんはこれから十分ロータリーをエンジョイして下さい。ロータリーは何かという質問に対する答えは会員の数だけあるといわれます。しかし、共通に持っている相互の信頼感や重い連帯意識はロータリアンならではのものです。

クラブにも、夫々の個性があると思います。会員が、自分のクラブに満足し、誇りをもち、より一層の発展をめざして、生き生きとして清々しく過ごしていくようなクラブでありたいものです。楽しいクラブにして頂きたいと思います。生き生きとして前進するクラブにして下さい。

R I のパスト会長で皆さんご承知のハロルド・トーマス氏も「生命を持ち、成長をし、そして常に変遷するロータリーのような組織においては、何人も不当に過去にこだわるべきではない。運動は前進しなければならない」といっておられます。クラブ運営がマンネリズムに陥らず、クラブ全体が若さを保ち、常に生き生きと前進を続けるためには、会員の一人一人が若さを保たなければならぬと思います。分区代理の方々、地区委員の方々は地区内のクラブが澆刺として、生々発展することを願って夫々の分野でのご指導ご支援を行って下さい。

「若さとは」ゼネラル・マッカーサーは執務室にそのような額をかけっていました。サムエル・ウルマンの詩の一節でした。「若さとは人生のある時期のことではなく、心のあり方のことである。若くあるためには、強い意志力と優れた構想力と、激しい情熱が必要であり、小心を圧倒する勇気と安きにつこうとする心を叱りつけて冒険へ立ち向う心がなければならない。人は歳月を重ねたから老いるのではない。理想を失うときに老いるのである」とその詩は証っているのです。

ロータリーの奉仕の理想は高く情熱は年毎に燃え上っているように思います。どうかこの理想をしほませることなく、辻ガバナーのご指導の下に若々しくて活力のあるクラブづくりに、ご尽力頂きますことを中心からお祈りして私のお話を終らせて頂きます。



私が奉仕の火を燃やす年 (新年度方針)

国際ロータリー第274地区

ガバナーノミニー 辻 康一

皆様よくいらっしゃいました。ご遠方のところさぞお疲れのことと存じます。私、只今ご紹介を頂きました辻でございます。どうか宣しくお願ひします。

田中丸ガバナーの後を受けて、7月からいよいよ私共の新年度になります。本日はその為の国際ロータリー第274地区の地区協議会でございます。地区協議会は、ご承知のように次期R・I会長ロイス・アビーの方針を説明し、向う一か年の運営方針を打ち出す、新年度クラブ役員の為の研修会であります。従いましてこの協議会の成否が、当地区の一か年に重大な影響を与えますので、お疲れとは思いますが各部会共十分なご討議をお願い致します。

さて、私は去る2月20日より28日まで、米国テネシー州ナッシュビルにおいて開催されました国際協議会に出席し、研修を受けて参りました。161か国、23,273クラブ、105万人の会員から選ばれた465地区的ガバナーと同夫人、並びにR・I理事・役員を含め1千人余の国際色豊かな協議会でございました。

1988～'89年度R・I会長ロイス・アビー氏より、R・Iテーマと方針が発表されました。

「ロータリーに活力を — あなたの活力を」

これが次年度のテーマです。アビー会長は申されました。「活力とは行動を意味する。ロータリーは行動である。あなたなしにロータリーは存在しない。あなたが参加することにより、ロータリーが生きてくる。あなたの行動がロータリーに活力を与える。」と、声高らかに情熱を込めて申されました。私は身のふるうような思いでございました。

思い返しますとかつて26年前、東洋人として初めてR・I会長となられたインドのニッティシC・ラハリー氏のテーマを聞いたとき以来の感動でした。昭和37年11月10日ラハリー会長ご夫妻が福岡に見えられました。非常に物静かな方で、敬虔なヒンズー教徒の会長は、私共に対して合掌され、よく通るおだやかな口調で申されました。「内部に火を燃やせ、自身を発見せよ、力を伸ばせ、目的を表示せよ」なんと素晴らしい言葉の芸術でございましょう。そして、それは行動を喚起させました。私の心は強い衝撃によって、激しく燃え立ちました。

「キラキラと 弾むせせらぎ 初夏の朝」

今日お集まりの皆様のお顔を拝見致しますと、本当に次年度への挑戦に燃え、キラキラと輝いて見えます。私は皆様方のご期待に添わなくてはなりません。又、皆様方のやる気に火をつけねばなりません。皆様方の行動計画と作戦が発動できるよう、次年度の指針を只今から申し上げなければなりません。

それでは先ず第一番に、アビー会長の12のチャレンジ（要請課題）をご紹介致します。

1. ロータリアンはいずれかの奉仕活動に参加すること、且つその機会をつくってやること。
2. 出席を楽しいものとして出席率の向上をはかること、その為例会のマンネリ化を打破すること。
3. ロータリー情報の勉強をして、ロータリーへの理解を促進すること。
4. 会員増強と拡大により、会員数10%増を目指すこと。
5. 40才以下の会員を募り、クラブの若返りをはかること。
6. 年度内に仕上がるクラブ全会員参加の奉仕を行うこと、そうすることによって各会員行動の年とすること。
7. 地区年次大会の参加率を上げること。
8. 財団事業の理解促進。

又、奨学生補助金、特別補助金等受領者の選考、指導等により、財団の内容を知ると共に、地域社会の人々にもその内容を知ってもらうこと。

9. 財団の健全な発展の為、寄付の方法を理解し、且つ寄付への協力をはかること。
10. 青少年活動プログラムを開発し、特にローターアクトを活性化すること。
11. クラブの諸活動を3か月毎にチェックし、年4回ガバナーへ報告すること。
12. 全てのロータリアンが、地区及びクラブでの役職・指導的な地位を引き受けができるような、プログラムをつくること。

まとめの言葉として「ロータリーは行動志向の奉仕組織である。ロータリーでは、ロータリーが何をするかが問題なのであり、あなたなしにロータリーは存在しない。ロータリアンがロータリーを生かすのである。皆さん個人的に貢献することにより、ロータリーに活力を与える。」と結ばれました。

まさしくロータリアンの行動への活力が火を吹く思いでございました。アビー会長の情熱溢れる燃えるが如きスピーチを聞いて、若い頃読んだトルストイの言葉を思い出しました。「人は全て神性という火種を持っている。その火種は、心の中でバチバチと音をたてている。その火種が、誰かの手によって点火され、燃えたつとき、その人は神と等しい存在となる。」まさにアビー会長は、私達ロータリアンの心の中にある奉仕への火種に点火された人ではなかったかと、そのような思いが致しました。勿論、歴代R I会長も夫々のテーマの中において、私達の奉仕への火種に点火されたわけでございます。点火されて燃えたつのは私達一人一人です。

次年度の第274地区ガバナーとしての方針は「私が奉仕の火を燃やす年」と定めました。どうか私の真意をご理解頂きまして、奉仕への火を燃やして、共々に活力を燃焼しようではありませんか。以上を踏まえ、ロータリーに活力を与える為には、私達ロータリアンの一人一人が、全生命をあげて奉仕の行動に入ることであると、かように思います。

次に、次年度はロータリーの原点に戻り、ロータリーを反省し、ロータリーの再点検をして足元を

固める年であると言えます。足元を固めるということは、決して消極的なことではありません。奉仕への積極化を進める為、ロータリアンとして、ロータリークラブとして、何をなすべきかを確かめることです。その確かめよというのが、先程申し述べましたアビー会長の12の項目であります。

果たして多くのロータリアンは、ロータリーの目標について、又、自分達が参加している各奉仕部門について、十分な理解を得ているありますか。或いは理解しようとする意欲が不足してはいませんでしょうか。この小さなバッチが持つ偉大なる価値が、例会で食事をとる、只それだけのものになっているのではないでしょうか。ロータリーはその背景からして、実践向きの行動力のある人から成り立っている筈です。これが地域・職域社会の指導者になれた秘訣であると思います。ではどうすればリーダーシップを引き出し、地域社会のお役にたつことができるでしょうか。

20%の会員で、クラブの行動の80%をこなしているクラブが沢山あるとのことです。「眠れる会員が目を覚ます」これが私の新年度における第一の仕事でございます。これを踏まえて、私の目標を申し上げます。

1. 奉仕に対する全員参加の為、クラブ奉仕の強化
2. 出席向上、楽しい例会
3. ロータリー情報の習得
4. 拡大こみの会員増強、地区目標10%増
5. 青少年活動の強化と、青少年交換の促進

この五つを重点目標に致しておりますが、これは、ロータリー奉仕活動の全てに関連するものでございまして、奉仕に対する全員参加の中に、職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕の3部門が含まれているのは勿論でございます。問題はロータリーに活力を与える為にロータリアン一人一人は何をなすべきか、それはあなたの全生命を投げうってと、アビー会長は申されました。日本語は「LIFE」を「活力」と訳してあるわけですが、実はアビー会長は生命そのものなのであると申されました。迫力溢れる大熱弁で生命とおっしゃったわけでございますが、どうかアビー会長のお気持を幾らかでもお汲み取り頂ければ、まことに幸せだと存じます。

以上、私の方針それから目標を申し上げたわけでございますが、最後に連絡事項もございます。三つ申し上げますので宣しくお願ひ申し上げます。

1. 公式訪問ではビデオを使わして頂きます。各クラブともそのご用意をお願い致します。
2. 地区年次大会は、11月19・20日唐津市で開催致します。2日目に会員が激減しますので、今年はそれがないようご協力をお願ひします。
3. 来年5月21日より4日間、国際大会がソウルで開催されます。各地区 500人以上の出席が要請されています。第274地区は45クラブ、一クラブ平均10人になります。宣しくご協力の程お願ひ申し上げます。

以上、舌足らずでまことに申し訳ございませんでしたが、所感を申し述べました。共々に新年度に向かって、奉仕活動の行動を始めねばなりませんので、どうか皆様方のご理解、ご後援の程をお願い申し上げまして、私の方針並びにご挨拶にかえさせて頂きます。

どうも有難うございました。

部 門 別 研 究 会

(文中の敬称略)

部 会 出 席 者

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 次期会長 | 6. 次期社会奉仕委員長 |
| 2. 次期幹事 | 7. 次期青少年奉仕委員長 |
| 3. 次期クラブ奉仕委員長 | 8. 次期国際奉仕委員長 |
| 4. 次期会員増強委員長 | 9. 次期地区委員長及び委員 |
| 5. 次期職業奉仕委員長 | |

1988年度 第274地区 部門別研究会

部会名	カウンセラー	リーダー	副リーダー
会長部会	G 田中丸 善一郎 (佐世保南)	G N 辻 庚一 (唐津)	坂本 安 (唐津)
幹事部会	P G 逸見嘉彦 (佐世保南)	松尾誠一 (佐世保南)	松尾 隆一郎 (佐世保南)
クラブ奉仕部会	G N 中部長次郎 (長崎北)	森内三次 (長崎北)	藤本茂樹 (長崎北)
拡大・会員増強部会	P G 野田久雄 (福江)	久満宇幸 (唐津西)	田代孝男 (唐津西)
職業奉仕部会	井上安郎 (唐津東)	落合親 (唐津東)	新岡正久 (唐津東)
社会奉仕部会 (含青少年奉仕)	P G 井田圓之 (佐賀西)	蒲原久夫 (佐賀西)	宮崎弘海 (佐賀西)
国際奉仕部会	P G 岩永光治 (長崎)	本城好春 (唐津)	江頭絢一 (唐津)
地区委員部会			

S・A・A 記録（唐津ロータリークラブ）

部会名	S・A・A	記録
会長部会	白井努武	丸田稔夫
幹事部会	中里一雅	平野浩二郎
クラブ奉仕部会	山下重夫	佐間野行雄
拡大・会員増強部会	小林智昭	原口洋亮
職業奉仕部会	平野淳一	平岡巖
社会奉仕部会	平岡清一	石松憲一郎
国際奉仕部会	藤原等	松尾紀男
地区委員部会	玉置長衛	
全体会議	玉置長衛	川添晃

会 長 部 会



カウンセラー 田中丸 善一郎 (佐世保南)
GN (1988~1989)
リーダー 辻 庚一 (唐津)
副リーダー 坂本 安 (唐津)

カウンセラー

とりあえず、皆様方にお話ししたいことは、最近のR I の状況でございます。1994年の大会を大阪がやる、ということで、前に、お話ししておきました。これは、台北に、やっぱり負けたそうで、1994年の国際大会は台北ということで、決まったそうでございます。

それから、今のロイスアビーさんの次はH・M・アーチャーという、ミシガン州のデアボーンというクラブ出身の、アメリカの方だそうで89年から90年にかけてのR I の会長でございます。

それから、女性の会員は急にふえまして、ア

メリカでは、2,800名を超えたそうでございます。それで、今のところ、法律的には、アメリカ以外には、女性を入れんならん、という法律はないそうで、とりあえず、このまでいってくれと、それで、来年の2月に、何か新しい提案を、アメリカがやるらしい様です。それで、とりあえず、アメリカだけは、今申し上げたように、2,800名で、恐らく、東京のクラブにはメキャップが来るだろう、というわけです。そのときどうしますか、という話になっておりまして、まあ、せいぜい大事に扱ってくれ、ということでございますので、ひとつ、会長さんは、さようお心得ください。必ずどこかにはお

次へ

会長部会

いでになるだろうと思います。

それから、あのとき申し上げましたけど、ボリオに関しては、非常な、皆様の御熱意で大体結論になってきております。それで、世界的にはいけるということで、5月のフィラデルフィアの大会では、キラー会長は、ロータリーのボリオボラス募金の終結宣言をやるそうでございます。

それから、日本は、どうなつとるかと言いますと、借用書みたいなものを入れとるのですね。そういう国際的なしきたりがあるそうです。ですから、日本は、もう納めたという形に、一応なるんだそうです。

それで、最初、日本の場合は、今申し上げましたように、4年間とか、5年間とか言うとりましたもんですから、大分長くかかるようございましたが、一番そう言うておりました東京が、何かできとるようでございます。ですから最初私が申し上げましたように、そんなにみんな大事に考えないで、4万円ぐらい出してやつたらええやないか、というわけで、何となく進んでおった、ということですね。実際は、今申し上げましたように、世界中がほとんど、今年中で全部終わるということでございます。アメリカ全体では、6月で終結宣言だそうです。

それから、皆さんの中でも、既に御存じだと思いますが、ユニセフが、戦争で、日本が負けましたあと、14年間にわたって、65億円の金を支給しているのですね。今から40年前の65億でございます。それで、今、大体50前後の人というのは、みんな、その粉ミルクを飲んで大きくなつとるわけです。それならば、ここで、御恩返しですね、ユニセフに、当然寄付すべきだと、私は言うのです。

65億円でございまして、これは、ものすごい金額でございます。それを、ロータリーは、40億でございますから、今のお金で。ですから、やってくださいと、お願いをしまして、実は、そう、ほかの地区に恥ずかしくないような形で終わりそうでございます。

この年度で終わりまして、辻ガバナーのみニーが、ガバナーにおなりになったときは、もう次のことにからなければいけないんですね、ひとつ、皆様の一層の御協力をお願いたしておきます。

リーダー

まず、討議に入ります前に、いささか連絡事項みたいなものを申し上げます。

お手元の資料の36ページに公式訪問の予定表がございます。7月の19日の鹿島クラブで、鹿島立ちをいたしまして、まあ、スムーズにまいりますと、10月の27日、唐津東で終わらしていただく予定にしております。

その間、二、三のクラブから、変更の御通知がありましたので、変更させていただいておりますが、よございましょうか。

このスケジュールでまいりますので、ひとつどうぞよろしくお願いたします。

それから、公式訪問で、今度は、ビデオを持っていきます。VHSとベータ、両方、どっちでも結構です。

それで、ルイス・アビーさんの情熱あふれる日本語のスピーチをお聞きいただきます。もちろん英語ですけれども、日本語に吹きかえてありますから、アビーさんの演説を、あとでの協議会のときに、約20分ばかり聞いていただきたいと思います。

それから、これは、ナッシュビルで、特に言われたんですが、公式訪問で、前年度丸写しの報告書がよくあるそうです。会長さんの個性のある報告書を、あるいは、それぞれの部門の個性のある報告書をよろしくお願ひしておきます。

それから、一応、五つの項目で、討議の内容にしておりますが、これは、会長のリーダーシップと、それから、会長エレクトとして、7月1日前になすべきことと、この二つ、これは御存じだと思いますが、クラブ会長必携を読まれたら、みんな詳しく書いてあるわけなんです。

クラブ会長必携、もう既に十分眼光紙背に徹して、読んであるとは思いますけれども、この会

長必携は、特に熟読していただきまして、頭の中に入れておいていただきますように、お願いたしております。

それから、ロータリアン必携という、これも各クラブでもお買い求めになってあるかとも思うんですが、ロータリアン必携と、クラブ会長必携、それから、手続要覧、いろいろ文献がございますけれども、できるだけ時間を持つて読んでいただきまして、ある程度のひとつ、武装をお願いいたしたいと、私はかように思います。

それで、議題に従いまして、会長のリーダーシップということで、話を進めてまいりたいと思います。

ロイス・アビーさんから、会長のリーダーシップということで、約30分ぐらい特別講演がございましたので、それを若干御披露申しながら進めていきたいと思います。

会長のリーダーシップと申しましても、ロータリアンそのものが、地域社会、あるいは職域社会において、先ほど私がお話しいたしましたように、既にリーダーシップを持った方ばかりです。ロータリアンというのは、地域社会において、いわゆるひとかどの長たる者がなる、ということになっておるわけでございますから、その長の上の長でございますから、なかなか大変だと思います。ですが、御承知のように、ロータリーは任意団体です。だから、任意団体の指導者というもの、これは、どうあるべきか、ということが、問題なのであって、それに対して、我々は、どういうふうに、会長としてのリーダーシップを持っていくかと、これについて、アビー会長は、四つの特質というのを言われました。ロータリークラブの会長の四つの特質ですね、ただ、この四つの特質というのは、これは、決して、皆さん方に、こうしなさいと言うのではない、これはヒントであると言います。四つの特質を申されて、これをヒントとして受けとめて、あとは、会長さん一人一人、45クラブの会長さんがいらっしゃって、そ

れぞれ45の個性があるわけですから、そしてまた、それぞれのクラブの、また、環境というものも違うわけですから、それで、この四つの特質、このヒントを得て、自分たちは自分たちのクラブをつくりなさいということなんです。そのクラブの会長としての、そのリーダーシップを發揮してくださいということです。

それで、申し上げますと、実に簡単なことなんで、1番が誠実、2番目が目的意識と根気の育成、いわゆる会長さんとして、自分のクラブをどう、この年度持っていくか、という目的というものを、はっきりつくってくださいと。そして、一遍つくった目的、あるいは目標に対して、途中で投げ出さんように、おしんの頑張りをひとつ、ということじゃないかと思います。根気の育成という、これは、日本語訳でそうなっております。

それから、三つ目は、特に大切だと思うのは公正な態度でございます。

それから、4番目が、自分の信ずるところを進んで熱心に発言をしてくれ、ということでございます。

この四つの特質をアビー会長は申されました。

そして、これは、あくまでも構想のヒントである。あなた方、いわゆるクラブの会長さんがそれぞれ年度目標、あるいは年度プログラムの構想をつくられる。その構想のヒントとして、受けとめてくれ、ということでございます。

そして、最後にですね、特に、協調と実践という言葉を述べられました。総括して、協調と実践と、任意団体であるからには、あくまでもこれは友情ですね。友情ということは、言葉を変えれば、お互いに協調する、寛容ですなあ。そして、あとは、いわゆる行動ですね、協調と実践と、この二つの言葉で結ばれたわけでございます。

これが、アビー会長さんの言葉でございますが、次年度の会長さんとして、何か、このリーダーシップについて、お聞きになりたいこと、それから、自分の所信というようなものでも持

次へ

— 会長部会 —

っていらっしゃる方がございましたら、何か御発言いただきたいと思うんですが、いかがなもんでございましょうか。

カウンセラー

ちょっと皮切りに私が申し上げておきますが、ロータリーに入りましてね、会長になるのは一遍なんですよ。たった1年ですよ。ですから、ひとつ、皆さん、御熱心におやりくださいと、私は申し上げたい。会長さんにおなりになるということは、あなたの年度なんです。ひとつ、自由におやりくださいと、私は申し上げたいのです。

ただ、その場合にですね、今のロータリーの定款細則を守りますという、一札を入れるとわけですから、その範囲内ということでございます。特に定款に関しましては、これは、動かせないんですよ。動かそうと思うならば、規定審議会に提出して、そうして、それを大会に持ち込んで、ロータリーの規約を変えない限りは、できないんでございます。

それから、細則に関しましては、幾つかの案が載っております。条項によって違いますし、いろいろでございます。ですから、そこは変えられますけれど、定款は変えられません。だから、その辺に、一つの歯どめがある、ということでございます。御自由におやりくださいと、私なんか申しますけれども、その御自由もですね、定款細則の、その範囲内でございます。

それから、もう一つは、ナッシュビルの協議会なんかに出ますと、それをやるんですけれども、ロバート議事法というのがございます。それを、どうもまねしとるんですね。ロータリーも。ですから、極端に言いますと、ひとつ、覚えておいてください。休憩はあらゆる議題に優先するということです。だからね、会議をおやりになるときに、もめたら、休憩です。休憩の動議を出せば、あらゆる動議に優先するのです。ですから、もめるときは、大体そのところで逃げる以外にはないと思いますから、ひとつ、そのところは、ロバート議事法じゃ、と言う

でですね、

それから、もう一つは、ロータリーには規則がございます。いろんなルールがございます。そのルールは、友情を害せない程度に、お守りくださいと、それをね、例えば、定款細則によればですね、4回欠席したら首です。除名するんです。だからと言うて、やりよるところはどこもないです。それはなぜかと言うと、それをやればね、いささか角が立つ、ということでやっておるわけでございます。

それと同じようなことで、ほかのことも、いわゆる友情を害せない程度に、ということで、クラブの運営をおやりいただきたい。

なぜ、私がこんなことを申し上げるかと言いますとですね、あっちこっちで、今問題になっておりますのは、出席のことでのございます、必ずこれは問題が出てまいります。結局、クラブの100%を守るためにですね、大体、盲腸の人なんですよ。盲腸はですね、急に腹が痛うなって、切ってしもうたというわけですね。きょう欠席したらうちのクラブは99点何パーセントになるというわけで、申しねけないというわけです。それで、担架で運ばれた人が3人おるんだそうですよ。それは、幾ら何でも行き過ぎと、そんなことまでする必要はない、というのが、私どもの考えです。出席競争は、地区内でしてあるんです。よその地区とじゃないんですよ。

274地区のロータリークラブの45が出席競争をしてるんです。それに対してのルールがあるんです。だから、出席規定だけは、別のパンフレットが出ております。これに載ってないですよ。それはなぜかと言うと、ロータリー全部の問題ではないんです。皆さん、必ずこの問題は、どこかで言われるに決まっていますからね、ですから、そういうことでございます。出席率100%というのは、そんなに難しい問題ではないんですよ。1人か2人の人の、少し勤勉な心があればできることでございます。

私は、心臓の手術を4年前にいたしましてね、そのときまで26年間、無欠席でございました。

ですから、やろうと思えば、そんなに難しいことじゃないんです。そして、その出席をしていただくことが、あらゆるロータリー運動の第一歩だということですね。出席がないならば、それは、ロータリー運動は何もできませんもんね、ですから、その辺も、ひとつよくお考え合わせていただいて、皆さん、あなたの年度ですよという、その年度を、ひとつですね、ぜひ有効にして、楽しくお使いくださいませ。

リーダー

もう、カウンセラーがずっと言っていただきましたので助かります。どうか、皆さんの方から何か発言ございませんでしょうか。

安達（長崎南）

リーダーシップということに関して、ちょっと外れるかもしれませんけれども、幹事と会長の関係というのは、もし、何かお示し願えるような、ちょっと、最近論議が少し強いかなあとと思う点が、感じられますのですが、会長と幹事の関係というのは、いかがでございましょうか。

カウンセラー

これも、皆さんもお気づきだと思いますけれどもね、大体、アメリカでできたルールですよ。ですから、簡単に言いますと、セクレタリーですね。プレジデントと。それは、大統領と国務長官を見ればわかるわけですよ。副大統領ではないんですよね。それからまた、代表するものでもないんですよ、幹事は。ですから、私のときは会長、幹事部会というのがありますね、それはやめろということでございました。

ナッシュビルでは、なぜかと言うと、もう、会長がよきに図らえと言うてですね、幹事が一人出とったら、知らん顔しとるというわけです。それはもうそのとおりなんです。私がずっと回りましてね、書類でも来とらんと言いますもんね、会長は。来とらんはずはないと言うたら、幹事も知らんというですもんね。よく聞いたら事務局の女の子が知つとるわけです。それはなぜかと言うと、会長はごらんになって幹事に、幹事は事務員に、よきに図らえということです

から、事務員の女の人がよく知つとるんであって、これはまあ、日本だけではございませんね。アメリカも、ロータリーで、最初に入った女人といふのは、ロータリーの事務員ですからね、一番詳しいんだそうです。だから、日本だけじゃないと思いますけれども、それをやるなということでございました。

それで、それと同じようなことが、実は、ガバナーにもあるのです。特に、分区代理ですね、これは、今から、分区代理その他におなりになるのに、申しわけありませんけれども分区代理はですね、ガバナーのミニガバナーではないんですよ。なぜかと言うと、ガバナーになる教育を受けてないと言うんですよ。ですから、あのナッシュビルで、今やっております教育を受けた者でなければ、ガバナーにはなれんわけですね。ガバナーノミニーにもなれないんですよ。ですから、あくまでも分区代理は、そのところだけの、ある程度のガバナーの指図によって仕事はすると思いますけれども、それが、ガバナーの代理ではないんですね。ですから、副会長の場合にも、ロータリーの場合に、これも問題があるわけですね。どうするかというときに、まあ、日本だと、会長が大将なら、副会长が中将です。ところが、あれは違うわけですよ。みんな役員は同列ですよ。極端に言えば。そして、その最先任が副会长であるわけですね。ですから、会長が亡くなった場合には、副会长が会長になるんです。何もしないで。ですから、それは、ちょうど、アメリカの大統領と副大統領の関係と一緒になんですね。副ということに対するアメリカの考え方、そういうことです。日本は違うんですよ。だから、ほんにおかしいように思うですけれども、それは同列だと思って、会長と幹事とで芝居を打ちよろと思われればいいですよ。それを、ここの間に入れると問題になる。だから、入れない。今は、アメリカなんかの場合でも、副大統領は何もせんでもんね。それで、ちょっと、外国に行ったり、そういうことはしますけれども、大

次へ

— 会長部会 —

統領と副大統領でなくて、大統領と、その下の國務長官ですか、それと同じようなことだと、日本は思いますので、そういうふうにお考えいただけれわかると思います。

リーダー

ほかに、どなたがございませんか。

そしたら、あと一つ、これは、ちょっとまとめみたいになりますけど、会長必携にも書いてあると思うんですが、会長さんというのは、クラブの中心であると、先ほど、田中丸ガバナーもおっしゃいましたが、クラブの中心であるという自覚、これを、ひとつ、必ず持っていただきたい、ということが記載されてあります。

それから、リーダーシップとして必要なに、温かい心、思いやりの心と、柔軟性ですかね、いわゆる度量、これも、リーダーシップを發揮する上において、ぜひ持っていただきたい特質である。

それから、特に会長さんにおいては、ロータリー情報、これは先ほどから話をしておりますけれども、ロータリーとは何であるか、ということを、特によく知つていただきたい。これは、まあ、当然のことですけれども、ひとつ、勉強お願ひいたします。

それとですね、これは、大切なことだと思うんですが、自分のクラブの長所と弱点を知つてあるかどうか、ということです。自分のクラブの長所はしかじかくかくである。ところが、自分のクラブの弱点は、例えば出席率が悪いとかという、自分のクラブの内容分析、長所と弱点、これを把握してあるかどうか、ということが、大事なところだと思います。

そういうふうなことも踏まえてですね、いわゆる、会長さんの年度目標、先ほどからお話をありましたように、ことし1年の会長さんでございますので、いわゆる、自分が、会長としての年度目標というものを、ひとつ、しっかりと把握してもらいたい。

それから、権限の委任という言葉が出てきて

おります。会長さんが、何もかんも、全部というわけにはいかんわけで、それぞれの各部門がある。その部門には、できるだけ仕事をしやすいように、会長さんとしては、会長さんの仕事ができやすいように、権限を委任していく、というようなふうにも解釈できるわけでございまして、いわゆる、会長の本当の仕事をするために、できるだけ権限は委任していく、ということ。

それと、これは先ほども述べましたけれども協調と、調和と、実践という言葉が出てくるわけですけれども、特に、調停能力、いろいろと会の中でアクシデント、あるいはトラブルが発生せんとも限らん。その場合における、いわゆる友情をもととした親睦をもととした、いわゆる調整能力というもの、そこを、ひとつ、会長さんとして勉強するように、ということです。

それからですね、8番目が、指導者として、短期計画と長期計画とあると、これは、私、大切なことだと思うんですけれども、年度内に、何もかも仕上げてしまわにやいかんという、短期計画もあれば、次の会長に引き継いでもらう計画もあるわけで、自分が何もかもしてしまうんではなくて、長期計画、例えば青少年活動その他、長期計画というものがございまして、次の会長さんに、おれは、ここまでしたから、あとのこととは君の方でしてくれんか、という度量というものが必要であると言われております。

八つのことを申し上げましたけれども、会長のリーダーシップをとる上において、そういう8項目、これも、あくまでもヒントですから、そうせろというのではなくて、ヒントでございますので、会長さんとしての、いわゆる年度の構想を立てられる上のヒントとして、ひとつ、心得とていただければ幸せだと思います。

この前、会長研修のときに、リーダーシップのリーダーという意味のことを、話しましたですかね。これは、参考までに聞いとつていただきたいと思うんですが、これも、ナッシュビルで習ってきたんですけれども、リーダーはLe-

ader、Lは英語で言うたらリッスン、聞くこと。それで、リッスンの聞くというのは、ただ単に馬耳東風で、左の耳から聞いて、右の耳に抜ける、という聞き方でなくて、聞くということは、よく考へるということであると。いわゆる、十分理解して聞くと。リーダーたるものは、まず聞くということから始まると。人の言ふことをよく聞く。その聞くのは、本当に、聞いたことを、考へに考え抜く。聞いたならば、一生懸命考へて、そして、聞いたことを理解しなさい。そういう聞き方をしなさい。それが聞くということからリーダーは始まるそうです。

それから、Eが、精力的あれと、エネルギーですね。エナジーチェック、いわゆる精力的であること。

それから、A、アンビション、いわゆる野心的あれと。それからD、これは、ドラマチック、非常に劇的に行動をせろと。Eがエクスペリアンス、いわゆる経験です。経験を踏みなさいと。それから、Rがリスボンス、いわゆる自己の責任というものを常に考へて行動をしなさいという、六つのことを言わされました。だからリーダーということは、まず最初にリーダーは人の言ふことをよく聞く、ということから始まるという、これは、ナッシュビルで聞いてきたことを、そのまま受け売りでございますけれども、リーダーシップを取っていただく会長さん方としては、ひとつ、十分参考になるんじゃないかと思います。

それでは、次の項に移ります。

次は、いわゆる会長エレクトとして、7月1日前になすべきこと、ということを書いております。これは、会長必携には、7月1日前になすべきことと、7月1日以後になすべきことと二つ書いてあるわけですが、7月1日以後のことよりも、今から、ちょっと7月1日前になすべきことが、当面焦眉の急でございますので、7月1日前になすべきこととして、ちょっと設問を出したわけです。

この管理というところに書いてありますが、

お読みになったと思いますけれども、7月1日前になすべきことは、いわゆる理事会の開催ということが、焦眉の急でございます。1回、もしくは数回理事会を開きなさいと、そして、その目的というのは、いわゆる十分な基礎知識を身につけることと、いわゆる、年度を運営管理していく上において、クラブの基礎知識、ロータリーの基礎知識ですね、それを十分身につけること。それと、あと一つは、年度目標を決める事と、クラブとしての。それから、会長さん自身としての年度目標を決める事、ということでございます。これについて何か、皆さんの方で、御質問なり、あるいは御発言ございませんでしようか。

カウンセラー

また、途中で端折るようなことになりますが、この中で、一部の方に、私申し上げましたけれども、九州にも、串木野か、クラブが7名ですかね、そういうクラブが生まれたわけです。それで、日本じゅうで3カ所ぐらいあるそうですよ。それで、大体全部ですね、市長選挙のしきりで、市長派と助役さん派とに分かれてですね、そして、両方が、15人ずつぐらいですね、ぱっと退会しとするわけですよ。そうしたら、7人残ったというわけですね。それで、随分、バストガバナーなんかもおいでになって、調整をなさっておるようでございますが、なかなかできませんですね。うまくいきません。それで、もうやめるか、という話になると、日本支局は、日本は、今まで過去につぶれたクラブはないんだそうですよ。それで日本ではね、もうその例がないから、何とか、とにかくつないでくれ、ということで、ただですね、7人や8人では、幾ら何でも、クラブの形をなさん、というわけですね。どうしたらよかろうか、という問題が、今起こっております。幸いに、この274地区には、そういうクラブは、今のところございません。しかし、選挙とか、そういう問題は、ロータリーでは、やっぱりね、非常に命取りになるということですね。これも、ひとつ、会長さん

次へ

— 会長部会 —

がしっかりとたずなを締めといていただかにやならぬ問題だと思います。よろしくお願ひしておきます。どうぞ。

福良（唐津西）

ロータリーのメリットについて、カウンセラーは、どういう見解を持っておられるか、ちょっとお尋ねしたいと思います。ロータリーにメリットはないんです。やはり、市長選挙の方にメリットがあったと、そういうことで、ロータリーのメリットとは、どういうふうに理解しておられるか。

カウンセラー

私は全然、メリットのあるけんロータリーに入った、という気はいたしておりません、全然。そういうことは、できるだけ外さんとですね、友情を害するじゃないかと思うります。

ですから、それで入つるという、佐世保で一つ例がありますが、私たちの、交友会に入って選挙に加勢せんじゃったけんて、やめたのがありますよ。そういう人は、仕方がないですね。だから、そこまでお考えになるならば。

福良（唐津西）

そうなると、やはり、質と量の問題になるですね。

カウンセラー

これはですね、常に問題が終わりませんけれどもですね、フランスの格言に、初めから名人はいないと言うんですよ。それと同じことで、初めから、それじゃ 100% ロータリアンがおるのかと言われたら、私は、やっぱりいないと。だから、そういう人たちを、だんだんとですね、ロータリアンらしく、自然とそういう雰囲気の中で例会が行われていく、ということでございまして、質と量の問題はですね、ちょっとなかなか、それじゃ、どこからが質がよいとかですね、どうだということになります。ただ、私がガバナーになりました感じたことは、私がガバナーにならんときに考えたよりも、量は大切でございますね。実際にガバナーになってみますとね、なるほど、ポリオの問題にしても、世界

じゅうでロータリアンが 100万を超したからですね、こういう問題ができるんだ、ということですね。もしも、これが10万人なら、みんなで40万ずつ金出せ、になるわけです。あれと同じことをやるとすると、ちょっとそれは出せんわけですね。簡単じゃないと思います。しかし、100万人になったもんだから、やれるようになったんじゃないかな、そうすると、やっぱり、ある程度数は力なり、という方向に来ておる、という気がいたします。しかし、選挙にどうじゃとか、そういうことになると、それは、やっぱり、私は、ロータリーの考えとは違う、という気がいたします。個人的におやりになること、これは一向に構いませんよ。しかし、加勢せんじゃったと言ってですね、それは、ちょっと問題があると思います。よございましょうか。

リーダー

ほかにございませんでしょうか。

A

公式訪問のときに、分区代理さんに講評をお願いするということは、しなくてもいいですか。

カウンセラー

そうです。ですから、それをするから、だんだん話が混乱してきたわけです。それでもう、ナッシュビルでは、講習会をやることはやめようと言い出しました。あれは、もとはないんですね。だから、ある程度の数に分けて、分区にして、それは、なかなかガバナーとしては便利です。分区代理でやってくれるから、しかし、今申し上げたように、ガバナーがおるときは、先ほどの会長の問題と一緒に、会長がいないとなれば、副会長を置こう、まあ、それほどの権限はないんですよね。ガバナーが亡くなったときに、ガバナーになれるかと言ったら、それは、分区代理はなれないんですよ、それは、ナッシュビルに行ってないからです。だから、ナッシュビルに行った前の人になるわけです。今 2 人いらっしゃいます。途中で倒れられたもんですから、前々年度の人がガバナーになられた。

B

量と質ですね、まあ、数は力なり、ということをお話になりましたが、前のガバナーで、質と量と、どっちを大事にしますか、というお話がありましたがね、正直に申し上げて、今度は目標を5人に1人と書いてありますからね、そうすると、今、長崎でも、青年会議所の卒業生を、あるいは、ライオンズとかロータリーですね、この狭いところで、限度があります。例えば、私のところは90名だから、2割、10名ぐらいと思っていたが、5%ですよね。すると、やっぱり、ちょっとどこまでがね、というような感じがするんですよね。そして、質なんて言われて、それは、勉強すれば、質がよくなるかどうか知らんけれどもね、ガバナーになると、ひとつ、またつくれ、というようなことになるでしょう。

カウンセラー

私はつくってないんですよね。それで、これは、今のような状態では、非常に難しいですね。数をふやすということは。人口自体がふえてないんですから。それから、町の構成にもよるわけですね。ですから、2階建とか、3階建とか言いますけれども、なかなか難しいんですね、ちょっと、今のところは、私は、成り行きでいく以外には、方法がないと。ただ、少なくともですね、できるだけ入れようという、閉鎖するんではなくて、入れようという考えにならんといかんと。それから、初めからベテランのロータリアンがおるわけがないんですよ。だから、そういう方々を入れてですね、やればいいわけです。そうなると、若い人ということに、自然となってくると思います。柔軟性がありますから、まだ。

B

それで、まあ、ふやそうということで、例えば、自分の親戚とか、関係のある、若い人と話してみると、もう既に、ライオンズに入っとる。やあどこに入っとるということで、かなり、会員の増強については、みんな苦労されておるんじゃないかな、という感じがしますの

でね、やっぱり、今年度の目標に、私ども20名ということは、大変困難だと。

カウンセラー

なかなか難しいのはですね、ライオンズとの絡みなんですよ。それで、ちょっと、私間違いかもわかりませんけれどもね、世界的には、ロータリーが抜いたんですよね。ライオンズを、日本はまだ、私は負けてるんじゃないかな、という気がします。

B

その、ライオンズをやめて、1年休会さして、という動きもありますね。現実に、そういうのは、ちょっとどうかと思うし。

カウンセラー

ただね、あるところではお話しいたしましたけれども、ロータリーにおられたメルビンジョーンズという方がですね、ロータリーで、23の34ですか。あの項目の議論があまり多くてね、それが嫌でおやめになった。そして、ライオンズをおつくりになった。ですから、当然ですね。その論議は、ロータリーがアイサーブで、ライオンズがウィーサーブになるわけですね。それから、例会もですね、月4回だから、ロータリーは、1週間に1回ですからね。それがいやだから、当然ライオンズは2回になつたわけです。それで、このメルビンジョーンズの経験に関しては、随分調べたんですよ。私も。ところがわかりません。今から100年ぐらい前の人ですよね。それで、一つは、今申し上げましたように、シカゴでロータリーに入って、いやでおやめになって、つくられたというんです。もう一つは、どうしても、職業分類で、ロータリーに入れなかった。それでつくられた。

それから、もう一つは、グラスの人ですね、あの年度におつくりになった、という話があるわけです。それで、ライオンズの書類を見てみると、メルビンジョーンズが始めたと書いてあるだけなんです。メルビンジョーンズというのは、どういう人だ、ということに関しては、全然書いてないんでございます。それですから、

次へ

会長部会

ロータリーとライオンズの関係は、実はその辺にあるんでございます。ただですね、私が、問題だと最近思いましたのは、ロサンゼルスのライオンズクラブでですね、今のボリオの募金に感激いたしましてね。ライオンズの人が、金を集められましてね、それを、ロサンゼルスのロータリークラブに、全部寄贈なさったそうです。私はね、これはしもうたと思った。これはロータリーが、せんばならんやつたと。ライオンズですね。だから、僕は、皆さんに申し上げたいのは、今、それじゃ、あなたたちが、ライオンズの例会に行って、そういう募金に応じて、寄付を持っていききるですかと、こう言うたわけですよ。だから、むしろ、ロータリーが、この辺で、一遍反省すべきときに、やっぱり来ると。だから、それは、歴史から見ればですね、今申し上げたように、ほとんど一緒なんです。一緒というよりも、ほとんどのサービスクラブというのは、ロータリーをまねしてつくっていますからね。だから、ロータリーよりうまい規則をつくったところは、それは、あとからつくつとあるからあるわけですよ。そうすると、ロータリーとしては、規定審議会その他に提案ですね、そして変えていかざるを得ないのでございます。だから、今のロータリーが、完全なものとは、決して私どもも思ってないわけです。だから、皆様が、こうじゃ、ああじゃとおっしゃれば、そういう方向で考えていかなきゃならぬのじゃなかろうか。しかし、少くとも、私が最初に申し上げたように、友情を害するようなことはぐあいが悪いと。そうすると、先ほどおっしゃったように、選挙のことがメリットだから、ロータリーに入っとる、と言われるが、それは、ちょっとですね。友情を育てるものにはならんと思いますよね。

休憩

再開

リーダー

それでは、3番目の、会員増強計画について、というところですが、既に、その会員増強計画は、先ほどから、ガバナーの方から、もう話が出るわけなんですが、これについて、ちょっと私の意見並びに考えを申し上げます。

実は、この会員増強並びに拡大で、地区目標10%ということを、本会議の席上で申し上げましたけれども、実は、この会員増強につきましてはですね、ナッシュビルでの会合でも、いわゆる、我々日本語系の分科会で、非常に激しい討議が行われました。と言うのは、アビーさんの言われるように、10%なんて、とても無理だと言うんですね。それで、3%から5%が普通じゃないかと。それでとても10%なんていうような、会員のアップというのは考えられない、というのが、各日本からの、それから、韓国、台湾の人たち、全部のガバナーの、実は同一意見だったわけなんです。それで、リーダーになった人も、非常に困ったわけなんですが、その間いろいろと討議を重ねまして、原点に戻って会員増強はなぜ必要か、ということになってきたわけなんです。それでですね、実は、世界のいわゆるロータリアンの現状ということになるんだそうですが、日本の場合は、まだ前年よりマイナスにはなっておりません。ところが、世界のロータリーでは、各地区で、前年比マイナスという国があるんだそうです。それから、そういう地区もあるそうです。幸い、日本の場合は、前年比マイナスの地区というのもない、ということなんですが、それで、まあ、アビーさんも、非常に心配されて、いわゆる、一つは退会防止ですね、そして、会員をアップして、少なくとも10%アップの目標を立てることによって、いわゆる現状よりもマイナスにならんように、まず努力を要請する、ということのようでございます。

それなら10%ということは、日本の場合はどうか、量と質という問題が出てくるわけですが、問題はですね、会員の増強ということは、ロー

タリアンとして、また、会長さんとして、ひとつ工夫をしてもらいたい、ということがあるわけです。というのは、いわゆる、新たに活力をと、その活力の具体的行動として、会員増強という面を、ひとつ工夫してくれと。それには、まず第一番に何をしなさい、ということかといふと、職業分類ですね、これを、あともう1回見直してくれと、職業分類表を。それで、職業分類を見直すことによって、また、これをおさらいすることによって、いわゆる、未充填のところで、まだ、思わぬ人がおるんじゃないかと、それが一つと。それと、会員の平均年齢が、だんだん上がっていきよる。それで、若い人、40歳以下の人で、将来性のあると思う人を、ひとつ、できるだけ入れるようにしてくれと。

それから、先ほども話がありましたように、5人で1人の新会員を選び出すという一つの方法があるわけですが、それを、また、思い出してもらって、そして、だれかが適当な人を、ひとつ、推薦するように。

それから、特に、会員の中で、推薦の方法がわからない人が、各クラブであるそうです。だから、新会員推薦の方法について、いわゆるロータリー情報として、勉強をしてください、ということをございます。

問題はですね、ただ、世界のロータリーという観点からすると、非常に退会者がふえてきた。これに対する危機感というものが、アピーさんに非常に強く燃え上がってきてるよう思います。私としては、この会員増強ということは、単に会員増強ではなくて、増強と同時に、拡大ですね、実は、田中丸さんのときから、まだ45で、全然、それは、別にクラブがふえることがいいの悪いのと言うわけじゃないんですけれども、また、ライオンズクラブその他ほかのクラブもあるわけですが、クラブをふやす方法は幾つも考えられます。つまり、地区の分割ではなくて、地区の共有という面で。この地区の共有という面で、2階建、3階建ということで、誤解が実はあるわけなんですが、2階建、3階建に

したら、例えば50人のクラブがあって、そして同じ地区に、あと一つクラブをつくるとなると、50人が半分に減って、25人になるじゃないかと。そういう御心配があるといかんわけであって、せいぜい新しくクラブに行く人は、2、3人でいいと。3人か4人でいいと。決してクラブを真っ二つに割るという意味じゃないと。世界で一番大きなのは、ローマに16階建というのがあるそうです。それから、日本で一番多いのが6階建というのがあるそうです。まあ、まねする必要はないんですけども、今から先は、地区的分割というよりも、地区的共有というふうな面で、ひとつ考えてほしい、ということですね。

それと、職業分類についてはよくひとつ考えてほしいと。この職業分類は、今さら改めて言う必要もないとは思いますけれども、この職業分類の原則というのは、1業種1名という原則ですね。それによって、均衡のとれた会員システム、それから、そういうことによって、職業上の競争による紛争の防止という面、いわゆる友情を大切にしますから、いわゆる紛争の防止、それから、異業種がたくさん出ておられるから、いわゆる社会観が非常に大きくなる。世界観が非常に広くなる。そういうところがメリットになります。

それから、職業上の品位を保つとか、いわゆる同業種がいないから、ねたみが防げるとか、そういうふうな意味合いのことがある、ということで、ひとつ、職業分類というのも十分考えてほしいと。だけどですね、職業分類でも、例えば、お医者さんみたいに、いろいろと科がたくさんありますね。ところが、これは、大体大分類で10%、という原則があります。ところが、お医者さんの場合は、12%ぐらいまでよろしいと。これは、この前話したと思いますが、いいと言ふんです。それはなぜかと言えば、例えば、精神科のお医者さんと、婦人科のお医者さんは、全く異業種と考えていいと、だからお医者さんの場合は、あと2%ぐらいふやして、12%ぐらいの大分類で考えてもよろしい、とい

次へ

—— 会長部会 ——

うことです。考えなさいではなくて、考えてもよろしい、ということですから。

そういうことで、ひとつ、会員増強については、一応原則は、拡大も含んで10%でございますが、なかなかこれは難しくて、厳しくて、もう、私は同情いたします。ですけれども、できるだけ各クラブの会長さんにおきましては、この会員増強についてですね、質量とも優れた、増強をよろしくお願ひしておきます。

次は、青少年活動計画について、ちょっと御説明申し上げます。

この青少年活動ということで、この青少年奉仕委員は、大体、社会奉仕の部門に属するわけでございますけれども、これについて、いわゆるナッシュビルでの、私受けた教育では、このロータリーとして、青少年部門というのは、今から21世紀のロータリーを目指す上において、一番大切なことではないかと、特に、未来をつくる若い人たちを、ロータリーが、いかに才能を引き出すか、というように、ロータリアンはひとつ、方向づけしていただきたい。だから、ローターアクト、インターラクト、それから、ライラですね。それと、国際奉仕部門にも属します、青少年の交換その他、いわゆる青少年に関することについては、特にロータリーは、重点的に奉仕活動をやっていただきたい、ということでございます。

特に、いわゆる地域社会、それから、職域社会の未来に対して、21世紀の未来に対して、明るく、清く正しい風を吹き込むように、みんなが、各ロータリアンが、そして、ロータリークラブが活動を行っていただきたいと、特に、ローターアクトか、インターラクトをそれぞれ持っているらっしゃると思うんですが、いわゆる、クラブの年度目標として、そういうふうなローターアクト、インターラクト、それから、青少年の交換については、特に、重点的に考えてほしいと思うわけでございます、

それから、青少年の交換のことなんですが、

これは、あとで、青少年交換の方で報告もあると思いますが、この国際的友好関係ということ、これが、青少年交換を通じて、国際ロータリーというものの、お互いの友好関係というものが、非常に濃度の濃いものになる。一番大きなファクター、要素になりますので、この青少年交換についてもですね、今後の各クラブの一つの目標として、これは、決して年度内に終るものではございません。いわゆる、長期計画として、ひとつ考へてほしいと思うんです。長期計画として、次の会長さん、その次の会長さんにも受け継いでもらえる、というように、これは、1年以内には終わるわけじゃございませんので、長期計画の引き継ぎ事項としてですね、特にこの青少年交換等、青少年活動問題は考へていただきたい。1年で終わる奉仕活動でない、これは、ある程度長期にわたる奉仕活動である、というように考へて、そして、2代、3代にわたっての奉仕活動の発展というもの考へてほしいと、かように思います。

以上、会員増強と、それから、青少年活動について、若干御説明申し上げましたが、以上二つにつきまして、何か御質問がございましたならば、私の知れる限りの御回答はいたしたいと思いますが、いかがなもんでしょうか。

富永（大村北）

先ほど、ナッシュビルですね、会員増強についての激しい論議があったと、何のために、いわゆる会員を増強するのか、ということについて、激しい議論があった、というお話ですが。リーダー

何のためと言うが、パーセントのことについてです。10%なんていうのは、とてもちょっと無理だという。

富永（大村北）

そうすると、何のために会員を増強するのか、ということについては、余り議論なされなかつたわけでしょうか。

リーダー

そのことは、余り議論の対象にはなっており

ません。ただ、10%という、いわゆるアピー会長の話が出て、それで、10%というのは、ちょっと無理じゃないかと。

富永（大村北）

国際ロータリーとしてですね、各国、各地区に散在するいろんなクラブに対して、会員をとにかく増強しなさい、増強しなさいという、その根本的な意味ですね、この辺をちょっと、我我としては知りたいわけなんです。というのは、我々のクラブは、その地域社会から、この人はやはり入って、この人から学び、あるいは、いろんな、この人が入ってくることによって、また、クラブも活性化するであろう、ということで、まあ、会員を増強していってるわけですね。それに対して、国際ロータリーというのは、一体どういう目的、どういった意味で、10%とか、3%、5%とかという目標を提示してですね、それを促進していくのか、別に意味があるのかと。あるいは、いろんなボリオプラスその他の事業をやるんで、いわゆる、金を持った人をたくさん集めて、集金先をたくさんふやす、という意味での会員増強なのか、これは、ちょっと言い過ぎかもしれませんけれども、何か、国際ロータリーとして、そういった意図するものがあるのかどうかですね、会員を増強する意味、その辺について、ちょっと説明願いたいと思います。

リーダー

これは、私の、一つの個人的見解ももちろん含むわけですが、国際ロータリーにしろ、地区的ロータリーにしろ、基本は奉仕だ、というように思います。私はそう信じております。それで、奉仕活動を行うと。それで、国際ロータリーにおいても、常に言われるのは奉仕、奉仕の火をいかにして燃やすか、ところが、現実の面において、先ほど私も申しましたように、世界のロータリーというのは、退会者が非常に多いんだそうですね。それで、日本の場合は、前年比幾らかなりともプラスになっていきよるけれども、マイナスのところがあると。いわゆる、

それに対する危機感というものが、一つあると私は思います。

それから、先ほどおっしゃいましたように、いわゆる、ロータリーは、あくまでも奉仕ですから、国際ロータリーとして、退会者がどんどんふえていってるので、これをカバーしていくのにですね、何とか会員を増加させなくちゃいかんと。それは、会員を増加させるというのに、問題は、量と質の問題があるわけですが、ただ、私たちが聞いとつですよ、これはちょっと、私の率直な意見なんですが、私が聞いていて、いろんな国がたくさんあるので、我々日本人から見れば、質的増加というのが、いわゆるウエートが高いと。私たちはこう思つけれども、外国の場合ですね、もちろん質というのも大切にされているけれども、余りにも退会者が多いために、若干、その量的な面の増加の方にウエートをかけ過ぎる面もあるように思います。これは、私がそう直感したわけですから。だけど、根本的に言えばですね、やはり、質と量と、両方がふえていかなくちゃいかんわけですが、外国の場合と日本の場合と比べた場合、日本の場合は、まだそういう、何と申しますか、質的な増加で、量的な増加もプラスになっていくんじゃないかと、私はかように思います。

平田（長崎）

今の問題にちょっと関連しまして、私の方は、非常に高齢者がだんだん多くなりまして、私が51代目の会長でございますので、それで、シニヤアクチブが34名。そのうち、だんだんと高齢化していくわけです。それで、あの56名の正会員の26名の方が、支店長さんたちなんです。26名の支店長さんたちがですね、今から10年ぐらい前に、支店長会というのを別につくりましたんです。早い人は、1年半で転勤していきます。それでは、非常になじみが少ないだろうと思いまして、そういう支店長さんたちの会員をなるべく若い会員と一緒に、支店長会というのをつくりまして、そこは、支店長さんだけで見

次へ

会長部会

ると、立場が同じもんですから、非常にチームワークがいい。そういうチームワークと、地元の若い人たちとミックスさせて、どうやら今、その地元の30名と支店長さんたちの26名と、その辺で、大体約100名のうちの半分ですね、それくらいの状態で、何とか、今切り抜けてきてる、というようなわけでございます。

リーダー

どうもありがとうございました。実はですね、これは、職業分類にも関係するわけなんですが、地域によって、クラブの内容が違ってくるわけですね。例えば、自営業の人が多いクラブとか、それから、先ほどおっしゃったように、サラリーマンの人、各支店長さんなんかが多いようなところ、やっぱり、都会地になってくると、例えば、今おっしゃった、長崎のような都会地になると、支店長さんのような方が多いクラブ、ところが、田舎の方になってきますと、いわゆる自営業の人方が非常に多いクラブが、これは当然出てくると思います。実は、この問題ですね、会員増強の点において、これが、非常に大きな焦点になったわけです。というのは、会員増強がしにくいところは、どんなところか、というテーマです。それはですね、いわゆる地域の産業が衰退している町ですね、そういうところのクラブというのは、地域産業が衰退してまで、ロータリーの会員を入れるかと、それで地域産業が衰退すれば、景気がだんだんダウンしますから、それだけ、今まで盛んに商売をしていた人たちが、もうとてもロータリーなんかに入る金もない、ということになって、退会されていく。そのために、今まで40人おったクラブが、2人減り、3人減りして、30人になったと、その原因は何かと、これは、あくまでも、一番大きな原因は、その地域の産業が衰退して、そして、景気が悪くなつたから、これが一番大きな、退会者の原因なんですね。それで、そういうふうな地域の人たちのクラブの退会者が多いところを、どうしたら防止することができるか、ということについて、お互いにディスカッ

ションをしたわけなんですが、はっきり申し上げまして、結論出ませんでした。これについては、結論は出ておりません。それは、いろいろ甲論乙駁出ましたけれども、的確な、100%と言うか、70%の回答もなかつたですね、これを防止するための。これは、なかなか大変なことで、これは、今から我々として、どのようにして退会者を防止していくか、検討を要することだと思います。

それで、まあ、一つの方法としては、職業分類表を、あと1回見直して、そして、そういうところは、自営業の人しかおらんというわけです。もう、サラリーマンの人は、ちっともおらんようになつてしまふと、それで、と言って、自営業の人も、なかなか厳しいと、だから、果たして自営業の人たちを、どんどん入れることができるかどうか、これも、的確な回答は出ませんでした。

ですから、そういう一番大きな風当たりの強いのは、産業が衰退するというところですから、そういうふうなところについては、また一つ、我々としても、またどうせガバナー会なんかでも、一番大きな焦点となって、討議の中心になるだろうと思います。

見定（唐津東）

10%というのは、これは希望的な数字なんですね。そういうふうに考えていいでしょうか。

リーダー

ただ一つの目標にしてください。努力目標にしてください。それは、10%せろとは、私言い切らせて、あくまでも一つの目標として頑張っていただきたいということです。

C

さっき、ガバナーからですね、ロータリーのメリットの件について話がありましたけれども、私の考え、やり方が間違っていたら、修正してください。私は、実のところ、入るときにですね、既にいた人が、メリットを並べられたわけですね。私も30代で入りましてですね、私考えてみると、人の出会いと言いますか、知り合い

がふえたということで、プラスになったという点が多分にありました。

林（佐賀北）

職業が建設業をやっております。入会して15～16年なりますが、随分会員の方から仕事をもらいました。それは、確かにメリットであると思います。増強について私も実はこういうこともありますと、最初はですね、皆さん、そういう、何と言いますかね、特に若い人を勧誘する場合はですね、ただ、奉仕の精神とか、高尚な話をしたんでは、恐らく、自営業の人は入会されないと、思っています。だから、そういうことを並べていいものかどうかですね、何年かたってきましたら、それは自然とわかってくる問題だと思います。

リーダー

それは、私は結構だと思うんですよ。結局、いわゆる、小さな社会から大きな社会、目の玉が大きくなるわけですから。それと、友情が、今まで知らなかった人との出会いで、友情が深くなるわけですから、今おっしゃったことは、すべて、私は、いいと思いますが。

林（佐賀北）

それと、佐賀地区は、御存じのとおり、佐賀クラブさんが一番古いわけですね。それと、西クラブさんがその次なんです。その次が、我々北クラブなんです。その次が南クラブさんですけれども、南クラブさんも、多分苦労されておられると思いますけれども、例えばですね、佐賀銀行の香月会長さんが、おまえ、うちのクラブに入らんかと言われた場合は、入られますけれども、うちのクラブで入ってくれんですかと言っても、これは、なかなか入れないわけですね。

佐賀は、そういう、まあ、テリトリーとか、未充填のですね、職業分類とか言われますけれども、まず入る人を決めてから、どこに当てはめるか、というようなのが現実じゃないかと思います。

私のクラブがやっているのが間違っていたら、

言ってください。

カウンセラー

先ほどの、入会の件ですね、これはもう、あくまでも、職業分類が優先しますよ、ロータリーの場合。ですから、職業分類をおつくりになって、未充填職業分類を別になさっていますか。恐らく、職業分類をずらっと書いて、会員をはめて、それで終わりでしょう。それはだめなんですよ。だから、まずですね、入ってないのを未充填の職業分類表をつくるんです。そうしてそれを、職業分類委員長は、理事会に提出するわけです。そうすると、理事会は、その未充填の職業分類の中からですね、10ヵ所なら10ヵ所、オープンにするわけです。そうすると、普通の会員の人は、そこの人を選ぶんですよ。人を選んでから、やるという、それは、あくまでもうそですよ。バランスのとれた職業分類の人を集めようという考えとは違ってくるわけです。それでは。だから、現実には、そうなさっとところももちろんあると思います。しかし、あくまでもですね、本当の意味では、今申し上げますように、職業分類の、そのためにですね、いわゆる未充填の職業分類表をつくれ、ということになっています。あれお読みになるとよくわかります。だから、職業分類表をつくって、それに人をはめます。それが一つと。もう一つは、その人のはまつたらん職業を、未充填の職業分類の表だけを別につくるんです。そして、皆さんには、それをごらんになってですね、ここに、この人を選ぼうということをお決めになるわけです。そのときに、未充填の職業分類が50あればですね、そのうちの10に関して、この辺を寄せててくれ、ということで、理事会は、皆さんにオープンにするわけです。だから、そのところが、職業分類のオープンなんですよ。よろしゅうございましょうか。それは。

福良（唐津西）

シカゴクラブは 750名いらっしゃるそうですね。そのクラブの職業分類はどうなっているのですか。

次へ

カウンセラー

いや、これは、私も、非常に残念ながら、よく知らんわけですよ。一遍何かの機会に、参りましたら調査いたします。職業分類はどんなにしとるんだろうかと、私も思うとりますから。

これと、サンフランシスコのクラブにあるようですね、大きなクラブが。

福良（唐津西）

ああそうですか。それと、まあ、私が、当初に、ロータリーのメリットについて申し上げましたけれども、ロータリーのメリットというの、私は、これは、やはり、自己研さんにあると思うんですよ。それで、そういう、やはり、文献なり、アピールは、ロータリーでは不足じゃないかと、こう思うわけですよ。それを、たまたま、この前、長崎の会議のときに、私は、それをテレビで放映したらどうか、ということも申しましたけどね、そういう努力は、ロータリーでは考えてはないんですか。それとも、考えようとしておるのでですか。

カウンセラー

今のところですね。それに対してどうこうはございませんね。ただね、私が、実際にガバナーやって考えることはね、非常に過酷な職業なんですよ。ガバナーというのは、たった一人なんですよ。で、かわりはだれもきかないわけです。だから、私が病気でやめたりすればですね、今の時点では、辻さんがおやりになりますけど、ついこの間まではですね、野田さんか岩永さんに持っていくなんならん。ですから、今以上にですね、それじゃ、そういう広報活動をやって云々ということになってきますと、ちょっと、僕はね、実際問題としてできかねると。また、今のロータリーでですね、それは、いわゆる、1年で、今申し上げるように変わりますからね、それをどうするんだということなんですよ。だから、事務局をちゃんとさるために、会費を、今の倍ぐらい出してですなあ、金を使うやれ、ということになれば、それは、僕ができるかもわからないと思う。

福良（唐津西）

私はね、カウンセラーのガバナーに言うとることではなくて、R I が、この問題についてどういうふうに考えておるか。

やはり、ロータリーをいかによくしていくかと、やはり、ロータリーの拡大はいかにあるべきか、ということを、皆さんに、ロータリアン以外の人に、私は P R やる必要はあるんじゃなかろうかと、こういうように思うわけですね。それがためには、いろんな方法があるでしょう。そういうことを、R I の理事会とか、あるいはまた、規定審議会におきましてもね、やはり、もう英語をペラペラしゃべっていって、しゃべる者以外の文化はない、というようなことまで聞いとるわけですね。そういうロータリーでは、これから先のロータリーは困まるんじゃないですか。まあ、私は、そういうことを強く、悲観的ではないけれども、ロータリーの衰退論と言って、そういうことを考えるわけですよ。その点について、ひとつ、何かお願いできたらお願ひします。

カウンセラー

私は、先ほど申し上げましたようにね、今、そういうことができるとは思われませんですね。

それから、さっきもおっしゃってるようなことは、R I では、理事に、今度千君がなりますけれども、それから、北海道の伊藤さんが理事になっておられますけど、あの理事会は3ヶ月に1遍ぐらいありますからね、そういう方のところでやる以外には、今のところ手はない。我々ではですね。

それから、もう一つは、おっしゃるような P R を、外に対してやれということに関してはですね、今の現状では、私はできるとは思いません。どうしてそういうことをお考えになるのか、よくわかりませんけれども、経済的にも、どうにもならないということですね。今の時点では、経済的にもです。

福良（唐津西）

ロータリーの参加について、随分と、アメリ

力ではものすごい裁判費用をかけていますよ。そんなお金があったら、もっと、やはり、ロータリアンの活性化につながるような、お金を投じた方がいいのじゃないかと、かように思うわけです。

カウンセラー

彼らが今やってることが、その活性化に通じると思ってやっとるわけですから。

それから、R I が金を持つてるのはないか、というのはですね、それでは、それをどういう計算でですね、どうやって各国に戻すか、というようなことになりますから、ちょっとね、私は、そんなこと、実現がなかなか不可能だ、という気がいたします。

福良（唐津西）

R I は、金を持つことはやぶさかでないんです。持つことは、大した反論をするわけじゃないんですけどね、やはり、そういうお金があれば、もっとね、地域社会、あるいは、国際社会に流用したらいいわけですよ。だから、そういうことで拡大を図ることも結構ですよ。だから、それを図るには、やはり、今言う、皆さん納得のいくような、一般人の納得するような文献がないわけですよね。だから、そういう文献も、やはり、頭のええ人がおるんです。ロータリアンには。そういうことも含めて、そういうお金があるんなら、アピールを図りながら優秀なロータリアンを育てていくということがベターであると、こう思います。

カウンセラー

はい、ありがとうございました。

リーダー

そうしたら、時間が大分少なくなりましたので、最後に一言、眠れる会員へ、これをちょっとと言わんというと、どうしてもいけませんので、もう既に目は覚ましてあると思うんですが、これだけは、私の責任として、最後にロータリーに活力を、あなたの活力をのテーマに応じて、眠れる会員対策、奉仕活動への参加奨励対策について、実は、眠れる会員というのには、2種

類あります。一つは、関心はあるけれども、仕事が忙しくて、眠ったような顔してると、実は眠っちゃおらんのだけれども、あまり仕事が忙しくて。だからこの人は、関心はあるわけです。それが一つ。

それから、今度は、全く無関心層という人もいると、まあ、ロータリーのバッヂだけはめとるけれども、もうほとんどロータリーの奉仕活動には関心ないというのと二つある。それで、それをどうするか、ということなんですが、その関心層、いわゆる仕事が多忙なために、関心がちょっと、薄れるというわけじゃないけれども、はたから見たら、関心が少ないよう見えます。だけど、この人は、大体根は、もう関心はあるわけで、非常に気の毒に思うとするわけだから、この人たちに対してはですね、もう、できるだけ、ひとつ、協力してくれ、ということで済みますが、問題は、その無関心層の目を、いかにして覚ますか、ということでございます。

それで、そのためには、一つは、ファイアサイドミーティング、いわゆる炉辺会合等をやって、そして、こういうふうな人たちの火をつけてくれと、関心を持たせるようにしてくれと。

それから、これも、先ほどから話がありましたがけれども、そういうふうな人たちは、なかなか役職にもつきたがらん、ということではございますが、ひとつ、何か、奉仕部門の役職につけるような工夫をしてくださいと。そういうふうな人たちも、何か言葉の言い回しを、あるいは、友人関係その他によって、そんなら、いつもおれもひとつ、腰を上げるか、という気持ちにならんとも限らんから、そういう無関心層の人たちをですね、ひとつ、火をつける。そういう火つけ役も探してくれと、そうすることによって、無関心層をなくする運動をお願いしたいわけでございます。

この眠れる会員対策ということが、また、この1年間の大番大きな目標になりますので、まあ、どうぞひとつ、よろしく御協力のほどをお願い申し上げます。

幹 事 部 会



PG
カウンセラー 逸見嘉彦（佐世保南）

リーダー 松尾誠一（佐世保南）

副リーダー 松尾隆一郎（佐世保南）

カウンセラー

皆様こんにちは。逸見でございます。

何をさておきましても、皆様、次年度は幹事に御就任のこと、まことにおめでとうございます。なぜ幹事に御就任されるのがおめでたいか、というのは、これからだんだんお話ししていくますが、私は、いつも、ロータリーというところは、不思議な集まりだと思うんですね。きょうみたいな、こういうすばらしい天気のゴルフ日和に、立派は一国一城の主である皆さんが、この部屋ばかりではなくて、六つぐらいの部屋に、みんなたくさん分かれて、勉強なさってるんですけども、こんな団体というのは、本当

ないですよね。これ、利潤につながるわけでもない、まあ、普通、何か、同業者の研究会とか、そういう経済とか、政治の研究会とかいう非常にメリットがある会じゃないのに、こういったすばらしい天気の日に、皆さん集まってこられるという、ロータリーの、私は、非常に不思議なところだと思うんです。こういうすばらしい方々が、半日の時間を傾けられるということに、私は、ロータリーの不思議を感じるわけであります。

次年度の、先ほど、ガバナー・ミニーから御説明がありました、ターゲットと申しますか、テーマと言いますか、今度のR I 会長さんは、

ロイス・アビーさんという方は、情熱を注いでおられる、ライフと言ふんですから、これは、先ほど、ノミニーが生命というふうに、これは生活としても、自分の生活を、ロータリーに投入する、投球するというぐらいいのテーマですから、大変なロータリーに対する情熱家ではないかと、私は思うんで、そういうR I会長のもとで、幹事をされる皆さん、ある意味では、ここでふんどしを締め直す、どうのような気持ちもあるかもしれません、私は、ロータリーというのは、超我の奉仕というようなことが、ロータリーの基本ですが、これは、自分を越えてということは、自分を犠牲にして奉仕する、ということではないと思うんですね。やはり、自分を乗り越えて奉仕をする、ということは、自分が人にしてあげられるような、余りある資産と言いますか、財産と言いますか、人間的な財産ですね。物的な財産ではなくて、人間的な財産を持っていなければ、奉仕できないのであって、そういうふうな、自分が勉強して、たくさんのものを身につけると、そして、それから健康と、この二つが余りあるほどあって、初めて自分を乗り越えて、人に御奉仕し、分けて差し上げることができるのであって、そういう自分の勉強と言いますか、そういう意味でのエキスを身につけるところが、ロータリークラブだと思いますね。ですから、ロータリーは、やっぱり、尽きるところは、アイサーブであって、ウィーサーブ、みんなが団体で、集団で、人に奉仕をするんではなくて、一人一人が奉仕をするのが、ロータリーの特徴だと思うんで、そういう意味では、ボリオとか、そういうのも結構なことで、まあ、そういうことを言うと怒られるかもしれません、まあ、4万ぐらいのお金は、今度ばかりあつとみんな集まりましたけど、何年かに分けて、困ったアフリカの子供たちに、小児麻痺の方を救ってあげるのに貢献する、というのは、それは、寄付行為で、そのぐらいいのことは、もうやっていいので、これが、ロータリーの、この一、二年大きな本通りのような錯覚を

覚えるぐらい、ものすごく一生懸命R Iがやっていますが、あくまでもロータリーというところは、R Iの皆さん、我々に、いろんな道づけ、それから、資料とか、情報とか、道づけ、方向づけをするのが仕事であって、やはり、どういうことをやるかという、その年にやることは、ロータリークラブが自主的に決めて行うのであって、私は、奉仕というのは、自分が勉強して、身につけた財産を、人に分けてあげるのが、ロータリーの奉仕じゃないかと思うんです。その意味では、自分が、余りあるだけの人間的な大きさというもの、人間的な成長というものを持てないと、私は、奉仕ができないんじゃないか、というふうに思うのでございます。

それで、皆さんに、これは、私が、かつてちょっと書いたものなんですが、「天道受難」というパンフレットを差し上げておりますが、ロータリーで役をやることはいいことです。ロータリアンは、みな一国一城の主ですから、この人たちをまとめていくのは大変なことで、実にすばらしい人間勉強になります。「幹事」という項目に、幹事、それは、忍の一字と書いてありますが、やっぱり、幹事さんというのは、本当に耐えなければいけないと思うんですね。みんな、一国一城の主で、わがままな人たち、自我の非常に強い人たちが、何十人もクラブにいるわけですから、そういう人たちをまとめていくということ、やっぱり耐え忍ばないと、これはできないんですね。自分の我を出したったんでは。だから、私は、幹事というのは、やはり忍の一字であると思う。幹事になりますと、会長を助け、セクレタリーに徹する。人に仕えるということは久しぶりで、いつも社長や院長で細かいことをしつけてないから、大変です。それだからと言って、クラブの事務員さんに、何でも押しつけてはダメです。クラブ会員の衆望を担って、幹事になりますが、うまくいって当たり前、すぐ、今度の幹事はさばけないと、批判されます。幹事を1年やると、耐えることを覚えさせられます。人間が一周りも、二周りも

次へ

幹事部会

大きく成長します。こう書いております。

「天道受難」というのは、これも、私が、50数年の人生で感じたことなんですが、やっぱり人間はですね、何か重大な、非常に難しい役割が回ってきたときはですね、天が、まだこの男は、世の中のためにになってもらわなくちゃいけないと、そう、天が思ったときにですね、自分は選ばれたんだと、そして、今、あなたたちが幹事になられたのはですね、これから、もっと一段も二段も社会のために大きく役立ってもらうための、まあ、テストであると、天から与えられたテストであると。これは、本当にできるかどうか、ちょっとやらしてみよう。この幹事を立派にやってのけたら、必ずあなたたちは、仕事の面でも、そのほかの、自分の人生で、大きな役割を、天から、今度は与えられて、世の中のために、社会のために、大きく飛躍をして、人のためになるような仕事をなさる人になるとと思うんです。そういうこの幹事の1年は、天から与えられた受難ともいうけれども、テストを選ばれて与えられるんだから、喜んで、その難を受けよう。そういう気持ちで、ひとつ、1年間幹事の生活を楽しくですね、自分のためだと、自分が選ばれて、次の飛躍のための、今試験をされてるんだ、ということで、ひとつ、頑張っていただきたいと思います。

どうも、御静聴ありがとうございました。

リーダー

どうもありがとうございました。精神面的なものは、ただいまパストガバナーからの話で、もう十分かと思います。私は、事務的なこと、幹事がしなくちゃならないことを、討論の要旨というところの、大きい1ということで、出しております。書式記録及び報告という項目でございます。

これは、皆さん、おもらいになったと思いますが、国際ロータリー第274地区名簿という、地区の名簿がございます。この一番末の折り込みの欄を見ていただければわかるわけでございます。

この半期報告というのは、ここに書いてございますように、R I 事務局から、6月の30日前に、1部送ってまいります。送ってまいりました書類を、7月1日現在の状況について、R I にお送りいただきたいと思います。これは、ほとんどローマ字で書いてございます。この一部は、封筒もついておりますが、R I 事務局に、それから、一部は写しとして、地区ガバナーの方に、それから、次の、財務代行者というのが日本支局の中にございます。そこにお送りいただきたいと思います。これは、年2回参ります。7月と12月の2回参りますから、お送りいただきたい。

それから、新会員の変更報告ということでございますが、これは、7月と12月の間の9月、それから、翌年の4月、ここで、変更報告というのを、R I にお送りいたします。これも、資料が参ります。

それから退会報告ということでございますが、これは、ぜひ実行して、このガバナー事務所にもお送りをいただきたいと、これが、まず、半期報告に関連するものでございます。

次は、出席報告でございます。これが、ガバナーマンスリーレターの末尾の方、あるいは、真ん中の方に、出席競争として出てくるでございます。これは、毎月8日必着ということに、お願いをしたいと思います。そういたしませんと、もう、ガバナー事務所は、ほかのクラブの方は出ておっても、一クラブだけ残ってる、集計ができない。もう、大変困るわけでございます。私が幹事をいたしておりましたときも、電話で催促を申し上げるということが、再々ございました。郵便で間に合わないときには、ひとつ、ガバナー事務所に直接お電話で御連絡をしていただければ、幸いかと思います。

それから、次の諸会合の議事記録ということは、部内的な問題でございます。必ず理事会の案内等については、事前に文書で御連絡をなされた方がよろしいかと思います。また、その記録を、ぜひひとつといていただきませんと、例え

ば、10年史とか、20年史とかつくります場合に非常に困るわけでございます。ぜひ、あとに出てきます写真の記録と共にしとかれた方がよろしいんじゃなかろうかと思います。ですから、そういう諸会合の記録ということでございます。

それから、次の、クラブ書類の綴り込み、それが、いわゆる、委員会別とかというものを、ぜひお取りいただきたいと思います。

それから、最後の、通信処理を含むと書いてあります。この通信処理の発送、受信が、なかなか記録がとれてないようでございます。ですから、どこから来てたんだかわからなくて、返事が出せない。こういうことになるかと思いますので、ぜひ記録をおとりいただき必要があるかと思います。そうしまして、必ず、R I、あるいは地区ガバナーから参りました書類の処理は、ひとつぜひ、幹事さんみずから、事務局員がいらっしゃるところにおいても、幹事さんみずから指示をなさって、翌日には返送するということを、ぜひお願ひをしつきたいと思うわけでございます。

それから、マンスリーレターの活用、地区名簿の利用、というふうに「口」の項目で書いております。マンスリーレターにも、いろいろ載ってまいります。特に最近、御注意なさっておいたかねばならないことは、ドルの変動による日本のドルと円との差の、送金する場合のドルの換算レートが変更になってまいります。これはぜひ、手帳なりに記録をとっていただきたいと思います。

それじゃ、遅れてR Iに送金したときに、ドルが下がってた場合には、どこの時点でやるか、という問題があるかもしれません。これは、発送期限のときのドル相場ですから、おくれられて、ドルが下がったり、上がったりしましたときの、おくれたときの発送の時期ではございませんで、文書の提出期限のときのドル相場でお送りをいただきたいと思うわけでございます。R Iには、実は、各クラブの送金額が、全部コンピューターに入ってるわけでございます。

そのドル換算の違いで、ときどき変な時期にあなたのクラブでは、未払い金がございますよ、ということで、R Iから送ってきて、一体これは何じやろうかなあと、お困りになって、わからんから送つておけと、こういうふうなことが再々あられるかもしれません。これは、ドル相場との換算レートの違いがある部分が、大部分でございますので、御利用くださればよろしいかと思います。

地区名簿と言いますのは、さっき申し上げたように、このことでございます。この中に、あとで出てまいりますけれども、送金とか、いろいろございます。この地区名簿の方からいたしますと、さっきの、ガバナー事務所に、出席の報告、その次が、次年度会長・幹事決定報告というのが、明年の1月15日に、R Iより送ってきます。これも、同じくR I日本支局、ガバナーノミニー事務所に、御送付お願いをしたい。

それから、やはり、これも、3月末でございますが、国際大会の出席信任状の提出がまいります。これはぜひ、会長さんと幹事さんがサインをして、ガバナー事務所にお送りください。これを持っておきませんと、ガバナーノミニーが大会に参りましたときに、信任状がございませんと、非常に困ることがございますので、ぜひ幹事さんと会長さんのお名前のサインをしていただきたいと思います。

それから、宛先は空欄にしていただきたいと思います。そうしませんと、ときどき間違って自分の名前を書いて出される方もいらっしゃいます。それから、次が、4月の、次年度クラブ事務所通知ということでございます。事務所番号等を、やはり、これも送つてまいりますのでR I事務局、ガバナーノミニー事務局、ロータリーの友編集事務所というとこにお送りください。これが、ロータリー274地区名簿と、こういうことになっていくわけでございます。

それから、地区大会前にお送りをして、これは、地区大会前と書いてございますけれども、さっきの、信任状と同様なもので、地区大会の

次へ

幹事部会

決議、あるいはガバナーノミニーの選任の問題に関する信任状に関するものでございますので、ときどき、地区大会でお忘れになってこられますと困るわけでございますので、これもぜひお忘れにならないように、お願ひしたいと思います。

それから、国際大会前になりますと、国際大会の代議員の委任状が参ります。これは、ガバナー事務所の方から、また送ってまいりますので、これも、すぐお送りいただきたいと思います。

それから、次に、メーキャップ通知ということがございます。その都度ということ、これは今まで、各クラブで行われておられるような、関係クラブにお電話なり、あるいははがきなりで結構ですから、ぜひお願ひいたします。

それから、さっきございました、会員の入会・退会変更、所定の用紙がございまして、英文で、R I 事務局、和文で、ガバナー事務局、これも、書類が送ってまいります。

それから、役員の変更、例会日の変更も、所定の用紙がございますから、R I 日本事務局、ガバナー事務局にお送りください。特に、例会日の変更がございましたら、あるいは時間の変更がございましたら、ガバナー事務所に、各クラブにお送りになってるはがきは、ぜひガバナー事務所にもお送りいただきたい。これが、近隣クラブだけに送られて、ガバナー事務所には、なかなかついてないという場合がございましたのでよろしくお願ひします。

それから、クラブ活動に関する情報ということは、これは、ロータリーの友の事務局にお送りいただきたいと思います。写真をつけて、文章を書いてお出しいただければ、皆さんのクラブの活動報告とか、そういうものをお送りいただければ、よろしいかと思います。ぜひお願ひを申し上げたいと思います。

では、次に、クラブ内の活動でございます。出席規定という、イの項目の2項に、クラブ内の活動ということで、出席規定ということを書

きます。これは、定款細則に載っております。前後6日間ぜひ実行をしていただきたいと思います。このことを、先刻も申し上げましたけれども、いわゆる、出席競争が、地区内で行われております。その資料として、ガバナー事務局に、8日まで出席報告をお送りいただく。このことでございますので、ぜひ実行をしていただきたいと思います。

60%の規定という、60%出席すればいいんだ、という規定もございますが、ひとつ、その、皆さんの例会日に合わせて、皆さんに、健康に留意されて、ぜひ、なるべく100%に近い実績を上げられたらよろしいんじゃなかろうかと思います。

さっき、田中丸ガバナーがおっしゃいました、出席率の100%が7クラブ、90%台が30クラブ、80%台が7クラブ、70%台が1クラブと、こういう結果のようでございますので、ひとつ、規定を尊守せられて、出席競争に御参加していただけば、よろしいんじゃなかろうかと思います。

それから、次が、新会員の推薦でございます。この手続については、幹事必携に詳しく、6段階の部分が載ってるわけでございます。昔は、13段階なんていうのがございました。最近、きちんと、また、改編されまして、6段階と、こういうことで、新会員の推薦というのが行われているわけでございます。やはり、会員の推薦については、理事会で、幹事さんが受けられて、理事会で報告して、受け付けてよろしいか、というのが第一段階でございます。最後には、いわゆる10日間の余裕を持った密封文書の発送、返却という問題がございますので、これは、やはり、実行をしていただければ、よろしいんじゃなかろうか。その文書の書き方でございますが、これは、特別に規定はございません。規定はございませんけれども、往々にして、どなたの推薦だということが書かれてない場合が多いんでございます。そういうことで、いわゆる、推薦会員の名前をお入れになったらいかがと、かようと思ふわけでございます。

それから、クラブ財政でございます。特に、ロータリーの場合は、財政に関するものは、余り規定がございません。いわゆる、会計原則というのをございませんが、ひとつ、なかなか、人数の少ないクラブでは、大変と思います。私の方、佐世保南におきましても、会員86名おります。その事務局がございます。その人件費だけでも、10%以上というようなことになるわけでございます。ですから、小さいクラブで、事務局員さんを置いておられるところは、大変と思うわけですが、別に規定はございません。

そういうことで、このロータリーの趣旨、最初の発想からいきましても、なるべく財産はお持ちにならない方がよろしかろうと思うわけでございます。できれば、会員さんの提供とか、あるいは幹事さんが、一時貸し出すとか、そういうことでなさった方がよろしいんじゃなかろうかと、かように思うわけでございます。

ちなみに、その地区に関する納金とか、そういうものは、後ほど、地区幹事さんの方から御説明があるかと思いますが、この、本日の資料の33ページに、地区会計の人頭分担金表というのが出ております。ですから、最低地区関係に1万260円お納めにならにやいかんわけでございます。

それから、次に書いてありますのが、年次大会に関する分担金でございます。これが、現在、一会员当たり5,000円ということになります。これは、7月の当初に御送金をいただいて、大会前の月の月末の人数によって決定をいたしますから、多く納められたところは返却、不足のところは納入、こういうことでございます。

このほかに、皆さんの地区名簿の、さっきの報告と、送金のしおりの中に詳しく書いてございます。ちなみに、R I の分担金が、年に20ドル程度要ります。現在128円ですから、2,560円要るわけでございます。それから、ロータリー財団に10ドルやりますと、1,280円でございます。このほかに、ロータリーの友に、年に、2,400円、米山記念の奨学会に、まあ、年2,0

00円程度要るわけでございます。

このほかに、地区の行事として、ライラがございます。これが、昨年も、たしか1クラブ当たり3万円程度御負担願った。それから、インタークトについても、その程度でございます。それから、きょうの地区協議会等が7,000円程度要るわけでございますが、大体これは参加費、きょうの地区協議会というのは、各クラブのクラブ負担で、個人負担ではございませんので、そういうところまで入れた負担の収支をお考えいただければよろしいんじゃなかろうかと。

それから、いつも問題になりますが、にこにこボックスの使途でございますが、できれば、これは、クラブの奉仕活動の部分継続充當されたらいかがかと、かように思うわけでございます。

それから、また戻りまして、クラブ会報でございます。往々にして、会報委員のごございますところは、もう、会報委員さんにお任せのような形でございます。ですが、ひとつ、幹事さんも、この欄を利用して、卓話なり、あるいは委員会、それから、理事会等の記事を、週報でお出しになつたところは、御利用された方がよろしかろうと思うわけでございます。

で、私が地区幹事しておりましたとき、一番頭を悩ましたのが、このガバナースマンスリーレターでございます。これはもう、地区幹事がもうほとんどやらにやいかんわけでございまして、まあ、そういうこともございまして、ひとつ、幹事さん目を通していただけば結構かと思います。

それから、次のホンが、幹事要覧、手続要覧の活用でございます。

まあ、幹事要覧はそぞざいませんが、手続要覧は、初めから終わりまでお読みになると、わからんようになりますから、つん読にしていただきたい。何かありましたときに開いて見られれば、わかるようになるわけでございます。年数はかかりますけれども、だんだんわかるようになります。それから、さっき、田中丸ガバ

次へ

幹事部会

ナーが申されました規定審議会というのが、3年に一遍ずつぐらいございます。このときに、少しずつ、いわゆる内容が、定款細則が変わる場合もございます。それから、手続要覧も変わってまいります。そういうときをつかまえて、一つ、なお、その機会に見ていただければ、自然に覚えるもんでございます。昔の手續要覧と、現在の手續要覧は、表現が幾らかずつ変わつてまいって、やわくなっています。まあ、昔なんかは、これが、1960年の手續要覧でございます。その中に、これは余談ですけど、ロータリークラブと、漢字のクラブで印刷をしてございます。クラブは共に楽しむ部「俱楽部」と書くわけでございますが、ひとつ、幹事さんは、この1年間は苦しむことと、楽すること、こういうふうに、クラブを御理解いただければ、またよろしいんじゃなかろうかと思うわけでございます。

それから、大きい3項目の、クラブ会長との連係でございます。これは、次のページの8番に、クラブ幹事行動計画表、というふうに、一つの参考資料としてお出しをいたしております。

今、こちら辺で、何か疑問があられるところがございましたら、質疑応答をやった方がいいんじゃなかろうか、という御意見でございますので、質疑応答を、ちょっと入れさせていただきます。

何か、今までのうちで、御質問ございませんでしょうか。

堤（小城）

先ほど、クラブ財政のことについてお話をございましたけれども、クラブでは、財産を余り持たない方がいい、というような御意見でしたけれども、実は、年度当初に、本部に、会費なんかまとめて納めるようなことがありますので、若干、やはり持つとかんと、その都度借り入れ処理というのが出てまいりますが、その辺いかがでございましょうか。

リーダー

財産と申し上げたのは、動産的なものでござ

いまして、金銭でしょう、今言われたのは。それは、いわゆる年会費を、年2回に分けて徴収するわけですから、これは当然、クラブに銀行預金として残らにやいかんわけでございます。

そういうことで、あの、次のページの11の7月の理事会地区活動という中で、2行目に、予算、取引銀行の決定と、こういうふうに書いております。ですから、7月前でも結構ですが、理事会で、予算書を提示され、銀行を、どこどこ銀行にするんだ、というふうなことをして、その銀行にお預けをいただく。これは、さっき申し上げました、財産という意味ではございません。

堤（小城）

実は、私のところは毎月徴収いたします。だから、そう貯えというのがないわけでございます。

リーダー

毎月徴収されても結構です。規定はございません。

堤（小城）

ただ問題は、毎月徴収しますために、年度当初に中央の会費をおさめる納期がきた場合に、資金繰り的に困ることがあるもんですから質問をしたわけです。

リーダー

ですから、繰越金は、当然そういうR Iに送られにやならんから、お持ちになっとかにやいかん、かように思うわけでございます。ですから、請求書は、普通6月の末にお出しをするんです。次期幹事の名前で、そういうふうになさって、それはもう、当然幾らかの預金はお持ちにならんと、金繰りができませんですから、そういうふうなことでよろしゅうございましょうか。

鶴田（佐世保南）

その財産の中に、資産、すなわち、まあ、私ども、先ほど幹事が、ワープロは自分で買って持ってこいと、というようなことを、ちょっとお聞きしたんですけども、今からの時代

は、そういうワープロなり、あるいはファックスぐらいまであれば、わりに、幹事の仕事が完成化されて、非常にやりやすいと思うんですが、そういうものは、どういうふうにお考えになつておりますか。

リーダー

あと、カウンセラーにお尋ねをせにやなりませんが、私は、ロータリーは、自分の持つてるもので奉仕することです。その一語に尽きると思います。カウンセラー、いかがですか。

カウンセラー

私は、自分自身が機械に弱くて、全くワープロとか、ああいうものは音痴なもんですから、そういうことまでは、頭が及んでおりませんでしたが、どうですかねえ、クラブの財政の事情もあるんで、これからだんだん、1台備えつけるようになるんじゃないでしょうかね。そうしないと、やりたくない人は、いつまでもやらなければよろしいですね。幹事になられてもね。機械に弱い人は。で、やっぱり、クラブにあると、どうしても、幹事になられて、ずっと歴代幹事が、そういうふうに、これから時代はね、だんだんそうなっていくでしょうから。そうすると、どうしても頑張ってでも、練習してやらなくちゃならない、ということになる。自分もちだってやっぱり、おらあ持つたらんからやらん、ということになるかもしれませんけれども、それは各クラブでもって、自主的に、理事会が決められていかれていいじゃないかと思います。

江口（佐世保）

そんなのはですね、全部リースで借りております。で、ファクシミリも、リースで借り入れて、そうしたら、一度に、100名以上おるもんですから、連絡その他が、半分ぐらいは、会員の方がファクシミリ持っておられるもんですから、それで連絡をいたしております。

カウンセラー

今は、佐世保クラブですもんね。ここは、我が地区で一番強力な、大きいクラブですから、まあ、なかなか、佐世保クラブのようなわけに

はみんないかないと思いますが、御参考にはなったと思います。

休憩

再開

リーダー

クラブ及び地区行事への参加でございますが、まず第一番に、クラブフォーラムでございます。クラブフォーラムというのは、年4回以上なさい、というふうなことが指導されておるわけでございます。次のクラブ協議会も、年6回以上なさいと。それで、これは公式訪問直前の分も、あるいは、公式訪問時のクラブ協議会も含みますよと、こういうふうに、大体なっております。ですから、7回されてもよろしいし、クラブフォーラムも5回なさってもよろしい。こういうことでございます。

それから、そのあとの協議会も、さっき申し上げたとおりでございます。地区協議会は、本日の地区協議会でございます。それから、これはもう、ほとんど出席義務者の形になっておりますから、御出席いただくわけでございます。

それから、年次大会でございます。昨年、私の方の南クラブがいたしまして、ここで、ちょっとおわびを申し上げにやならぬわけでございます。先般の船の見学でございます。大会当日、中東情勢の変革によって、大型艦船の見学ができませんでした。その後、4月になりましたですか、3月でしたか、入港をするということで、米軍の方がOKを出しまして、各クラブに御通知を差し上げて、御案内をいたしたわけでございます。ところが、大型艦船が、24時間以内に出发、という急変革がございまして、御期待に沿えなかつたわけでございます。心から、南クラブのホストクラブとして、おわびを申し上げる次第でございます。

これは、大会出席ということでございます。昨年、南クラブがやりましたときには、大体、

次へ

幹事部会

1,600から、ちょっと切れるぐらいでございました。ことしは唐津でございますので、ひとつ、会員さんに、さっきガバナーのミニーもおしゃいましたように、大会云々ということをございまして、ぜひ、多数御出席いただければよろしいかと、かのように思うわけでございます。これも、やはり、幹事さんと、出席委員さんと、協力して、大会参加を呼びかけていただきたいと、かのように思うわけでございます。

その他の行事は、早目に計画、連絡、多くの参加者があるように、努めることと、こういうことでございます。

そういうことで、添付資料の、ロータリークラブ業務予定表というところを見ていただければ幸いと思います。

これは、あくまでも案でございますので、各クラブで色をつけられればよろしいわけでございまして、これは、一つの参考として、タイピングして、皆さんに差し上げてるわけでございます。例会行事は、やはり、新年の会長のあいさつ、運営方針がございます。それから、第1回のクラブ協議会があって、各委員長さんが、今年度はこういう行事をしたいと、こういうことでございます。

それから、各会員に対する会費の請求をお送りにならにやいかんわけです。これは、あくまでも幹事の責任でございます。

それから、その会に対する請求書をやりますと、会費が納入されます。納入された方については、会員証の発行をぜひなさっていただきたいと思います。これは、必ず幹事の自署サインでございますので、お忘れないようにお願いをしたいと思います。

それから、右側に行って、理事会地区活動ということ、本年度計画の発表、それから、予算取引銀行の決定でございます。それから、名誉会員の推薦でございます。名誉会員は1年限りでございますので、この時期になされた方がよろしいかと思います。

それから、定款細則の検討ということでござ

いますが、定款は決めることはできませんが、細則の方は決めることができます。定款の方は、3年に一度、規定審議会がございまして、改編されたものを、そのままお使いいただくわけでございます。ただ、細則の中に、1案と2案というふうにございますが、これは、各クラブの御自由に、ということでございます。

それから、必ず定例理事会を毎月1回おやりにならにやいかんわけでございます。

それから、右側の報告事項に、半期報告、7月1日R I ガバナー事務所財務代行、それから次に出席報告、毎月8日必着と書いてありますが、7月の8日までの報告は、前年度の6月分でございますので、これは、前の年度の幹事さんがなさるわけでございますが、田中丸ガバナーの方にお送りいただきにやいかんわけあります。ですから、皆さんは、8月の8日までの分を、この唐津の辻ガバナー事務所にお送りいただきにやならぬわけであります。

それから、送金というふうに書いてございます。R I の人頭分担金、それから、地区資金、各奉仕資金、月信購読料、大会分担金、ガバナー事務所費、ロータリーの友購読料、米山奨学会寄付金、こういうことでございます。

月信購読料は、ぜひ全会員の分を御送金賜りたい。かように思うわけでございます。

2部ほどは、いわゆる、クラブ保存用でお送りをされるはずでございます。

それから、8月でございますが、前年度の決算報告等がございます。これは、前年。それから、公式訪問がございます。報告書は、ガバナー報告書については、計画はほとんどのクラブは載っておりますが、ひとつ、実績もあわせて載せていただきたい。かように思うわけでございます。これは、たしか、逸見ガバナーのときからお願いして、そういうふうになってるかと思いますが、ぜひ、前年度の実績と、今年度の計画、両方お載せいただければよろしくうございます。これは、辻ガバナー事務所の方に、できますれば2週間前までに必着するように、お送

りをいただきたい。そのほかに、ガバナー事務所から、いわゆるクラブの別の報告用紙がお送りしてこられるはずですから、それに記入してお送りをいただきたい。かように思うわけでございます。

御経験があられるかと思いますが、幹事さんと会長さんが出席して、ガバナーに、現況報告を提出いたして、ガバナーの公式訪問に入るわけでございますので、お含みいただきたいと思います。

それから、右側に参りまして、職業分類の整備を、ぜひ8月におやりいただかにやならぬ項目がございます。

それから、ことしは、インタークトの大会が8月にあるはずでございます。

それから、そういうことで、一番右側のインタークトの負担金が3万円程度来るんじゃなかろうかと思われます。

それから、9月が、クラブ協議会等、公式訪問前、公式訪問時2回開催、これは、そのクラブクラブによって、日にちが変わるとと思いますので、お含みください。

それから、青少年活動月間でございます。それは、ロータリー月間というのを、真ん中の3項目にずらっと書いておりますので、9月は、青少年活動月間、こういうことで、青少年月間にちなんで、卓話なり、フォーラムなり、何か行事をひとつしてください。こういうことでございます。

一番右側のライラが、また、ことしもあるようございますので、ここら辺で、ライラの負担金が参りますよ、ということでございます。

それから、10月でございますが、10月は、職業奉仕月間と、米山月間でございます。月間に因んで、卓話なりフォーラムなりを、プログラムの中にお入れになつたら、いかがかと思います。

それから、ライラがあるんじゃなかろうかと、10月にございます。

それから、報告事項の中に、地区大会の登録

というのがございます。

それから、次が、出席報告、8日まで、新会員の入会、R I 報告が9月にもあります。

それから、右側が、地区大会の登録料の送金、人頭分担金を、10月31日現在にて調整、ということでございます。

それから、新会員に対しては、9月まで入っておられる場合は、新会員5ドルをお送りせにやなりませんので、これは、R I の財務代行、東京でございますので、御送金の必要があるかと思います。

11月は、地区大会の報告等を、クラブ協議会でなされば、いかがかと思います。

それから、財団月間にちなんで、卓話なりフォーラムを、ということでございます。

それから、11月は、次の年度の理事並びに役員さんの選挙公告をなされにやいかんのではなかろうかと思います。

それから、ロータリー月間では、地区大会が唐津で、11月の19日から20日までございます。

それから、報告事項に、地区大会選挙人名簿ということ、これは、大会当日なり、あるいはその以前に御発送をなされにやいかん、ということでございます。

大会が済みますと、大会分担金の精算というのが出てまいります。これは、一人当たり5,000円でございます。

それから、12月でございますが、親睦家族会等の開催案ということで出しております。

それから、会長さんの上半期を顧みてという、卓話程度をなさつたらどうですか、ということでございます。

それから、12月末日までに、次年度理事及び役員の選挙発表をなされにやいかんわけですが、これは、各クラブの細則に基づいて、なさっていかがかと、かように思ふわけでございます。

ですから、次が、被選理事会の開催ということでございます。これは、規定にございます。

それから、定例理事会出席報告ということでございます。

次へ

幹事部会

それから、1月の新年あいさつを、会長さんがなさるにやいかんだろう。それから、半期報告の作成、委員会活動の報告書を各委員長さんから御提出願わにやならぬのではなかろうか。そういうことで、クラブ協議会の開催がまたございます。

1月は、会員に対し、下半期会費の請求、会員証の発行、こういう問題がございます。

それから、報告事項は、次年度会長、幹事が決定したならば、1月15日までロータリー事務所、ガバナー事務所、そういうところにお送りをいただくわけでございます。

それから、送金が発生してまいります。人頭分担金、地区資金、ガバナー事務所費ということで、7日以内に送金ということでございますので、松の内明けますとすぐ御送金をなさるにやいかん。かように思うわけでございます。

それから、2月が、ロータリーの創立記念日でございます。括弧して、世界理解と平和の日、2月23日でございます。記念日と前後して、まあ、月間にちなんで、卓話なりフォーラムをなさったらいかがが。

それから、クラブの中間決算報告的なもののがございます。

それから、また、次年度も、IGFがあると思いますが、IGFがあれば参加と、こういうことでございます。

それから、ロータリー月間の創立記念日とともに、世界理解月間が、この期間、2月に起こってまいります。

それから、出席の報告事項は、出席の8日まで、クラブ業績報告、インタークト、ローターアクト等の報告が発生してくるわけでございます。

3月になりますと、IGFがありますれば、このところで、クラブ協議会等が発生してきます。3月は、ポリオプラス月間でございます。

それから、報告事項に、次年度クラブ事務所報告、国際大会代議員委任状、受任者は、空欄のこと、というふうに標記してございます。

4月になりますと、4月が、ロータリー雑誌月間でございますので、これにちなんで、卓話なりフォーラムをやられてはいかがか。

それから、次年度会長の研修会が、4月か、あるいは3月にあるわけでございますが、大体ここら辺でございます。

それから、RIに対して、新会員の報告がございます。

それから、新会員分担金を、4月1日現在でRI代行に、1人当たり5ドルお送りしなくちゃならぬわけでございます。

5月が、クラブ協議会、この地区協議会の報告等をなされたら、いかがかだと思います。

それから、次年度会長ほか、地区協議会の参加が、大体5月にあるわけでございます。

6月が、クラブ協議会の開催、半期活動報告、各委員長、それから、年度末を終えて。

それから、理事会が、定例理事会、次年度との合同理事会、これは、ぜひなさったらいかがが。引き継ぎ事項等を緊密になさったらいかががと。

で、まあ、6月は、国際大会もございます。来年は5月でした。これ、6月と書いておりますけれども、5月、韓国でございますので、ひとつ、御参考になさったらいかががかだと思います。

それから、この添付資料の一番下に、財団に送るフェロー及びポリオプラスは、課税の対象になります。送り先が、ちょっと違いますのでポリオプラスは、日本ユニセフ協会ロータリー ポリオプラス、三井銀行本店(フ)の5678970というものが、口座番号です。こちらにお送りしませんと、免税にはなりませんので、まあ、御注意をなさつとていただきます。あくまでも、これは、一つの案でございますから、御参考にということで、こういうふうにいたしておりますので、御利用いただけば、結構かと思います。

次、6番が、ガバナーの訪問と幹事ということで、本当、幹事さん、このときは大変でございます。報告書を書かにやならぬ、さあ、ガバナーの方から来ました書類をつくらにやならぬ、

ということでございますので、大変かと思いま
すが、ガバナー事務所と御連絡をとりながら、
なさっていただければ、結構かと思います。

次は、7番目でございますが、事務局でござ
いますが、ひとつ、参考のために、事務局員さ
んのいらっしゃるクラブは手を挙げてみていた
だけませんでしょうか。ほとんど事務局員さん
のいらっしゃるんですね。それじゃあ、事務局員
さんのいらっしゃらないクラブはほとんどない
ようでございます。全くないです。ひとつ、
ぜひ、幹事が、1週間の6日間のうち、毎
日1時間ずつ、ロータリーに精を出していただ
いて、御連絡と、1時間だけ働いていかれれば
よろしいんじゃなかろうかと思います。ぜひ、
事務局に毎日連絡はおとりいただくように、お
願いをしたいと思います。

一番困るのは、文書が確実にその方に、ロー
タリーの方に届かないことが、一番ガバナー事
務所としても困られるし、それから、返事が來
ないことも、また一番、ガバナー事務所側とし
ては、お困りになるということがございますの
で、ひとつ、ぜひ、お願いをしたいと思います。

では、8番目、その他協議事項でございます
が、では、今まで、前半の分、後半の分を含め
て、質疑応答ということにさせていただきます。

何か御質問ございましたら。

江口（佐世保）

先ほど、リーダーさんから、会員証の発行の
場合に、幹事が自署名をしなくちゃいかんと
おっしゃられましたけど、それは、何か、定款
細則に手続要覧の、どこのところに書いてござ
いましょうか。実は、うちの場合は、全部幹事
名を判で押してます。ずっとやってるんで
す。

リーダー

手続要覧には載っておりませんけれども、こ
れは、載ってることは載ってるんです。その文
章がきっと載ってるんです。なぜそういうこ
とを申し上げるかというとですね、指導とい
うことで、指示があつてある分はですね、外国のク

ラブに行かれたときに、そのサインは、ゴムの
判では通用しないんです。そういうことで、自
書をしてくださいと、こういうことでございま
す。ですから、日本国内では、大体ゴム印でも
いいんです。南クラブも、実はゴム印を使つて
るんです。はっきり申し上げて。そういうこと
だから、私がそういうふうに申し上げてるわけ
です。

森（佐世保北）

今、江口さんが質問されたことに関連します
のですけれども、会員証の発行ですね、あれは
年2回になつたるようですが、2回やる
わけですか。もう決まつたるわけですね。

リーダー

できれば2回というふうになります。

森（佐世保北）

うちのクラブは、1回にしておるわけなん
ですよね。それで、はっきり2回と規定があれば
2回に変えにやいかんと思いまして、ちょっと
質問したわけです。

リーダー

それはですね、会員証というのは、はっきり
申し上げると、外国の領収書と一緒になんですよ。
会費を、年2回と決めてるから、2枚出さにや
いかんと、こういう理屈でございます。これも
手続要覧には載つませんから。

森（佐世保北）

そうしたらですよ、1回もいいわけですか。

リーダー

1回でもよろしいわけですが、今度は、2回
目の、払ったか払ってないかの証拠にはならん
わけですね。ですから、年2回と決めておられ
るところは、そういうふうになさい、というの
が、指導なんです。

森（佐世保北）

わかりました。

堤（小城）

私のところは、毎月会費を徴収していますけ
れども、年1回会員証は出しておるわけなん
ですが、したがつて、会費の徴収の期限と、この

次へ

幹事部会

会員証の交付、これは、それぞれクラブによって違うと思いますので、その辺、年1回なら1回、これは、幹事要覧の中に、2回と書いてありますけれども、これは、年に2回に分けて納めるための、一つのしるしじゃないかと思いませんけれども、いかがでしょうか。

リーダー

幹事要覧には、年2回発行しなさいと書いてあるわけです。ですから、おたくの場合は、会費はですね、毎月そうしますと、細則に、会費は毎月取ると書いてあるわけですね。ですから前期と後期というふうにお考えになって、2回と、こういうふうに、会員証を出しなさいと、こういうことです。そういうことで、R I の場合も、いわゆる7月以降9月までに入ったのは5ドル要りますよ。10月に入会されたら、前半の5ドルは要りませんと、こうなるわけです。

堤（小城）

その辺がですね、毎月徴収するところのクラブとですね、会員であるという証明書、この辺の考え方を、はっきりしとつてもらわんと、会費の徴収を、年2回だと、幹事要綱では、会員証を2回発行しなさいと、その辺の見解を、はっきりしてもらいたいと思いますけれども。

リーダー

そういうふうに、毎月徴収されるところにおいても、年2回発行されたらいかがですか。

会員証を。そういうふうに御理解ください。そういうことで、よろしいですか。

松尾（武雄）

国際大会のことは、これは、幹事関係ありますですかね、来年の。ソウル大会がございますですね。

リーダー

さっき、ガバナーのミニーがおっしゃいました、いわゆる500人ということでございますので。

松尾（武雄）

ソウル大会は、世界大会でございますか。アジア大会でございますか。どちらになりますか。

リーダー

世界大会ですよ。

松尾（武雄）

そうしたならばですね、この地区から500人となりますと、日本だけで29地区ちょっとござりますですね、1万5,000人くらい行くことになるわけですね。全世界から何人集まるのでしょうかね。あんまり大変だからですね、集めるのも、というのがですね、私、東京の世界大会に行きましたけれども、そのとき、全部で2万人ぐらいだったと思うんです。これは、韓国人自身が、随分集めるでしょうし、もっと絞ってもいいんじゃないかなろうかと思いましたもんですから。

リーダー

東京大会は、10万近く集まったんだそうです。
松尾（武雄）

10万ですか。はい、わかりました。

リーダー

ほかにございませんですか。ちょうど、田中丸ガバナーが来ておられます、ソウルはどのくらい集まるのか、という御質問ですが。

田中丸ガバナー

よく知りませんけどね、大会場が8万人と言えんでしょう。それで、大変な気の入れようで、そういう設備をつくっちゃったのですね、もう、オリンピックが済んだら、全然使い道ないというのは、困るもんだから、とにかく、やれやれでやっとるわけでしょう。ですから、さつきのお話のように、何万人か集まることはたしかでしょうね。10万人は、ちょっと行き過ぎだと思いますけどね。

リーダー

はい、ありがとうございました。そういうことでございますので、ぜひ500人割り当てが来るそうですから、御協力のほど、ひとつお願いをしておきます。ほかにございませんか。

A

その他の事項で質問ですけれども、たまたま私のところ、きょう会長が欠席しておりますの

で、例会日の変更のことで、ちょっとお伺いしたいと思いますけれども、ちょうど、私のところが、毎月水曜日にやっておりますけれども、会員の中で、それぞれ、経営者だけだもんですから、水曜日の例会は、なかなか大変だと、月曜あたりに変更してもらえんだろうか、という会員の意見もあるわけですけれども、例えば、それを改正する場合、会長の任期中か、あるいは、会長が改選されるときに、どっちの方がよろしいでしょうか。お伺いしたいと思いますけれども。

田中丸ガバナー

先日から、その問題は出ておりますけれども、お変えになるのはですね、理事会でお決めになればいいんで、会長が変わるとか、変わらんとかという問題はですね、これはもう、常識でお考えになればわかることでですね、その辺の、変化するときにえることは、まずいのかもわかりません。しかし、実際問題としては、いつでもえていいわけですから、そういう全員の了承さえ得られるならば。よろしゅうござりますか。

リーダー

時間も大体参りました。本当にきょうは、この長丁場を御勉強していただきまして、ありがとうございました御礼申し上げます。

皆さん、幹事さんになられる方でございまして、もう勉強は十分しておられるわけでございます。何も私の方からとやかく申す筋合いのものではございません。まあ、ひとつ、非常に長丁場でございますので、健康に留意をされて、ロータリーの発展のために御協力賜れば、幸いと思います。ガバナーから一言発言があるそうです。

田中丸ガバナー

先ほどのソウルの件は、ひとつ、どうぞよろしくお願ひしておきます。

それから、もう一つは、ちょっと私も、実はうかつな話でございますが、幹事さんですね、3年も4年もおやりになっておる方がいらっしゃる、という話なんですが、これは、ちょっと手を挙げていただきますでしょうか。2年以上の方、何か、この間からそういう話が出て、これは、やっぱりですね、ロータリーのいろんな役職は、最低2年でございますから、それ以上おやりにならんように、ずっと変わるものでございます。ですから、会長もですね、ガバナーでも、みんな変わるんでございます。ただ、会長はですね、それで終わりですけれども、ガバナーは、どうもそのあとですね、ここに、逸見先生いらっしゃいますけれども、カウンセラーとか何とか言うてですね、大体呼び出されます。しかし、会長は、終わったら、それで終わりのようございますから、その前の段階が幹事さんでございます。それで、幹事さんもですね、たしか、長崎で4年やっとるとか、という話がありましてね、これはもう、明らかに間違いでございますから、できれば、毎年お変わりになりますように、どうぞお願ひしておきます。

ありがとうございました。

リーダー

それから、地区的、ロータリーの友の地区委員でございます、益田さんから、ロータリーの友の事務所から、皆さんに一言お願ひをしてくれと、ということでございます。と申しますのは、この、英文のロータリーの友でございます。ひとつ、各クラブで御購読をお願いをし、また、会員さんで、英語のおわかりになる方にお申し込みをしていただきたい。こういうお願ひでございますので、よろしくお願ひをしたいと思います。

では、最後に、カウンセラーのパストガバナーの逸見さんから、御講評を、あるいはその他補足をしていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

カウンセラー

私は、精神科の医者なもんですから、精神科の医者というのは、大体、病気の診断をするときには、表情と言いますか、お顔を拝見して、それが非常に役立つんですね。もう何十年と、

次へ

幹事部会

人の顔色ばっかり見てるもんですから、先ほどから、どうしても、皆様のお顔を拝見しとったんですが、大体、皆さん自信にあふれたお顔をしておりまして、もう、細かいことなんか、あんまり問題にしてないようなふうで、大体、来年度の幹事さんは、もう大丈夫なような、私印象を受けました。

幹事さんやると、ときどき、胃潰瘍も、今は精神的に1日でぼつとできるんですよね。円形潰瘍というのは、精神的じゃないものは、大概がんの始まりとか何とかで、これはもう、恐ろしいんで、普通、円形潰瘍としてできるのは、ぼつと精神的に、自律神経の関係ができるんで、今は、もう、手術しないで、ほとんどいい薬ができたので、治りますけれども、手術をするということになると、これは、ちょっと、やっぱり、悪い方の病気の初段階だから、ということなんで、まあ、薬で治るぐらいの、潰瘍ができるやすいですね。幹事をやって、できる人がありますね。皆さんは大丈夫だと思いますが。

それから、今で言えば、まあ、100円はげと言いますかね、500円の人もおるでしょうけれども、円形禿頭というものです。あんなものでできる人がおられますね。幹事さんは、大体、初めのころ寝つきが悪くなったとか何とかで、まあ、その程度で、ガバナーやると、ちょっとそういうわけにいかないで、心筋硬塞とかですね、脳硬直塞とか、脳出血とか、がんなんかも、やっぱり、過労が影響して、まあ、がんというのは、ずっと何年も芽はあるんでしょうけれども、ぱあっと、それが促進されるということで、ガバナーの方が被害は甚大ですよ。幹事さんは、せいぜい百円はげか、胃潰瘍の短期のやつですから、やっぱり、1年間、本当御苦労で、大変だと思うんですが、まあ、皆さん割に自信ありげな御表情ですので、安心しております。

今、松尾リーダーがおっしゃったことはですね、あれは、百点満点のことですから、それを聞いとっても、みんな、あんまりたじろいだような顔をなさっておらないから、私はもう、自

信のほどを感じたんですが、まあ、百点でやれる人は、それで結構ですが、これは性格でですね、細かいことが不得意な人がおるんですよね。きちっとやるのが、もうベテランの、何年もやられてる事務の方も、皆さんおられるようですから、まあ、大体、私は70点ボーライというのを、いつも思うんですが、70点取ればいいんですよ。そのぐらいの気持ちでやってください。

それで、手続要覧の話も出てましたけど、お恥しい次第ですが、私も、ガバナーやって、あれ全部読んでないんですよ。今帰られた田中丸ガバナーは読んでると思いますよ。だけど、私は、正直言って、手続要覧も精読しておりません。まあ、ロータリーは、やっぱり、幹事も、少しあはちょんぱするとか、愛きょうでですね、あんまり、幹事が完璧で、もう、びしっとしましたね、クラブの人は、息が詰っちゃうしですね、まあ、ゼスチャーでもいい、ときどきは、ちょんぱしたような振りをしてですね、クラブの中に、そういうやわらかい空気を醸し出す、というようなことも必要だろうと思います。まあ、いずれにしても、きょうの皆さんのお顔を見て、私は、もう、この部会は大丈夫と安心いたしました。1年間、どうかひとつ、楽しく幹事をやっていただくことを期待しております。ありがとうございました。

リーダー

どうもありがとうございました。御講評をいただきまして、無事に終了することができましたことを感謝申し上げて、これをもって終了させていただきます。至りませんで、相済みませんでした。ありがとうございました。

報告と送金のしおり

(1988.7.1～1989.6.30)

	期 間	報 告 内 容	摘要	報 告 先
報 告 事 項	前期 1988年7月1日 後期 1989年1月1日	半期報告	R I 事務局より送付された用紙を使用のこと	R I 事務局 (写) 地区ガバナー (写) 財務代行者
	毎月 8日必着	出席報告	R I 文部事務局より送付されたはがきを使用のこと(6月以降投函の場合は速達又は電話のこと)	ガバナー 〒847 唐津市大名小路1-54 唐津商工会館5階 ガバナー事務所
	1989年1月15日	次年度会長・幹事決定報告 (公式名簿資料)	報告用紙はR I 事務局より送付	R I 日本支局 (写) ガバナー (写) ガバナー、ノミニー
	1989年3月末日	国際大会出席代表信任状	会長、幹事のサインすること (用紙はR I 事務局より送付)	ガバナー (受任者欄は空欄とすること)
	1989年4月末日	次年度クラブ事務所通知	事務所所在地 (郵便番号等明記のこと)	R I 日本支局 ガバナー ガバナー、ノミニー「ロータリーの友」編集事務所
	地区大会前	地区大会の選挙人氏名		地区大会事務局 (唐津ロータリークラブ)
	国際大会前	国際大会の代議員委任状		ガバナー (受任者欄は空欄のこと)
	その都度	メーキャップ通知		関係クラブ
		会員の入会、退会、変更	所定の用紙使用のこと	英文 R I 事務局 和文 ガバナー
		役員の変更 例会日時、場所変更	所定の用紙使用のこと	R I 日本支局 ガバナー
		クラブ活動に関する情報		「ロータリーの友」事務局及びガバナー

上記以外にクラブ業績報告(年1回3月中旬)およびインターラクト、ローターアクトに関する情報がある。R I よりの指示に留意のこと

送 金 事 項	R I 関 係	人頭分担金 ザ・ロータリアン誌購読料 ロータリー財団寄付金	1名 前期分 10ドル 後期分 10ドル ただし新会員は5ドル(送金日/10月1日・4月1日) 1部 半期分 4ドル 1名当たり年間10ドル相当金額以上寄付(財団の友) レート 四半期毎指示される	(送金) R I 財務長代理 吉井 陞 〒160 東京都新宿区新宿1-36-12 サンカタリーナ1階 (振込) 三井銀行本店(普) 0968049又は 三菱銀行本店(普) 1528228
	地 区 関 係	地区資金 国際青少年交換資金 世界社会奉仕資金 ガバナー月信請読料 ガバナー事務所費	1名当たり 半期分 ¥ 3,000 1名当たり 半期分 ¥ 650 1名当たり 半期分 ¥ 180 1部 半期分 ¥ 600 (会長、幹事他2部は無料配布) 1名当たり 半期分 ¥ 700	(送金) 〒847 唐津市大名小路1-54 唐津商工会館5階 ガバナー事務所 (振込) 佐賀銀行唐津支店(普) 1488263 国際ロータリー第274地区 会計長 小林智昭
	そ の 都 度	「ロータリーの友」誌購読料	1部 半期分 ¥ 1,200	(送金) ロータリーの友編集事務所 〒105 東京都港区芝公園2-6-3 ABC会館8階 (振込) 三井銀行丸の内支店 ロータリーの友事務所 口座(普) 0964061
	そ の 都 度	ロータリー米山記念奨学会寄付	1名当たり 半期分 ¥ 500 ¥ 750 ¥ 1,000以上	(送金) ロータリー米山記念奨学会 〒105 東京都港区芝公園2-6-3 ABC会館8階 (振込) 三井銀行京橋支店 ロータリー米山記念奨学会 口座(普) 0920373
	そ の 都 度	文献資料代	表示価格 (表示価格のないものは無料)	(送金) R I 財務長代理 吉井 陞 (振込) 三井銀行本店(普) 0968049 又は 三菱銀行本店(普) 1528228
	そ の 都 度	地区諸会合登録料		主催 ロータリークラブ
	1988年9月末日	地区大会分担金	1988年9月末現在の会員数 1名 宛5,000円 (1988年7月1日会員数で送金し、 1988年9月末会員数で補正する。)	(送金) 〒847 唐津市大名小路1-54 唐津商工会館4階 国際ロータリー第274地区年次大会事務局 (振込) 佐賀銀行唐津支店(普) 1492601 国際ロータリー第274地区年次大会 会計 多久島 哲雄

次へ

ロータリークラブ 業務予定表

No.1

月	例会行事	理事会・地区活動	ロータリー 月間	報告事項	送金
7 月	*新年度挨拶・運営方針 (会長) *第1回クラブ協議会 (各委員長) *会員に対する会費請求 *会員証の発行	*本年度計画発表 *予算・取引銀行の決定 *名譽会員の推薦 *定款・細則の検討 *引き継ぎ事項の確認 *定例理事会		*半期報告 7/1 R I、ガバナー、財務代行 *出席報告 每月8日必着 (田中丸G事務所前年度)	* R I人頭分担金 7/1 *地区資金 *各奉仕資金 *月信購読料 *大会分担金 *ガバナー事務所費 *「ロータリーの友」購読料 *米山記念奨学会寄付金
8 月	*前年度の決算報告 (前年度役員) *公式訪問の準備 (報告書は実績・計画を)	*職業分類の整備 *インタークト大会予定 *定例理事会		*出席報告 每月8日必着 (唐津 辻G事務所)	*インター負担金
9 月	*クラブ協議会 (公式訪問前、公式訪問時 2回開催) *青少年活動月間に因んで 卓話・フォーラムを	*理事会報告のため会費の 納入状況の調査 *定例理事会	*青少年活動月間	*出席報告 每月8日必着	*ライラ負担金
10 月	*月間に因んで 卓話・フォーラムを	* R Y L A 予定 *定例理事会	*職業奉仕月間 *米山月間	*地区大会登録 *出席報告 每月8日必着 *新会員入会・R I 報告	*地区大会登録料送金 (分担金人員は10/31 現在にて調整) *新会員5\$ 10/1 R I 財務代行
11 月	*クラブ協議会 (地区大会報告) *財団月間に因んで 卓話・フォーラムを	*理事及び役員の選挙公告 *定例理事会	*地区大会 唐津 11/19-20 *ロータリー財団月間	*地区大会選挙人名簿 *出席報告 每月8日必着	*大会分担金 清算
12 月	*親睦家族会等の開催 案 *上半期を回顧して (会長)	*次年度理事及び役員の 選挙・発表 *被選理事会の開催援助 *定例理事会		*出席報告 每月8日必着	

月	例会行事	理事会・地区活動	ロータリー月間	報告事項	送金
1 月	*新年挨拶（会長） *半期報告の作成 *クラブ協議会開催 *会員に対し下半期会費請求 会員証の発行			*次年度会長・幹事決定報告 1/15 R I、D G、D G N *出席報告 毎月8日必着	*人頭分担金 R I *地区資金その他 *ガバナー事務所費 1/1現在会員で 7日以内に送金のこと
2 月	*記念日・月間に因んで卓話・フォーラムを *クラブ中間決算報告	* I G F あれば参加 * 定例理事会	* ロータリー創立記念日 (世界理解と平和の日 2/23) * 世界理解月間	* 出席報告 每月8日必着 * クラブ業績報告 R I 指示あり * インターアクト * ローターアクト 全上	* I G F 登録料
3 月	*クラブ協議会 (I G F 報告)		* ポリオ・プラス月間	* 次年度クラブ事務所報告 *国際大会代議員委任状 (受任者欄空欄のこと) * 出席報告 每月8日必着	
4 月	*雑誌月間に因んで卓話・フォーラムを	* 次年度会長研修会 * 定例理事会	* ロータリー雑誌月間	* 新会員 報告 * 出席報告 每月8日必着	*新会員分担金送金4/1 (R I 財務代行\$5)
5 月	*クラブ協議会 (地区協議会報告)	* 次年度会長外地区協議会 * 定例理事会			* 地区協議会登録
6 月	*クラブ協議会開催 *半期活動報告書 (各委員長) *今年度を終えて（会長）	* 定例理事会 * 次年度との合同理事会	* 国際大会への参加		

*クラブ協議会 年6回以上開催（公式訪問を含む） *クラブ・フォーラム 年4回以上開催	*メイキャップ通知 *例会変更・役員変更 *会員 入退会 *クラブ活動情報	関係R.C.へ 日本支局・G事務所 R I 本部・G事務所 「友」へ・G事務所	*財団(フェロー及びポリオ+)課税 国際ロータリー財務長代理 吉井隆 地区分名簿参照 *ポリオプラス 免税 日本ユニセフ協会国際ロータリーポリオプラス三井本店(7) 5678970
--	--	--	--

クラブ奉仕部会



GN (1989~1990)
カウンセラー 中 部 長次郎 (長崎北)

リーダー 森 内 三 次 (長崎北)

副リーダー 藤 本 茂 樹 (長崎北)

カウンセラー

ただいま、次期ガバナーの辻さんから、本当に強烈な御発言をいただき、私も、次期ガバナーについて、やっぱり燃えて、このロータリーをやらなければいけない。そういう感じをいたしました次第でございます。

皆様におかれましては、ロータリーに対しては造詣の深い方ばかりで、私がいろいろ申し上げることも、釈迦に説法みたいなことでございますけれども、立場上一言申し上げさしていただきたいと思います。

この部会の、昨年のカウンセラーは、先ほどごあいさついただきました次期ガバナーでござ

いまして、昨年のカウンセラーをされた辻さんのごあいさつの中に、「クラブ奉仕とは、クラブの目的は何か、また、クラブの奉仕の目的の遂行について」と、三つのことについて、述べられておりますけれども、特に、次期のガバナーである辻さんが、昨年話されたことが、こしし実行されるということで、私も、これを引用させていただいて、皆様に申し上げさしていただきたいと思います。

最初、クラブの奉仕とはどんな仕事をするんだろう、ということは、皆様御存じのように、ロータリーの四つの大きな奉仕でございます。クラブ奉仕、社会奉仕、職業奉仕、国際奉仕で

ありますが、クラブ奉仕を除いたほかの三つの奉仕は、ロータリーの外部に対する奉仕であり、また、広く言えば、世界へ目を向けるものでありまして、このクラブ奉仕というものが、内部的な奉仕であり、この奉仕をやるについては、それぞれのクラブが力強い団体であるということが、大きな条件であろうかと思います。

それから、クラブの目的と言えば、外に向かって、立派な奉仕活動ができる体質を持つロータリークラブをつくることで、これは多言を要しませんが、クラブ奉仕の内容を十分理解しておれば、目的はおのずからわかるはずでございます。

要するに、会員の情熱がこもった、生きた私たちのロータリークラブをつくることが目的であります。

それから、第3番目の、目的は了解しましたが、これを実行に移す。先ほど、次期ガバナーから話された、これが一番、きょうの勉強会の中心になろうかと思います。

委員長になられます皆様、大変御苦労いただき点でございますけれども、いろいろ小委員会がございますが、それらを総括される皆さんにおかれましては、各委員会の動きをよく把握されて、いろいろアドバイスされて、各委員会が立派な動き方をされるように、御指導いただきたいと、そういうことでございまして、一番大事なところを分担されるわけでございますが、きょうの勉強会におきまして、いろいろの御意見を伺いながら、一緒に勉強したいと思いますので、どうかよろしくお願ひ申し上げたいと思います。以上で、ごあいさつにかえさしていただきます。

副リーダー

カウンセラー、ありがとうございました。では、次に、リーダーにあいさつを兼ねて、レクチャーをお願いいたしたいと思います。

リーダー

本日は、お忙しいところありがとうございました。

クラブ奉仕部会は、この協議会資料の13ページに載っておりますので、御一覧ください。

最初に「ロータリーに活力を、あなたの活力を」という、R I 会長のメッセージが出ております。「組織、会員、プログラム、親睦活動の各分野に、高度で、しかも現実的なあなたのクラブの目標を立ててください。あなたのクラブの目標に適する行動計画を練り、その目標達成のために有効な方法を開発してください。」

実行計画の作成でございますね。それから、「あなたのクラブが、目的と目標をどのくらい達成したかを調べるために、年度の半ばと終わりに、評価検討会を開いてください。」年2回検討会をやってください、ということでありますし、「ロータリーに活力を与えた会員を称賛してあげてください。それから、インターアクト、ロータクト、R Y L A、その他青少年のためのクラブ、プログラムに有能な若い人を、それぞれのクラブ委員に任命してください。この人たちの協議会を開き、積極的な活動を奨励してください。」ということは、青少年プログラムに、若い人の活力を生かしていただきたい、ということであろうと考えます。

先ほど、カウンセラーから申されましたとおり、大体、クラブ奉仕理事になられる方は、クラブの信頼が厚くて、また、クラブの期待が大きい方であると、私も思っております。ですから、大体、ロータリークラブのことは、非常に詳しい方でありますし、また、ロータリーが好きな方が多い、というふうに拝察をいたします。したがいまして、もう、細々した委員会なんかのことは、ちょっと省きまして、クラブ奉仕活動とは何か、というふうなことでございますけれども、先ほど、ガバナーノミニーから話がありまして、R I 会長の12のチャレンジ、内大体8項目ぐらいは、クラブ奉仕に関係することでございます。ですから、明るく活力のあるクラブの組織をつくり、これを維持発展させ、各種の奉仕活動を活発に行うための基礎となる活動。そのためには、メンバーの親睦、出席、会員増

----- 次へ -----

クラブ奉仕部会

強の質の向上が、特に必要と思えと、クラブ奉仕関係には、こういうふうな、大体10ぐらいの委員会があります、ということでございます。会員の構成は、推奨クラブの細則にも例示されております。細則はクラブで自主的に決めていい、ということになっておりますので、委員会の構成も、各クラブの実情に応じて、独自の委員会をつくってよいが、この場合は、細則は変更する必要があります。

それから、以前は、クラブ奉仕委員会というのはつくらず、クラブ奉仕担当理事と言つたような気がいたします。各委員会を掌握していたが、現在の推奨クラブ細則では、各委員会の委員長をメンバーとして、クラブ奉仕委員会を構成し、クラブ奉仕委員長が監督調整をするようになっておる。クラブ奉仕委員長というような名前が使われております。

それから、クラブ奉仕委員長は、クラブ奉仕理事でもございます。したがいまして、理事会にも重大な責任を持つわけでございます。ここでは、まあ、理事会におきましては、誠実と良識によって判断・指示を下すことが必要でございます。一部の人の支配や、私的感覚でものを言ってはいけない、というようなことになっております。

ロータリーは平等だから、すばらしいのであります、いわゆる、小委員長をまとめるためには、余り細かなことをいろいろ言われるよりも、大きな方向づけをしてあげて、小委員長の力量を信じて、お任せになった方がいいんじゃなかろうかなあ、というふうに、私も、経験上思っております。

小委員長は、もちろん、皆様とは違いますけれども、やはり、ロータリーでは、チームワークが非常に必要でございまして、どちらかと言うと、小委員長の一人舞台になるような委員会が、ふだん多うございます。それで、委員長だけが動いて、委員の人は、全くわからないとか、知らないとか、というようなことがよくございますので、やはり、委員会の活力を求めるため

には、委員の方々にも企画その他積極的に参加していただいてですね、やられた方が一番いい方法じゃなかろうかと思っております。

それから、クラブ奉仕委員長の任務というのは、大体今のようなことでございますけれど、会長の方針に従って、各委員会の活動を援助し調整をする。委員会活動、年間活動計画を作成する、S A A に協力する、各委員会の会議に出席するとか、クラブ奉仕に関する全活動について、理事会に報告をする。

会長、または幹事経験者は、大体、就任することが、きわめて多うございますけれども、やはり、手続要覧とか、各委員会の職務、特にクラブの定款細則、その他、必要な文献にはお目通しをいただきておけばいいんじゃないかなあと思っております。

どちらかと言うと、クラブ奉仕理事と言いますが、委員長は浮くおそれがあるんです。まあ、各委員長が、ストレートに、幹事とか会長に持つていしまって、中間的に一番大事なポイントにあるクラブ委員長を通らずにいくことが割合多いんです。だから、その辺は、クラブ委員長の方が御指導していただきたいと思います。各クラブ委員に対してですね、相談なりして、それで決まったことは、理事会に、諮って、それから発表する、というふうな方法でいかれるようにしたらよいと思います。

大体、どちらかと言うと、私の経験でも、そういうふうなことがあったような記憶がございますので、クラブ奉仕、まあ、10なり、11なりの委員会をお持ちでございますから、大変なことでございますけれども、その辺は上手に小委員長さんたちと話されてやられたがいいんじゃなかろうかなあ、そういうふうに考えます。

各委員会につきましては、いろいろ大事なこともございますけれども、これは、また、先ほども申しました、皆さんからいただきましたアンケートの答えの中に、いろいろ出てきます。重複して、すべてこれは絡んでおるわけですね。各クラブから出たところをまとめてみましたら、

まあ、今年度は会員を増強する。出席率を向上させる。親睦を盛んにして、親睦融和をはかる。それから、ロータリー情報を活発にして、質的な面でロータリーをよく知っていただく。ロータリアン個々の質を高めるとか、その他いろいろ、大体どのクラブも、もちろん楽しい例会をやる、というように努力すると。それは、もっともなことでございまして、また、例会が一番、最もロータリー的なことでございますし、例会が盛んにならなければ、親睦なんかも十分できませんし、いろいろ、皆さんの御努力が手に取るようにわかっております。また、それは、後ほど説明いたします。

それで、あと、親睦委員会とか、出席委員会とか、プログラム委員会とか、いろいろございます。大事なこともいろいろございますけれども、出席では、私は、ふだんの欠席者に、いろいろアドバイスして、なるべく出てきていただくようにすることも大事です。

もう一つ、クラブによって、多少違うでしょうけれども、会長、幹事あたりも勧めますけれども、こういう地区協議会とか、IGFとか年次大会とか、大きな会合になるべく新しい人を出席するように奨励をしてほしいと思うのです。やはり、そういうことが、非常にロータリーを好きになると言いますか、わかってくるということの、一番手っとり早いことで、ただ例会に出て、悪く言うと、昼飯だけ食って帰っても、本当にロータリーのよさはわからないんじゃないかな、というふうに考えます。ですから、特に若い方でも、古い方でも、時間取れる方は、何名出席してくれと言うて来たからではなくて、できるだけ出してほしいと思うんです。そういうところに出席をするということは、やはり、ロータリーの、いい意味で、真髓の端にでも触れるのではなかろうかなあ、というふうな感じを持ちます。

それで、会員の選考とか、いろいろ問題もありますし、いっぱい出てきます。それで、具体的には、どういうことをしなければならぬか、

ということは、もう、皆さん十分おわかりのことだと思いますので、省かしていただきますけれども、何と言いますかね、出席は、その辺を特にやってもらいたいんじゃないかなと。そして、SAAでは、席を混ぜるということが一番大事なことじゃなかろうかなあと思います。クラブによっては、いわゆる古老の方がおられて、その人ばかりが、そのテーブルにかかわって、新人との会合ができないと、その人たちは、確かに若い人と話が合わんと思われるかもしれませんけれども、そういう古い人は古い人ばかり集まって、出てくるのも楽しみの一つであろうけれども、やはり、新しい人も混せてですね、何も、一番テーブルが一番若いとか、古いとか、ということではなくて、そこに若い人も座ったり、また、お年寄りも座ったり、新しい会員も座ったり、古い会員も座ったり、ということが大事なことじゃなかろうかなあ、というふうに思います。私は、よく冗談に、マージャンパイのようにかき混せて、まあ、1ヶ月なら1ヶ月単位で、例えば、あるテーブルだったら、Aさん、BさんCさんとこう、1番テーブルに座ってくれ、それをまた、上下に上げたり下げるなりしたり、いろいろするとか、工夫をされればですね、ある程度混ざるんじゃなかろうかな、というふうなことは、私も、SAAを、ちょっと長くやらされた関係で、できたような気がします。

それから、プログラム委員会については、奉仕月間というのがございますね、あれを折り込んでもらいたいと思うんです。9月に青少年奉仕月間、10月に職業奉仕、11月にロータリー財団、2月に世界理解、これは、創立記念日の関係だと思いますけれども、それから、4月に雑誌月間、案外そういう月間がありながら、余り行われないようなことがあります。プログラムは、やはり多彩であった方がいいし、プログラム委員長は、やはり、理事とか、委員長とかに相談して、そういうのを、なるべくはめ込んでいく、というようなことを、お考えになつたら

— 次へ —

— クラブ奉仕部会 —

いいんじやなかろうかなあ、というふうに思います。

新会員の募集でも、やはり、私も、先輩にいろいろ聞いて、結果的には、それじゃどういう人を選んだらいいか、口ではいい人を選べ、というようなことを言いますけれども、それでは、いい人とは何ぞや、ということになります。しかし、いい人でも、どうしてもロータリーに出られないとか、いろいろあると思いますので、先ほど話がありましたけれども、奉仕する心があって、それを実行する行動力があればいいんじゃないかなあ、というふうに思います。活力とは行動であると、先ほどもおっしゃったような気がいたしましたし、やる気に火をつけろ、というふうなことで、この12のチャレンジというのは、クラブ奉仕の部門が、さっき言うたように、8部門ぐらいはついてるわけですね。会長、幹事になったときでも、研修を受けるのは、大体このクラブ奉仕部会がほとんど主なんです。それで、国際とか、まあ、職業、社会、それに含まれる青少年というのは、いろんな活動の例を、よそのクラブの例を聞く。いいことだなあと思えば、それをまねしてやってもいいことだし、また、新たに何か考え出してやることも、非常に必要なことだろうなあと思っております。

それで、やはり、ロータリーは、ろうそくのように、個人が燃えつかなければ、ロータリーにも火を点じられないし、また、クラブも活力が出ないんじゃないかなあ、というふうな気がいたします。

みんな、それぞれ、各委員会にどうしても所属します。委員会を通じて、そういうふうに参加できるということが、また、ロータリーの一つの、裏から言うと、奉仕に参加できるということは、特典でもございますので、その辺を勘案されたらいいんじゃないかなあと思います。

まあ、とりとめのない話でございますけれども、各小委員会につきましては、また、何か私でわかることがあったら、説明いたします。以

上でございます。ありがとうございました。

副リーダー

リーダー、ありがとうございました。次に、皆さん方にお願いしまして、アンケートを出していただきました。その結果を報告をいたしたいと思います。

クラブ数が45あるんですが、回答をいただいたのが35クラブ、回収率77%でした。まず一番目の、R I 会長の、ロータリーに活力を、に関して、次年度クラブ奉仕活動の中で、どのようなことを重点的に考えていらっしゃいますか、という質問に対して、一番多かったのが18件、親睦を深めるということ、2番目が、会員増強をするというのが15件、3番目に、出席率の向上に努める、というのが12件、4番目が、ロータリー情報を徹底する、というのが7件、プログラムの充実を図るというのが3件ございました。そして、特別何点か拾ってみたんですが、古い人と新しい人、古い会員と新しい会員ということでしょうね、年配者と若い人の雰囲気づくりに努める。

それから、若い会員の入会に力を入れて、クラブの活性化を図るということがございました。

また、珍しいのは、S A A に例会のときに、着用する特性の上着を用意して、それを着てもらう、というようなこともございました。

次に、2番目に、本年度の親睦活動で、特色のあるものがあれば、お教えください。という質問に対して、これは、件数は出しておりませんけど、ずっと拾っていったんですが、これは近隣クラブとの親睦ソフトボール大会をやってると、一つの地区で、四つか五つのクラブが、ソフトボール大会をやってる、ということでしょう。

それから、奥様の誕生日に生花を送る。これは、やっぱり、私たちの誕生日にプレゼントをやったり、生花を送る、というようなことはあります、奥様の誕生日に生花を送るというのは、珍しいんじやなかろうかと思います。

それから、3番目ですが、にこにこボックス

の月間ユニーク賞を設置する。にこにこボックスは、毎回例会のときに発表いたしますが、その中で、特にユニークなやつを、月間賞として一つ発表する、ということでしょう。毎月懇親会を開催をしておると。それから、観月観桜会を開催、これは、ほとんどのクラブが開催しておる、という回答がありました。それから、年末懇親会、新年祝賀会、どちらか開催しておられます。

そのほか、グループコンペ、史跡探訪、マージャン、囲碁の会を開催していると。

それから、一番最後ですが、婦人の集いを開催しておる、というようなことが、親睦活動の中の特色、ということになっております。

それから、この3番目が、きょうの質疑応答の時間に問題になると思いますが、クラブ奉仕に関する問題点があれば、お聞かせください。という質問に対しまして、幾つか拾ってみたんですが、会員の増加により、会員に対するきめ細かなサービスを行うことができなくなったり。会員が100名、120名となると、会としてサービスができなくなってる、という悩みですね。それと、二つ目ですが、会員増強について不安を持っております。さあ拡大拡大、さあふやせ、ということに対しては、私は不安を持ってる、というクラブもございました。

それから、これに関連したものですが、ロータリーの原点に返り、一業一会員制を守ってほしい、ということがございました。

次に、職業分類委員会、会員選考委員会、会員増強委員会、それぞれ分けてありますが、これは、一つの委員会にするわけにはできないのでしょうか、という質問もございます。これに関連するのですが、委員会の数を統合して、活性化を求めたらどうか、要らん委員会をつくつてある。例えば、佐世保・長崎地区で、農村委員会とか、そういうようなのは、もう関係ないわけですが、そういうのは減らしてしまって、委員会数を減らして、活性化を図ったらどうか。

それと、ほかのクラブ活動、例のフレッシュ

な情報を、各クラブに流してほしいというようなこともございましたが、きょうは、おのおの各クラブで、特殊なことをやっておられたら、この会で発表していただきて、そして、自分のクラブも、そういうような採用をしようとか、いろんな議題になるんじゃないかと思います。一応、アンケート結果として、それだけを報告をしておきたいと思います。ありがとうございました。

リーダー

ただいまの、副リーダーの方から、アンケートに対する回答の説明がございまして、いろいろ目を通しました。それで、大体、今言われたところが、ほとんど主なところでございます。

第1項目のことし活力をどこに入れたいか、というようなことも、皆さんにお尋ねいたしまして、やはり、いろいろございました。唐津東さんですかね、青少年奉仕に力を入れて、ライラの開催の成功を図りたいとか、ローターアクト活動への援助を十分やっていきたい、というようなこともございました。

これも、やはり、ガバナーのメッセージにも、項目にありますことでございますので、こういうことは、直接こここの分野じゃございませんけれども、大いに推奨してあげてやっていただきたいと思います。

それから、よく、早退と私語の問題が出てるようでございます。36分おればいい、というふうな感じに受け取られますけれども、おればいいんじゃなくて、36分以上おれということでございまして、36分ぎりぎりに立つ方もいらっしゃいます。それは、お忙しい方々であるから、仕方がないといったとしても、例会に出た1時間は、なるべくゆっくり、例会で食事をしながら、皆さんと話でもしながら、親睦を深めていただきて、また、自分個人の活力にもなるし、あるいは情報を得ることになりますから、非常に有益じゃないかと思います。

早退は、SAAが一番悩むところです。すれっと出でいかれるとですね、SAAをやってる

次へ —

— クラブ奉仕部会 —

人は、やっぱり、ちょっと悪く言うと、頭に来ると言うか、やはり、断って出るとか、特に、他クラブにおいては、なおさらですね。そういう礼を尽して、他のクラブに対する尊敬と言いますか、やはり、品位ある例会をやってるところで、それっと出ていくのは……、これは、会員全体の問題でございますけれども、できるだけ、きょう参加の皆さん、ほとんど全クラブでございますけれども、早退をなさらんように、会員の皆様に、会長なり、幹事なりから、通達をするなり、ということも必要なことじゃないかと思います。

それから、私語ですね、卓話でもなさろうとか、なさってる、あるいは会長、幹事が報告しているときに、私語なんかしてる方もいらっしゃいます。こういう方は、やはり、その時間がないからそうされるのかしらんけど、済んでから、1分か2分でも、例会場の外で話されてもいいんじゃないかなあと思うことがあります。

やはり、せっかくいい卓話なんか聞いてるときに迷惑になるし、耳ざわりになることもございますので、S A Aとしては、ときには、何らかの形で注意されることもいいんじゃないかと思います。特に、自クラブの人に対してはですね、やはり、クラブ例会がしっかりとした他の奉仕部門もうまくいきませんしですね、楽しい例会をするということは、口では簡単ですけれども、いろいろかみ合って来ます。確かにプログラムとか、S A Aもそうだし、親睦委員会もそうだし、すべてかみ合ってきますので、その辺は、また、クラブ奉仕委員長さんの方で十分調整をされてですね、楽しい例会にされますように、ひとつ、御尽力を賜りたいと思います。

今言わなかった中ですね、いろいろあるんですよ。ほんと、いい話がいっぱい出ております。福江さんの方では、新人類と言いますか、若い方の会員を主体とした親睦を考慮したい、というようなこともおっしゃってるようです。若い方と昔の親睦と少し変わっているのではな

いかと思います。若い方はやはり、健康的なソフトボール大会とか、何とか、そういうふうなことでやると、案外集まると言いますか、だから、たしか、五島の福江と、福江中央さんは、ソフトボール大会をやる、そのかわり、例会時間を変えて、1時間の中でやる。ほかの会員の人は、応援に参加してもらう。やはり、全員参加を心がけておられるようです。そういうふうなこともございまして、どこでもそれなりに、全部頑張っておられるようでございます。

先ほどの、職業分類と、会員増強、会員選考は、まあ、一緒にしてもいい、というふうに、最近なっとるようでございますので、これは、そのクラブの会員の数にもよりますけれども、その辺は、適宜なさったらいいんじゃないかと思います。

副リーダー

質問事項の中で、アンケートの結果を報告し、リーダーが補足いたしましたが、皆様の中で、何か意見があられる方はございませんでしょうか。

長崎クラブの塩田さん、ロータリーに活力を、という項目の中で、長崎クラブで、こういうことをやろう、というようなことがございましたら、御意見をお聞かせいただきたいと思います。

塩田（長崎）

実は、私のクラブが、昨年度会員数が100名に達しましたので、改めて、全国の会員名簿の中から、100名から119名のクラブ55ありますので、そこのクラブに手紙を出しまして、どういうことをやっていますか、ということを尋ねてみました。

その結果、今整理をしておるんですが、会員数の100名というのは、もう問題ではないと、問題は、会員の名前をどうして覚えるか、ということが第一。

結局、そうすると、親睦というのは、会員の名前をお互いがいかに覚えるか、ということになると思います。

それで、今年度は、長崎地区は、会員名簿をつ

くり変えますけれども、市内クラブ全部のまとめたものをつくりますけれども、そのほかに、長崎クラブだけの名簿をもう1冊つくろうと思います。それは名前も入れて、少しコメントを入れてみたいと思います。それは、いわゆる、バインダー式にやろうと。そうすると、新会員が入れば、その新会員の顔のついたのを、あとからたすことができる、というふうな仕組みの会員名簿をつくって、そして、会員の皆さんに覚えさせよう。

それから、これまで、毎月23日がロータリークラブ創立を記念して、二三会というのをこしらえて、そして、毎月寄るようにと、呼びかけをしておりますが、これは考え違いしているんじゃないかなと、今、私は考えております。というのは、ロータリークラブが集まって、酒を飲むというのが親睦だ、というのは、ロータリーはあり得ないんじゃないかな。炉辺談話と称するのは、ロータリーの問題を掲げて、その問題について、何名か、場合によっては、指名しても来てもらって、その問題を話し合う。そのあと、懇親の場があって、お酒を飲むのはいいんじゃないかな。したがって、ロータリーの炉辺会談という考え方を、もう一遍問い合わせなくちやいけないんじゃないかな。それには、特に新会員に対する話しかけ、それから、いわゆる、ロータリー情報の教育というものを、意識して折り込まなくちゃいけない。そうすると、年間計画の親睦計画というのが、おのずから、新会員対象であるとか、あるいは、できたら、職業奉仕部門に関係しますけれども、新しいR I の職業奉仕の方針が出ましたから、来年度は、できれば職業奉仕の問題を中心とした炉辺会合を、最小限4回ぐらい、ですから、月1回ずつ、4カ月かけて、職業奉仕の炉辺会談をやる。その結果を、職業奉仕セミナーというものに、一冊にまとめたい。その材料は、幸いにして、僕が今年度、週報の委員長をしましたので、週報の第1ページを、ずっと職業奉仕の材料を掲載しましたので、それをとりまとめたものを使用し

てやってみたいと、よそのクラブの活動状況を見ますと、非常に徹底したクラブは、福岡城西ですけれども、朝食会を、4月から9月、毎週10人から12人、1時間の朝食会をする。それから、10月から3月までは夕食会をやる。新会員は、それを一巡するまで、毎週出席をしなくちゃいけない。これほどまでやってるクラブがあります。

それから、もちろん、いろんなビヤパーティをしたり、月見をしたりやってますが、クラブによっては、忘年会と新年会、両方やるクラブもありますが、その忘年会を、忘年家族会でやる、あるいは、クリスマス家族会としてやってる。そういうふうな、同じ忘年会、新年会にしても、やり方がそれぞれクラブによって違うんじゃないかな、という感じがいたします。

それから、いろんな、たくさんの催し会合の名前を聞きますと、なるほど、やはり、年間に周到な計画を立てて、そしてできたら、もう、1年間、今月の何日の日は、どこの委員会を中心とした、あるいは、どんな親睦会をやるとか、というのを立てて、そして、そのスケジュールを、各委員会協力して進めていくというのが、やはり、親睦を中心とした計画の一端じゃないか。それから、各委員会は、それぞれの、ほかの担当は、ほかの担当の計画でまいりますから、それを組み合わせるとか、最終的に会長、幹事に整理してもらえばいいんじゃないかな、という感じがいたします。

それから、先ほどの、結婚記念日だとか、誕生日祝いだとかいうのは、各クラブ、非常に苦労しております。非常にありがたいと思った御意見は、佐世保クラブから送られてきました。誕生日祝いは、自分のところは、住所と名前のゴム印をつくった。これは、非常に感謝された。案外持ってるようで持たないし、持つておっても幾つあってもよろしい、こういう御意見があって、非常にありがたいと思います。佐世保クラブには、お礼を申し上げます。以上でございます。

— 次へ —

— クラブ奉仕部会 —

副リーダー

貴重な御意見、ありがとうございました。

休憩

再開

副リーダー

では、続けていきたいと思います。

長崎クラブから、貴重なご意見をお聞きしましたけど、佐世保クラブも、100名以上の会員数だと伺っておりますが、佐世保クラブの方、ひとつ御意見ございましたら、よろしくお願ひいたします。

山縣（佐世保）

アンケートの中にどういうようなことに特色を持って事業をやっているか、というようなことがありましたけれども、私どもは、特になしということを書きました。今、いろいろお話をいただいていると、ほかのところではやっていらっしゃらなくて、私どもは当然やっているもんだと思って、やっていたことがほとんどでございましたので、特になしということをお答えいたわけでございます。

それで、今、いろいろお話を伺いして感じますのは、当然、私どもも、100名を超えておりますので、そのきめ細かなということで、いろいろクラブ奉仕委員会の中の各委員会というのは、苦労しております。で、やはり、そこで一番ありますのは、各委員長さんを始めとして、クラブ奉仕の委員の方々というのは、きめ細かに、そして、創意工夫ということをやって、いかに情報が浸透するか、また、親睦をいかに上げるか、ということに苦心しております。

例えば、ロータリー情報は、できるだけ3分間ロータリー情報を、例会には必ずする、这样一个努力。それから、親睦におきましては、例えば、親睦の会がございますけれども、そのときには、各グループごとに、パスト会長を入れて、それに、新しい会員を必ずくっつけてい

って、テーブルをつくっていく、というような、きめ細かいことをやっております。ただ、従来ですと、そういうときには、パスト会長という方は、上席の方に全部集まっているというのが普通でございますけれども、あえてそれを崩して、そういうことをやっている、というのが実情でございます。

特に、私どもは、106名のうちに、正会員としては56名、それから、シニア会員が50名ということで、シニア会員の数が多い方ではないか、というふうに考えます。しかし、正会員56名の中で、3年未満というのも多い、ということをございますので、新しい会員と、古い会員とのギャップというのが、非常に大きく感じますので、そういう懇親の場におきましては、そのようなことで、あえて末席にもパスト会長がいる、というようなこともやっております。

ほかに、急な御指名でございましたので、また、機会がありましたら、お答えさせていただきたいと思います。

副リーダー

ありがとうございました。今話題になりましたけど、新しい会員と古い会員、若い会員と年配者の会員、これをどういうふうにやってる、这样一个事例がございましたら、御意見をお聞かせ願いたいと思いますけど、佐世保南の方いらっしゃいますか、よろしくお願ひします。

桟（佐世保南）

新会員と古い会員ということでは、特別な対策はしておりません。2年ほど前に、そういう炉辺談話を、題材を設けてやっておりましたが、最近は、特別なことはやっておりません。今年度は、また、先ほど、いい例をお聞かせいただきましたので、ロータリー情報を中心としてやりたいと思っています。

特に、新入会員は、親睦からスタートいたしますので、全く、そのロータリーの組織や、情報もわからないわけですから、クラブ奉仕委員会としては、複合の委員会と、例えば、今月の22日ですか、健康委員会というのが、私どもの

クラブにはあります、健康委員会と親睦委員会とで、共催で、烏帽子岳に登る、ということをやっております。徒歩で登る人と、車で登る人と、両方あるわけありますが、そういうふうに、委員会を二つ絡める。それから、社会奉仕委員会の方で、空き缶拾いとか、そういうふうな、三つの委員会を重ねてやることによって、クラブの次年度のテーマがあります、クラブの活性化と、クラブ奉仕内の活性化のためには、そういうプログラムとSAAだと、雑誌と広報だと、そういう二つ以上の委員会を、できるだけ重ね合わせて、疑問の点があったならば、そういう炉辺談話にまで発展させると。そういうふうな企画を立てております。以上でございます。

副リーダー

ありがとうございました。新しい会員と古い会員、若い人と年配者ということに対して、カウンセラーからリーダーから、何か御意見ございませんでしょうか。

リーダー

まあ、新旧混ぜるということは、なかなか難しい問題が、どのクラブもあると思います。これは、やはり、親睦委員関係者初め、全クラブの会員の方々が、力を合わせてやらにやいかんことじゃなかろうかと思います。いわゆる、先ほどありましたように、ロータリー情報と親睦を兼ねて、いろいろお話をしたり、あと、酒を飲むというふうなこともいいんじゃないかと思います。それから、部外で、いろいろ、今は、俳句会をやったり、釣りとか、ゴルフだけじゃなくて、そういうふうな、いろんなことやっておられるクラブもございます。そういうふうなことも、また別な方の親しみを持つ。何かこう、プロジェクトじゃないけど、グループになってやるとですね、非常にまとまるんじゃないかなと思います。いろんな業種の方もおられますので、知り合ったり、商売上のことも都合よくいったとか、いろいろあるようでございますので、まあ、親睦委員長さんなんかに対して、御助言を

いただければ、一番いいことじゃないかなあ、というふうに思います。

それから、ちょっと、今年の親睦活動で、いろいろ書いておられました中で、指名して失礼でございますけれども、また、よかったです、どしどし聞かしてほしいと思いますので、お願ひします。

牛津クラブの方で、リフレッシュ会員とか言うて、何か、ガレージセールをやって、非常によかったです、ということでございますけれども、いかがでございますでしょうか。

石井（牛津）

昨年度、町の商工会の青年部の方において、リフレッシュスタンインシズというのを企画いたしてもらったわけでございますが、これは、欧米の方で行われておりますガレージセールで、車庫の空間を利用して、即売を行うということです。会員の方でも、不要の品物を持ち寄りまして、親睦の方で、一応協力したわけでございます。このときの売り上げが4万4,300円ですか、それを、一応、ポリオプラスの方に寄付いたしております。簡単でございますが、そういうことでございます。

副リーダー

ありがとうございました。今、100名以上の大きなクラブの悩みをお聞きいたしましたけど、一番新しい島原南クラブ、これは、新しい人と古い人じゃなくて、やはり、年配者と若い人、いろんなフレッシュな企画をしておられると思いますので、お話し願いたいと思います。

吉田（島原南）

全く新しいクラブということで、まず会員の親睦ということを前提に置きまして、まあ、月並みではございますが、花見例会、そして、月見、忘年会など、ことあるごとに、一応集まってもらって、奥様方で、時間の取れる方は、奥様方も出席してもらう、ということでやっております。

そして、クラブ全体の人が、クラブがどういうものであるか、ということを認識してもらう

次へ

— クラブ奉仕部会 —

ために、近くの会員の方から卓話をしてもらったり、そして、会員の方の体験や知識をお話ししていただき、クラブ全体のレベルアップを行うように努めております。以上でございます。

副リーダー

ありがとうございました。時間の関係がございますので、2番目に移りたいと思います。自分のクラブの特色ある親睦活動を御発表願いたい、そのように思っております。伊万里さん、お願ひします。

前田（伊万里）

とりあえず、伊万里の方で現在やっておりまることは、月に1回、番号札を、入るときに取ってもらって、その番号によって、座席をアトランダムに座っていただく、というやり方をやっております。どうしても、指定席みたいに座ってしまうことが多いんじゃないか、ということで、そういうことをやって、実行しております。

それから、お客様が、場合によっては、5人、10人おいでになることもあるわけですけれども、どうしても、お客様だけが、お客様用の席にお座りになる、ということが多いんで、どなたか、まあ、一対一とまではいかなくとも、その席に、だれかクラブの会員がお相手をすると言いますか、そういうことをきっちりやろうとしたんですが、数回続いたら、今は、またおじやんになってしまっている、ということで、新年度からは、そういうことをやりたいなと思っております。

副リーダー

ありがとうございました。

次に、佐賀の方、お願ひします。

宮崎（佐賀）

佐賀クラブとして、別にそう変わったことはございません。月並のことですけれども、やはり、親睦でございますから、家族同士で親しむ、ということで、家族会、あるいは忘年会、あるいは、そういうことが一つではないかと思います。あるいはまた、婦人の集いですね。

それから、月に1回だけは、夜の例会をやっております。そういうことで、別にございませんけれども、ただ、やっぱり、フリーにしてですね、入れかわるというのは、大事なことじゃないかと、これは、先ほど問題が指摘されましたので、一つは、テーブルに、色のついたカードを立てまして、そして、そのカードを、入るときに、箱の中に色分けしたものを入れて、そして、その席に着くように、ということを、最近試みたんです。ところが、そのカードが、ときどき見えるもんですから、やっぱり、従来のような、年齢とか、あるいは、職業とか、どうしても、そういうふうに集まりがちになるわけです。したがって、ちょっと反省いたしまして、手を突っ込んでも、見えないところに置く方法をやったらどうかとか、先般の理事会で、恐らく、何か変える方法を考えたと思いませんけれども、その結論を聞いておりませんので、申しかねますけれども、いろいろ、今後も研究してまいりたいと思います。以上です。

副リーダー

ありがとうございました。第3分区の大町の中島さん、いらっしゃいましょうか。

中島（大町）

大町クラブは、特別に親睦活動で、よそより変わったということはございませんが、ただ、例会場がゴルフ場でございまして、ゴルフ場の会館でやっております。ただ、メーキャップがものすごく多いわけです。佐賀から15名とか、武雄から18名とか、ゴルフかたがたのメーキャップが多いもんでございまして、ただ、そのときに、スタート時間によって、例会場におられるのが、15分とか、20分とか、そういうことでございまして、まあ、スタートに、ゴルフ場に迷惑をかけてはいかんということで、黙認はしておりますが、どうかと思っております。

ただ、それだけでございます。以上です。

副リーダー

ありがとうございました。第4分区の松浦の吉野さん。

吉野（松浦）

親睦について、松浦では、一昨年ぐらいから銀行の支店長さんが、親睦委員長なされた関係で、いろいろ工夫してやられております。それから、例会の席も、親睦会の席も、その都度くじ引きで、番号札で決まる。以前はやっぱり、思い思いに、知った人同士というのが、ずっと続いとったそうですが、席順は、そんなことで、全部変わるようになりました。それから、親睦で、ちょっと気づいたのは、私のような、話の下手な男に司会をさせられてですね、困ったことがありましたけれども、みんな、それを期待してから、喜んで、そういうことがありますので、全員に司会をさせることもどうかなと思いました。以上でございます。

副リーダー

第5分区の諫早北の松角さん、お願ひします。

松角（諫早北）

親睦に関しては、もう、毎年いろいろ親睦委員長苦心しまして、皆さんどこでもやってらっしゃるようなことを、一生懸命、手を変え品を変え、まあ、あるときは、マンネリに、あるときには、少し新味を出して、努力しておりますが、特に目新しいものはございませんけれども、大体の方針としましては、親睦委員会には、やっぱり、ベテランと、それから、新人を同時配置ということを、特に、年度内に新しい方々が入っておいでになったときには、積極的に、いわゆる親睦委員会の方から配属することが多くございます。したがって、委員会の委員の数がですね、親睦委員会が一番多うございます。大体常時8名ぐらいになってくるんじやないかと思います。その中で、新しい方々が、まず、クラブの親睦ということの内容を身につけて、それから、いろいろロータリーを理解していかれるんじやないか、ということを期待しております。

もう一つ、今までの年度と違うことは、実際これは、諫早市の行事にも関連したんですけども、親睦委員会、いろいろお祝いごととか、

卓話の講師に対するお礼とか、というのにですね、今年度は、一貫して花の鉢を差し上げたんですね。これは、御存じのように、世界花いっぱい運動というのがございまして、そういうことに関連して、みんなに、いわゆる花を育てる、ただもらいましで、ぽんと置き去りにすることが多いんでございますけれども、その花の命がある限り育ててもらおうという、そういうことで、花の鉢を、すべてに差し上げるようにしております。

それから、ちょっと、親睦から外れるかもしれませんけれども、また、それに関連があるんですけれども、実は、次の年度の、私、クラブ奉仕委員長を仰せつかって、先ほど、100名を超えたクラブの方々の、いろいろ御意見を伺いまして、非常に参考になったんですけども、我々のクラブも、今度非常にうれしいことには会員が急にふえまして、年度初めは、63名が、今度70名になりました。それも、3名の退会に対して、10名の増加でございますので、しかも40年代の初めの方が、ずっと入ってきたんですね。そういうことで、次の年度には、それなりのロータリー情報の活動の充実とか、親睦とか、ロータリーを早く理解してもらい、全体で早く同化させるためにはどうすればいいかとか、いろいろ、非常に大事な問題が絡んでまいりますので、責任の重さを感じておるわけでございます。きょうは、そういう意味で、皆さんの御意見を伺わしていただいて、参考にさせていただきたいと思っております。どうもありがとうございました。

副リーダー

ありがとうございました。次に第6分区の長崎南の松藤さん、お願ひいたします。

松藤（長崎南）

私は、久しぶりに委員長を仰せつかりまして大変戸惑つたるわけで、しばらく、余り熱心でなかったもんですから、ところが、各部門の皆さん方、大変ベテランばかりを揃えていただきましたので、その点は非常に安心しております

次へ

~~~~~クラブ奉仕部会~~~~~

が、私どものクラブの特徴と言いますと、私が幹事の時代ですから、15年ぐらい前だと思いますが、そのころから始めました、誕生の感謝と言いますか、長寿感謝のスマイルボックスというものが、皆様おやりのところもあるかもわかりませんが、それは、大体、1歳 100円ですから80歳の人は 8,000円と。それから、まあ、50歳の人は 5,000円というのを、長寿感謝のスマイルボックスを、誕生日に入れていただく。それを、別会計にいたしまして、社会奉仕事業基金として、そのうちの大部分を、基金に組み入れております。これも、相当大きな、今、四、五百万ぐらいは集まつたと思いますが、来年が、たまたま、私どものクラブが、25周年でございますので、そういう機会に、この基金を生かして、何かひとつ、記念になるような仕事をやりたい、というのが、私どもの特徴じゃなかろうかなあと思っておるわけでございます。

あと、長寿会というのをやっておりまして、80歳以上の人人が七、八人いらっしゃいますが、だんだん退会をしたいというような話がぽちぽち出てまいります。やはり、年齢的なギャップが大きくなりますと、そういう年とった人たちが、なかなかおりづらくなってくるところもあるんじゃなかろうかと思いますが、そういう人たちには、引きとめると言ったらおかしいですけれども、できるだけ皆さん方が、退会というようなことがないようにするためにには、長寿、70歳以上の皆さんでございますが、その中には、70歳ぎりぎりの人もいらっしゃいますが、そういう人たちで、別に決まっておりませんが、食事をしたり、いろんな若い人たちとの交流をしたり、というようなことを、昨年度からやっておるようでございます。ことしも、それを大いにやっていこう、というような話があつてあります。

その他は、皆さん方が、月見とか、花見とか、いろんなことをやっていらっしゃることは、まあ、大体うちのクラブでもやっております。特に、私のクラブは、今まででは、余り夜の例会と

いうのを全くやつたことがありませんので、ことしはやってみたいと。それから、ビュッフェスタイルの例会も、ことあるごとに取り入れていきたい。それは、やはり、テーブルになりますと、どうしても、皆さん方が、先ほどからいろいろ御意見がありますように、グループに固まつたり、せっかく、えとで分けたり、いろいろしますけれども、結局、また、どこかで崩れてしまう、というようなことが多いもんですから、できるだけビュッフェスタイルの例会も、できるだけ持ちたいと、そういうふうに考えておるところでございます。

以上、私どものクラブの特徴と言いますか、これらの考え方などを、ちょっと述べさせていただきました。

副リーダー

ありがとうございました。今、失礼でしたけれども、こちらから指名をいたしまして、発表していただきましたけど、今発表されました以外で、こういうことをやってるんだ、というようなクラブがございましたら、発表してもらいたいと思いますが。

梶原（島原）

このたび、クラブ奉仕委員長になるわけですけれども、私のクラブでやってることで、皆様に幾らかでも参考になればと思って、ちょっと申し上げますけど、まあ、卓花の紹介というのは、これは、私のところが、ほとんど最初じゃなかったかと思いますが、例会の初めに、卓花の紹介をやります。それで、それにちなんだ俳句をやっております。会員の一人が、非常に花の栽培の熱心な人がおって、その人が、ほとんど無料で持ってきていただいております。

新入会員の場合ですけれども、私のところでこういうふうな本を、ちょっとつくりまして、これは、前の会長をしとった西尾さんですが、個人で、この「奉仕の心を求めて」という冊子をつくりまして、これは、ロータリーのいろんな内容ですが、非常に難しいので、新入会員に理解しやすいように、わかりやすく書いた本

がございます。これを進呈します。それから、一緒に、島原ロータリークラブの定款細則、これもつくっておりまして、一緒に新入会員に渡す。これを、炉辺談話に活用していただく、というふうにしております。

それから、新入会員の場合は、いろんな炉辺談話やるわけですけれども、私たちは、大分前から「さいたく会」というのをつくって、これは勉強会で、ロータリーのことだけでなく、いろんな、その人の人生問題も含めて、夜の会を別につくっております。

それから、ロータリーボディ操というのを、食事をする前に二、三分ですか、ほんの簡単な体操です。皆さん、肩がこったりしておられますので、もう、背伸びしたり何かするのを、みんな上着を脱いでですね、それで、若い新入会員の親睦委員に、その指導をしていただく。そのときに指名するというので、なかなかみんな困っていますけど、まあ、それで、一つの皆さんとの交流を深めるという意味で、いいんじゃないいかと、これは、例会ごとにやっております。

それから、クラブ会報ですけれども、ボリオプラスの問題が、いろいろ出てきましたんで、これは、会員のアイデアですけれども、クラブ会報に、各会員の氏名と、その住所、住宅の絵ですね、イラストで書きまして、それに対して載った会員は、3,000円ずつ提供する、ということにして、それを、ボリオプラスの協賛金として集める、というふうな、これは、クラブの会員のアイデアで始まったことでございます。以上、簡単ですが、そういうことをお話ししておきます。

副リーダー

ありがとうございました。もっといろんな意見があると思いますが、時間がございませんので、この辺で、リーダーにバトンを渡したいと思います。

リーダー

本当に、いろいろと貴重な御意見をたくさんいただきまして、ありがとうございました。

私は、何でもかんでも簡単にする方が好きな方でございますので、余りにもくどくど、クラブの各委員会なんかにつきましては、申し上げませんでしたけれども、若干時間がございますので、また後ほど、質問なんかも承りたいと思います。思いついたまま、いろいろ聞いていまして、感じたことをちょっと申し上げておきたいと思います。

地域によっては、卓話の方がおられずに困る、というようなアンケートの結果がございました。これは、確かに、地域によっては、なかなかそういうふうなことはできません。長崎でも、やっぱり、都市でありますけど、同じような状況です。東京あたりに行くと、いろんな先生方もおられるし、そういう専門の方々も、評論家とか何とかおられますから、バラエティーに富んだプログラムがあるらしいんですけど、それで、ロータリーの友の雑誌を活用されたらいかがかと思います。これは、例えば、3人か4人一組ぐらいのグループをつくってですね、来週、あんたたち4人の中でだれか適当な人が、今月号出た、何でもいいから読んで、ちょっと感じたことを、3分でも、5分でもしゃべらんか、というふうなこと、だれだれにしゃべらせるとなると、やっぱり、また、苦痛になりますので4、5人でもグループをつくってですね、その中から、自分はこれ読んで、ちょっと感動したとか、これは、記事としてよかったとか、あるいは、ロータリーの知識として得たものがあったとか、ロータリーの友というのは、案外、読まれてませんね、私もそのとおりですけど、3分の1は、まあまあ見る人がおって、3分の1はぱらっと見て、3分の1は、もう全然読まないと。持って帰るだけだと、積ん読、というようなことがやっぱり多いようです。せっかく、あれは、ロータリーのR I から認められておる書物でございますので、いろいろ手続要覧なんかに書いてあるいろんなこと、規定審議会のこ

— 次へ —

—— クラブ奉仕部会 ——

とか、R I 会長の動向とか、各クラブのこと、IGFのこと、まあ、ぱらっと見てでも、ロータリーのこと、非常によござりますよ。そして卓話の種になるような題材もあります。そして自分の知らないような部門のことがいろいろ載っておりますので、ひとつ、大いに読んでいただきたいと思うんですね。

それと同時に、何かクラブのこととか、感じたことがあれば、それを、友に寄稿されたらいいと思うんです。そうすると、私も、一遍何かで出したら、載りましてね。やっぱり、自分の活字が出るとうれしいもんですね、そういうこともございました。

それから、さっき、話がございましたように俳句の好きな人が二、三名おりまして、やはり、今ずっと寄稿しております。まあ、あれは、どっちの先生が見られるか知らんけど、稻畠テイ子先生………がおられましてね、やっぱり、一人は、この前の、先月だったか、第一選に取つてあったですもんね。やっぱり、そういうことがあると、非常に本人も楽しみになりますし、また、俳句する人は、特に楽しみではなかろうかと思いますので、俳句、短歌、川柳、あるいは漢詩、そういうものも載るようになっておりますので、ひとつ、御投稿をいただければいいんじゃないかなあと思います。卓話者の、なかなかおらないところでは、友を話題にして、お話をするとか、何でもいいから、読んだことを感想を言ってもらう、あるいは、友に限らんけれども、何か読んだもので、最近感銘を受けた本とか、我々のロータリーの四大奉仕に関するものであれば、十分いいんじゃないかなと思いますから、その点をお願いいたします。

それから、どこのクラブだったか、ちょっと覚えませんけれども、職業分類が非常に余ってるということが書いてあったような気がします。まあ、会員の少ないところでは確かに分類は余計つくっておっても、余ることがあると思いますので、不必要なところは、消してしまっていいんじゃないかなと思うんですね。むしろ、新し

いハイテク企業とか、何とかというものが、また、いろいろ出てきますと、そういうのをつけ加えて、されたらいんじやないかと思います。

ただ、ひな型に載ってるからということだけではなくて、その地方にないようなものを、幾ら並べておっても仕方がないと思います。ただ、シニアに転出されて、空いたところがあれば、できるだけ充填することによって、会員の増強ができるくるんじやなかろうかなあ、というふうに感じます。それで、福江の方に、ちょっとおもしろいことがあって、福江市内には、福江と、福江中央しかない、ある人を入れたいと思うけど、例えば、福江の方で、Aという人を入れたいと思うけど、その人は、福江中央の方の親戚になるから、どうも、引っ張ったらぐあいが悪い、というようなことが、地域的に起こってくると思うんですね。その辺を、どうされておるか、あとから聞いてみたいと思います。

それから、ロータリー情報委員会につきましては、きょうも、いろいろ大事なことをおしゃったようです。で、当然、これはもうやらにやいかんことですが、情報委員会、内部的なことで、ロータリーに関する知識、あるいはルール、というような意味であってですね、必ずしもニュースという意味ではない、ということですね。それで、我々は、新会員に入ってもらったあとで、よく教育せにやいかんとか、何とかと言いますけど、要するに、一遍講演を聞いて、なるほどと思ったのは、教育というのは、ただ、教えっぱなしではいかんのだと。やはりこれを育てていかにやいかんのだと。せっかく種をまいてですね、芽が出てきてるのを、育てずに放ったらかしておるから、新会員が、よくなじんでいかんのじゃなかろうか。あるいは、いいロータリアンにならずに、途中でやめていったりするんじやなかろうか、というようなことを、何かで聞いたような気がするんです。これは、本当にそうじゃないかなあと思います。

会員増強につきましては、会員増強委員会が必ずしもすることではなくてですね、あくまで

推薦は個人がするものでございますので、特にただ、若い血を入れるために、その下ごしらえをするのは、大体、会員増強委員会というふうなことでございますので、本当にいい人を見つけましたらですね、大いに増強して、ことしの目的の10%プラスということを、達成していただければありがたいと思います。きょう、さつき言われたとおりでございます。なかなか10%という数字は難しいんですけど、まあ、できるだけその目標に接近するようにですね、御協力を賜りたいと思います。それで、親睦委員会で、新しい方を、古い方となじませるために、私のクラブで、何年か前に成功したのは、入ってきた人に、胸のバッヂをつけて、その会員が来られたときに、年を構わずつけてあげるわけですね。そうすると、その人は、もちろん知らん場合がありますから、この人は、例えば山田太郎さんだ、というようなことになると、そのバッヂを取ってですね、その人の胸につけてあげる。そうすると、ああ、この人が山田さんだな、入った方の人も、そう何十人も会員を直接知ってるわけじゃないしですね、特に、まあ、出先の支店長さんたちは、なおさらそういう面を、非常に大事にしてます。長崎は長崎、あるいは、その地に赴任してきて、一人も知らないところに来て、やはり、ロータリーで、何十人かの人とまずいきなり知り合うということは、大変ありがたいことだと。商売する上にも、非常に助かるというようなことを、本当におっしゃいます。そのとおりだろうと思います。ですから、それは、地元の人もですね、やっぱり、そういうことをさして、また逆に、ああ、この人が今度入った何という人だなあ、名前を、相手も覚えてくれるんじゃなかろうか、というふうを考えます。

それで、私が、ちょっと、偉そうなことを言いましたけれども、過去に、そういう雑誌を読ませられて、3人か4人のグループで読んで、何か感じたことを言えと言われて、だれも言わず、私に、おまえ言え言えと押しつけられて、

当たったもんですから、感じたのは、もう10年近く前ですか、九州ではなかったクラブですね。中国地方だったと思いますが、あれは、やっぱり、非常に熱心な人ですね。投稿しとったですね。その親睦委員長さんか、だれかが投稿されたことで、その人が、会員のAさんという人が、自分は、一日一善、一つのいい善をなしたいと、心に決めたと。ところが、まあ、一日一善自分ではしたと思ったときはパス。しなかったと思ったときは、100円罰金に、何か貯金箱みたいなものに入る。それで、それをためとて、クラブに、にこにこボックスに入れる、というふうなことを書いてあったんです。ところが、私は、どっちを喜んでいいのかわからん、というわけです。親睦委員長としては、余計入れば喜ぶけど、余計入ったということは、その人が、余り善をしない、ということを告白してるような気がしてですね、そういうことを書いてあったですが、なるほどなあとと思いましたね。

それから、自分の健康法というのが、あれにいろいろ書いてあります。粗食したりとか、どうだ、こうだとか、その中に、やっぱり、他人から受けた恩は忘れずに、他人になした厚意は忘れる。というようなことを書いておった人がおったですが、やはり、これが本当だと思います。まあ、いろいろ、もう皆さん、そういうことは十分実行されておりますので、釈迦に説法のようなことでございますけど、私も、これを仰せつかって、2週間ばかり勉強ですよ。なかなか十分に、皆さんの御期待に沿うこともできなかったと思います。ひとつ、御勘弁をいただきたいと思います。

それで、諫早北の方が書いておられましたけど、スリーピング、眠っている委員会が多ければ、クラブは沈滞する、というようなことを書いてありましたね、まさにそのとおりだと思います。本当に、みんなが生き生きと活力を持って、個人もクラブも生き生きとやっていかにやいかんときだろうと思いますので、ひとつ、よ

— 次へ —

— クラブ奉仕部会 —

ろしくお願ひします。

ロータリーについての疑問も、よく雑誌には出ております。いろいろ意見も出ています。目を通されれば、本当に値打ちのある本であろうと思います。

先ほど、ちょっとと言いました、福江市の、その会員増強のことはいかがでござりますか。親戚の方が、相手側のクラブにとりにくいか、というようなことも、ちょっとありましたし。

副リーダー

福江の方がございましたら、今のご意見をお願いしたいと思います。

才津（福江）

この会員増強の件でございますが、ここに御報告申し上げましたとおり、福江市は、人口3万程度でございますが、福江市は中にも離島が四つございまして、また、それから、3万から減って、2万5,000になるわけで、だから、市内のは、ほとんどがもう顔見知りでございまして、増強に摩擦を生じないような、よそとは変わった気を使わなくちゃいかん場合が考えられるわけでございます。

リーダーがおっしゃられたように、あの人を勧誘して、事実これはありましたが、あの人があなから、あの人を推薦しよう、ということで、当たりましたら、自分は、中央さんのだれの親戚になるので、入るならば中央さんと。だから、そういう面も考慮してやっているような現状でございます。会員増強につきましては、以上でございます。

副リーダー

ありがとうございました。この3番目のクラブ奉仕に関する問題点いろいろ皆さん方おありになるということで、これに時間を取りたかったんですけど、時間がございませんので、佐世保南の方で、会員増強について不安を持っておる、というような意見がございました、このことで、ちょっとお聞かせ願いたいと思います。

桟（佐世保南）

まず、第一の問題点は、増強に走る余りに、

会員広報という考え方がないと、したがいまして、職業分類の充填よりも、人を集めることが優先して、手続その他ですね、お説明する場合に、まあ、全員が入ればいいんですが、そうでない場合は、失礼なこともある。そこら辺を、また、次年度のクラブ奉仕で十分気をつけていきたいと思っております。

とにかく、佐世保も5クラブになりましたので、全般的には、1割という目的達成がどうなのかなあと、非常に不安を持っております。また、新しく開放されます職業分類というが、第3次から第4次産業という分野が広がってまいりますので、クラブの中では、やっぱり、80名ぐらいが適正な人員じゃないか、という考え方も一部ありますし、そこら辺については、会員増強になられた方は大変だな、というふうな感じを持っております。以上でございます。

副リーダー

ありがとうございました。もう一方、唐津の大原さん、一業種一会員という問題が出ておりましたけど。

大原（唐津）

一業種一会員と書きましたのは、やっぱり、一番初め入るときが肝心であろうと、一番初めに入るときに、一業種一会員を、そういうルールを守って、ちゃんとすればですね、親睦がうまくいくんじゃないかと思います。

それから、また、唐津というところは、非常に狭いところでございまして、まあ、エリアというのはあるんですが、エリアが、最近乱れてきましてですね、今まででは、例えば、唐津東クラブ、それから、唐津西クラブの方々と話し合ってやつとったんですが、最近は、それがないような感じでございますので、そういうところも、気をつけながらですね、一番初めのルールを守ることが、親睦ではなかろうかと、かよう思っております。以上でございます。

副リーダー

ありがとうございました。きょうは、貴重な意見をいただきまして、この意見を、自分のク

ラブに持つて帰つて、そして、特色のあるクラブ運営をやつていただきたい。そのように思います。

最後に、カウンセラーから、リーダーからのまとめのごあいさつをいただいて、終わりにしたいと思います。

カウンセラー

私は長崎北クラブでございますけれども、北クラブができましたのが32年6月でございました。御世話いただいたのは、長崎クラブでございまして、そのとき、大変御世話いただいたロータリアンがおられまして、この方は、三菱製錬所の所長をされておりました、久保田豊さんでございまして、この方はクリスチャンで、ほんと、すばらしいロータリアンだと、私も、そのころ、まあできた当時で、よくわかりませんでして、30年近くになりますて、長崎クラブは歴史も古いクラブでございますけれども、やっぱり、すばらしい歴史とともに、すばらしいロータリアンがおられた長崎クラブ、そのクラブが、我々を御世話願つたクラブでありますて、我々といたしましては、やはり、すばらしい先輩を慕いながら、できるだけ努力はしておりますが、到底久保田さんのすばらしさには追いつかないと思いますけれども、まあ、微力でございますが、努力しております。こういう席で、すばらしいロータリアンを御紹介申し上げるのも何かのご縁だと思いますので、申し上げた次第でございます。

それから、先ほどからお話をございました、例会の私語につきましても、やはり、大変お忙しい中に、いろいろ御世話をいただいて、講演なんかしていただく場合に、本当に失礼なことだと思いますし、やはり、講演される立場と言いますか、相手の立場になって考えれば、というようなことじゃないかと思いますけど、皆さん方も、そういうふうにしていただいて、例会が楽しい例会になるように、ひとつ、御協力願えればと、そういうふうに思いますので、あえて申し上げさせていただきます。

本日はどうも、本当にありがとうございました。何せ、このロータリーは、皆さん方が、中心になってやられなくちゃならない立場の方ばかりでございますので、どうぞよろしくお願い申し上げまして、ごあいさつにかえさしていただきます。

リーダー

約2時間にわたりまして、本当に、皆様お疲れのところ、時間をちょうどいたしまして、部門別協議会を終わりますけれども、まあ、私たちが、何か申しましたこと、また皆さん、いろいろ発言され、疑問に思っておられることの中から、自クラブにとりまして、糧になるものを、一つでも二つでもお持ちでしたら、それを、今度クラブのアッセンブリーに持ち出されまして、小委員会の委員長さん方に提出されまして、ひとつ、今年度、次年度の1年がよりよき年度でありますように、頑張っていただきたいと思います。

まあ、「初めよければすべて終わりよし」というようなこともございますので、ひとつ、クラブ奉仕の方は、クラブというのは、幼年俱楽部なんか書きよりましたけれども、ともに楽しみながらやっていきたいと思います。私は、いつも、会長は、快調に飛ばさにやいかんぞと、幹事は、感じのいい幹事になりなさい、というようなことを、冗談によく言いますけれども、クラブ奉仕は、ともに楽しみながら、小委員会を引っ張って、大いに横の連絡をとりながら、それぞれ成功するように、御尽力賜りたいと思います。きょうは、本当にありがとうございました。

拡大・会員増強部会



PG
カウンセラー 野 久 雄 (福 江)

リーダー 久 満 宇 幸 (唐津 西)

副リーダー 田 代 孝 男 (唐津 西)

リーダー

では、ただいまから進めさせていただきます。この協議会に先立ちまして、アンケートを出しまして、45クラブ中38クラブから回答が参っております。それで、一番から順を追って、まず、アンケートの結果をまとめましたのを、報告させていただきます。

まず、一番として、募集会員の人選の基準はどうされていますかと、会員としてどういうふうなことを、推薦の基準とされていますか、という問い合わせですが、それに対する答えとして、まず、人格が善良であること、これが21になっております。それから、どんな職業についておら

れるかと、それが14です。若返りを考えるということで、いわゆる若手を勧めるが9クラブ、出席のできる人、そういうふうなことを基準にして考えてある、というところが7クラブ。

その人が、社会性があるとか、みんなと仲よく、協調性があるとか、そういうことを主眼にされておるクラブが5クラブ。

経済的に、十分ロータリアンとして長くおられるかと、それが4クラブ、その人の名声が、ロータリーの会員として適当であるかが3クラブになっております。

次に、奉仕に対する熱意はどうかと、これが3クラブになっております。もちろん、企業の

責任者とか、そういうふうなことで、これが2クラブ、それから、シニアになられますと、当然、その職業が空くということになりますので、それらの未充填を充填していく、2クラブ、推薦でいく1クラブ、それから、成年男子であると。これも、現在のところ当然かと思います。それが1クラブ。

ロータリーに入って、その人が長くロータリアンであられるかと。永続性、それに対して1クラブ。それから、ロータリーに入って、家族の協力が得られるかと。家族の協力が得られないといと、長く続けられないと思いますので、それも質問に出しましたら、家族の協力に対しては1クラブと。その他、社会的地位、これは、初めの人物にも入るかと思います。それが1クラブと。そういうふうな結果になっております。

それから、職業分類の数でございますが、これは、答えのあったところの、全部の総計だと思います。それが、3,407職と言いますが、それで、各クラブ平均、職業分類として持つてあるのが、94.64になっております。

それから、職業分類表は、いつ作成されましたかと、この間に対しても、59年の10月から63年の4月、理在、職業分類中、充填されている数が43.11%ということで、半分以上、まだ空いている分類がある、ということで、かなり余裕があるということです。

それから、5に、現在、職業分類中、正会員及びシニア、アクティブ会員の割合ですが、平均が、正会員1クラブ当たり38.69人。それから、シニア、アクティブ会員は18.97人ということで、約3分の1強が、シニア、アクティブ会員となっております。それから、期首の会員数及び現在会員数ですが、期首会員の総数は、2,409人、それから、現在の会員数は、2,458人となっております。

それから、各クラブ平均の会員数ですが、期首が53.32人、現在が54.14人で、大体期首に比べて一人弱と。各クラブ、大体プラスであるように思います。

それから、現在、未充填に対する充填可能な数、これは、各クラブ平均4.16人ということになっております。

次に、8番、退会者の理由、これが、転勤が57%、引退が2%、死亡が14%、それから、業務多忙が20%、健康上が11%、その他6%となっております。これで見ますと、引退とか、死亡というのは、まあ、やむを得ませんけれども、次の業務多忙、健康上その他、これが37%に達しておるということは、やはり考えなければならないと、そういうふうに思っています。

それから、平均年齢が54.79歳、きょうも言われましたけれども、活力ということを思えば、もう少し年齢を下げた方がいいのではないか、というように感じます。

貴クラブでは5名で、1名推薦のチームをつくっていますかと、いう問い合わせには、つくれてある、というクラブが5クラブ。つくれていないというクラブが30クラブ、あとは、回答がございません。以上でございます。

アンケートに対する報告事項は、そのくらいにして、きょう、辻ノミニーも言われましたけど、ことしは、大体10%アップを目標とすると、そういうようなことでございますので、10%会員をふやすということは、当然、質と量の問題になるかと思います。その辺について、それぞれの御意見を聞かせていただきたいと、かよう思います。

カウンセラー

話のきっかけをつくりましょうか。ひとつ、第1項の募集会員の人選の基準、人格、これはもう各自みずからを顧みてみれば、修身の本に書いてあるような人格者ではないということはお互いに認識をされておると思います。

それで、余り窮屈に、この人格ということにとらわれ過ぎますと、会員増強が非常に困難になる、ということでございますから、まあ、そう、社会的に嫌われておるというような方でなければ、資格がある、というふうに認めないんじやないかと、私は思います。

次へ

それから、職業でございますが、これは、手続要覧等を見てみると、その人の主たる職業、社会で、その人が認められている職業、まあ、こういうことだろうと思います。いつか、私読んだ本の中に、薬剤師というのが、そのクラブで充填されていたわけですね、ところが、たまたま、その人は、蔬菜園芸をやつとったということで、その人を、蔬菜園芸で入会させようと、しましたら、R Iで、それはいけないと、だれが見ても、その人が、薬局を経営して、薬剤師として、社会的に通つるんだから、やはり、蔬菜園芸というのは、職業分類で入れることはいけない、という注意を受けた、というようなことを読んだことがありますので、この点御注意をしていただきたいと思います。

それから、この協調性ということ、これは、人格の中に入りますが、どうか、ひとつ、こういうことを大切にしていただきたいと思います。あれが入るならば、おれはもう入らん、というような格好のないように、していただきたいもんだと思います。

それから、一番大事なことは、やはり、永続性、長続きをするということが、非常に大切であろうかと思います。先だって、私、加賀の、261地区の年次大会に行ってまいりましたが、そのときに、同期のガバナーが五、六名集まりまして、もちろん、奥さん同伴で会食をしたんですが、そのときに、奥さん方のお話の中に、具体的にお話はなかったんですけども、今のロータリーは、昔のロータリーと違う、ということを、奥さん方がおっしゃっていらっしゃいました。非常に考えれば考えるほど難しい問題でして、どういうことを、その奥さんはもくろんで発言なさったのか、私も、ちょっと理解に苦しみましたが、まあ、雑談の中で、いろいろ話していくうちに、私たちよりも年若い年配、六十五、六歳の方々ですが、まあ、おっしゃる意味はですね、どうも、最近のロータリーは品位がなくなった、というようなことをおっしゃりたかったんではなかろうかなあと、こう思ひ

まして慄然としたわけですが、やはり、質ということが、非常に会員増強には必要な要素ではなかろうか、というふうに、私感じ取りました。

それで、皆さんも、この質ということについて、いろいろ御意見があろうかと思います。その点で、ひとつ、どなたか御発言していただいたらどうでしょうか。勉強会でございますので、何か、皆さんの方から発議をしていただければ、それで、皆さんのが、また受け答えをすると、御意見を述べていただくというのが、この協議会の趣旨かと思いますので、どうか、どなたか、この量と質ということで、お考えを述べていただけないかと思いますが。

山内（唐津東）

なかなか、拡大の人数と質の問題というのは、非常に難しいと思いますですね、実際に。だから、やっぱり、ある程度、大体、このクラブは、何人ぐらいでやろうか、というような、心づもりも必要ではなかろうかと思いますけど、例えば、うちなら、50人なら50人でやつたら大体どの程度の人でいいんじやなかろうか、というようなことが、おのずから出るくるんじやなかろうかという気はします。だから、やたらにだれでもというわけにも、いかんのじゃないでしょうか。

リーダー

いろいろクラブ活動ができる範囲ということですね。

山内（唐津東）

やはり、100人とか、何百人とかになると、なかなか親睦というのはできかねますし、それかと言って、ある程度数がないと、力というのが出てきませんもんですからね、その兼ね合いが大体1クラブが、どのくらいの人数が、運営しやすいだろうかという、そういう質問をしたいです。

リーダー

私、唐津西クラブですけれども、大体50人が限度じゃないかと、少ない方のですね。50人以下では、ちょっと負担金とか何とかで。

―― 拡大・会員増強部会 ――

つけるのが、やはり、ロータリアンが、人間を見ると言うか、その面を、我々自身も養われていくと。そういうことになるのではないかと思います。

北川（長崎）

私は、今、野田前ガバナーのお話に触発されて、ちょっと申し上げたいんですが、ここに、アンケートがある中で、例えば、職業だと言われておられる方が14%ですね、そして、ほかは別として、大体、ロータリーの会員の基準というのは、職業分類は、いやが底でも、これは立ち塞がるわけですね。ところが、これは、いろんなことに、みんなが関連してくると思うんですけれども、いわゆる、これも本音と建前で、例えば、病院の先生でしたら、産婦人科であり、外科であり、精神科であり、それから整形外科、というふうに、いろんな面で変えられるわけです。ところが、そうすると、一応、人格とか、いろんなことには申し分なく、こんなことにはもう触れることなくしてですね、職業分類というのを大事に取って、いわゆる、会員の増強をするのか、それとも、職業分類というのは、もう、いわゆる、それは本音であって、建前は、そんなこと言っていたら、と言うんですね、例えば、クラブで、大体、病院の先生というのは、相当多いです。それに類似した職業の人も、相当多いと思うんです。例えば、それがシニアになってですね、あとに若い方が入ると、これはわかります。しかし、そうでなくてですね、相当これは、病院の先生に限らず、ほかのことにも多いと思うんですね。そういうふうなことは、手続要覧のロータリーの基準というものは、遵守しなければいけないと思うんですね。それからいけば、会員の増強とか、拡大ということには、大きく制約されると思うんです。そういうことは、一応そっちのけにして、そして、言い方は悪いんですけど、大体どなたでも、あの方々が推薦する人だったらいいからとか、それから、これだからと入ってこられると、それが、とりもなおさず、今おっしゃったように、先ほどの

御婦人のお話のように、最近のローリーは品位が落ちた、というふうなことにつながっていくのではないか、いろんな意味から言って、会員の増強というのが、ロータリーの基準であるならですね、これはもう、今一番、ロータリー基準というのは、見直していかんならんときじゃないかと、私は思うんですね。

ということは、拡大競争が激しくなればなるほど、先ほど、第三者から見た品位が落ちるとか、それから、ロータリーは、いわゆる古いロータリアンから見ましたら、いわゆる、昔のロータリアンのかたくなさとか、かたくなと言うと悪いんですけどそれは、一つのものを非常に守るために、かたくなであったんですね、そういうことが非常に緩やかになった、という面で、何か寛大であるようで、ロータリーの何かが、少し崩れていきよる、というようなことは、私だけが思ってるんじゃないだろうと思いますけど、これも、何かの御参考になるだろうと思って、今、この職業を主にした推薦の仕方というものの回答が、14というのは、これは、数字的に見ても、これが回答する人のほとんど半分以上あってくれて本当だと思うんですね。これで、4分の3強の回答があってですね、そして、職業分類が14というのは、これは、そもそも、間違っていると思うんですね。やっぱり、職業分類というのが、ある程度主になって、いくと、かなり厳選されたものになり、ロータリーの基準というのは、そこに置いてあるから、厳選な会員が推薦されたと思うんです。これは、一つのヒントだと、私は思うんですけども、いかがでしょう。

カウンセラー

まあ、ごもっともな御意見と思います。もともと、この職業分類は、ロータリーは一人一業を建前にして、今日まで発展してきたわけです。また、ロータリーが永続してきたというのは、一人一業を守ったからだとまで言われるぐらいに、職業分類というのは、非常に大切な分野でございます。

山内

やたらと拡大拡大と言われてもですね。だから、我々は、今おっしゃった50人前後で、しょっちゅうこれを維持しておれば、そうむやみに大きい拡大というのは、必要ないんじゃなかろうか、という気もしますですね。どうも、減らん程度に、五、六十人のところを前後すればどうだろうか、という気はします。

リーダー

私もそう思います。しかし、やっぱり、10%アップということですね。ここで、そうですかと言うわけにはいかんでしょうね。

山内

しかし、やはり、しょっちゅうこういうことを言っとかなきゃ、自然減る可能性はあるかと思いますから、いつでも、こういう気持ちは持っておかなきゃいけないとは思いますけど、そういうことです。

カウンセラー

私が公式訪問をして、各クラブを回りまして、お聞きするのが、いやもう、うちのクラブは、会場も狭いので、これ以上入れたら大変になります。会場から探しにやなりません、というようなこともお聞きしますし、いやあ、もう、これで十分ですよ、という、大半のクラブが御苦労なさっておられることは、よく承知しております。とにかく、現在数を維持するということは、もう絶対条件じゃないでしようかね、ほかに、どなたか、いや、そう言うても、どんな人でも入らせて、いわゆる、我々の力で練り上げていくんだ、というようなお考え方のも、あるいはおられるんじやなかろうか、というような気もいたします。善導していくんだ、人格を練り直していく。

松岡（平戸）

我々は、増強する場合、一応勧誘にいくわけでございますけれども、その場合、私は、そんな人格ではないとか、そんな地位の人ではないとか、お相手さんが言われますが、我々は、そのときに、何を基準にするのか、ということ

を、必ず言うわけですね。だから、そんな完成された人間であれば、ロータリーに入る必要はないじゃないかと、私は思いますし、また、我々は、そういうことで勧誘しております。まあ、未完成の人間だから、ロータリーに入って、みんなと一緒に行動することによって、同化され、人格も向上するんじゃないか。現にそういう方で、あれをやあと、我々も思いながらも、入ってみると、おお、あれはいい人間だなあ、というようなことが多々あります。そういうことで、どなたかいわれたように、まず、数を何パーセントにするかと、何人補充するか、ということを決めて、それによって、少々の人格的な問題も、初めは目をつぶって、極端であれば別ですけれども、そうすることによって、やはり、同化していくというのが、今までの結果から見ていいんじゃないか。こういう感じを持っておるわけでございます。

カウンセラー

非常に結構な御意見だと思います。やっぱり、人間、つき合ってみないと、本当のことはわかつてこないですし、推薦されて入った我々が、推薦する人ですから、よほどの欠陥のない限り、入会を勧誘すべきだと、私は思います。

これは、6段階あって、審査がありますから、その時点で、また、問題があれば、これは別ですけれども、そうでない限りは、できるだけ、その地域に、価値のある人を見逃さないように努力していくなければならないのではないか、というふうに考えます。

リーダー

だれでもと言うと、だれでもになりますけれども、やはり、ロータリーに入って、同化していくうちに、十分その人が、ロータリアンとして通じると言いますか、そういうふうな可能性を、我々は見つけていく。私はそういうふうに思います。人物によって、今見ても、あの人は、一緒になって、10年おっても、20年おっても変わらんだろうなあと、そういう人もあるうかと思いますので、やっぱり、その人の可能性を見

次へ

拡大・会員増強部会

に対し理由を付記した書面による異議の申し立てを受理しなかった場合には、会員候補者は、本細則の第5条に定める入会金を納めることによって、会員に選ばれたものとみなされる。こうなってるわけです。どうぞよろしくお願ひします。

リーダー

今の御質問に対して、各クラブ、どうしておられるか、書面でやっておられるか、それとも、口頭でやっておられるか、一応聞いてみたいと思いますので、挙手でやってもらいましょうか。

一応書面を持って意思表示をされるクラブは、ちょっと挙手願います。ほとんど大半はそうですね。書面をもってされる方で、無記名でやるか、それとも自分の名前をちゃんと書いてやるかと、それを署名して、意思表示をすると、そうしてあるクラブの方は、ちょっと挙手願います。.

はい、ありがとうございました。大体書面をもって意思表示をするクラブがほとんどのようござります。幾つかのクラブを除きまして。そして、あと、署名をすると、名前を書いてすると、それが、書面をもって意思表示をされるクラブの約半数と、そういうふうなことになっているようでございます。

A

ちょっと、私がわからんので、お尋ねするのですが、例えば、会員が推薦されましてね、そして、10日以内に、異議がなければ、会員として認めると。こういう提議ですが、その場合、これを、今お話の中では、書面で反対だと、入会するのは困るという方が、半数ぐらいあると。そうすると、あとの方は無記名でされた、ということですね。そういう反対は、理事会で、どういうふうに処理されるのでしょうか。無記名であっても、それは、やはり認められるんですか。無記名というのは、会員が、名前書いてなから、会員かどうかわからないわけですね。そういう情報を、ほかに知ってる人がおるかもしれないですね。例えば、その会員の友達なんか

が、あらあいかんということでですね、そんなことだったら、これは、ロータリーの、権威にかかる問題ですもんね、これはどういうことでしょうね、半分の方が無記名でされる。その、無記名でされても、それは、クラブの入会を認める、認めないの大きなかぎを、それが握ってるということになりますとね、どういうことになりますかね。反対するときの書式が決まっておればですね、なるほど、会員の人のだとわかりますけど、ただの便箋に、いやあこれは困るというふうなことで来た、そういう無記名の投書ですね、いわゆる、それは投書ですね、そういうのも、やはり、そういう効力があるのだろうか、というわけです。これは、会員を推薦するという立場からすればですね、かなり御苦労されて、そして、一人の方を推薦するために、2名なり、3名の方が、大体表面は、もう型どおりですけど、裏ではですね、やはり、前、大体みな知ってるんです。それで、あの方はいいですよという、そういう近い人には、あなたはあの方とおつき合いが深いんですけど、どうですかと、いやあいいですよ、立派な方ですよ、というような、そういう、みな別に工作するわけじゃないんですけどね、みな御体験を持っておられると思うんですけどね、ある人が、無記名ですね、その人入れたら困ると、その言葉を入れて、入会を拒否するんですか、ということをお尋ねしているのです。

カウンセラー

各クラブ、今は書面をもってということに対して、いろんな方法をとっておられるかなと思うし、あるいは、私のクラブでは、一応、幹事長で、こうこういう方を推薦したと、もしも入会に不服のある場合には、バツをして、御返事ください、というような書面がですね、会員の手元に来るようでございますね。そして、それに、会員が意思返事をするということになっているようでございます。しかし、それが、理事会の最終決定の資料になるわけですが、そのときに、何名、あるいは、理事会の方で手加減し

手続要覧をお持ちの方は、お開きになって、226ページに載っております。会員の職業分類の制限というのがございまして、正会員は一人一業、ただし、外交官、宗教家、それから、アディショナル会員、この人方に限って、2名以上の正会員をつくってよろしい、というような規定になつたるわけです。だから、あくまでも一人一業が建前でございますので、その点をお間違ひのないように、選考をしていただきたい。

それから、医者の数が多いというのは、これは、10%というふうに、大体決まっておりますので、それ以上あるクラブがあるとすれば、それは、その会長さんなり、あるいは会員推薦の方々の、そのときのお考えで、あるいは、10%超えとなるクラブもあるかもわかりません。まあ、10%ということが原則になってるようございます。ですから、量をふやせば質が低下する。そういう矛盾は確かにありますけれども、新しい会員を増強していくかなくては、クラブが活力はなくなる。クラブの会員は、年々年取つていきますから、病気その他で退会なさる方が出でくれば、会員数は減るし、老齢化していく。それでは、今日言われる活力というものは低下をする、ということでございますので、その辺は、私は、クラブの実情に応じて、お考えになったらいいんじゃないかな、というふうに考えます。3番目の、職業分類表は、いつ作成されましたか。59年10月、63年の4月、これは、ちょっとお考え違いだと思います。これは、ちゃんと、その年度の、8月31日までに職業分類表はつくれと、いうことになっておりますので、御記憶を願います。

山本（福江中央）

この職業分類表を8月まで、ということで、毎年うちのクラブも見直して、つくつとるわけですが、公式訪問がいつも早いわけですね。冒頭でございますから。ことしも、8月の初めになつております。それで、活動報告書が、7月中旬までにはつくりますので、どうしても、前年度の分類表を、今まででは出しておるようです。

これを、分類表を見直すために、新しい、新年度の職業分類委員会が、例えは、6月ごろに、それを決めてですね、そして、この製本に間に合うように提出してもいいものかどうかでございますね。8月中までには見直して、新しくつくっておるんですけど、せっかく、活動報告書をつくるのに、分類表だけは、まあ、前年度をそのまま踏襲して、出しこると。訂正して、前からつくれば間に合いはするわけですが、年度、ちょっと前にやらないと間に合わない状況ですね。公式訪問が遅ければ問題ないですが、その辺いかがなものでしょうか。

カウンセラー

8月31日現在でつくれと言ふんじゃなくて、8月31日までにつくれということですから、そういうような御事情があれば、御苦労ですけれども、早目におつくりになって、それを、その年度の職業分類表になさつて結構じゃございませんでしょうか。これは、また、柔軟性があって、途中でお変えになつても結構でございます。

山本（福江）

会員推薦の問題ですけれども、推薦が上がりまして、そして、分類、会員選考と通りまして、そして、被推薦者がですね、発表されて、10日間伏せられるですね。そのとき、書面をもつて、その反対者は異議を申し立ててくれ、というようなことでございますけれども、こういう書面をもつてやってくれ、ということで、私のところは、署名入りでやっておるわけです。ところが、他のクラブの場合はどうなつておるのだろうか、ということをお聞きしてみたいわけです。というのが、書面で、自分の名前入りで仮にやつたとした場合に、果たして反対意見が述べられるであろうか、ということの疑問点ですね、そういうことを教えていただきたいと思います。

手続要覧の240ページにあるんです。第11条の、会員選考の方法ですね、この、一番下の括弧5の中に、被推薦者の指名の発表後10日以内に、理事会が、クラブ会員のだれからも、推薦

次へ

てですね、一人あったけれども、もう、全員賛成でした、というようなことになれば、これは問題ですけれども、恐らく、そういう不見識な理事会はないと思いますので。

A

その、丸バツ式の返事をとって、入会の可否を決めるという方法は、全部そういうことをとっておられるのでしょうか。どちらでも。みなそういう形式をとっておられるのですか。

リーダー

私は、唐津西クラブだけしか知りませんので、唐津西クラブの場合を、ちょっと言ってみたいと思います。

唐津西クラブは、一応書面も出さんで、口頭でそれとなく言うと、直接、これは、なかなか反対ということは言いにくいんですね。実際名前が出来てしまってからは、それで、それとなく言うと、いうようなことでやっております。

A

私の方も、別に、今までそういう経験がないんですから、それでお尋ねしたんです。また、今まで、大体そういう推薦のあった人を断った、ということはないんですから、それで、さつきからちょっとお聞きしてみてですね、しかも断ったという実績があるところのお話で、書面で断るということであつたら、記名で断るというような、これはわかります。記名で断るのであつたら、もう当然、当たり前のことですから。しかし、無記名の方が半数以上おられるというところに、私、ちょっと、無記名で断るなんていうのは、まあ、露骨に言うたら、卑怯な話でしてね、おかしいなあと思ったもんですから、お尋ねしたんですけど。そして、丸バツ式の返事をもらうような会員を推薦したという、そういう方法も、私は知らなかつたもんですから、わかりました。

カウンセラー

福江クラブの例ですけれども、創立当時はですね、やはり、会員増強を急いだわけですね。チャーターメンバー30人ぐらいで出発したんで

しょうか。それで、当時非常な、皆さんのが努力をして、推薦をしたんですけども、そのときはですね、例会のときに、選挙のときのような札を、みんなに配りまして、丸かバツかで投票させたわけです。それを、黒板に、丸・かけ何票というようなふうに出しましてね、そしてやりました。しかし、それは、弊害があると。その推薦された候補者に対してですね、失礼になるというので、今の文書式に変わったようございます。

どうも、他のクラブも、いろんな方法があると思いますので、公平を期するための方法を、ひとつ、お考えになれば結構かと思います。

休憩

再開

リーダー

では、8番の項に、退会者の理由と、やはり、ふやすのも大事ですけれども、考えねばならないことは、やめるという方を、なるべく少なくすると。それが大事かと思います。それで、さっきも言いましたように、転勤とか、死亡はいたしかたない。しかし、ほかの理由の方を、なるべくやめないようにお願いするとか、それも、一つの会員増強につながると思いますので、後半は、これに主題を置いて持っていくたいと、かように思います。

それで、ここに、アンケートを出してありますけれども、この項で、業務多忙という項があるわけですね。これは、まあ、ロータリーがいやになったからやめると、そういうような方がほとんどではなかろうかと思います。これに対する対策と言いますか、これを、各クラブどういうふうにやっておられるかとか、考えておられるかとか、それをお聞きしたいと思いますので。

池田（佐賀）

実際にあったクラブさんで、実際に業務多忙

次へ

―― 拡大・会員増強部会 ――

でと言って、退会されたクラブがあると思いますので、そのクラブの実例をお聞きになって、それは、どうしたら防止できるか、というふうに討議された方がいいんじゃないかと思って、提案したわけです。

山本（福江中央）

うちの方も、この一年ぐらいの間にですね、1人ですけど、農協関係の方ですね、五島は、農業・漁業が主でございますが、なかなか農業・漁業の会員が増強できない、というようなことで、たまたま、農協の参事さんですけどね、農協長、以前入っておられて、やっぱり、忙しいかどうかで、1年か2年おられて、やめたんです。今度は、参事は、どうしても、出すからということで、本人も、初めはやりよったんですね、とにかく何か会議が、農協関係で多いということで、もう1年ちょっとだったけど、どうしてももうやれない、というようなことで、クラブの対策も、ちょっとどうしようもないですね、そこまでお忙しいという実情もわかつてゐるんですから、特に離島の場合は、出張とか何とか多いもんですから、それでやめられたというのが、一つ実例がございますけど。

リーダー

質問しますけど、今の方はやめられたときに、やめんでもいいじゃないですかと、そういうふうな働きかけはなさったのですか。

山本（福江中央）

クラブから、二度も三度も、何とかお忙しいときは、まあ、休まれてもやむを得ないけど、どうだとかということは、十分お話し申し上げたんですが、とにかく実情がわかれれば、なかなか引きとめる、というわけにいかんですね。そういうことです。

リーダー

ほかに、どこかそういうふうな実例で、まあ、やめさせない方を成功したと、そういうふうなクラブがありましたら、ひとつ、ご発表願いたいと思いますが。

カウンセラー

私の経験した実例に、ひとつ、皆さん御意見をお聞かせ願いたいと思います。私のクラブで、1人、やはり、仕事が忙しくて、あるいは、自分の今やつとることを継続するためには、ロータリーに出ることが苦痛である、というようなことで、おやめになろうとした方がございました。お恥しい話が、私が推薦した人物でした。クラブでは、こういう御意向の方がおられる。やめようとする人を無理にとめる必要はないじゃないか、という御意見がありました。そういう御意見もあったけれども、私は、自分が推薦した責任者として、何とか思いとどらせたい、というようなことで、一生懸命口説いたんですけども、もうやめる、というのならやめさせたらいいいじゃないか、というようなことが耳に入るもんだから、本人も、とうとうやめてしまった、というような例があるんですが、皆さんどうでしょう。やめたい人を、何とか思いとどまるようにした方が賢明なのか、もうやめるというものは仕方がない。やめさせていいんじゃないか、という安易な考え方の方がいいものか、皆さんどなたでもいいが、御意見を聞かせていただけませんでしょうか。

山田（諫早）

私のクラブで、新入会員の方で、お医者さんなんですが、非常に昼の時間の診療が忙しいということで、時間がどうもなりません、ということで、やめたいというような意向でしたけど、炉辺会合で皆さんから、それは、先生いいじゃないですかと、若干遅れておいでになってしまいし、時間が若干早く帰られてもいいし、とにかく頑張ってやってくださいと。皆さんそう思っておりますよ、ということで、本人は、新入会員でなじみきらないということもございまして、やめたいという意思だったんですけどね、皆さんからそういうことを言われまして、若干時間的には、遅れておいでになりますけど、現在もう何年間か続いておられます。もう、本当にああいうときは、危機一発でやめる状態だったですけどね、よかったなあ、というような

気がいたしております。

あんまり、時間とか何とかを厳しくしてですね、無理に言うよりか、そういったことでもしてあげてですね、本人に納得させていただいた方がいいんではなかろうかな、という気がいたしますけど。

カウンセラー

ありがとうございました。何かそういう実例はありませんでしょうか。あるいは、これに対する御意見でも結構です。

B

カウンセラーに質問なんですか、今の新入会員さんの時間帯の取り方とか、というふうなことについて説明されて、先生が納得されたというお話なんですが、新入会員さんが入られる前のインフォメーション、入られてからのインフォメーション等における説明の仕方ですか、例会出席のあり方等についてが、非常に文書式に、例会はでなきやいかんとか、例会欠席したらどこかでメーキャップしなさいとか、というふうな堅苦しいような情報委員会からの説明があつてるように、私は思うんですけども、これを、もう少し冗談的に、わかりやすく、説明をするようにすれば、入られるときの心構えというものが、私、実はこういう時間であるならば、まあ、なるべく遅れんようにしてくださいと、遅れられても大丈夫ですよと。それから、検診があるときには、早退されても構いませんとか、そういうときは、自由に言ってくださいとか、というふうな説明を、まずしとけば、そういうふうな問題が起きないで済むんじやなかろうかなど、それについて、カウンセラーとして、どういうふうな御意見をお持ちなのかと思いまして。

カウンセラー

全く私も同感でございます。

我々は、職業人ですからね、まず、職業を大事にするということが、もう、絶対条件だと思いますよ。だから、やむを得ず欠席する場合には、事前にお断りをする、事情が許せばメーキ

ヤップをする、ということでいいんじゃないかと思います。もちろん、入会前に、余り、こう堅苦しくですね、押しつけがましく言うと、かえって逆効果があるような気もしますし、今、諫早さんがおっしゃるように、炉辺会合等ですね、一杯飲みながら、打ち解けて、まあ、先生いいじゃないですか、というような、こう、やわらかい調子で持っていくとですね、やめようとする気持ちも、また転換するというようなことになりはしないかと思います。

大体、医者というのは、私も、昔、四、五年前までは歯科の開業医だったんですが、最初は、非常に抵抗がありました。患者さん放ったらかしてですね、私のところは、離島の離島から患者が来るもんですから、昼の船に、12時半、1時までの船に間に合わせて帰さにやならんと、そこでですね、患者さんに気の毒だと思うし、やってやらにやならぬというような気持で、非常に、私、ジレンマに陥って、本当にやめようかと思ったこともあります。ところがですね、一年、二年たつうちに、金曜日の12時半から1時半までは、あの先生はいないんだ、ということが、だんだん浸透していきますね、患者さんの方から、かえって、私が、12時20分ごろまでうろうろしておると、先生早う行きなはれ、もうあとで、私待っとくでな、というような格好にまでなるもんですね。だから、その辺の理解が足りなくて、ただもう堅苦しく、12時半にはびしゃっと行かにやいかん、1時半までは絶対おらにやならん、というような意識を持って入ると、その辺の頭の柔軟性を欠いていくと。だから、入会前のインフォメーション、入会後の情報提供、これはもう、非常に大事なことだと思います。それは、退会防止の第一条件じゃなかろうか、というふうに、私考えますが、皆さんいかがでございますか。だから、私が結論を言うのはおかしいけれども、どうでしょうね。やっぱり、やめたいという人がおったら、何とか思いとどませるようにして、その有為な人材を、ロータリーに残していく、というような方

次へ —

―― 拡大・会員増強部会 ――

向で努力すべきじゃないか、というふうに考えますが、皆さんいかがでございますか。

リーダー

参考になるかならんかわかりませんが、前に、この協議会で、伊万里西の方から、退会者防止について、ということで、ちょっと出ておりますので、読ませていただきます。

ロータリーの例会を楽しいものにして、会員相互の友情を深めると、新入会員に対して、ロータリークラブとはどのようなものか、理論構造をしっかりと把握させるために、ロータリーに関する情報教育を重視する。これは、今の、佐賀の方ですか、言われたこととも一緒だと思います。各会合出席を、義務ではなく権利であると、誇りを持たせることが必要であると。

それから、パネラーの発言として、退会者を防ぐためには、入会時の選考の時点での配慮が必要である。入会後は、努めて話し合いを通じて友情を深め、理解を深めていくようにする。文章に書いたら、こういうことになると思いますけれども、とにかく、わかりやすく、十分納得させるということが必要ではないかと、かよう思います。

では、次に進ませてもらいます。9番の平均年齢、当地区の平均年齢は 54.79歳 こういうふうになっております。これは、カウンセラーにお聞きしますけど、54.79歳というのは、平均年齢として高い方でしょうか。低い方でしょうか。

カウンセラー

低い方と思います。私は。これは、立派なものだと思います。で、まあ、私、公式訪問のときもお願いしましたように、いわゆる、老齢化するということは、活力をなくするということになりますので、でき得れば、理想としては、創立当時の平均年齢を常に保つように、若い人に目を向けて、入会を勧誘する、这样一个配慮があつていいんじゃないかと思います。

54.79というのは、若い方です。恐らく60歳前後のところが多いんじゃないでしょうか。

リーダー

この問題に対しては、これで十分と立派なことである、ということでございますので、次に行かせてもらいます。

次に、貴クラブでは、5名で1名推薦のチームをつくっていますかと、この問に対しては、5クラブがつくっていると。それから、30クラブがつくっていないと、そういうふうな答えでございます。一人で一人を推薦するよりも、何人かで、グループでするのが好ましいことではないかと、そういうふうに考えます。これに御意見がありましたら、何か承りたいと思いますが。

カウンセラー

この会員増強というのは、もう、クラブの会員全体が増強委員でなれりやいかんと、私は思います。ただ、委員会があるから、委員会にお任せ、というような格好は、決していい人材が得られないと思います。やはり、自分が推薦されたように、自分もだれかを、ロータリアンとして推薦をする。それには、自分自身が、ロータリーに対して魅力を感じ、ロータリアンとしての誇りを感じる、这样一个ロータリアンとしての生活でなれりやいかんと。だから、まず、自己鍛錬から始めて、そして、ロータリーが実にすばらしい組織だ、ということを、まず、みずからが認識して、そして、優秀な人がおれば、惜しみなくそれを分かち与えて、ロータリーに入っていただく、这样一个心構えが必要であろうと思います。

今、5名で1組つくって、50名おるところは10組みできるわけですね。これがスムーズに運営されれば、非常にいいことだと思います。しかし、何かこう、内部で対立的な競争意識でも燃やしてもらうと、かえってクラブの親睦を害していくような結果にもなりかねない、这样一个感じを、私は持っておりますので、私がガバナーで公式訪問したときも、この点には余り触れませんでした。やり方によっては、非常に効果が上がるでしょうが、やり方によっては、

クラブの親睦を阻害するということを、ひとつ、心の底に持つとていただきたいと思います。

それで、皆さんも、これから増強委員長として御活躍になられるんですが、どうか、その辺の取捨選択を、誤らないようにしていただきたい、全員が、とにかく増強委員だという自覚を、クラブの方に植え付けていく、という努力をなさっていただきたいなあ、というような、希望を持っております。

リーダー

大体、アンケートについては、御検討を、今願いましたところでございます。あとは、会員増強について、どのような方法をとっておられますか、ということがありますけれども、例えば、今の5名で1名のチームとか、その他具体的なことがありましたら、ひとつ、御発表願いたいと、かように思います。何か特別な方法で、会員増強を図っておられるクラブはございませんでしょうか。

佐世保東の方いらっしゃいますか、ここで、週報に毎月1回、会員増強のしおりを載せている。定例理事会には、毎回議題として、会員増強を取り上げていると、それで、具体的なことを、ちょっとお聞きしたいと思います。

松瀬（佐世保東）

週報に載せてていますのはですね、会員増強が進んでるか、進んでないか、というような情報を、会員の皆さん方に募るということと同時に、こちらからお願いをするということでございます。

会員増強につきましては、アンケートの中にも書いておりましたように、ここに、クラブで5名で1名推薦のチームをつくる、ということでございますけど、佐世保東クラブでは、地区別に分けまして、大体4地区に分けまして、その中に、ロータリアンの方がいらっしゃいますので、一つのチームに7人入ったり、10人入ったりということで、その中で活動をしてもらっているような状態でございます。

そして、私たちのクラブは、非常に範囲が広

いものですから、私どものところのクラブまで来るので、1時間くらいかかる、というような方があるわけでございます。そのようなことで、地域は広いんですけど、なかなかお入りになっていただけない、というふうな現状でございまして、今56名でございますけど、ぜひ60名までは、というふうなことで、今活動を続けているような状況でございます。以上でございます。

兵働（佐賀北）

ただいまのところ、特別案としてはありませんが、例会のときに、会員増強についての、現在の進行状況並びに達成その他を連絡して、ふやしたいと思っております。

カウンセラー

私、公式訪問に参りました、佐賀北の例会に出たんですが、そのとき、本当に感銘深かったのは、各テーブルに、未充填の表が出てるわけです。そして、皆さん、未充填を見られてですね、それを充填するように努力をする。そういうふうな方法をとっておられるのが、非常に、私は感銘深かったので、その後回るところに、そのことをお話し申し上げました。

そういう努力が、会員の、この会員増強に対する意識を高める、というようなことになるんではなかろうか、これはいい方法じゃないかなあと思いますので、まあ、ひとつ、まねてみたいなあ、という方がおられたら、まねてみられたらどんなもんかと思います。

リーダー

まことに駆け足で、舌足らずと言いますか、御不満の点も多かったろうと思いますけれども、時間も参りますし、そろそろこの辺で、一応、協議会を終わりたいと思います。

とにかく、この1年間、来期それぞれの委員長として、常に質と量の問題、また、職業分類の問題等、いろいろジレンマがあろうかと思います。しかし、その辺を克服されながら、やはり、最終目的の会員増強を、それぞれの努力でやってもらいたいと、そういうふうにお願いいたしまして、あとは、カウンセラーの方の御講

次へ

―― 拡大・会員増強部会 ――

評を承りたいと思います。どうもありがとうございます。

カウンセラー

講評するということじゃございませんで、きょう、皆さんと一緒に話し合いを進める中に、また、私が日ごろ考えていることを申し上げまして、責を終わりたいと思います。

我が国の、会員増強、クラブ拡大の現況は、非常に急速に進歩してまいりました。現在まで来たようなスピードで、将来とも走り続けるのかどうか、私は、まあ、非常な疑問を持っていいるところでございます。

公式訪問をいたしましても、皆さんが、非常に御苦労なさつとる。小さい地域になればなるほど、会員増強に対しては、非常な御苦労なさつとる、ということを身をもって知ることができまして、それほどまで無理しなくとも、という本音は持っておりますけれども、R I 会長がガバナーに、会員増強を精力的にやれというお達しがあるもんですから、どうしてもそれを、皆さんにお伝えしなければならない、というようなことでございますので、皆さんに不愉快な思いをさせたこともあったかと思います。しかし、おかげさまで、カパラス会長の提唱されました数には達しまして、カパラス会長から、ゾーン研究会で、この地区は表彰状をいただきました。そういうようなことで、非常に御苦労を感謝いたしております。

カパラス会長も、ケラー会長もですね、同じような趣旨のことをおっしゃっておられます。それは、どのような団体も静止しては進歩はないし、存続していくことはできない。前進か後退か、そのいずれかであると、一たび発展が始まれば、衰退が避けられないんだ、ということをおっしゃっておられます。全く同じようなことを、お二人のR I 会長はおっしゃっておられます。

ロータリーを維持して発展していくためには、どうしても適格者を一人でもクラブに勧誘して、入会させる必要がある、ということを強調され

ているわけでございます。どこのクラブでも、もう、これで十分だというようなことを、よく耳にしますけれども、まあ、もとR I 会長のお話では、職業分類がすべて充填されるまでは、ロータリーは、新しい会員を勧誘し続けなければならない、というようなこともおっしゃっておられます。とにかく、我々は、常にこの我々の周辺を注意深く見守って、ロータリアンとしての価値ある人、そういう人を見逃してはならないぞ、ということだろうと、私は思います。

最近は、特に科学技術が進歩しまして、職業の種類も非常に多くなりつつあります。ですから、新しい視点に立って、会員を勧誘することも、あえて不可能ではないだろう、というふうに、私は思っております。

我々は、何と言っても、このロータリーの発展に協力していかなければなりません。しかし、ケラー会長は、やみくもに量だけを目指すよりも、質の高い会員の獲得という目標を忘れてはならないぞと、忠告されております。

とにかく、極端に言えば、日本のロータリーは、もう限度に来ると、こういうことを言つたら、おしかりを受けるかもわかりませんけれども、私の感想では、そういうふうな気持ちがいたします。この地区を見ましても、さらに、どこに新しいクラブをお願いするかと、どこの地域が取り残されているかと、そういうことを考えてみましても、あるにはあっても、なかなか将来の運営その他を考えると、勇気を持って、その結成をお願いをする、というわけにもいかない地域もございますので、我が地区においても、恐らく、もう限度に来とりはせんかと、あとは、一人一業の建前から、既存のクラブがアディショナルクラブをつくる、ということですね、もう、最高の努力ではなかろうか、というふうに考えております。

といって、誤解をしていただいては困りますが、決して、私は、会員増強も、クラブ活動も拡大の必要がないとは言っておりません。その点は、ひとつ、誤解のないようにお願いをいた

します。

それと、この会員獲得と同時にですね、先ほどもお話に出ましたが、退会者の防止、これに注意を払う必要があるだろうと思います。毎年退会する世界のロータリアンは、会員数の10%、約10万の人が退会をしておられます。その60%はですね、病気とか、老齢とかで、やむを得ない人が60%おられます、あと40%はですね、さほど重要でない理由づけをして、退会していく方がおられます。その理由として、二つほど主な点を挙げてみると、第一の理由としては、まず、親睦の欠除、年齢差が大きく開いていること。第2の理由は、仕事、または個人的な理由で、週1回の出席条件を満たすことができないと。まあ、主なものを分けますと、こういうことでございます。不思議に、会費が高いからやめる、という方はおられません。

この年齢差の問題ですが、どうしても、若手会員が、高齢者会員との共通のものを見つけていく、それで、クラブの活動の第1線にいつも出られない、という報告がなされております。ロータリーを離れていく人で、何らかの役職についたことのある人は、わずかに58%にすぎません。そして、現在もなお、会員の資格を保持し続けている人は90%もあります。

だから、クラブに、何らかの役員を勤めたか、委員を勤めたか、そういうことが、この退会理由の奥底にあるんじゃなかろうか、というふうに、私は考えますので、若手の会員の方を、できるだけロータリーの諸活動に参加させるように、尽力しなければならないと思います。

若い人の情熱と才能を、何らかの役職につくことによって、大いに發揮してもらう、という心ばせが必要ではなかろうか。だから、委員長さん方も、これから会員増強に努力をなさるんですけれども、常に会長・幹事と接触を保ちながら、若い人を、できるだけその才能を生かすような立場を与えてやる、ということをひとつお心構え願いたいと思います。

ケラー会長は、退会防止に、次の四つのこと

を挙げておられます。これは、ロータリーの友に載っておりましたので、あるいはお読みになった方がおられるかもわかりません。これはもう、皆さんの御意見にあったとおりのことが多いんでございますが、新会員を選ぶ場合に、慎重に選びなさい。

それから、2番目に、入会の勧めをするときは、フェアに正直に、そして、品位を持って行いなさい、ということはですね、まあまあどうでもいいじゃないか。入れ入れというような気安さではなくてですね、もっと、ロータリーの本当の姿というものを、よく認識させて、入会を勧める。これは、佐賀クラブの方がおしゃいましたか、インフォメーションということ、勉強ということですね、その次に出てきます、入会前後の教育を適切に行うようにしなさい。そして、ロータリーの知識を十分授けるようにしてください。4番目に、クラブ活動に積極的に参加してもらうように心がけなさい。この四つを、ケラー会長は退会防止の方策として挙げておられます。

ロータリーの友の、3月号ですね、この中に書いてありますから、ひとつ、お読みになっていただきたい。

それから、ひとつ、新入会員、あるいは会員に魅力を与える、ロータリーの魅力を知っていただけ。これが、非常に大事なことじゃないかと思います。我々は、いわゆる職業片手に、片ひまに奉仕をやっております。その努力たるや、まことに涙ぐましいものがあろうかと思いますが、その努力に比較して、地域の方々の認識は、非常に甘い、こういう例があります。ある人が、お客様が来て、もう、例会の時間が迫るので、もう気が気じゃないけれどもお帰りにならない。ようやくお帰りになったので、自動車を飛ばして、例会場に行った。ところが、たまたま、スピード違反で引っかかる、つかまえられた。そのときのですね、地域の人方の評判が、何を昼飯食いにいくのに、そう、違反まで犯していかなければいいものを、といふような批判があっ

―― 次へ ―

―― 拡大・会員増強部会 ――

たそうです。その人は、嫌気がさして、ロータリーをやめてしまった、という例も聞いております。いわゆる、地域の認識が足らないということ。それには、我々は、もっともっと、ロータリーの活動が、地域に密着していくような、我々が、入ってくださいという勧誘をする前に、心ある人が、入らせてください、というような体制づくり、魅力づくり、ロータリーの活動のあり方、こういうものを考えていただく必要がありはしないかと思うのでございます。

きょうも、ガバナーがおっしゃっておりました。情熱を持って、勇敢に、ひとつ、奉仕活動に参加しようじゃないか、ということをおっしゃっておられました。どうか、皆さん、1年間御苦労でございますけれども、情熱を振り絞って、ロータリーの発展のために御努力、御尽力をいただきますように、お願いを申し上げまして、私の最後のごあいさつにいたします。
どうもありがとうございました。

拡大・会員増強部会 添付資料

① 募集会員の人選の基準はどうされていますか。

人格・普良である	職業	若手(JC)	出席	社会性・協調性	経済	名声	奉仕熱
21	14	9	7	5	4	3	3
企業の責任者	シニアの未充填	推薦	成年男子	永続性	家族の協力	社会的地位	
2	2	1	1	1	1	1	1

② 職業分類の数 総数 3,407人 平均 94.64人

⑤ 職業分類表はいつ作成されましたか S 59.10～S 63.4

④ 現在職業分類中充填されている数 総数 1,552人 平均 43.11人

⑤ 職在職業分類中正会員及びシニア・アクチブ会員 (正会員) 総数 1,393人 平均 38.69人
(シニア・アクチブ) 総数 607人 平均 18.97人

⑥ 期首の会員数及び現在会員数 (期首会員数) 総数 2,409人 平均 53.32人
(現在会員数) 総数 2,458人 平均 54.14人

⑦ 現在未充填に対する充填可能な数 平均 $\frac{4.16}{53.88}$ 人

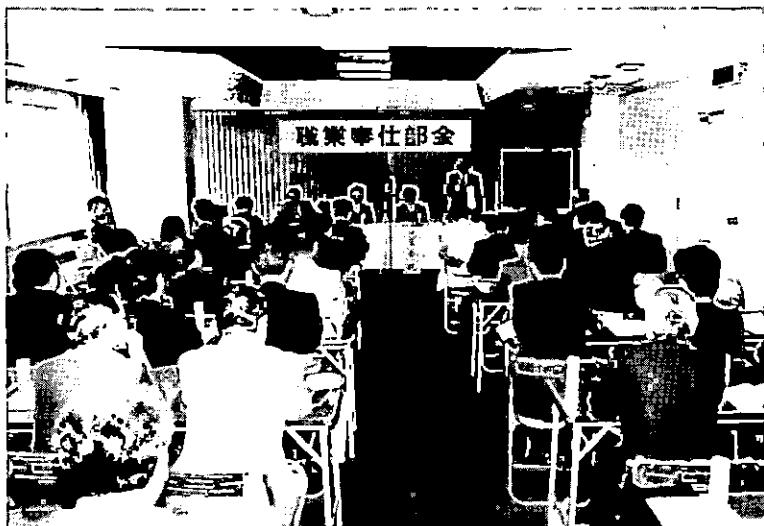
⑧ 退会者の理由

転勤	引退	死亡	業務多忙	健康上	その他
57	2	14	20	11	6

⑨ 平均年齢 54.79才

⑩ 責クラブでは5名で1名推薦のチームを作っていますか (いる) 5クラブ
(いない) 30クラブ

職業奉仕部会



カウンセラー 井 上 安 郎 (唐津 東)

リーダー 落 合 親 (唐津 東)

副リーダー 新 岡 正 久 (唐津 東)

副リーダー

では、早速職業奉仕部会の勉強に移りたいと思います。

きょうお集まりの皆さん方に、職業奉仕についての受けとめ方、それから、考え方についての御意見を、お伺いしたいと思います。突然で申し訳ありませんが、伊万里ロータリークラブの城島さん、職業奉仕ということについて、御意見賜りたいと思います。

城島 (伊万里)

私も、まだ、ロータリーの方は、入ってから長くないもんですから、職業奉仕のことについても、よく……。アンケートも、返事の書き方

がわからんですね、どういうことか、ということを、今から勉強したいと思いますので、ひとつ、よろしくお願ひしたいと思います。

私は、自動車の整備と販売をやっておりますけど、そういうふうな整備を通じて、皆さんに奉仕をしたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

副リーダー

ありがとうございました。次に、神埼ロータリークラブの高橋さん、御意見をお願いいたします。

高橋 (神埼)

私も、ロータリーに入りました、1年にもな

りませんので、まだよく、ロータリーの内容等がわかりませんので、特別にどういう考え方、というようなことも持っておりません。これからいろいろ勉強させていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。以上です。

リーダー

リーダーからお願ひ申し上げます。

実は、皆さんが、職業奉仕についてどういう考え方を持っていらっしゃるのか、お聞きしたいと思いましたので、各分区から一人ずつお願ひしているわけです。

次に、有田クラブの藤井さん、それから、松浦クラブの百武さん、諫早北クラブの八江さん、福江クラブの川尻さん、そういう方の順で、簡単で結構でございますので、御発言をお願いしたいと思います。

藤井（有田）

私も、ロータリーに入りまして浅く、出席率もあまり芳しくないもんですから、なかなか、職業奉仕というのは、今まで有田ロータリーでも、余り活躍の方は聞いたことがございませんけれども、私は、次期委員長として、今度は、そういうことではだめという考え方で、一生懸命勉強させていただきますから、よろしくお願ひいたします。

百武（松浦）

職業奉仕は初めてでございまして、ロータリーに入りまして、11年目になるわけですけど、この職業奉仕というのは、大体、そうそうたるメンバーの方が、今までなっていたわけですけれども、僕のような若い者が今度なるんで、ちょっと難しいなと思ってるんですけど、実は、まだ、先輩がしていない職業奉仕で、近隣の高校生を対象として、次年度は、会員の先輩の皆さんにお願いして、就職するに当たっての、とらえ方を話してもらおうかな、という計画を、学校の方と、今コンタクトをとるようにしております。以上です。

八江（諫早北）

今手元に配っていただいた資料にありますよ

うに、職業奉仕における新方針というところで私も、職業奉仕そのものが、あんまりわかりにくい、というふうに思っておりまして、きょうは、そのために勉強に来たつもりでおりました。ここに書いてありますのは、ロータリアンにとって、非常に意味をとらえがたい奉仕部門でしたと、その結果、しばしば最もなおざりにされてきた奉仕部門と言えます。ということで、書いてありますように、私も、そういう意味からきようは、じっくり皆さんのお話を聞いて帰つて、今後の活動に励みたいと、かように思っております。

事業活動については、特に、職場訪問例会ですか、こういったものも、次年度はやっていくこと、そうすることによって、会員のお互いの職業の理解、そういうことによってですね、いろいろ職業を通じての奉仕ができるのではないか。かように思いますので、そのようなことでやっていきたいと思います。よろしくお願ひします。

川尻（福江）

私も、まだ、入って5年未満なものですからまだ、はっきり職業奉仕というものが、わからんわけですけど、職業奉仕というのは、クラブの職業奉仕も大事ですけど、各自の職業を通して、奉仕活動をやっていくのが大事じゃなかろうかと、私は今考えております。この方向で頑張っていきたいと思います。よろしくお願ひします。

リーダー

どうもありがとうございました。次にですね、4月の12日付で、本部会のアンケートを、皆さんにお願いいたしましたところ、御多忙のところ、御回答をいただきまして、ありがとうございます。また、ただいま、分区ごとに1名ずつ所信をお聞きしました。そこで、井上カウンセラーから、職業奉仕とはどういうもんじゃ、というようなお話をさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

カウンセラー

次へ

私も、ただわかつっていましたことは、ロータリーの歴史は、職業奉仕の歴史であると考えるほど、職業奉仕は、一番ロータリークラブの基本だ、というふうに考えております。ただいま川尻さんがおっしゃいましたとおりに、自分の職業をもって奉仕する。職業は、みんな社会のニーズによってでき上がっておるわけでございますので、職業を通して、世の中に貢献するということが、これはもう、基本であろうと思います。したがって、1905年の2月23日に、ポールハリスによって誕生したときから、初めから職業に一番関係しております。ちょうど、その当時は、シカゴは、これはもう、私も、雑誌を読んだ受け売りでございますけれども、実に、60年間のうちに、300人のインディアンから、170万人にと急速に膨張しまして、ニューヨークに次ぐ第2の大都会になったと。それは、60年間で、それだけ膨張したということで、しかも、その170万人の中には、3分の2はヨーロッパ各国から来た一世でございまして、俗に一旗組が参りまして、ロシア、ポーランド、あるいはドイツ、イタリーと、各国の言葉のわかるもの同士が、小集団をつくりまして、政治は、実に紊乱して、そして、政治ボス、経済ボス、暴力ボス、汚職集団と、実に悪徳の町であるし、それと同時に、貧困と、不信の恐怖の町というふうに言われた時代に、ポールハリスが、心の置ける友達をつくりたい、ということから、4人と相談して、第1回目発足しまして、翌月の第2回目は6人に、第3回目は9人になりました、そして、お互い同士の、一番初めは互恵取引でございます。これだけで、互恵取引をやろうと、お互いに商売上の優位を分かち合って、お互いに取引して、信用し合えるような友達をつくろう、というのが当初でございまして、だんだん、だんだん人数がふえていきますが、翌年になりました、シカゴのロータリー綱領をつくろうということになったわけですけれども、そのロータリー綱領をつくるときにですね、第1条が、ちょっと読んでみます。「会員の業務

上の利益を振興すること」となっております。第2条が、「本来の社交クラブとしての親睦その他、望ましい諸点を振興すること」ところが有能な弁理士の、ドナルド・カーターという人を入会させるに当たり、この人が、自分たちだけの利益を図ることでは、将来性はない、永続性はないんだと批判をして、それから、協議した結果、第3条を入れております。その第3条は「シカゴ市の利益を推進し、市民に対する誇りと忠誠心を普及すること。」それだけを追加しております。そんなふうにして、だんだん、だんだん改善されていっております。しかし、あくまで、一番初めは、一業種一人制で、お互い同士の商売のことから、職業奉仕のことから始まっております。職業奉仕というよりも、むしろその当時は、私は、最初は、仲のいい友達だけで商売を、取引をしようじゃないかと、そのかわり、そのクラブ内で統計係をつくりまして、初めのころは、統計係は、その取引額を発表しとった、というような記録までございます。ところが、今言ったように、それだけでは、将来性はないんだ、と自分たちだけの利益だけを考えるのでは、将来性はないんだということで、第3条を追加したと、そんなふうに改善に改善を重ねて、進まれておると思います。そして、1908年頃からサンフランシスコを始めとして、全米各地にロータリークラブが出来て行き、1910年になりますと、16クラブの1、500人になりました、そして、その年、第1回の全米ロータリー連合大会があつております。もちろん、そのとき、ポールハリスは、連合会の会長に推薦されておられます。そのときに、綱領を、また、制定しております。その綱領の4条、5条に、職業と関係のある条項がございます。特に我々の職業奉仕部類に一番関係した条文だけ読んでみます。

「進歩的で、尊敬すべき商取引の方法を推進すること。」となっております。

それから、第5条が、「加入ロータリークラブの個々の会員の商売上の利益を増進すること。」

こうなっております。そんなふうで、漸次改善されていっとるものでございます。

それから、1911年ごろになると、そろそろ、サービスという言葉が出てまいります。

Service, Not Self とか、Service above self とかという、サービスという言葉が、だんだん出てまいっております。そして、これが、後年、1950年になりましたときに、デトロイトの大会で、ロータリーのモットーはサービスだ、ということが正式に取り上げられております。

それから、1910年になりますと、カナダ、更に1911年には英國ロンドンと次第に米国外にもロータリークラブができまして、1912年に、國際ロータリークラブ連合会（國際ロータリーの前身）ができております。そのときの綱領を、また読んでみると、その綱領は、いわゆる、國際連合会になったときの綱領ですけれども、5カ条のうち3カ条までが、職業奉仕に関したものでございます。その第一が、「すべての合法的職業の価値に対する認識を深め、社会に対する奉仕の機会を与えるものとして、会員の職業を神聖化すること。」

それから、「職業上の高い道徳的基準を奨励すること。」

それから、3番目に、「意見や商業取引上の方法を、互いに話し合い、各会員の能率を向上させること。」こんなふうで、5カ条の中の3カ条までが、もう、職業奉仕に関係した条文になっております。ここになりますて、相当職業の量と、取引の量とか何とかということよりもむしろ、職業の質的向上というものを、非常に強調してきた、という姿になってきております。

それから、1915年のロータリー第6回大会では、職業倫理訓というのもつくってあります。その職業倫理訓を、大体要約して申し上げますと、自分の職業を天職と心得る。商売相手を、心の友と考える。それから、取引上、利害関係のある全部の人を幸せにする。自分の力は全人類に尽すことだけに使うと、そのような職業倫

理訓を採用いたしております。

そんなふうで、だんだん、だんだん研究されて、改善されていっておりまして、そのころになりますと、ロータリアンは、ロータリーが、各職業に派遣した大使だと、したがって、その大使は、職業倫理の向上に努める義務がある、というような解釈がなされております。

まあ、そういうふうなことで、だんだんいまして、1954年に、我々が、いつも読んでいる四つのテストが採用されております。大体四つのテストというのは、ハーバードテーラーという人が、破産寸前のアルミニューム工場を、非常な熱意で、立派に立て直した。その立て直すときの経営方針だそうです。その経営方針を、4カ条にうたった、この版権を、そのままロータリークラブに譲渡されたので、その譲渡された年が1954年で、そのために、1954年に、四つのテストを、ロータリーが採用した、ということでございます。

まあ、そういうふうにして、次々に改善していくますが、実は、私も、経営学とか何とか、ということは、医者でありますので知りませんけれども、理事長であるために、労務管理の勉強とか、あるいは、人事管理とか、あるいは、病院経営の講習会なんかに、よく出てまいりますが、そんなときに、よく名前だけは聞いたことがあります。ドラッガー博士という名前は、そのドラッガー博士は、経営学の第一人者であるそうでございますけれども、そのドラッガー博士は、職業のことは、セルフの時代からフェローシップの時代に移ったんだと、フェローシップというと、他人と協調して、自分のためになると、他人と協調することによって、自分のためになるというのが、フェローシップの時代だと。ところが、そのフェローシップの時代から、サービスの時代に移ったと。サービスが基本じゃないと、世の中を豊かにし、明るくすることはできないと。この経営学博士が述べまして、それが、もちろん日本の事業界にもほうはいとして入ってきて、アメリカの産業界を支配

次へ

— 職業奉仕部会 —

したと言いますが、その精神が、ちょうど、ロータリーの職業奉仕の精神と一致するんだ、というふうな解釈をしとるようでございます。

まあ、そういうことで、5年にして1,600人になり、10年にして2万人になり、80年にしてきょう話を聞きますと、161カ国の105万人になったという、そこには、やはり、そのロータリークラブが、職業奉仕を基本にしとるというところが、一番すばらしいんじゃなかろうか、というふうに考える次第でございます。

何と言いますか、私たちがこういう理想境とまでは仲々いきませんけれども、ただ、目標としては、常にこういう目標で臨んで、反省の材料にしていきたいと、そんなふうに思っておるような次第でございます。

したがって、現在、いろんなことを言われますけれども、要約しますと、職業を通じて、社会のために尽すと、これは、人間であれば当然のことであります。常に公正な利潤を求める、明るく楽しい労働環境、労務関係をつくること、災害や公害を出さない職場にすること、こんなことが、大体今、ロータリーが望んでる職業奉仕の基本だと、私は考えております。

私はガバナーでも何でもありませんが、ひとつするとしかられるかもしれませんけれども、今言った、この職業奉仕ということは、人間であれば、ロータリアンでなくても、みんなが当然努めにやならぬことでございまして、ただ、いろんなロータリー以外に、奉仕団体はあるそうでありますけれども、職業奉仕を第一番目に基本的に一番大事なことだと唱えておるのは、ロータリークラブだけだそうです。そこに、ロータリーの特徴があると、私は思っております。ロータリーの職業奉仕は、もう当然、我々人間として、全部がどうせ努めにやならぬことでありますけれども、ただ、ロータリーが、特にこれを強調しておるというところに、ロータリーの特徴があると、そんなふうに私は考えております。どうも、少し偉そうなことを申し上げましたけれども、雑誌を読んだ受け売りでござい

ます。

事実、私は、しかし、常にそういう方向で努力はしております。

リーダー

只今、カウンセラーから、「ロータリーの歴史は、職業奉仕の歴史である」とのお話を頂きました。もう、きょうは、それだけでいいんじゃないかな、というような気がいたします。これが、実際基本でございますので、あとは、ロータリアンである皆さん方が、それを、ご自分の生活の中にいかに適用していかれるか、ということと、私は思っております。

しかしながら、アンケートのご回答を、皆さんからいただきましたので、その御報告を、副リーダーにしていただきます。また、アンケートのお答えをいただいた方に、それぞれその説明をしていただきまして、勉強の糧にしたいと思います。新岡さん、ひとつ、よろしくお願ひします。

副リーダー

アンケートの御報告をいたします。アンケートの回答は、45クラブ中35クラブ、回答率78%です。一番目の「ロータリアン必携」「奉仕こそわがつとめ」及び大村北RC発行の「ロータリーの心を尋ねて」の購読・活用計画について、という問に対しましては、活用しているクラブが7クラブですね、全会員が持っているというのが、大村ロータリークラブです。そして、例会で随時紹介している、新入会員の研修に利用している、というところが7クラブです。それから、購入し、活用したいというクラブが12クラブ、検討中というのが4クラブ、計画なしは12クラブです。

それから、3番目の間の四つのテストは、貴クラブでは、どのように活用されていますか。また、長崎RC発行の四つのテストのための例話集の購読、活用計画をお尋ねいたします。という問には、一番多いのが、各クラブとも、いずれかの例会日に、全員で唱和しているということです。

それから、各ロータリアン事業所に配布し、活用していただいております。

新入会員のとき、額入りの四つのテストを贈っている、というのが、ほとんどのクラブがそうです。

それから、四つのテストは、新年度ごとに、会員1名につき5枚を作成し、配布して、それぞれの職場、公会堂、文化センター等の目につきやすいところにかけかえ、趣旨徹底に努めています。というのは、平戸クラブです。

クラブ会員全員、事務所に掲示、というのは福江中央です。

テレフォンカードに刷り、全会員配布。列車時刻表に刷り、関係部門に配布、というのは佐世保ロータリークラブです。各会員事業所に、掲示はもちろん、会員外の公共機関等、公衆集合の場所に掲示、というのが生月クラブです。

それから、3中学校の校庭の一番目につきやすいところに掲げていると。白石とか、福富中学校の正面玄関前、それから、有明中生徒昇降口前、これは、白石ロータリークラブです。

それから、各事業所で、四つのテストを、社員の基本的な心構えとして活用しております、というのは、武雄ロータリークラブでした。

以上が、四つのテストの活用ですね。

それから、例話集の購読は、活用したい、というクラブが8クラブ、検討したいというのが3クラブ。何も回答なしが24クラブであります。

それから、4番目の、その他職業奉仕についての御意見を御披露ください、というのが、職業奉仕は、ロータリーの根幹であり、すべてのロータリアンが、身边にできる奉仕であると、個人一人一人が職業人として、綱領、四つのテストに照らして、ロータリアンたる誇り、自覚をもとに、奉仕に努力しなければならないと思います。1年ごとぐらいに、会員の会社を訪問し、そこで例会をし、各職場の知識と理解を深め、職業を通しての奉仕活動に努力しております、というのは、牛津ロータリークラブです。

それから、職業奉仕とは、とりたててこれを

こうするというような、固定されたものではなく、我々職業人は、日常の生活の中で、日々奉仕をするわけで、ロータリー精神というか、基本的にその人の人生哲学により成果があらわれると思います。したがって、一番目につかれない奉仕活動ではあるけれど、一番大切なロータリーの活動ではないかと思います。佐世保西ロータリークラブです。

それから、職業奉仕の事例を、週報、または期報に掲載するというのは、唐津西ロータリークラブです。

それから、職場訪問をしているクラブがたくさんあります。

それから、ロータリーのロータリーたるゆえんは、職業奉仕にあると言われているが、正直言って、職業奉仕活動はどのようにあるべきか、まだ、十分に理解できぬ点が多いので、御指導ください、という意見が圧倒的に多うござります。

きょうの発言をお聞きいたしましても、職業奉仕というのは、自分の職業を一生懸命やることだというのですけど、さて、職業奉仕とはと聞かれたときに、なかなか答えにくいというのが、職業奉仕であろうかと思います。その点を、きょうは、落合リーダーに、皆さんにわかり易く説明していただきたいと思っております。

そういうことで、この2番目の質問を出しておりましたけど、これの御回答というのはほとんどありません。なかなか、質問自体が受け取りにくく、また、御回答もできなかったことだろうと思います。そういうことで、この2番目の項目について、落合リーダーの方から、一つずつ補足をしていただきながら、説明を受けたいと思っております。

リーダー

ただいま、副リーダーから、アンケートの御報告がありました。私が、情報提供する前に2番目の事例に対して、回答が何人か来ておりますので、その回答を寄せられた方に、ここで御説明、あるいは補足を願って、皆さんのきよ

次へ

— 職業奉仕部会 —

うの勉強会の情報として、お聞きいただきたいと思います。

まず2番目の項目の、売り手買い手の関係で、鹿島ロータリークラブの山口光一さん、お願ひ致しやす。

山口（鹿島）

この問題に対して、どういう回答をすればいいか、非常に困りましたが、ロータリアンの中で、部品販売している、鹿島部品というのがございます。彼が、非常に団動車部品の種類が多い、自分の地区の整備工場が、恐らく20軒ぐらいあると思いますが、整備工場というのは、小さい工場が多くて、お父さんと奥さんと、それから子供、というくらいな整備工場ですが、その米倉君が、そういう若い整備の見習い、こういう方を集めて、そうして、無料で講習会をやる。そして、部品の取り扱い、それから、整備点検の仕方、自動車の部品の性能、そういうものを、講習会をやって、そうして、夕食を無料で食べさせてやりました。それが、10何名かでしたが、そういうことを、ただ、無料でしたために、部品が余計売れた、ということで、ただでしでももうかったよ、というようなことがありました。こんなことが、自分の仕事を一生懸命やって、喜ばれて、そしてもうかってる。これが職業奉仕じゃないか、というようなことで、ちょっと事情を書いたわけでございます。どうも失礼しました。

リーダー

どうもありがとうございました。ただいまの事例は、本当に立派な職業奉仕だと思います。いわゆる職業奉仕の、売り手買い手の関係の中に入るかとも思いますし、また、同業者関係のお互いに切磋琢磨して、そのいい仕事をしていく、というような例じゃなかったかと思います。

次に、佐世保南クラブの喜多亨さん、よろしくお願ひします。

喜多（佐世保南）

実は、ちょうどこの会をやるときに、新入会

員の当クラブの、ヤナセという外車の販売会社がございますが、その河原さんが、私の職業ということで、卓話をやりましたもんですから、このことについてアンケートの回答を書こうじゃないか、きょう河原さんがやった卓話が一番いいぞ、ということになって、取り上げた次第でございます。

実は、これが売り手、買い手のことについて妥当か妥当じゃないか、ということは、不勉強なもんですから、的を外れていやせんか、ということで、大変考えました。昨年の会長の松尾さんにお伺い立てて、売り手買い手関係とはどういうことをお答えすればいいでしょうかと、かくかくしかじか書いております、と申し上げたところが、実は、トラブルの発生とか、リコールとか、アフターフォローとか、そんなことを言うんであって、ヤナセの河原さんがやつる、こんなことでもって、商売やつるということは、だれでもやつるんじゃから、ちょっとピント外れじゃなかろうか、というような話をいただきまして、それじゃ、取り下げようかと思いましたけれども、皆さんが、たくさん提出されておるだろうと、また、思い直しまして……。実は、大村北クラブさんの例の書物を、私持っていましたので、売り手買い手関係のことを、何度も読み返してみました。要するに奉仕の心があって、それを職業に生かせば、売り手買い手関係のことについての回答になるであろう、というようなことに考えましたもんですから、あえて遅れて提出いたしたような次第でございます。

ベンツを売る、外車を売るということでございますので、これは、当然、我が国の貿易黒字の解消に一役買つとるんだ、というのが、河原さんの意見でございます。

それから、彼が、非常に国産車と外車の比較をして申し上げたわけでございますが、ベンツにおきましては、20数年前から研究し、装着しとる、というのが、エアーバッグという、車が正面衝突したときに、ハンドルの中心部から、

ぱっと、エアー袋が膨らんで、衝突の衝撃をやわらげるという装着が、ベンツにあるんだそうでございます。ベンツにお乗りの方たくさんおられましようけれども、これが、ベンツの、日本以外の車については、20数年前から装着しておると。これを、日本の輸入車が、昨年か、一昨年ぐらいから装着したんだそうでございます。0.0何秒かぐらいで、ぱっと膨れますので、60キロ以下ですと、ほとんど眼鏡ですら落ちない、というようなものだそうでございます。60キロ以上はどうかと申し上げたら、60キロ以上は、スピード違反だ、ということでございますけれども、(笑声)まあ、ほとんど眼鏡ですら落ちない、ということでございますから、60キロ以上でも安全だ、ということなんだそうでございます。

それを、ホンダレジェントが導入する、ということなんで、いわゆる、ベンツの新車ができるときには、国産車は、すぐ購入して、全部ばらして、研究やつるということなんだそうでございます。そういった意味において、先駆車たるベンツの、いろんな特徴については、国産車は、かなり研究し、取り上げられておると、そのことについても、貢献しとるんだ、ということの言い方をしておりました。

それから、3番目に、売るときに、このエアーパックの説明を、ビデオその他で、お客様にかなりしっかり説明して、買っていただいとる、ということを申し上げてきました。

それから、4番目に、購入車に対して、JAF、故障したときに、すぐふっ飛んで来てくれますね。あれの会費を、ヤナセが1年間負担して、お客様に、非常に便宜を図っている、ということと、それから、セーフティーキャリングと申しまして、安全ベルトの保険を、ヤナセが1年間つけておることでもって、お客様にサービスやつとる、ということでございます。

それから、国産車では、なかなかモデルチェンジを事前に説明しない。その前の古い型のを売ってしまわなければいかんから、なかなか事

前に発表しない、という空気が強いけれども、ベンツの場合には、それを、新型車が出れば、確実に皆さんに、間もなく出ますよ、ということで、ちゃんと発表して、お客様に選んでいただいておる。それで、中には、新車ではなくて、古い型の車がよろしいというお客様も、かなりおられますので、その御理解を願って、そういうふうなこそくな手段はやっておりません、ということを申し上げておりました。

大体以上のようなことでございます。

リーダー

どうもありがとうございました。本当に詳しく御説明いただきました。

ただいまお話になりました、河原会員の企業が非常に発展しているということでございますが、買う人の身になって、事前の真実を語り、それから、売るときも、誠意を持って売り、いろんな経費の面にも便宜を図ってやっておられるし、あとのこととも気を配ってやっておられるという、売る前、売るとき、売ったあとの立派な事例じゃないか、というふうに、私たちは考えております。

それから、もう一人の方、せっかく回答をいたしておりますので、埴生さん、東長崎クラブです。

埴生（東長崎）

私も、先ほど、佐世保南の喜多さんが言われるように、大体、唐津地区で地区協議会がなかったら、書かなかつたんですけど、実は、私、職業分類では建設業の土木関係をやっておるわけでございますけれども、たまたま唐津地区は、市内を、私が、あくまでも下請けでございますけど、長年仕事をお世話になっておるわけです。その中で、最近、3月の年度末で、ちょうど大島町というところに、下水処理場があります。その前は、前の国鉄の東唐津、その高架の国鉄の仕事をやってきたわけでございます。本社は長崎でございまして、仕事は、九州一円大体やっております。そこで、お互いに、端の長崎から唐津地区までの仕事の内容といたしまして、

次へ

— 職業奉仕部会 —

長崎から人を連れてくるのは困難でございます。あくまでも唐津の、この業界の皆様方の協力を仰ぐのが、一つの我々の職業の仲間、また、お互いの地域の発展というような格好で、唐津地区にお世話になったために書いたわけでございます。

それは何かと言いますと、技術屋は、あくまでも、我々が管理者として連れてくるわけであります。その上には、ゼネコンさんの管理者がいるわけでございます。作業をする方々の提供、そういうもののお世話ををして、そして、各地区地区の例えば、唐津市の下水道、あるいは国鉄の、今JRでございます。そういう仕事の、唐津地区に御迷惑のかからない、立派な仕事をするためには、やはり、地域地域の皆様方の協力を仰がなければいけないんじゃないかな。お互い手を握っていくのが、まあ、一つの職業奉仕じゃなかろうかと、こう私感じたので、書いたわけでございますけれども。

まあ、私どもも、九州一円、鉢巻のように巻いておるわけでございます。特に、九州横断道路なんか、ほとんどお互いの地域の仲間と手を取り合って、助け合って、安全管理、仕事の技術の施工、管理を、お互いに助け合って、お互いが潤うようにやっていくのが、一つの職業奉仕じゃなかろうかと思って、書いたわけでございます。そういうことでございます。どうも、御静聴ありがとうございました。

リーダー

ただいまのは、元請け、下請けと申しますか、あるいは、同業者関係と申しますか、非常に手を取って、共に発展しようという、これまさにロータリアンとしての職業奉仕だろうかと考えております。

事例に対する御回答は、以上でございます。本当に少なかったんですが、貴重な御報告でありましたので、各自の方々に御説明をしていただきました。

それから、ほかの項目について、例えばわいわい、あるいは経理の公開とか、公租公課、適正

賃金についての御回答は、事例紹介はあっておりません。先ほど、カウンセラーから、労務関係のことは、ちょっとお話しになりましたが、このアンケートは、これは失敗したなと思いました。自分のことはなかなか書けるもんじゃございませんので、皆さん立派なロータリアンで、職業奉仕を実際にやっておられる方々ばかりと思うんですけれども、なかなか、こういうところで発表ということはできないようでございます。

いつでしたか、長崎の、地区協議会に参りまして、そこでも、発表ございませんでしたけれども。ですから、私は、この2番目の、クラブ内、あるいはクラブ外でも結構ですから、奉仕をしていらっしゃる方の御紹介をしてください、と申し上げて、これを、きょうの研究会のテーマに取り上げたわけでございますが、その点ちょっと失敗したような考え方でございます。あしからず、お許しを願いたいと思います。

休憩

再開

リーダー

後半を始めさせていただきます。

その前にですね、アンケートの1問の、「ロータリーの心を尋ねて」これは、大村北クラブの初代会長、佐古亮尊さんが、ロータリーの研究の最高権威者である、中央大学の小堀先生が主宰されておりますところの、ロータリー理論の研究会「千種会」で、講義を受けられましたのもとにして、それを、クラブの例会で、5分間のロータリー情報としてお流しになった。そして、9年間、大村北クラブの幹事を務められた岡田さんが、この本の紹介をしておられますが、こういうことを書いておられます。

「例会ごとに何かを得ようという自覚のもと、例会が楽しい親睦の場になるように、奉仕の心を尋ねての5分間情報が始められた。この5年

間、ロータリーの発生史から、理論構造、実践編、あるいは、クラブ奉仕、社会奉仕、職業奉仕、国際奉仕と、今日までのロータリーを語り続けられて、週報に掲載された原稿は、980枚に達してある。この1枚1枚が、佐古さんのご勉強と精進があふれ、敬服のほかはありません。5周年記念に当たって、これを1冊の本にまとめたと、新会員のロータリーの理解促進、あるいは会員の反復勉強の教材にしている」という御紹介があつております。

ただいま、その本はないかと、心配してくれということでございましたので、会場に入りましたら、そこに、相当部数がございますので、御希望の方にお分かちしたいと申されておりますので、御紹介を申しておきます。

それから、ただいま、事例の中で、いろいろお話をありがとうございましたが、それに、ちょっと情報を流して、補足しておきたいと思います。

売り手買い手の問題ですけれども、物を売るときは、物と満足を売り、お金をいただくときには、お金と感謝を頂戴する。目に見えるものは物と金銭の交換であるが、目に見えない心の交流を残すことが一番大事だ、というふうにロータリーは言っております。

と申しますと、売る前は、誇大広告はいけません。四つのテストに、真実かどうか、この誇大広告の禁止の原則を立てております。

それから、売るときは、適正価格で売ること。売ったあとは、損をしてでもアフターサービスを立派にしてください、というようなことを、ロータリーは言っております。

それから、同業者問題ですが、自由競争を前提とするところの、資本主義社会においては、同じ職業の人たちは、同じ商品を売るということになって、乱立するのが通常でございます。食うか食われるか、ということになるのですけれども、ロータリーは、同業者の共存共栄の上に立って社会は成り立っていると考えております。

自由競争に惑わされて、他の業者への不信感、

あるいは誹謗、中傷、そういうものを禁じなければいけません。むしろ、それらの、同業者のおかげで、その刺激を受けて、自分の企業の発展があるという、根本理解に立つことが大切だ、というように言っております。

それぞれの同業組合、あるいは、医師会、歯科医師会、薬剤師会というのがありますが、各ロータリアンは、そういうものの協同組合、あるいは会において、会長、あるいは役員などをされて、そして、ロータリーの、例えば企業経営における原理原則を、同業者に流すということも、ロータリアンとしての大きな責任でございます。仕事でございます。「ロータリー通解」を書きました、ガイ・ガンディカーは、ロータリアンは、自己の職業分野に対して、ロータリーが派遣した、大使としての行動をとらなければならない。これは、先ほど、カウンセラーが申されたとおりでございます。お互い同業者は共存共栄をするのが、ロータリーの職業奉仕だ、というふうにうたっております。

それから、元請け、下請けの関係ですが、元請け会社が、例えば、自動車をつくる場合、数千、数百にわたる部品を、全部自分のところでつくるわけにはいきません。必ず下請けに出します。そうせんと成り立っていきません。ところが、元請けが力が強いと、下請けに対して、ダンピングを強要したり、あるいは、パックリベートを要求したりしがちです。しかし、下請けを徹底的にいじめて、搾取することは、実は自分の企業の商品供給力が弱体化される、ということを認識すべきである。ロータリーは、元請けと下請けの、これもまた、共存共栄の原則が打ち立てられることを提唱しております。四つのテストに、みんなに公平か、ということがあります。この四つのテストの4項目をですね、一口で言うと、どういうことかと言うと、人を泣かせて、自分の幸せを築いてはならない。これも、先ほど言わされましたですね。そういうことで、自分の関連職種も、共存共栄を願ってるわけでございます。

次へ

事例としてある土建会社の社長さん、この人は、軍人さん上がりで、陸軍大佐、そういう立派な肩書きの人が、敗戦のために、土建業に身を変えられて、最初はもう、軍隊式で、取って取り抜く、あるいは、部下を、叱咤激励するようにしてやっておられたのですが、このロータリーの四つのテストの講義を聞かれて、ああ、これは、おれのやり方は間違っておったなあ、ということで、今まで手形を切って、3ヵ月ごとに金を払っていく、そういうふうに関係業者に支払っておったのを、月々びしやっと現金でお払いされるように、企業の管理を変えられた。ところが、業者たちが非常に喜んで、それから、もう、極力協力して、その会社は、非常に繁栄した。というような事例があります。

次に、人間関係、あるいは従業員関係のことですけれども、これは、皆さん十分御理解できると思います。社長は、社長一人で、全部会社を経営することはできませんし、病院長は、院長だけでは病院の経営は成り立ちません。社長も病院長も、結局従業員、あるいは社員のおかげで、うちの企業は成り立っているんだ、ということを、十分認識をして、協力して、社員の優遇を、その優遇も、ロータリーは、調和ということを打ち立てるわけですが、そして、ともに幸せを築いていくのが、人間関係のことだ、というふうに言われております。

以上で、2番目の事例に対する情報をお流しました。

それと、昭和45年5月に、長崎ロータリークラブから発行しておられます、四つのテストの例話集、これも、なかなか心の糧になるようなことをたくさん書いてあります。これも、ロータリアンの必読の書かと思っております。

後半になりましたが、そこで、カウンセラーから、職業奉仕のことについて、先ほどお話をありがとうございましたが、この職業奉仕という記号文字は、1927年に提唱された、奉仕の四分類、クラブ奉仕、社会奉仕、職業奉仕、国際奉仕、その一つで、1927年以前は、ロータリーは、親睦

と奉仕の2分類法で活動をいたしております。すなわち、職業奉仕は、奉仕全般に含まれていたのです。そして、この職業奉仕が、先ほどのように、ロータリーの奉仕の実践の主体となっていた感があります。職業奉仕のことはよくわからないと言われるけれども、それがわかるようになるには、やはり、ロータリーとは何だと、ロータリーの本体はどういうことなんだ、ということを理解していただければ、おのずから職業奉仕のあり方というものがわかってくるんじゃないかな、というふうに考えます。

そこで、ちょっと時間をいただきまして、そのロータリーの本体を知るということは、どうということを勉強したらいいのか、ということを考えてみたいと思います。これは、やはり、ロータリーの綱領、クラブ定款第3条、ロータリーの綱領ではないか、というふうに考えます。このロータリーの綱領というのは、初期ロータリアンたちが、何十年もかけての試行錯誤の結果でき上がった、全世界のロータリアンの知性を結集した、国際大会の決議でありますから、ロータリーの表現の中では、最も優れたものであります。言うなれば、ロータリーの般若心経でございます。皆さん、ちょっと手帳を出してください。そこに、ロータリーの綱領がちゃんと書いてあります。このことについて、ちょっと情報を流しておこうと思います。その分析をしてみたいと思います。

最初にですね、ロータリーの綱領は、有益な事業の基礎として、奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に、次の各項を鼓吹育成することである、というふうに唱ってあります。これは原文の直訳です。これを、わかりやすく申しますと、「ロータリーは、奉仕こそ企業の基盤たるべきものと考え、その理想とする奉仕の心を育成鼓吹することをもって、その目的とする。その提唱にあたっては、以下の点に留意すべきである」となるそうです。経営の根底に奉仕を置くというところが中心概念であります。その奉仕の心というものを置いて、企業経営をやれ

というのが、綱領の基本姿勢でございます。

普通は、その企業の根底には、もうけを置くわけがありますが、私的利潤、いわゆる金もうけが目的であります。ロータリーは、それを否定するかと申しますと、否定はしておりません。ロータリーは、企業の根底にもうけがあるということを認めた上で、ここが大事と思うんですが、そのもうけとは何だと聞いてみるわけです。フレデリック・シェルトンが問題にしたのは、この点で、商人は商人で、もうかって喜び、お客様はお客様で、商人から品物を買って、幸せになる。そういう調和点がなければならない。これを、抽象的な言葉であらわしたのが、皆さん御承知のように、「利己と利他との調和」ということになります。ロータリーの奉仕とは、このことを言うのであって、一個の取引を通じて、物と金銭を交換するだけでなく、お互いに信頼関係を交換する。企業の根底に奉仕を置いて経営しておれば、必ずや厚い信用に支えられて、利潤が長期的に、安定的に入ってくる。そして、これが、もう一つの標語である「He profits most who serves best」 「奉仕に徹するものに、最大の利益あり」の意味するところと言えます。

本当は、もう、綱領もここだけでいいんですけれども、具体的に補足したのが、第1、第2、第3、第4の4項目であります。第1番目、「奉仕の機会として、知り合いを広めること」ロータリーは、一業一会员制をもって、会员を選考しますね、その選ばれた良質な職業人が、その良質な思考を例会に持ち寄って、友愛のうちに、切磋琢磨、自己研さん、そして、奉仕の心を育て、その奉仕の心が育てられると、自然にその人の一挙手一投足は、奉仕になるんだと、いうことであります。即ち、例会出席によって自分を磨くという、それ自体が、もう、奉仕になるのだ、というふうに解釈していただければいいと思います。

次に、第2は、例会での親睦、あるいは自己研さん、その実質的な内容はどんなことか、と

いうことです。フレデリック・シェルトンは、ロータリーの本体は、親睦と奉仕の調和と言うが、親睦とは何だ、お互いに心を磨くことだ。一業一会员制の原則によって、ロータリーの会員となった我々は、職種の違った職業人としての心を、それぞれ持っている。そのそれぞれの心をもとにして、私たちは、企業経営に専念し、企業経営を通じて、いろいろ苦しみ、試行錯誤を重ねた結果、それぞれの経営哲学を持っている。大学教授、デパートの社長、医者、あるいは商店、あるいは僧侶でも、あるいは弁護士でも、それぞれの職業に対する哲学を持っている。そういった異なった考え方方が、例会で、お互いに交換される。その利点としては、それじゃ、何ができるかと言うと、本当の企業経営観というものは、どこにあるんでしょう。ロータリー的に、どういうぐあいに見えるか、つまり、企業の根底に奉仕を置く、という考え方の基礎になるものは何か、ということですが、そのことについて、小さく三つのことが書かれております。第1番目に、「実業及び専門職業の道徳的水準を高めること。」 いわゆる企業の倫理的基準を高めていくじゃないかということ。

2番目に、「ありとあらゆる有用な職業は尊重されるべきである、という認識を深める。」 どんな小さな企業でも、あるいは、例えば小さな商店、個人商店であれ、大企業であれ、私的利潤を追求すると同時に、世のため、人のためになる契機をはらんでいる。そういう自覚を持って、大きな企業であれ、小さな企業であれ、あるいは、個人商店であれ、あるいは、地位の高い大学の教授とか、あるいは弁護士とか、そういう知的なことをやってらっしゃる職業であれ、そこに差別があろうはずがない、ということでおざいます。ということは、職業に貴賤なしとの自覚を深めることだ、ということが2番目です。

それから、3番目、「職業を通じて、社会に奉仕するために、その職業を品位あらしめる」と。これも、ちょっとわかりにくいんですけど

次へ

れども、先ほど申し上げましたように、企業は、単なる私的利潤追求だけではいけないと、我々が、職業をやってるのは、社会的責任を果たしているという自覚を持つべきである、ということで、そうすると、おのずから、自分の職業に対して誇りが出てくる。このことを、北沢敬三郎バストガバナーが、「自己の職業を天職と心得るべきこと」と、おっしゃっております。

以上、綱領の第2は、いわゆる親睦の実質的内容、すなわち、心を高める作業と同時に、職業奉仕の倫理原則をうたってあるのでございます。

3番目に、一人一人のロータリアンが、その個人生活、職業生活及び社会生活に、常に奉仕の理想を適用する。この理想というのを、心と置きかえられるとよくわかると思います。いわゆる、1・2で、奉仕の心ができ上がったら、その奉仕の心を持って、すべての生活面で、しかも、因縁のできたことから、実践しなさいよと、ロータリーの綱領は言ってるんです。これは私が言ってるんじゃないので、綱領が言っていることを、皆様にお伝えするのでございます。

そして、第4番目、地球全体を一つのコミュニティと考える、一つの社会と考えて、奉仕の心に結ばれた、実業人と専門職業人が、職業人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と、協力、平和を推進すること。という条項が加えられております。

まあ、この綱領が生まれた、その基礎となつたロータリーの思想の歴史というのがあるんですけども、これは、また長くなりますので、割愛いたします。このことについては、先ほど、カウンセラーからお話をございました、「奉仕に徹する者に、最大の利益あり」とか、何とか出てきました。それから、職業倫理訓のことも出てきました。これも、その当時、全米で、人類文化史上最大のロータリーが打ち立てたところの功績であると、非常に高く評価されてあるんですけども、1980年、国際ロータリーは、これを捨ててしまつております。しかしながら、

現在でも、この精神は、ロータリーの中に脈々と生き続けておりますので、その点、どうぞお含みおき願いたいと思います。

そういうことで、1922年に、大体綱領ができるんですけども、1935年に、メキシコシティー大会で改正され、さらに、1951年、アトランティック大会で、以前は、ロータリーの諸目的、objectsと複数だったのが、objectと、単数になっております。この単数になったのは、奉仕を、すべての行動の基本に置くという概念が確立された、ということを物語っているんだ、というふうに言われております。

今治ロータリーの森光繁先生は、ロータリーの根本精神は、奉仕の理想にある。したがって、この奉仕の理想は、我々の一切の生活の中に具現されなければならぬ。その一切の生活中に、奉仕の理想が適用されると言うよりも、一切の生活が、奉仕の中に没入している姿が、最も理想的である。かごに水を入れようとするから、なかなか難しい。水の中にかごを入れなさい。奉仕の理想の中に自分の個人生活、職業生活も、社会生活も、その中に投入してしまえばええんだと、自分の心を、奉仕の水の中につけて、そして、寝ても覚めても奉仕奉仕と言わなくても、心がその状態になっておれば、自分の行動は、全部奉仕の実践になるんではないか。企業の根底に奉仕を置け、というのは、このことなんですよ、と言われております。

奉仕の理想とは、奉仕の心だと、その奉仕の心はどんなことか、キリストの愛とか、釈迦の慈悲とか、そういうものが基本になってきてるんですけども、それは、余りに宗教的でございまして、宗教臭い。ですから、これを一言に言うと、奉仕の心とは、思いやりの心だと理解するのが、最もぴったりするのではないでしょうか。

以上、ロータリー綱領について情報を流しましたが、この綱領の提唱しているところの理念をもとにして、先ほどの事例の2の項の職業奉仕の実践各論を考えてみたらいかがでしょうか。

おのずからわかってくるんじゃなかろうかと思
います。

以上で、綱領の補足情報を終ります。

そこでですね、もう一つお願ひしたいことは、
それでは、皆さん方は、今期の職業奉仕委員長、
ひいてはクラブの理事ということになるんです
けれども、職業奉仕委員会は、それじゃ何をす
るか、どういうことをしたらいいか、といふこと
で、いろいろ問題があると思うんです。それで、ロータリークラブ細則の第8条、委員会の
任務、第2節、職業奉仕委員会、このところを、
ひとつ、お読みになっていただきたいと思
います。

その職業奉仕委員会の活動、あるいは仕事と
いうものがうたってあります。ところでですね、
よく、職業奉仕の実践と職業奉仕委員会の活動
とを、ごっちゃにされるので、わからないよう
になるんじゃなかろうかと思っております。

職業奉仕の実践というのは、これは、あくまで
基本として個人奉仕でありまして、優良従業
員の表彰は、社会奉仕的活動の分野が非常に強
い、職場訪問は、親睦活動の分野が強いわけで
あります。しかし、いずれにしても、職業奉仕
委員会があるから、職業奉仕の実践が行われる
わけではありませんし、ロータリークラブがあ
るおかげで、ロータリー運動に参加する個々の
ロータリアンの出会いによる親睦の中で、育てら
れた奉仕の心を、職業的・社会生活の中で、それを
適用することが、いわゆる職場で適用すること
が、奉仕の実践ということになるわけでござ
いますから、職業奉仕委員会は、何も職業奉仕
の実践と直接関係はない、というふうに理解し
ていただければいいんじゃないかと思います。

では、職業奉仕委員会は、どうすることをす
ればよいか、ということになりますが、1988年。
今度のロイス・アビーR I会長は、「あなたの
奉仕を、活力を、職業奉仕に」また、R Iの理
事会は、職業奉仕における新方針として、別紙
の資料のような、新しい方針を打ち立てておら
れます。このことを、ここで論ずるのはやめま

すが、R Iの職業奉仕に関する情報とお取りい
ただいて結構かと思います。なぜなら、国際ロ
ータリーは、各ロータリークラブの実践活動の
うち、どれが、どのクラブでも行える性質のもの
であるかを研究して、その実施の要綱を明らかにし、これを推進させ、かつまた、これらの
奉仕実践活動につき、有益な助言を与えること
はできるけれども、いかなるロータリークラブ
の、いかなる奉仕の実践活動に対しても、積極
的に、消極的にも命令する権限はいささかも
持つてはならない、ということが、決議34号には
はっきりうたってあります。では、職業奉仕委
員会としては、どうすることをすべきかと言
いますと、クラブ会員が、職業奉仕の実践に意欲
を燃やすように、働きかける活動をすることが
職業奉仕委員会の仕事じゃないか、任務じゃない
かと思われます。

まあ、いろいろあります。先ほど来御紹
介いただきました、職業奉仕の事例紹介、ある
いは事例討論会、あるいは情報の提供、卓話、
理念の提唱、あるいは、四つのテストの解説、
活用、そういうものではないかと思います。

ですから、先ほどの資料も、クラブにお持ち
帰りになりまして、クラブにおいて、御検討を
お願いしたいと思います。

奉仕の実践に関しては、綱領の主旨に反しな
い限り、クラブの自主独立権が、ちゃんと定款
細則にうたわれておりますので、これも、ひと
つ、胸にとめておいていただきたいと思います。

それから、最後ですが、大村北クラブの「ロ
ータリーの心を尋ねて」これはひとつ、よく勉
強していただきたいと思います。歴史からすべ
てずっと書いてありますので、よくおわかりや
すいと思います。

時間がなく、急いで申し上げましたので、お
わかりにくかったと思いますけれども、新岡副
リーダーに、ひとつ、親睦=奉仕ということに
対して皆さんにお話をしていただきたいと思
います。

副リーダー

次へ

ロータリーでは、親睦親睦と、よく申します。そして、奉仕という言葉も聞きます。しかし、私どもが考えたときに、奉仕という言葉は、なかなかわからないわけです。特に職業奉仕と聞いても、私どもは、どんなふうに解釈していいか、全くわかりません。そういうことで、ちょっと黒板に書いてみます。（注；内容別添）

親睦イクオール奉仕であります。しかし、職業奉仕と言われても、全く何のことかわかりません。我々は、一業一会员からなった会员であります。この一業一会员というのは、例えば、地域社会における職業の横断面をとらえて、その職業の、私であれば、印刷であります。印刷業を、その地方からたった一人しか選べません。そういうことで、一業一会员というのは、その職業から代表して、私であれば、唐津東ロータリーカラーブに入ったということになりますし、また、ロータリーの側から考えますと、その職業を一人入れるために、その人を通じて、ロータリーの良質な考え方というものを、その業界に流してくれる代表者と考えることができるわけでございます。そして、一業一会员は、良質な職業人でありますし、また、会社の管理者であります。この人たちは、管理者であって、一騎当千のつわものであります。この人たちが、クラブの、週1回の例会に出席します。もともと優秀な人たちでありますので、お互いに、他の業種と話し合ってですね、他の業種から、自分の持っていないよいアイデアというものを、例会ごとに吸収する、そして人格の形成、実力の涵養に結びつけていくというのが、ロータリーの例会でございます。ですから、例会に出席するときには、まず目的意識を持って出席する。結局、その例会から何かを学ぶ、という目的意識がないと、例会出席というものは、全然ダメになってしまいます。ですから、まず、例会に出席するときには、何かを学ぼうという姿勢が、心の中にはないといけない、ということが、まず第1点でございます。セルフというのが、大体英語では、自己とか、自分とか、自分の一念とか、

ということになります。一番下にそれがあったとしますね、例会出席、出会いの保証によって、お互いが切磋琢磨します。そうしたら、自分というものの心がですね、だんだん、だんだん高くなってきます。そして、奉仕の心ができてきます。その奉仕の心が形成されたら、ものの本質とか、本体というものが、心の中に見えるようになってきます。奉仕の心が生まれてくると同時に、実践というものにつながってくるわけです。奉仕の心を、例えば、家庭及び地域社会に適用したときには、社会奉仕になりますし、国際生活に適用したら、国際奉仕になりますし、職業的社會生活に適用しますと、職業奉仕になる、というわけでございます。私の利潤の追求が、同時に社会のためになるとか、社会的な役割を果たすというのが、職業奉仕ということになります。この中に、この奉仕の心が、すべての中に入っておかないと、ロータリーの奉仕にならない、ということになります。

ですから、一番大切なところは、例会に出席してですね、自己研さんを積んで、人格の形成に努めると、だんだん、だんだん自分の人格というものが上がってきます。そうしたら、奉仕の心の形成ができて、ものの本質というものが見えます。この本質でもって、すべてのことを実践していくなければ、奉仕にならないと、職業奉仕にしても、この本当の心というものを、あらゆる自分の職業に適用していくなければいけないと、こうしたときに初めて、自分の職業が、職業奉仕になるんだ、というのがロータリーの考え方なんです。どうも失礼しました。

リーダー

新岡さん、有難うございました。ここで、質問を受けたいんですけども、もう時間がございませんので、この辺で終わりたいと思いますが、最後に、カウンセラーから一言お言葉をいただきたいと思います。

カウンセラー

本当にありがとうございました。貴重な時間を、よくわからないような、わかったようなこ

とだと思いますが、しかし、あくまでロータリーの本質は、職業奉仕であると、各自の職業奉仕こそ、ロータリーの本質である、という自覚だけは、皆さん欲しいと思います。どうも、私が考えると、これはもう、ガバナーからしかられるかもしれませんけれども、ロータリークラブの発足当初は、やっぱり、実利主義から発足したと思います。だんだん、インターナショナルになるにしたがって、ヒューマニズムになってきたと、言うなれば、もう、日本にもそんな教えはたくさんあります。特に、私は、一番好む言葉に「一隅を照らす、これすなわち仏法なり」という。比叡山に行きますと、伝教大師が叡山大学の学生綱領の1ページに書いた文句がありますが、これが一番好きです。これを「一隅を照らす、これすなわち人類の宝なり」と置きかえたら、同じもんだと、私は思っておりまます。しかし、東洋的な大づかみにする発想は、なかなか外国人には受け入れられない、訳もしくいということですけれども、それと同じもんじゃないかと、私はそういうふうに思っております。

したがって、もう、ロータリーの本質は、あくまで各自の職業奉仕が本質だ、ということだけを、心にとめてもらって、一隅を、幾ら自分の灯は貧しくとも、小さくとも、その灯を燃え続かせてもらったら、社会が明るく幸せになるだろうと信じます。

どうぞ、偉そうなことを申しましたけれども、努めて申しましたので、皆さん、どうぞそういうことで、ひとつ、ぜひ頑張っていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

リーダー

さていろいろ論をつくして参りましたけれど、そろそろ時間でございます。

福沢諭吉先生の心訓7ヶ条の中に、「世の中で一番楽しく立派な事は一生涯を貫く仕事をもつことです。世の中で一番さびしい事はする仕事のないことです。世の中で一番尊いことは他人のために奉仕して決して恩にさせないことで

す」と訓しておられます。

また 250年前、京都の石田梅岩先生は、その石門心学の中に、「まことの商人は先も立ち、われも立つことを思うなり」と訓しておられます。短かいが、簡潔にして要を得た訓えと思います。「先も立つ」ことを思う、正にロータリーの理想とするところの「奉仕の心」に相通ずるものではないでしょうか。

国内的にも国際的にも、なかなか厳しい世相です。この厳しい世相の中で生き貫くために奉仕の心を、家庭生活、職業生活、社会生活、更に因縁が熟せば、国際的・社会生活にも適用され、本日ご参会のロータリアン各位の企業が長期に亘り繁栄いたしますよう祈念申し上げ、リーダーの責を果させて頂きます。

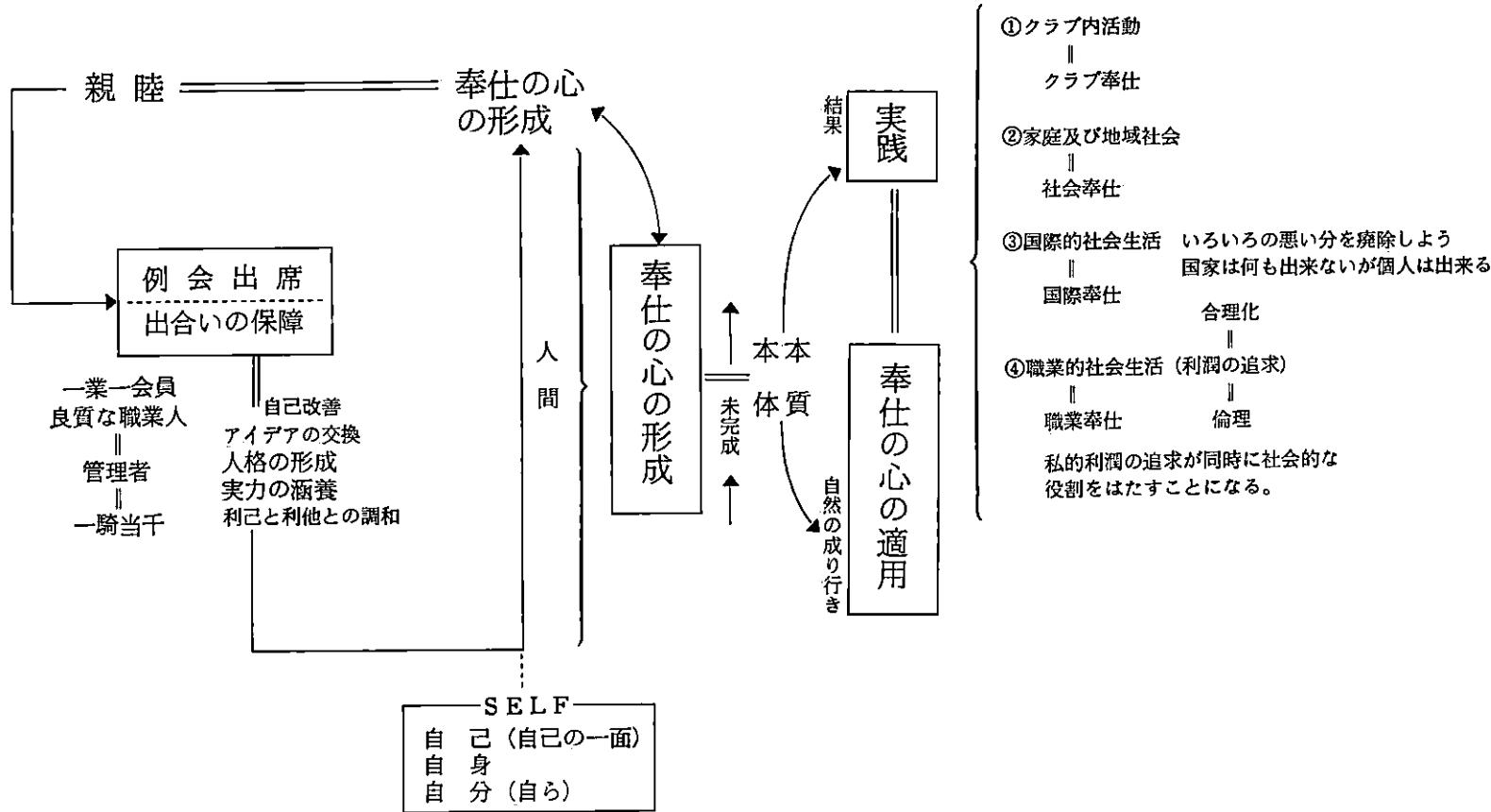
有難うございました。

次へ

職業奉仕部会添付資料

ロータリーの思想～真理

職業奉仕（職業の本質がわからぬと職業奉仕にならない）



社会奉仕部会

(含・青少年奉仕)



PG
カウンセラー 井 圓 之 (佐賀西)
リーダー 蒲 原 久 夫 (佐賀西)
副リーダー 宮 崎 弘 海 (佐賀西)

カウンセラー

皆様方は、次年度の社会奉仕の委員会をコントロールしていかれる立場にあり、また、青少年について、いろいろとお考えにならねばならぬ立場の方々ばかりがお集まりだと思うんです。先ほど、本会議において、辻がバナーノミニーから、次年度のおよそのR I 会長エレクトの方針、そしてまた、それを受け、辻ノミニーが、どのようにこの地区を、1年間引っ張ろうかと、こういうお話をなさいました。そのことは、すべて、我々の部門、この社会奉仕の委員会並びに青少年奉仕の活動をなさる方々にとって、大変心すべき問題を含んでおるわけでございます。

そこで、まあ、社会奉仕、皆さん一言で言えば、どういうことなのかなあと、社会奉仕と言うと、もう、通常言い慣れていますから、一体何をやるんだと、いういうことでしょうが、考えてみると、世の中の進歩というものは、非常に早いと言いますか、激しいわけです。その流れの中で、我々が所属しておるこの地域社会が、非常な変貌を遂げつつある。そこで、我々に何ができるのか、ということを、やはり考えなくちゃいかん、地域社会は何を我々にもらいたいと思っておるのであろうか、まあ、こういうことを、本当に見つけ出す必要があると思うんですね。そのことが、きょうの協議会の

次へ

~~~ 社会奉仕部会 ~~

一番大事な意味であろうかと思うんです。ロータリーが、今世紀初めにスタートしました。ポール・ハリスという、大変偉大な大先輩の呼びかけによってスタートして、今日まで発展をしてきておるわけです、さらに、それは、次の世紀へ向かって、ますます拡大され、発展していくかねばならない。その原動力になるものは何かと言いますと、やはり、我々が、本当に、きょうのお話があったように、一人一人の心に火を燃やしていく。これ以外にないわけなんです。私も、本当にそしたら、きょうは思わせていただいたわけでございます。そのことが、だれかが何かをやろうじゃないかと、じゃあやりますよと、そういうことだけでは、本当の意味の発展がないんだと、チェックしようと言われましたね。そのとおりです。自分は、何をなすべきか、何をやろうかと、そういう目でもって、周囲を見ます。自分のクラブを見ます。みずから掌握すべき委員会を見直してみる。これ以外にないような気がいたします。

そこから、必要なニーズを発見していくということが大事だと思います。とかくこの委員会の計画書というものが、マンネリになりやすい。そのことも、きょう指摘がありました。それを、ひとつ全部一遍消してみる。今までの委員会の計画書を、完全に塗り消してしまって、真っ白にして、そこで、自分がどうするか、というふうに考えていただきたい。そういうふうに思います。

リーダーが、大変経験豊富でいらっしゃいますので、いろいろと計画をしていらっしゃるようですから、そのリーダーの御指示に従って、きょうの会議を行なせていただきたい。私も御一緒に勉強させていただきたいと思っております。どうぞ、ひとつ、せっかくのチャンス、みずから望んでここへおいでになられた皆様方ですから、さぞかし意義のある勉強会になるであろうと、信じて疑いません。どうぞ、しっかりと御討議を願いたいと思います。

リーダー

この勉強会の持って行き方でございますけれども、部門では、一番多い人数だと、私感づいております。というのが、二つの部門と一緒にやるために、時間が非常に制約されると思います。社会奉仕部会と、それから、青少年部門、二つの部門を同一に、リーダーせなければなりませんので、時間の制約がございますので、初めに、社会奉仕部会を、大体40分ぐらい。その後、青少年部会に入りました40分ぐらい。そして、最後に総括的な勉強会を10分ぐらい持ったらどうかと、こういうふうな考え方方に立っております。時間がないので、十分の勉強会ができるないと思いますけれども、この点、前もって御了承を得ておきたいと思います。

スピーディーに進めたいと思いますけれども、何分不得手でございますので、皆さん協力を切にお願い申し上げておきます。

質問事項を3項目にしておりましたが、その3項目の線を、一応整理しまして、2枚にまたがって、皆さんに、今配布しております。それについての総括的な問題を、私の方から申し上げまして、部門的な問題で、要望なり質問がございます。それらのことについては、副リーダーの宮崎さんから説明をやらせますので、私の方からは、一応総括のことだけ申し上げてみたいと思います。

それについて、第1表の、予算関係ですが、これは、参考になるんじゃないかなと思いまして、各クラブの内容を書いております。この表から見てもらいまして、前年度と、いわゆる新年度と比較した場合に、ふえるところが七つあります。上から行きますと、第1分区の多久、第3分区の武雄、嬉野、第4分区の松浦、佐世保北、第5分区の島原、第6分区の福江。この七つのクラブが、前年よりも増加しております。

それから、減少しているところが二つございます。鹿島と、佐世保西でございます。そして、この数字から見ますと、大体において似通つておると見ていいんじゃないかなと思います。40万円以上組んであるところが、7クラブございま

す。あと20万円から30万円くらい、あの、青少年の方と比較しますと、青少年には、非常に大きいのと、小さいのと、ばらつきがありますけれども、社会奉仕部門については、大体均一化して、40万以上のところが7クラブある。こういうふうな数字が出ております。

そして、この社会奉仕部門を御報告願ったものを、全部見ておりますけれども、地域的、大体似通つておる、ということでございます。具体的に言いますと、佐賀県内の方では、あそこのクラブがやってるから、私のクラブも、ということじゃないかと思います。そして、反面、長崎県の方、いわゆる佐世保・長崎を見ますと、その社会奉仕部門の中に、小さな委員会ができております。佐賀では、ほとんどできておりませんけれども、佐世保・長崎については、小さな委員会、例えば、心身障害者委員会とか、それから、高齢者とか、いわゆる社会奉仕部門の中に、三つないし四つの小さな委員会が、さらに結成されて、その委員会で、細目的活動をしてある、というのが、報告の中に承ったわけでございますが、佐賀は、ほとんど社会奉仕部門一つになっておるようでございますが、この点については、佐世保・長崎にならって、やはり、社会奉仕を徹底するについては、小さな委員会もつくった方が望ましいんじゃなかろうかという、私なりの感じを持ったわけでございます。

これは、単なる提言でございます。そういうようなことで、今度のR I 会長からも、それから、次期ガバナーからも、社会奉仕については、非常に強く要請されておりますので、そこらの点について、勉強してもらえば幸いかと思います。

内容について質問があれば、あとでお答え願うことにして、細目について、2枚目のことについて、副リーダーの宮崎君から報告させておきます。この内容には、質問事項等もございます。また、要望事項等もございますので、あわせて、宮崎君から報告させます。

副リーダー

今、リーダーの方からお話がありましたように、これから、社会奉仕部門のことについて、我々の方から、アンケートを、皆様方にお送りいたしまして、それに基づきまして、整理をいたしまして、表題の方には、検討事項及び参考事項というふうにも書いておりますけれども、皆さん方の参考になること、あるいは質問というものについて、こちらの方に抜き出しております。

事業につきましては、かなりいろんなことをたくさんなさっていらっしゃるわけです、大体継続的に進められておることが大半でございますが、その中から、特に特異なものと言いますか、ほかのクラブで参考になるようなこと等について、ここに抜き出してあります。

まず、社会奉仕部門のところでございますけれども、長期的な事業に関して、質問をしたものがございまして、その中から、奨学金制度を設けておられるクラブが、唐津クラブ、それから、唐津西クラブ、佐賀クラブ、長崎クラブ、この4クラブが、奨学金制度を継続的になさつておる、ということでございます。その辺の奨学金制度を、どういうふうに設定されて、運営されておるか、ということを、これは参考になると思いますので、手短かにお話をいただけたらと思います。

浜崎（佐賀）

米倉会長のときですから、1986年に佐賀クラブで、30周年記念事業といたしまして、中央信託に1,000万円供託をいたしました。その利息をもって、奨学生を年間、今5名やっておりますのが、長期継続の、この奨学金制度でございます。

副リーダー

これは、対象は、学生は、高校生ですか、大学生ですか。

浜崎（佐賀）

高校生です。年間4名ないし5名やっております。

去年から利率が非常に下がりましたもんです

次へ

— 社会奉仕部会 —

から、どうしてもその対象が人数が下がって、減少してきました。以前は、佐賀銀行に預けて、その利息を充てとったんですけれども、30周年の記念事業といたしまして、1,000万円を供託いたしましたもんですから、中央信託に預けまして、そちらの方で、非常に利息面で有利になりました、人数がふえて、奨学事業制度が、かなり活発になってきたのでございます。

副リーダー

ありがとうございました。まあ、そういうふうで、佐賀クラブでは、30周年を記念した記念事業として、1,000万を信託に預けられて、それを運営なさってるということでございます。

山口（唐津）

唐津は、昭和39年から始まりまして、大体年間36万1,800円を、奨学金制度に充てております。その後、何年か後に、東クラブと共同事業となりまして今日に至っております。経済的に恵まれていない9人の高校生を選びまして、一人月額6,700円ずつ支給しております。

その選定の方法は、市の教育委員会に一任して、やっております。以上でございます。

副リーダー

ありがとうございました。

そのほか、長崎クラブの方、よろしゅうございましょうか。

増田（長崎）

長崎から御報告を申し上げます。

二つございますが、現在既に実施をいたしておりますのが、交通遺児に対する奨学金の支給、これはもう、約20年ほど実施をいたしております。この発端は高校あたりに進学している学生が、不幸にして、まあ、父兄の方が交通事故に遭うと、そのために、経済的な理由その他で、進学が続けられない。こういうふうな不幸な学生のためには、地方自治体の方でも、いろんな制度があるようでございますけれども、年度初めに1回、そういうふうな決定をする、这样一个ことで、次年度まで、その空白期間ができる。そういう事故に遭遇した場合に、その期

間を埋めるために、この長崎ロータリークラブの方で、何らかのお手伝いをしようと、まあ、こういうことで始めたわけでございますが、現状を申し上げますと、会員一人月額500円、これを、無条件で負担をしていただいております。合計で、実績では55万8,000円、これを、現在のところは、7名の子供さんに、月額9,000円、大体9カ月平均支給をいたしております。こういうことで、現在継続中でございます。

それから、もう一つ、青少年育成基金委員会、というのが、実は設けられております。これは、まだ事業は始めておりませんが、長崎クラブの創立50周年を記念いたしまして、お金を積み立てようということで、総額の目標を1,300万円、いろんな規定その他の要綱をつくりまして、準備が整い次第、具体的に事業を始めると、財源といたしましては、この金をもとに、この運用利子、をもってこれに充てようと。こういうようことで、現在計画を具体的に進めておると、こういう状態でございます。これは、中間的な報告になりますけれども、御報告だけ申し上げておきます。

副リーダー

はい、ありがとうございました。唐津西クラブの方。

有馬（唐津西）

これは、私たちの方は、青少年奉仕で、高校生に対しまして、奨学金制度を利用しておるわけでございます。私たちの地域は、3町1市にまたがっております、その中から9名、高校生を選びまして、月額5,000円だったと思います、それで、その選考方法はですね、一応、各町・市の、教育委員会の推薦ということで、9名を実施いたしております。

副リーダー

ありがとうございました。今、4クラブの方にお話をさせていただいたわけでございますが、そういう形で、主に高校生だと思いますけれども、奨学金を支給なさっていると。これは、まあ、長期的になさっている事業の中では参考になる

ことではないだろうかと思って、お話をいただいたわけです。

そのほか、もう一つ、特に変わってるなど思ったのが、松浦クラブさんの、市内の特殊学級の体験旅行を6回続けております、ということなんですかけれども、この辺のところ、お話、お願ひしたいんですが。

今里（松浦）

私も、2度ほど、この市内特殊学級、その体験旅行に、一諸に行ったことがあるんですが、今16名ほど、特殊学級の生徒がおるんですけれどもこの体験旅行というものを楽しみにして、待っています。毎年コースが変わるので、これは、学校側が決めて、それに、社会奉仕の方から、車と、社会奉仕の委員長、それに委員の方、会長、校長先生、それに、特殊学級を担当しておられる先生方皆様で、買い物とか見学、買い物なんかも、一つは、こういう体験をさせなきゃいけないという、ほとんど知恵遅れの生徒が多いものですから、それで、そういうのをやってるんですけど、これは、継続的にずっとやらなければ、いけないのじゃないかなあ、ということですね、私たちも一緒についていってみて、本当に、ずっと続けていくべきじゃないか、ということで、現在やっております。

予算は、一応10万円ということで、買い物は、自分の小遣い銭で買い物をするところに連れていくのですけれども、その予算の中には、交通費なんかは皆入ってます。又、クラブの方からは、最後にお土産1人1,000円程度ぐらい、持たして、その日1日を楽しくおくらせております。以上です。

副リーダー

はい、ありがとうございました。

それでは、2番目なんですが、いろいろ、社会奉仕ということで、事業をなさつておるわけなんで、事業がどうもマンネリ化しておるんじゃないか、ということで、寄せられておりましたアンケートの中を見ましても、大体、各クラブとも、ほとんど似たような事業をなさつておら

れるわけなんですが、これが、長く続いておりまして、マンネリ化しておると、これについて、どういうふうに対応すればいいのかとか、まあ、いらだちを感じているところ、というふうに表現なさつておられますクラブさんもあるようです。この中で、継続事業を見直したいけれども、新しい事業がなかなか見つけ出せないと、それから、これは、佐世保西さんの方から、その他のところに書いてあるわけですが、社会奉仕活動をやるについては、心のこもった奉仕をするように心がけるべきだと思います、というようなことが書いてあったんで、まあ、心のこもった奉仕とは、どんなことだろうか、ということとも、少し聞いてみたいと思って、ここに書き出しておるんですけれども、佐世保西クラブの次期社会奉仕委員長の武井さん、いらっしゃいましょうか。

武井（佐世保西）

私の書いておりることは、何も大きなことを言おうとか、特に目新しいことを言おうとか、ということではございません。全く地道な考えでございますけれども、新たに事業計画を立てようということを考えますと、なかなか実際、皆さんにアピールするというか、社会にアピールするというか、そういうふうなことを行うということは、なかなか実際困難なことが多いのでありますし、そういうことを考えておりますときに、その社会奉仕というのは、実際何であるか、ということを原点に戻って考えてみる必要があるのではないか、というふうに考えたわけです。それで、社会奉仕と言いますと、団体で行うということの前に、ロータリークラブというのは、奉仕を行う個人の集まりである、というふうな考え方をした場合に、例えば、ロータリークラブの委員会で、極端に言いますと、委員長ほか何名が、小数の人が寄付を持って慰問をすると、どうしても、皆さんお忙しいもんですから、そういうふうな形式になりがちである、というふうになるわけで、そうかと言いまして、皆さん全員が集まって何か行うという

次へ

社会奉仕部会

ことが一番いいわけありますけれども、皆様御多忙の方ばかりなので、実際、なかなかそういうことも難しい、ということもありますし、各個人の方が、奉仕活動を行うことによって、委員会活動が行われるということも、また一つのロータリーの原点に戻った考え方ではないか、というふうに考えているわけです。だから、このごろは、もう、物量豊富な時代ですので、何か寄付を行うということになりました、極端に言いますと、もう、相手にいただいてもらうと、奉仕活動を行うために、そういうふうな形式になることが多いんじゃないかなと。だから、そういうことではなくて、何かやはり、大きなアピールするようなことでなくてもいいから、社会の周囲の人に、ああ、これがロータリーの本当の活動であるなあ、というふうなことを、例えば、近くの公園の清掃を毎朝行うとか、それから、交通整理を毎朝行うとか、そういうふうなことは、皆さん会員の方、一人一人の方がふだんやってらっしゃる方も多いんじゃないかなと思います。だから、そういうことを堀り起こしたり、皆さん、どういうふうなことを行ってらっしゃるか、ということを、調査したり、そういうことによって、また、ロータリーの活動の一つになるのではないか。私個人の考えですけれども、特に具体的にこういうことと言うんではなくて、そういうふうな気持ちに戻って、また、活動方針を考えてみるということも、一つの大変なことではないかと思っているわけです。漠然とした話で失礼ですけど。

リーダー

ありがとうございました。

大体の概要を申し上げたんで、質問の時間に入りたいと思います。

今のですね、心のこもった奉仕とは何ぞや、というようなことについては、私も、社会奉仕委員長をした経験があるんですが、ガバナーその他の意見を聞きますと、非常に実質的にやりにくいんですね、ロータリーの社会奉仕というものは、はっきり言いますと。ライオンズは、

団体で社会奉仕をやりますし、それから、婦人団体は、あのソロプロチミストですね、これも、団体で社会奉仕を中心にやって、しかも、相当な金をかけて、世間にアピールするような社会奉仕ができるんですね。しかし、ロータリーは、団体ではしていかないとはなっておりませんけれども、個人の奉仕が主体になっておる、というようなこと等で、私が社会奉仕委員長をしたときにも、やるのは非常に困りましてですね、佐賀市の水をきれいにすると、清掃関係で、市役所で、用具がないというようなことで、その用具を相当寄付した経過があるんですが、恐らく他のクラブでもそうじゃないかと思います。質問の中に佐賀南の方も、それから、佐賀クラブからも、佐賀の4ロータリーの社会奉仕の合同委員会でも開いて、研究しようと思う、というような提案がなされておりますので、でき得べくんば、佐賀南クラブの方が主体になって、佐賀市内の4ロータリーで、社会奉仕を具体的にどうすべきか、どんなことをすべきか、ということを研究してもらえば、非常に幸いかと思います。報告されているものの小さなものを拾い上げてみると、よくやっていらっしゃるところがございまして例を申し上げますと、小城クラブでは、横断旗を200本、新入生の入学のときやっておると。

それから、有田クラブなんかは、新入学小学生にランドセルカバーを送っておるとか。

それから、唐津クラブには、唐津子供劇場に、助成金を出しておるとか。それから、松浦では独居老人の花見会をやって、非常に喜ばれておるとか。

北松浦では、3年積立てで、20周年記念事業として、地域社会の安全委員会に、本格的に取り組んでみたいと、それから、福江では、小さな島の無医村に、会員の先生方で、無料の診療報酬をしているとか。

それから、佐世保あたりでは、ロータリーの優勝旗を出して、ゲートボール大会の争奪戦をやってるとかですね、いろいろとやってあるこ

とがるるここに出ております。皆さんの方で、この点は、カウンセラーの意見も、私、ちょっと聞きたいけれども、ロータリーにおける社会奉仕事業とはどういうことを、念頭に置いてやるべきかと、皆さんにも、若干お迷いがあるんじゃないかなと思いますし、今、佐世保からの御質問が出ておりまして、私自身でも、委員長をやって、苦慮したことがございますので、また、今度のR I 会長にしても、次期のガバナーにしても、社会奉仕のことを大きく取り上げておりますので、いずれ具体的な指導方針が立てられるんじゃないかなと思います。そこらの点について、カウンセラーの方から、私見でも述べてもらえば幸いだと思います。

カウンセラー

大変お答えのしにくい御質問でございますが、これは、ロータリアンの、まあ、日本人が、非常に精神的であるということの証明かもしれませんけれどもね、個人か団体か、というような論議が、非常に盛んですね。それはそれで結構なんですけれども、皆さん、手続要覧をごらんになったり、あるいは、もっとわかりやすい言葉で書いた、ロータリアン必携というのが、各クラブにありますし、そういうものの中で、この社会奉仕に関する記述がございます。社会奉仕とは一体何だと、こういうことでございますがね、ロータリーの綱領、皆さん御承知と思いますが、その第3項に書いてある事柄を、実際に実行する。それが社会奉仕なんだ、というふうに書いてございます。社会奉仕とは何かということの提議と言いますかね、我々は、漠然と社会奉仕とは、という考え方方が、頭の中にございます。それを正確に表現せいと言われると、非常に困るんですね。そこで、綱領の第3というのは、こう書いてあるんですよ。ロータリアンすべてが、その個人生活、職業生活及び社会生活に、常に奉仕の理想を適用すること。これがロータリーの綱領の第3項です。実に的確に、ロータリーの社会奉仕とは何か、ということを、ここに書いてあるように、私は思うんですね。

これを実際にやっていくことが、実は社会奉仕なんだよと、で、それは、社会生活の中に、ロータリーの奉仕の理想をどう持ち込むか、これはですね、一人一人のロータリアンの問題であるわけです。それをやるについて、クラブは、その奉仕の機会を与えるチャンスを、幾らでもつくってあげようと、あるいは、自分が、その社会生活の中に、奉仕の理想を持ち込んでいくについて、なるほどそうだな、こういうふうにしたらいいな、というふうにお考えになるよう、クラブは、チャンスを与え、あるいはこうしてはいかがですか、というサジェストを与えると、これがクラブの仕事なんですね。で、奉仕というものを、一つの木に例えますならば、クラブ奉仕が根っ子だと、こう言われていますね。そして、職業奉仕は幹である。根がしっかりとしていて、幹が大きく育ってくればですね、枝と葉は茂るに決まってる。その枝や葉が、社会奉仕であり、国際奉仕であると、こういうふうに言われておるんです。

クラブは、先ほど申し上げましたように、一人一人のロータリアンが、この奉仕の理想を実際に実行していく。それについて、参考になるような、チャンスを与えるために、例えば、社会奉仕委員会は、いろいろなその地域のニーズを調査し、研究をして、ほかの行政機関がやっておる、あるいは、ほかのいろんな団体がやっておることで、これらはまだ不足だから、それを手伝ってやらにやいかん、という問題もございましょう。全く、皆さん気がついていないようなところに、この、必要なものがころがってる。よし、これは取り上げてやろう。ひとつ、この地域社会に、そういう気風を巻き起こしてやろう。こういうのが、新しいテーマになってくるんだと、私は思いますけれども。社会奉仕とは何かと言われたときに、我々いつも言っておる、ロータリアンとしての私どもの考え方、それを、みずから日常生活の中に、あるいは、みずからの職業の中に、さらにそれを通じて、この実社会に広げていく。そこが基本だか

次へ

らですね。ロータリアンの奉仕は、個人奉仕だよと、言われるわけなんですが、クラブは、それに、こうやつたらいいじゃないかと、こういうプランでおやりになれば、非常に大きな、地域に対する貢献になりますよ。よし、それはいいなと、やりましょうよと。クラブの全員がそれを賛成して、みんなが力を合わせてやれば、それは大きな力になるわけですね。で、外から見れば、それは、団体でやってるように見えるでしょう。しかし、見えたって一向に差し支えないじゃないですか。だから、団体であるとか、個人であるとか、その論議をしている暇があったら、行動した方がいいんじゃないか、というふうに、私は思うんですね。ただし、一人一人のロータリアンは、やはり、ロータリアンがあってクラブがある。そのクラブの連合体としてのR I がある。非常に数多いクラブになっておる地域も、世界じゅうにまたがっておる。したがって、管理をするために地区があると、地域がある。こういうふうにお考えになると、ロータリーの組織というものと我々が、何をしようとしているのか、ということが、かなりはっきりしてくるんじゃないかなあと、私は思います。そういう意味で、基本的に考えていけばですね、社会奉仕委員会は、こういうことをやってきたぞと、こういうことをやってきた。具体的な項目を眺めて、これは、非常にいいことじゃないか。まだ不十分のようだから、これを踏襲しますよと、まあ、一見非常にいいように見えるけれどもですね、私が冒頭に申し上げましたように、「一遍ちょっと消してしまって、今申し上げました、ロータリーの社会奉仕とは、というところから考え方直して、地域のニーズを見出していく。結果として、前と同じになることもあるでしょうけれどもね、そういう考え方で、我々は、奉仕を進めようではございませんかと、そういうことが、言葉を変えて言えばですね、ロイスアピー会長エレクトの方針であり、また、ガバナー・ノミニーが、きょう強調されました精神とも相通するのではなかろうかと、私は思っ

ております。

有馬（唐津西）

今、カウンセラーさんが言われたことはですね、なかなかいいことなんですねけど、非常に意味がわからないんですよ。どういったことかと申しますと、やっぱり、アイサーブ・ウイサーブとあると思うんですよ。ロータリーというのは、一業種一人ということになっておりますので。だから、自分たちの職業を通じてですね、ものを持って奉仕するのではなくて、職業を通じて奉仕するのが、社会奉仕じゃないかと、それも一つの手段だと思うんですね。ただ、私は見てみますと、一応ものをやってみたり、何かをするのが社会奉仕みたいな格好にとれますけれども、そうでなくて、まず、原点に返りまして、カウンセラーさんも、最初言われましたように、社会が何を私たちに求めておるか、ということでなくて、私たちが、社会にどうすればいいかと、また、発展ということは、現状を否定しないと発展はないですから、現状を否定していくことが社会奉仕につながると思うんですけれども、もう少しですね、どうしたらいいということを、言ってもらえばと思います。

カウンセラー

今おっしゃったのと、全く同じことを、私は言うつもりですけれども、意味不明であったとすれば、おわびを申し上げます。しかしこれ、何をやれと、こういうわけにはいかんのですよね。それは、お一人お一人が、必要なことを選択をして、おやりにならねばならぬ。ロータリアン個人個人の奉仕が基礎だからと申し上げておるわけですね。例えば、今の奨学金、本当に勉強したいんだけれども、金が足らんという高校生に、お金を上げるというのは、いいことですよね。みんなで出し合うのもいいだろうし、資金をつくって、それを寄託をして、そして、だれにやるかについては、私意が入らないように教育委員会に任せると、その中に、相談には乗る、といったような、相談というのは、その中の一員となって、話し合いをするとか、

具体的にいろいろございます。先ほど、私は、クラブ奉仕が根っ子で、幹は職業奉仕だと、その先に枝として、社会奉仕が出てくる。仕事と、いうのは、ボケーションというのは、天職というような意味があるんですがね、これは、その、そもそもの始まりを考えればね、原始共産主義じゃないけれども、みんなで一緒にやってたところから分業が発生をして、職業が出てきた、という歴史的な経過を考えますと、職業そのものが、社会のみんなの役に立って、みんなが幸せになっていこうという、その根源なんですね。自分の職業というのは、大体そういう意味を持つてるとんとんだと。ですから、職業奉仕が基本だということになるんですね。そういう、自分の仕事をやっていく。そのことを通じて社会に貢献するということなんですよ。しかし、じゃあ、自分の職業と関係がないから、これは、社会奉仕にならんかと言うと、そうじゃない。やはり、地域の中には、自分の職業とは直接かかわりはないけれども、どうしてもやってあげなきゃならぬような、いわゆるニーズがあるでしょう。そういうものを見つけ出して、ほかの、例えば、市が一生懸命力入れてやってることを、おれもやろうと、同じことやってもつまらんぞと、ちゃんと書いてある。だから、これは、一生懸命おやりになっておるが、少し力が足らんから、みんなで後押しをしてあげようとか、金を少し集めてあげたら、もっと効果が出るとか、いろんなケースがございます。だから、そういうものを見つけ出していくというのが、社会奉仕の仕事だということです。

リーダー

こういうような考え方もいいんじゃないですか。今カウンセラーがおっしゃったように、個人の社会奉仕を集積したものが、ロータリーの社会奉仕だ、と、集積したものという言葉は、僕はいい文句だと思うんですが。

カウンセラー

だからね、それは集まれば集まるほど力は大きくなるから、世界じゅうでね、R I が提唱し

ているけれども、命令一下やれじゃないんですよ。ロータリーは軍隊ではないんですから、あるいは、我々がやってる企業ではないんだから、企業ならぬ、社長が命令一下、これをやれと言えばね、社員は、皆やらにやならぬですがね。ロータリーはそうじゃないんです。さっき申し上げた、機会を与える、これは英語で、直訳的で、その辺が意味不明とおっしゃった理由だと思いますけれども、それはね、こういうふうにしたら、こんなすばらしい奉仕の種がありますよと、機会を与えてくれてる。そのチャンスを、それに乗るか乗らんかは、人々の自由意思に任せられている、というのが、ロータリーの特徴なんです。しかしながら、それが、本当にそうだなあと思って、みんながやったら、大したことになるわけなんですね。ポリオプラスなんぞも、実は、その中の一つなんですが、R I 会長が命令して、これをやるというのは、どうも軍隊的でけしからんぞと、こういう説が非常にあります。しかし、本当の意味は、今、私が申し上げたようなことなんです。やろうじゃないですか、という呼びかけなんですよ。ロータリーには、そういう命令はございません。だから、集まって大きな力になる。人が見れば、団体でやってるように見えますよ、と言ってるんです。それはどう見えてもいいじゃないですか。

リーダー

超我の奉仕とか、何とかわからんのがありますね。話聞くと、なるほどだなと思うけれども、実際実行しようとすると、いきあたってしまう、というような問題が、ロータリーにあるんですね。

副リーダー

今、2項の2番目のところの、継続事業の問題、そこまで絡めてのお話であったと思います。

大村クラブさんからの御質問事項と思いますけれども、各種団体、社会事業等への寄付の依頼が多く過ぎると。皆さんのクラブでは、どんなふうに対応されておるか、というふうな御質

次へ

社会奉仕部会

間でございます。大村クラブさんの方、ちょっと具体的にお話をよろしゅうございましょうか。

大串（大村）

実は、私、ロータリーに入りまして、余り長くなりませんので、過去にどのようなことがたくさん行われてきたかは、詳しくはわからないわけですけれども、ただ感じておりますことはですね、先ほどから話があつてあります、要するに、奉仕というのが、寄付をする団体じゃないか、というふうに、一般の皆さん方には、とられているんじゃないかなあと思うんですよ。ライオンズクラブが、どのように奉仕、どのようなことを行つておるのかは、余り詳しくは知りませんけれども、同じように考えて、ロータリークラブというのは、要するに、寄付の団体だと、寄付をしてくれる団体だ、というふうにとられがちじゃないかなあ、と、いうような気がするんです。そういう面からですね、いろんなことに寄付が言ってくるんじゃなかろうか、というふうに考えるわけですが、最近のところで来てるのは、これは、普通のことですけど、赤い羽の募金、緑の羽の募金、あるいはB C G 基金、あるいは手のない人の作品に対する寄付の要請とか、県下一周駅伝に対する寄付、あるいは、大村には、なごし祭りというのがあるわけですけれども、これに対する寄付の要請それから、何か銅像を、記念的なものをつくるので、それに寄付をしてくれとか、こういうことが多々あつているようでございます。恐らく、各クラブでも、そういうことじゃないかなあ、というふうに思つておるもんですから、皆さん方のクラブでは、どのようにして解決されておるのか、お尋ねしたいと、こういうことでござります。

リーダー

ほかのところはありますか。佐賀では、余り寄付ということはないように、私感じておりますけれども、赤い羽のごときは、街頭に出て募金するということで、ロータリー自体では、寄付はしておりませんが、ほかのところにも、そ

ういうようなところがございますか。寄付の要請されるところ。

案外ロータリー自体に、寄付はないように思うんですが、皆さんのところはどうですか。あっても、断つてあるんですか。僕も、それでいいんじゃないかと思うんですがね、共同募金のごときは、実際、私たちが出て、街頭募金して、その金を送るということであつて、ロータリー自体からは、羽は買っておりませんもんね。そういういたような持論を通してもらつてもいいんじゃないかなあという、私の個人の考え方ですけれども、寄付団体じゃないと。ライオンズにしても、ソロブチミストにしても、そういういたような寄付には、応じてないように聞いておりますけれども。

カウンセラー

だから、そういうところがね、ロータリアンがみずから判断してやるべきことであつて、もう、ロータリーは、寄付は一切しないんだ、ということではございませんので、その辺は誤解のないように、やっぱり、ロータリーは寄付団体だ、というようなことで、安易に言うくるものは、筋を通してお断りを申し上げる。そういうことが本旨であろうと思います。

リーダー

寄付のことで、これは、私は、グリコに20年おりましてね、社長の江崎さんが、しょっちゅう言いよつた。グリコには、ものすごい寄付の希望があるんですよ。その場合に、江崎さんが言われたのは、蒲原君、金額は少なくして、一番相手の喜ぶような寄付をせろよと、金を余計に出しては、だれでも喜ぶと、一番少なくやって喜ぶような寄付をやりなさいと、それは、おまえに任せる、というのが、江崎さんだったんで、これは真髄だと思います。もう、寄付は、どこも、各事業団ともお困りになると思うんですけども、相手の喜ぶようで、しかも、一番小さな金額でやんなさいと、その内容は、おまえに任せる、というのが、江崎さんの考え方で、これは鉄則だと思います。

副リーダー

この寄付の問題につきましては、今、リーダー並びにカウンセラーがおっしゃったことで、御了解いただきたいと思います。

休憩

再開

リーダー

この予算を見てもらいますと、さっき申し上げたように、非常に大きいところと、小さいところと、ばらつきが多いということですね。これについては、深く掘り下げる心要があるんじゃないかと思いますけれども、私の意見は省きます。ただ、この表の中で、去年度よりも新年度が増加しているのが、5 クラブあります。それから、減少しているところが1 クラブです。あと、39は前年並ということですね。そして、100万円以上の大きな予算が組んであるところが8 クラブございます。これらの内容については、あとで御報告願いたいと思いますが、2枚目の表を、参考までに申し上げますけれども、ローターアクト会員が、前年と今年と比較してみて、どこも減っておるんですね。ふえてるところが一つあったと思うんですが、佐世保東が、7名が17名になってあって、あのローターアクトは、全部減少しておるという、実際の姿ですね、これについて、いろんな問題もあるかと思います。それについて、あとで結論だと思いますが、各ロータリーとも苦慮されておりままでの、佐世保東が10名増加した一つのやり方というか、こういうふうにふやした、というようなお話を承れば、幸いかと思います。

それから、インターハクトについては、前年対比の資料がございませんでしたので、ことしのやつだけを出してますが、特に目につくのが、諫早の126名、それから、長崎南の65名、まあ、個々については、何か特殊な事情もあるかと思います。実際の運営をどうしてやってい

らっしゃるか、あとで承りたいと思います。それについて、細部について質問等もございます件につきましては、副リーダーから説明をさせます。

副リーダー

今、リーダーが言いました、増強になってるクラブの説明につきましては、後ほど承ることにいたしまして、まず、ここに書き出しております質問事項その他について、回答を、カウンセラーさんにお願いしたいと思いますが、一番の、福江中央さんからの、これは御質問なんですが、旅費・宿泊費の負担が多くて、自主的なクラブの活動費用が取れずに困ってると、補助規定を地区でつくってくれませんか、というお話を来ておるわけですが、これについて。

カウンセラー

地区で補助をしていただけんかと、これは、インターハクトに限りませんけれども、大変地理的な条件が悪いということでございまして、福江の皆様方は、非常にその意味で、ハンディキャップを背負いながら、活動を続けていらっしゃる。大変御立派であると、私は思うんですけれども、やはり、その心が、我々にびんびんと来るようないといかん、ということだと思うんです。で、やっぱり、お互いの思いやりというのは基本ですもんね、ロータリーの精神というのは、非常に難しい哲学的ないろんなこともありますけれども、かみくだいて言えばですね、相手の身になってものを考えていくという、非常に簡単で、明瞭な事柄を、実際にその気になってやってるかどうか、ということに尽きたんじゃないかと、ある側面から端的に言えば、それだけじゃないかと、私は思うんですけれども、そういうふうに思うならば、それだけ苦労してやってらっしゃる方に対して、ひとつ、何とかしようじゃないか、これは、一人で何とかしちゃっても、できるんじゃないんですね。それから、また、地区でガバナーが、そうしようと思っても、地区の皆さん方が、そこまでせんでええじゃないかと、何も1 クラブにだけそ

次へ

社会奉仕部会

みんなに補助をせんでもええじゃないか、という声が上がってくれば、これまた困ることになるでしょうし。ですから、そこらはですね、やっぱり、こういうところで、そういう声をお上げになるというのが、実際困っておられるということですから、私は、そう受けとめます。受けとめますが、だから、ここで、すぐに地区で補助金をつけるようにいたしますと、いうような、僭越な御返事は、私は申し上げきらんわけですけれどもですね、やっぱり、みんなでこれは考えにやいかんことだと思いますよ。ただ、甘えを持ってはいかんですね。やはり、それぞれが暮らしておるその地域というものは、それなりの歴史と、地理的条件というものがあるわけでございます。その中でやってるということが、非常に便利なところで、自由潤達にやれる人と比べて、うらやましいなあと、条件が悪いなあ、というふうに感じられることはありますけれども、それはそれとして、一生懸命やつれれば、周囲が、本当にこれはお気の毒に、何とかせにやならぬと、お互いがそういう気になっていくのが、自然の成り行きだろうと思います。だから、そういうものが、声として上がりましたよ、ということを記録にとどめ、また、諮問委員会あたりで、こういうのが出ていましたが、野田さん、実情どうなんでしょうと、野田バストガバナーが出ていらっしゃるんですからね、福江からは。立派におやりになった、ということは、これは、また別な意味でなにかを証明していると思うんですよ。条件が悪くてもやれるんだと、その気になりさえすれば、ということのいい証明だと思います。そんなふうなことで、お答えにならんようなお答えを申し上げましたけど、やはり、これは、みんなで考えるべきことだ、ということが、結論かと思います。

副リーダー

福江中央の方、よろしゅうございましょうか。

じゃあ、次の、唐津西高のインタークトが、正式なクラブとして認められていないと、クラブ員が、肩身の狭い思いをしています、とい

話ですね。

北島（唐津）

唐津クラブの場合は、唐津西高校に、インタークトクラブを引き受けているわけですが、この西高のインタークトクラブは、学校の正式な正規のクラブ活動として認められていないと、恐らく歴代の委員長さんが、学校当局に、その正規のクラブ活動として認めてもらうようにお話は何回かいってるはずだと思いますけど、現在、まだ、正式なクラブ活動としては認められていないわけでございます。その辺を、何か、カウンセラーさんに、いいアイデアがあったら、お聞きしたいと思いまして。

カウンセラー

この問題は、どこででもよくあるんですね。というのは、特にこれは、進学校が多いんです。そういうのは。進学校は、もうそんなところでやっとる暇はないぞと、まあ、はっきり言うとね、校長先生が、まずそういうことで、余り関心がない。いろいろお話しにいっても、そっぽ向いておられる、というのが、今まで多かったわけですね。ですから、もう、本当に御苦労様と申し上げたいんですが、やはり、そこはですね、本当にこうなんですよ、ということで、それこそ心を尽して自分の信念を吐露して、このようにやるんですから、決してマイナスにはならないということで説得する。やはり、インタークトというのは校長さん次第です。校長さんが、非常に理解を示して、よしやろうとおっしゃってるところは、担当の先生もですね、いい先生をつけていただけるし、したがって、その校長さんを、いかに動かすか、ということにかかわるですから、それを振り動かすくらいの熱意を持って、御説得を願いたいと思いますね。まあ、それしか方法ないですよ。これは、法律で何とかするとか、どうとかということじゃございませんのでね、やっぱり、我々の熱意でもって、校長さんが感動して、ようしやろう、というのが、一番遠くて近い手だ、というふうに申し上げておきましょう。

副リーダー

よろしゅうございますでしょうか。それでは、次のことがありますが、大村北クラブさんからの、学校側の消極的な協力に伴うクラブ員の減少、これは、両方ともアクトのクラブの会員が減少していく、活動も低下しているという、似たようなお話だと思います。これに対して、インター アクトクラブの高校生との親近感を密にするために、卒業生を送る会の実施と、これが、まあ、高校生との間のコミュニケーションを深めて、アクトのクラブ員を増強しようと、あるいは、減らないようにしよう、というふうなお話だと思います。こちらのグラフの方で、インター アクトの人員が多いクラブがあります。先ほど、リーダーが申しておりましたように、この会員の多数いらっしゃるところを、維持しておられる方法と言いますか、方策と言いますか、そういうことについて、参考になるんではなかろうかと思いますので、まず、諫早クラブさんのお話をよろしゅうございましょうか。

村田（諫早）

このインター アクトのクラブ人員の多いことは、先ほど、井田さんがおっしゃったように、高校の、諫早農校の校長先生の御理解が非常に深かかったのではないか、ということで、これは、非常に長い間こういった数字が維持されているように伺っております。以上です。

副リーダー

はい、ありがとうございます。長崎南クラブさん、いらっしゃいましょうか。よろしかったらお願ひいたします。

鶴田（長崎南）

うちの場合は、インター アクトができまして、大体13年ほどになります。会員がずっと減らないということは、まず、うちは女子校でございまして、商業高校でございますので、全員が就職ということになりますので、そういうような関係で、まあ、ほとんど長崎市内の就職でございますので、いろいろ口込みがありまして、私のところでは、就職をするときのアンケートを、

職場見学なんかをしておりまして、そういうふうな関係が広く生徒にしみ込んでおりまして、インター アクトの理解が、一つは得られておると思います。

それから、新入生が入学時にですね、呼びかけをいたしまして、350名ぐらい新入生があるんですけど、そのうちの、大体60名から80名ぐらいの歩どまりで、入会ができているようございます。最初は、校長が、変なもん連れてきて、こういうのは困るんですよ、というようなところだったんですけど、まあ、例会にも、ロータリアンも出席をいたしまして、いろいろと、そういうふうな協力を、お願いを、密にいたしましたところ、先生の方も理解がでましてですね、ひとつ、就職にもつながることだ、ということで、二、三聞きましたところ、就職の試験に行きました、そこの社長さんが見えたところ、バッジをはめいらっしゃるわけで、あっ、社長さんはロータリアンでございますか、と言うと、何か歩どまりがいいように、生徒に見えましてですね、なかなかそういうところの生徒がリアルしながら行っていることを聞きました。

それから、余りいろいろ奉仕活動ばっかりで、掃除ばっかり、掃除クラブだということがありましたのでですね、年に1回、留学生との交歓会をですね、四、五年前から、全員参加というような呼びかけをいたしまして、やっております。

現在は、留学生が、長崎に80名ぐらいいらっしゃるんです。それを、全員呼んで、それと、インター アクトの生徒の全員ですね、それで、大体150名ぐらいになるんですけど、それと、うちのロータリアンの方を入れまして、大体200名くらいのパーティーを、まあ、年忘れを兼ねましてしております。それが、なかなか好評でございまして、英語の勉強になるから、最初のうちは来た方がいいですよと、学校に呼びかけたところ、ああそれもいいですね、といったようなところで、それが、年々、皆さん方に伝わるんではないかと思うんですけど、一人の欠

次へ

―― 社会奉仕部会 ――

席者もなくですね、全員出席をしていただいている次第でございます。僕は、インタークトを、こう見ておりますと、カウンセラーがおっしゃいますように、やっぱり、校長と先生の協力がなかったら、幾ら協力をお願いしてもダメですね、それと、生徒にも、やっぱり、1年に1度ぐらいは喜びを与えると、元気が出るんじゃないかと思います。そういうところが、私の実感でございます。

リーダー

いろんな報告事項が、各ロータリーから来ております。それをかいづまんで、参考までに申し上げておきます。

神崎クラブは、中学、高校の優秀な生徒の功績賞で表彰しておる、それから、牛津クラブでは、新聞配達少年と青少年のスポーツクラブを表彰しておると。

それから、小城クラブのが、具体的にわかりませんが、特殊学童手をつなぐ親の会への協力、

それから、大概のロータリーがやってあるのが、スポーツに対する、いわゆる、賞品を出すとか、優勝旗を出すとか、それから、ロータリーのメタルを寄付するとか、スポーツ関係に、相当の協力をされておるクラブがたくさんございます。

変わつてるのが、武雄クラブで、少年少女発明クラブへの助成、具体的にどういうことかはわかりませんけれども、それに対する助成をやっておると。

それから、さつきも申し上げた唐津クラブでは、唐津子供劇場への助成、等あります。

副リーダー

それから、ロータークトクラブを、今結成する準備をしておりますということで、佐世保北クラブさん、それから、インタークトクラブの結成を準備しております、ということで、諫早西クラブさんから、アンケートにお答えをしていただいております。

あと、時間もそんなにないんですけども、先ほどの社会奉仕部門と、青少年部門と両方合

わせまして、皆様の方から何か御質問がございましたら、お受けしたいと思います。

松本（福江中央）

先ほどの寄付行為の問題で、カウンセラーから、いろいろとお話があったんですけどね、ポリオプラスの線があと4年間で、これは、寄付行為ということではなくて、どのように解釈をしたらよろしいですか。まずお願いします。

カウンセラー

寄付には違いないですね。ただ、問題はですね、ポリオプラスのそもそもスタートは、ポリオ対象だったわけですね。最初に、ロータリーでは、紀元2005年というのが、ロータリーの100周年です。その100周年の記念日である2005年までに、ひとつ、ポリオを駆除できれば、この地球上からですね、消滅できれば、大したことになるなあ、というようなことで、ポリオ2005という形で呼びかけられた。それと同時に、時を同じくしてか、WHOとか、ほかの大きな団体が、やはり、ポリオ及びプラス五つの伝染病、子供たちを伝染病から救おうではないか、ということで、呼びかけて、大きな運動を始めたわけですね。それに対して、ポリオの2005というのを発展させて、ロータリーも一緒になって、それをやって、その一部分を受け持つて、これを達成させようではないか、というふうに変わってきたわけなんですね。それで、ポリオプラスということになったんですけども、その運動の中で、国際ロータリーが引き受けるのは、ポリオの経口ワクチン、その調達を、ロータリーが引き受けましょうと、こういうことになつたわけです。しかもですね、それを、ただ引き受けましょうと言うても、それを、実際に実施していくについては、これらの団体の力だけでできるものではないわけなんです。例えば、ロータリーだけでも、なかなかこれは至難の業です。その援助を受ける国が、本当に腰が入らんとだめだと、国自体も、それを本当にやろうということで、予算を組み、その気になって、態勢をつくってやり出す。で、ロータリーは、

経口ワクチンを、調達しましょう、何人分要りますかと、その分、そこへ持っていくましようと、それから、同時に、ロータリーは、それをやってる国のロータリアンたちが、実際に行動をして、経口ワクチンを与えるについての、いろんな奉仕ですね、労力奉仕もしようではないか、というような、いろんな形で、今行われているのが、ポリオプラスなんです。最初ですね、日本は、この全体の1億2,000万ドルのうちの20%を引き受けようじゃないか、ということを約束してきているわけですね。そして、これを、4年間、一番初めは5年間、5年間でやりましょうと、一遍にしても大変だと、そして、その金額、大体換算すると、約40億になるんだけれども、そのうちの20億を、約10万人のロータリアンで、ひとつ引き受けましょう、残りの金を一般の企業に呼びかけて、そして、そこから寄付をもらいましょう、というような形であったわけです。ところがですね、今、田中丸ガバナーが、しきりに言っておられるように、病気というのはなかなか待っていないわけですよね。5年計画でやるから、そっちの方も、ひとつ、5年計画で、子供たちにとついてくれよと言うたって、ポリオのビールスの方は、こちらの注文どおりにはやってくれん。だから、もう、なるだけ早くやろうじゃないか、ということに変わってきてるわけですね。しかし、日本では、日本のポリオプラス委員会が、5年間でやろうと決めたんだから、それでいいじゃないか、ということで、了解を求めたところが、まあ、R Iの方も、そういうことでスタートするなら、それはそれでも結構ですよと、初め決めたとおりにおやりになってもいいですよと。だから、それでやろうというところは、自動的におやらにならう。田中丸ガバナーがおっしゃつておるのは、いつまでもそれを、やってるのも、毎年毎年のガバナー、あるいは会長も大変だろうから、もういっそ思い切って一遍にやってしまったらしいじゃないかと。その気になったら、できんほどの金額でもないじゃないか、という

のが、今のガバナーのお考えです。それもまた一理がある。ですから、クラブによってですね、2年でも、3年でも、もう、うちはそうやって決めてるから、それでいきましょうと言うなら、それでも結構です。したがって、ことしのフィラデルフィアの大会で、終結宣言があるんすけれども、それに対しては、日本は、それぞれの自主的な計画に基づいて、お約束したものは達成しますよ、という一札を入れるわけです。つまり約束をするわけですね。そういうことによって終わって、ということになるわけであって、実際にそれを調達する方法というのは、それぞれのクラブにお任せしますと、こういうことになっておりますから、その辺が非常に情報の伝達が錯綜しましてね、誤解が多いようですから、誤解のないように。だから、先ほど私が申し上げたように、命令一下するんじゃないんだと、だから、おれはそれに反対だ、という方があっても、これは別に、無理に取り上げなくてもいいんだけれども、この趣旨を御説明申し上げたら、まずは目の前に、昨年は何万人の人が、どこの開発途上国で、そのために亡くなりましたよと言ったときに、そんなのはしなくてもいいよ、という人は、まず数少ないだろうと思うんです。それでも、自分は信念を持って、もっとほかのことに金を使うよというんであれば、それも結構なんですね。だけれども、やっぱり、そういう呼びかけに対して、みんなでやろうじゃないか、ということですからね、方法は問わない。そういう特殊に信念を持つ方がいらっしゃって、ほかのことに使われたなら、その穴は、よしおれが埋めてやろうという方が、必ず出ていらっしゃると信じて疑わない。したがって、これは、達成されるものである、というふうに、私は思っております。

そんなことですからね、これは、寄付行為でないと言ったら、これまたうそになりますよね。だから、寄付は寄付なんです。しかし、そこに、それをやっていく我々の心なり、精神というものが一体どういうところにあるのかと、問題は

そこなんですよね。ですから、寄付をやっていいとか、悪いとか、そういう次元のところで、お互いに時間をつぶしたり、争ったりすることは、愚の骨頂じゃないでしょうか。そういうことはやめましょうよと、やりたいという人がどんどんやればいい、反対という人がおっても、けんかをする必要もないじゃないか。大体において、こういうすばらしい計画ですからね、そうだなあ、おれもできるだけのことをしましよう、というのが、まあ、普通のロータリアンの心であろうかと思っております。こういうことでお答えになるかどうかですけど、寄付行為であるか、ないかということはね、それは、寄付に違いないですよ。そのこと自体は。しかし、このプログラムというものはね、そういう経過をもって、今日まで来ておるし、現在、そういう方向で行ってますが、それについては、それぞれのクラブの自主的なあり方というものを、非常に尊重してですね、ポリオプラス委員会の方も、ことを進めようとしている。できればね、それが、あと3年ということではなくて、なるほど、そうなら、今やってしまおうや、という気運が出てくれば、非常にありがたいなあ、ということでございます。

松本（福江中央）

はい、少しわかりました。

奥村（諫早西）

先ほど、カウンセラーのお話ですね、マンネリ化というのが、ちょっと気になります、申し上げたいと思いますが、諫早西は、まだ3年目の若いクラブでございまして、創立以後ずっと続けておるのは、山と渓谷のキャンプ場ですね、キャンプ場の清掃を、春と夏の1回ずつやっております。それで、そのマンネリ化というのは、どうも気になるのでございますが、私たち、非常に楽しくこれをやっておりますのですね、どういうことを申し上げたいかと申しますと、社会奉仕というのは、自分たちも楽しみながら、長年続けてやるのが一番いいんじゃないかな、というふうな、気持ちであります。そ

ういった意味で、マンネリ化というふうなことで、どうも、皆さんこだわっているようでございまして、そこらあたりをお聞きしたい、というふうに思います。

カウンセラー

新しくスタートしたばかりのクラブで、おれのところは、まだマンネリ化しとらんよ、というお話だと思いますが、本当に楽しくやることは、一番大事なことなんですね。みんなが楽しんで、ああ本当に気持ちがよかったなあ、きょう1日汗を流し、あるいは、金を抛出して、一つのものを、この地域の中でつくり上げていた、という喜びに勝るものはないと思いますので、大変結構なことなんです。私がマンネリにならんようにと申し上げたのは、どちらかというと、まあ、私のクラブなんかも、その中に入るんですが、何十年という歴史を持ったクラブがですね、やはり、マンネリに陥っていないか、むしろ、私たち自身が、うちのクラブの計画書、もう一遍見直してみる必要があるんじゃないかと、そういう意味で、マンネリ化を排除しよう、という呼びかけをしてるんであってですね、別に、今おやりになってることがだめだとか、それは、全部一遍捨て去って、また新しく考えろと、そういうふうに申し上げておるんではないんです。ただ、ものの考え方としては、去年と同じことをやってれば、それでいいということではないんですよ。だから、一度足もとを確かめて、さらに、なるほどこれは必要だ、まだまだ活発にしなけりやいかん、ということもございましょうね。計画をつくるということは、何も、ロータリーに限らず、会社、あるいは、夫々のお仕事の中でも、毎年毎年事業計画をおつくりになる。ことははどういうふうにしてやろうか、というようなときにですね、やっぱり、隅々でチェックをして、これは絶対にもっと盛んにせにやいかん、ということがございましょうし、少し新しいものを取り入れようじゃないか、ということもありましょく、そういうものと、いわゆる、財務との兼

ね合いを考えながら、計画をおつくりねがいたいと。来年度が、出発するまでには、2カ月近くござりますね。そういうことで、この協議会が実施されているわけですから、その辺を、ひとつ、誤解のないように、できるだけ立派なクラブの活動ができるような計画をおつくりください。従来からやっておるいいものは、ますます伸ばしてください。そういう意味でござりますので、おたくのクラブもマンネリだ、と決めつけたわけでは決してございませんので。

リーダー

私たちの勉強不足で、皆さんの納得いくような会議になってないことをおわび申し上げます。

さらに、時間がないので、十分の御討議、勉強できなかったことを、リーダーとしておわびいたします。

最後に、カウンセラーから、まとめたお言葉を頂戴いたしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

カウンセラー

まとめてということほどのことではございませんけれども、社会奉仕と、青少年奉仕を含むということになっておりました。この部会のテーマがですね。青少年奉仕と社会奉仕というのは、全然別個のものかというと、決してそうじゃないんですね。私がノミニーであり、ガバナーであったころに、青少年奉仕というのは、大変大事な部門であるから、4大奉仕部門の中に、もう一つ柱をつくって、青少年奉仕部門というのを、びしゃっと5大奉仕の部門の一つとして持ち出そうか、という論議が、R I の理事会の中でも起こりまして、それを、どんな形でやったらいかと、詰めておったわけなんです。そこで、私がガバナーのころには、青少年奉仕も、ひとつ独立しますよ、ということを言うて歩いたんですが、今日に至るまでなっておりませんがね、それは、なっておらんのは、また、理由があるんです。私が言うまでもなく、皆さん方御承知だと思いますけど、青少年という、一番大事な問題は、この4大奉仕部門のどの部門にも深く

かかわっておるわけなんです。一つだけでどうということはないわけなんです。ローターアクトは、前から、社会奉仕の中でやりになれるということになっていますし、インターラクトというものがございます。それから、国際奉仕の中に、青少年交換という、非常に大事な仕事がございます。そんなふうに、あらゆるところに、青少年が入り込んでる。で、青少年部門とは申しませんけれども、R I では、青少年奉仕活動という、一つの大きな柱としておるけれども、じゃあこれは独立しているかというと、そうではありません。独立させてみて、仮にやったとしても、他の部門と密接にかかわりますから、ショッちゅう話し合いをしてなきゃうまくいきません。青少年というものが、一つ独立したから、まあ、おれたちは、そのことはかかわらないでいいよ、というようなことになったら、これまた、おかしくなってしまう。そういう意味だと思うんです。青少年部門が、5大奉仕部門の一つ、というようなことにならなかつた理由は、そこにあると思うんですけども、本当に、これから、21世紀を迎えるに当たっては、青少年を立派に育て上げることほど、我々にとって大事な仕事はないような気がいたします。そういう意味で、インターラクトも、いろんな御苦労がございます。ただ、インターラクトについては、これは、やはり、学校で教育を受けておる生徒さんたちですから、学校をそっちのけにして、ロータリーの奉仕の理想だけを持ち込んで、こうやれ、ああやれと言うてはいけないです。やはり、その学校の特徴と言いますか、一つ持つておる理想か、教育の精神がございます。そういうものを尊重しながら、その教育と両立させて、人間として大事な一つのあり方というものを覚えていただきたために奉仕活動、というようなものをやっていくわけですから、そこらを間違えるといかんのです。そういう趣旨というものを、十分に学校の先生方に、説いていただいて、なるほどそうだなあということで、御協力を願うようにしなきゃならぬ。

次へ

それから、ローターアクトが、非常に数が少なくなっています、各クラブとも苦労しているらしいです。じゃあ、数だけふやせばいいかというと、そういうわけにもいきませんが、やはり、これにはですね、各ロータリーの皆さん方が、各事業の中で、この人なら、というような人を、出していただくことも必要ですが、えてして会社の命令で来ました、という人は、長続きせん人が多いですね。やっぱり、本人がその気になるように、みずから会費を払ってでもやろう、というようなところへ持っていくないと、ローターアクトクラブというのは、活発になりません。実はきょう、お話を聞けなくて残念でしたが、佐世保東クラブのローターアクトクラブが、私がガバナーをしておって、訪問をいたしました折には、氣息えんえんとしておったんですね。もう、会員もですね、一桁に減ってしまって、これではもう到底続きませんよと、もう、本当に悩みの種のような状態だった。それが、今日11名になってる。そこで思いますことはね、やはり、それを提唱しておるクラブの担当の皆さん、あるいは会長、会員の皆さん、本当に、よしこれは何としても盛り上げにやいかんぞ、という気持ちになられるということです。それを引っ張るリーダーがおられるということ。だから、ローターアクトの中に、本当に、みんなを引きつけて、引っ張っていくようなリーダーが一人おりますと、ずっと膨れていくんですよ。だから、いろんな角度から検討してみて、やはり、基本的には、そういう原則を着実に守りながら、しかも、今の時代というものを、本当に取り入れたような形でやっていく。それが大事だと思いますね。インターハクトを卒業した人たちが、もうそれで、ロータリーとのかかわりはおしまいだ、ということでは、本当に何か寂しいということで、ローターアクトができたわけでもんね。じゃあ、ローターアクトは、ロータリーの何か養成機関かと言うと、決してそうではないんです。そこを卒業した人たちが、本当にそう思って、将来ロータリアンになって

いただければ、これに越したことはないけれども、ローターアクトクラブは、ロータリアンの養成だけのための予備学校では、決してない。本当に必要な若い人たちを、すくすくと伸ばして、我々の次の時代を背負ってもらう、ということですから、そこで、ローターアクトに限らず、ライラというものにも、非常に力を入れるわけです。ところが、ライラというのが、これは、ローターアクトが大部分、ロータリアンが大部分でね、一般の青少年の参加がわりと少ないですね。これは、ライラの趣旨から、かなりまだ離れたところにあるわけであって、やはり、みんなでその気になって、一般の青少年を、これに参加させてもらう。そのためには、参加しやすいような時と場所と計画でなくちゃならぬ、という逆説的なものも、また出てまいります。そんなことを、本当に頭を使いながら、この一番大事な青少年の問題というものを、社会奉仕と一緒に、やはり、真剣に考えてまいりたいと思うわけでございます。

国際奉仕部会



PG
カウンセラー 岩 永 光 治 (長 崎)
リーダー 本 城 好 春 (唐 津)
副リーダー 江 頭 紘 一 (唐 津)

はじめに国際奉仕に関するスライド
“地球上の同乗者として”を映写

カウンセラー

毎年、このように、次年度のために、地区協議会が催されるわけでございますが、先ほども辻がバナーノミニーがナッシュビルでのお話、そして、きょうの協議会の意義をお話しになりましたが、ロータリーの活動というのは、今年度のアビー会長が言われたように、「ロータリーに活力を、あなたの活力を。」というテーマでございます。きょうは、それに添って、私ども国際奉仕を担当する者が、どのようにして、

この1年間をやるか、ということの勉強会でございます。国際奉仕につきましては、もう、私がいろいろ申し上げるまでもないことでございますけれども、地区内45クラブの中には、まだ若いクラブもございます。古いクラブもございます。いろいろなクラブの代表の方がいらっしゃいますので、なるべく若いクラブの方々を対象としたお話をしなければいけないと、私は思うわけでございます。

そういうことで、非常に基礎的なお話になることが多いと思いますが、その点、ベテランクラブの方は、おわかりになってることばかりだと思いますけれども、あしからず御了解をいただ

次へ

きたいと思います。

まず、このロータリーの国際奉仕というはどういうことか、ということでございます。

御承知のとおり、ロータリーには4大奉仕部門がございますが、その中で国際奉仕の部門というのは、非常に各クラブとも、敬遠をされがちな、言わば高嶺の花のように言われがちでございます。それはもっともなことだと思います。しかしながら、先ほどの、スライドにもございましたように、我々ロータリーというのは、国際的な機関でございますので、自分の国のことだけが済むわけではございません。広くこの世界に目を向けなきやならないわけでございます。それが国際ロータリーでございますので、その中の奉仕ということでございます。設立間もないクラブの方々では、とてもとても国際奉仕なんか、まだまだ自分たちのクラブには縁がないように思われるかもしれませんけれども、こういう機会に十分勉強をしていただきまして、そして、なるべく早く自分のクラブに取り入れて、行動に移していただきたいものだと思います。

こういう機会がないと、なかなか勉強ができません。特にロータリーは、何かのこういう役を仰せつかりますと、必然的に勉強しようという気になるものでございます。

幸い、きょうの国際奉仕部会は、本城リーダー、そして、江頭副リーダーの、大変な努力によりまして、万端の準備をしていただいております。例えば、先ほどのスライドにいたしましても、これは、私の手元にあったスライドでございますが、そのままでは、全然おもしろくないんでございますが、すばらしいナレーションをしていただきまして、もうわかりやすいスライドになっております。これこそロータリーの国際奉仕だ、ということでございます。そういう準備もしていただきまして、本当にありがたいと思います。

また、お手元には、各クラブからいただきましたアンケートを、立派にまとめていただいて

おりまして、本当に、私、リーダー、副リーダーに対しまして、これだけの準備をしていただきましたことについて、この席をかりまして、改めて厚く御礼を申し上げたいと思います。本当に御苦労さんでございました。

そういうようなことで、この部会が持たれるわけでございますが、皆様方の、これからやろうとすることにつきまして、いろいろお話をあらうと思いますが、これは私見と言つてもいいと思いますけれども、私も、国際協議会で、いろいろ勉強させられてみると、国際奉仕の重要性は、行ってみて初めてわかったんでございますが、このほかの4大奉仕部門の中で、このくらいロータリーらしい重要なものはないんじやなかろうか、と思うようになったんでございます。しかも、この日本のロータリーというのは、もう、今や世界のロータリーの中でも、非常にいろいろなことのできるクラブでございます。それは、お国の事情でそうでございますが、ロータリークラブによっては、非常に貧しい国のロータリーもたくさんございます。先だって、インドで、アジア地域大会がございましたが、私もそれに出席しまして、インドの状況をこの目で確かめて、これは、大変な国だと、本当に行ってみなければわからないんでございまして、あれほど貧しい人々がおられるということを見ることができました。ボリオのお話にいたしました、あれは、まことに、行ってみなければわからないなあと思いました。そういうふうなことを、我々に教えてくれるのが、ロータリーだと思いました。

そういう国際奉仕も、国によって、そのように違いがある。したがいまして、例えば、世界社会奉仕にいたしましても、援助を受ける側と、援助をする側とでは、もう、全然話が違うわけでございます。幸いにして、日本は富める国でございます。したがって、やはり、援助をする側でございます。する側は、まことにこれは楽でございまして、要は資金を提供する、あるいはまた、最近は、ものを登録をするというやり

方もあるわけでございまして、その仲介を、R Iの方でしてくれておるということで、まことにこれは都合のよくできた組織でございます。そういうロータリーの組織が、非常にうまくできておるということに、私は感心をしているわけでございます。

いろいろございますが、青少年の交換にいたしましても、我々のところから派遣する交換学生が、どのように恵まれておるかということは、もう、皆様方おわかりのとおりでございます。

そういう日本の、我々恵まれたロータリーが、国際奉仕をどうするか、ということは、他の国に比べますと、非常に楽な立場にあるわけでございます。そういうものを、クラブが参加しなければならないのに、これも、なかなか参加されないわけでございまして、私に言わせますと、日本のロータリーでは、もうすることはない。国際奉仕以外にはないんじやなかろうかと、極言すれば、私は、そう思うくらいでございます。ほかの社会奉仕、いろいろあると思いますけれども、ロータリーは、一生懸命探して回らなければ、そういう地域の奉仕というものは、なかなか少なくなってしまっているのではなかろうかと思います。そういうことから言いますと、若いクラブの方々も、よく考えてみると、地域への奉仕を、老人の問題、あるいは恵まれない子供の問題と言うけれども、もう今、そんなものの奉仕を探すのは、大変むずがしい。だから、むしろ、国際奉仕の方に進んで、クラブが若くても、早く進んでいただきたいものだと思うんでございます。そのように事態は変わってきております。

そういうことでございますので、高嶺の花と言わずにぜひ各クラブとも、国際奉仕に足を突っ込んでいただきたいものだと思います。いろいろ統計を見せていただいておりますけれども、今申し上げましたように、世界社会奉仕にいたしましても、あるいは青少年交換にいたしましても、各クラブとも努力はしていただいているところでございますが、実行がなかなか難しいよ

うでございます。今日辻ガバナー・ミニからロータリーに活力を、ということで、活力とは行動を意味する、というようなことをおっしゃいました。行動を伴わなければ、何にもならないわけでございます。

どうぞ、そういうことで、国際奉仕に進んで参加していただきたいと思うわけでございます。

いろいろお金の問題もあるでしょう。あるいは、言葉の問題もあるでしょう。いろんなことが障害になってると思いますけれども、その障害を、いつまでも乗り越えることができないならば、この国際奉仕は実行ができないわけでございます。そういう意味合いで、どうぞ、ひとつ、皆様今日のこの部会で、十分勉強していただきまして、進んで国際奉仕を、クラブの一番大事な部門として取り上げていただきたいものだと思います。

リーダー

総論につきまして、岩永カウンセラーから、具体的にいろいろお教えいただきまして、ありがとうございました。

それでは、私の方は、そういうふうなグローバルな総論でなくて、皆様方のアンケートを見せていただきまして、非常に切実な問題もいろいろあるんだなあ、ということがわかりましたので、そういう各論につきまして、いろいろ御説明したいと思います。

この協議会の資料の方に、定款細則とか、非常に固い話はいろいろもう書いてございます。それで、私、もう、こういう固いお話はやめにして、お持ち帰りいただきて、お読みいただければ、御参考になるかと思いますので、きょうは、この、いただいた参考資料のアンケートの後に、地区の現況等、いろいろ関係のあるものを入れております。

まあ、地区協議会は、先程、ガバナーとか、ガバナー・ミニーがおっしゃったように、まあ、勉強会でございまして、今日みたいに、非常に天気のいい日に、缶詰になって、クラブの指導者を教育しなければならない、というように書

次へ

いてございますが、まあ、非常に御苦労と思いますが、2時間をお付き合いいただきて、私もよくわかりませんでしたけれども、地区協議会というのは、IGFと違いまして、フォーラムではないと、それで、RIの方針、ガバナーがお聞きになってこられたことを、クラブの方に伝えて、いわゆる、情報伝達をするんだ、ということございまして、だから、膨大な資料を差し上げてございますが、そういうふうに、一方的な上からの連絡が、今日は多いと思いますけれども、御了承いただきたいと思います。

それで、私も、いろいろ資料調べておりますから、たまたま二、三日前の日経新聞にですね、政治の話になりますが、竹下首相が、政権発足以来、「世界に貢献する日本」というのを政策目標に掲げて、対外経済援助の拡大を公約して、GNPの0.4%をやると、従来は0.3%を割って、海外援助をしておったそうでございますが、今度は、竹下さん、非常にはりきりまして、貿易摩擦とか、円高、いろいろの問題がありますので、国際環境の中で、日本が孤立してはいけないということで、海外援助計画に、GNPの0.4%までやる、ということを公約しております。

ロータリーは、もう既にこういう政治問題が起こる相当前から海外援助には力を入れておるわけですが、こういうふうに、ぼちぼち政府も力を入れつつあります。先程、カウンセラーがおっしゃったように、私、アンケートを見せていただいたところによれば、世界社会奉仕とかわからないと、それから、国際交流なんか、どんなもんかわからない、という御質問もたくさんいただきました。私自身もよくわからなかつたんですが、いろいろ文献を取り寄せまして、わかったわけでございます。そして、やっぱり、ロータリー運動というのは、親睦から始まったわけでございますが、クラブ奉仕、それから、職業奉仕、社会奉仕、それが、さらに拡大して、国際奉仕に至つておるわけでございまして、日本は、かなり大きな先進国になってしまったん

で、今おっしゃったように、今からやるのは、もう、国際奉仕しかないんじゃないかな、というように、私も思つておるわけでございます。

しかし、国際奉仕になりますと、具体的にどうしていいのか、ということが、いろいろ質問がございます。昨日も、カウンセラーと夜一緒になったときに、2万円金が余ったけれども、これはどうしようか、というお話で、あるクラブが、インドの方に送つたら、あとの方で、男の人が立った写真と一緒にお札状が送ってきた。インドでは人口問題が起こっておりますけれども、2万円でパイプカットができたというので、そのパイプカットをした男の人の写真と一緒に、お札の手紙が来た、というふうな事で、我々では、2万円の金をどうしようもない、というようを感じますけれども、後進国では、それで、人口問題が解決できる、というようなことでございますので、まあ、いろいろ方法はございます。今日はまた、そういうお話をしたいと思っております。

それで地区組織としては、13委員会がございまして、そのうちの七つが国際奉仕に関係がございますので、最初、地区の現況を、私、委員長の方からいただいたレポートの範囲内で御説明いたします。

一番が、世界社会奉仕でございますけれども、添付資料の7ページをお開き頂きたいと思います。これには、地区としてする世界社会奉仕と、クラブとしてなさっているところもございます。新しいクラブでは、こういうプロジェクトは、初めてごらんになる方もおられると思いますが、RIに資料室がありまして、そこに登録いたしますと、プロジェクト交換、WCS、ワールド・コミュニティー・サービスというのを、毎年地域別にメニューをつくって、国際ロータリー中央事務局の世界社会奉仕プロジェクト交換室というところに登録するわけです。それで、左の2行目に書いてございますRIリストナンバーというのがございますが、こういうふうに、ナンバーで登録いたしまして、プロジェクトを、

受ける方の側の要求がいろいろ出てくるわけです。その具体的なやつを、私取り寄せてみたんですが、アメリカ大陸、アジア太平洋、それから、ヨーロッパ大陸と、三つぐらいの地域に分けて、このようなリストがございます。小規模というのは、1,000ドル以下ということですね。中規模になりますと、1,000ドルから5,000ドルまでの援助、5,000ドル以上になりますと、大規模の援助ということで、こういうリストのナンバーがついてございますので、これからどういうふうな援助をしたいか検討して、まあ、1,000ドル以下でございますと、今、為替レートにいたしますと、13万円以下の、小規模な援助ができる、ということになるわけでございます。こういうのを取り寄せてみて、いろいろと、相当なページがあるのが判りました。アジアだけで、これだけの援助を求めているところがあるわけでございます。特に、長崎北、長崎北東の方は、クラブとして、現実にこういうふうな世界社会奉仕をなさっておるわけでございます。

地区としては、今年田川さんが委員長でございまして、お聞きしましたら、今年度は、田中丸ガバナーが、ポリオ一本でいこうということで、地区の予算は、全部これに投入されたということで、具体的には、今年は余り活動しておられないようでございます。来年は、ことしの5月で、ポリオの募金も終了ということを宣言いたしますので、また新たな行動に入られるかと思いますが、こういうふうに、世界社会奉仕は活躍しておられるわけでございます。

それから、次の国際交流でございますが、国際交流は、これも、新しい委員会の名前で、私も、実際、具体的にどういうことをなさっているのか知りませんでした。それで、委員長の方に資料を送っていただいたんですが、これは、カウンセラーの岩永バストガバナーの時代にできた委員会だそうでございます。それで、大阪以南にはどこもないらしいですね。具体的には、さきの世界社会奉仕と、青少年交換との境界線が不鮮明で、なかなか任務が明確でない、とい

うようなお手紙をいただきました。そして、具体的には、岩永ガバナーのときに、韓国に、インタークト、ロータークトの方を、国際交流なさっておられるわけです。ところが、向こうを今度は受け入れの段階になりました、ちょっと頓挫しているのが現状でございまして、来年は5月に、ソウルで世界大会がございますので、辻ノミニーもおっしゃったように、我が地区では、特に、姉妹クラブが、韓国には七つぐらいあるらしいです。それで、500人ぐらい、ソウルの方に行っていただきたいと、これも、一つの国際交流になるわけでございますので、皆様の御協力ををお願いしたいと思います。

それから、次が、国際青少年交換でございますが、これはもう、ページの1と2に、おいでになった方のリストがございます。もう、この運動も長くなりまして、相当固定化しております。私の娘も、もう10何年か前に行かしていただきまして、現実に、青少年交換の成果を上げております。こちらの方は、御説明するほどはないと思います。

時間の関係で急ぎますが、次が、ロータリー財団奨学でございます。これは、3ページと4ページを見ていただきますと、財団の奨学生と、3ページには、ロータリー財団の寄付の状況が出ております。これも、富永委員長からお手紙いただきましたけれども、せっかく財団で、向こうにおいでになって、お帰りになっている方が、いざ、今度はOB会がございまして、この学友ということで、オリエンテーションのために、新しくおいでになる方に、OBの方から御説明いただこうということで、お集まりいただこうと思ったら、たった一人しかおいでにならない。それで、欠席が11名、さらに、今度は、転居不明、どこに行ったか行方不明、というのが5名おられる。回答は全くないという方が5名ということで、ロータリーの貴重な財団のお金を使って、勉強しにおいでになって、あとが行方不明と、これではいけないということで、財団の名簿を整理しなければならない、という

次へ

お話をございます。せっかく行って、ロータリーのために何かの貢献をしていただきたいと思うわけでございますけれども、全然その名簿がはっきりしてない、ということで、まあ、今から、次の委員の方は、この名簿の整理にかかるれると思います。

それから、5番目が、米山奨学でございますが、これも、東南アジアを主体にしておりますが、日本独特の奨学制度で、これも、4ページと5ページに寄付の金額と、それから、名簿を載せております。これは、非常にうまくいっているようでございます。

それから、6番目が、研究グループ交換ですね。GSE、これは、数年前、我が地区にも来て、非常な成果を上げたわけでございますが、ここ2年ぐらいは中止になっておるわけでございます。地区的予算としては、毎年50万ずつ積み立てておられまして、これがガバナーと、それから、ガバナーだけの意向でなくて、地区内のクラブの3分の2の御同意があれば、計画を実行してもよい、というふうになっているそうでございます。それで、今日は、ぜひ、皆様の御同意が得られたらですね、ガバナーに申し上げて、せっかく今まで2年間しておりませんので、100万の予算、ことしました50万組みますが、150万のお金ができるわけでございますので、無駄にしなくて、特に、今からは国際化の時代でございます。そして、若い後継者を育成するということで、研究グループ交換は継続的に続けていくように努力したいと、私も思いますし、皆様の御同意があればこれが出来る訳です。クラブの3分の2と言いますと、クラブが全部集まるのは、年に2回しかないですね。きょうの地区協議会と、それから、ことは11月でございますが、年次大会をやるわけでございます。この2回しか、皆様の御意見を聞く機会がないわけでございます。それで、まあ、時期的には、地区協議会が一番いい。11月までにRIに申し込み下さい、ということになってるそうでございますので、あとで、また、皆様の御

意見を聞きまして、3分の2以上の方が御賛同いただいたら、本会場に移りまして、私が報告するときに、ガバナーにお願いしまして、皆様の御賛同を得たら、今年から動き出していいということで、計画が始まると思いますので、よろしくお願ひいたします。

それから、ポリオプラスでございますが、ポリオプラスは、諸熊先生が、また、今年も委員長で残られるそうでございまして、この募金の状況は、3ページにてしておりますが、先程申し上げましたように、今の、田中丸ガバナーは、もう、全精力をこれに注がれたわけでございまして、ポリオの募金が最重点であると、国際奉仕をすべてこれに投入という形でございましたが、今年の5月のフィラデルフィアの年次大会で、終結の宣言をされるわけですが、日本はどうしたわけか、1991年6月まで継続募金をやると、そういう確約で、表彰を受けられるそうでございます。私も、いろいろポリオの、資料を読んでおりますと、1期で、約1人2万円でございますね、2期が、法人関係の募金なんかして、また2万円、合計一人当たり約4万円と、1億2,000万ドルのRIの予算でございますが、そのうちの20%が、日本に割合ててあるわけでございます。それで、個々のポリオの寄付の金額を見ますと、私が差し上げましたこの資料を見ますと、大体一人当たり4万円以上の完遂のクラブが、もう既にかなりあります。大体本年度中で、ほとんどのクラブの方が、一人当たり4万円ぐらいの枠を突破されるんじゃなかろうかと思っております。

そういうことで、ポリオの方も、まあ、順調にいっておるということでございます。

それから、最後のページにですね、ロータリーの友の英語版の依頼が参っております。これは、地区の方では益田さんが委員長でございまして、これは、友の方の加藤さんから、今日の地区協議会では、ぜひ皆様に勧めてほしいということで、綴じ込みをしてございます。年に2回、11月と4月に出ておりますが、これが春の

本でございます。ぜひ、国際奉仕委員会としては、これを購読いただきたい、ということでございます。

ちょっと、時間がなかったもんですから、走って、地区の委員会の現況を御説明いたしました。

休憩

再開

副リーダー

国際奉仕部会のアンケートの集計結果を資料として添付致しておりますのでご説明申し上げます。

このアンケートの目的と言いますと、昨年と同じような設問事項ですが、各クラブの委員長さん方が、今から次年度の予算並びに事業計画等を決めていかれる中で、少しでも御参考になれば、ということで、各クラブの情報連絡の意味も含めて、そういった趣旨でまとめております。

回答の中には、今年度委員長さんがお書きになられた分、それから、次年度予定者の方がお書きになられた分、いろいろございましたので、多少、数字だと、ちょっと極端に桁が違つてゐるところもございます。結果としては、45クラブ中42クラブの分が、5月7日の午前中までに着きました。あと未着の3クラブにつきましては、こちらの方から、事務局の方に電話を入れまして、最終的には全クラブ連絡がとれましたけれども、委員長様不在のところは、事務局の方で数字を出していただきましたので、ちょっと違う部分があるかもわかりませんが、大体の流れとして、これを見ていただければわかると思います。

本日、委員長さん代理で見えられた方は、お帰りなられまして、ぜひとも委員長さんに、この資料はお渡し願いたいと思います。

原本と何回かチェックしながら、唐津東ロー

ターアクト会長の、吉岡君と二人で入れたわけですが、万一間違いがあるかもわかりませんし、そういった数字は、ひとつ、御勘弁いただきまして、早速設問1から御説明申し上げたいと思います。

まず「クラブ国際奉仕委員会について」という中で、各メンバー数、任期、委員長さんのロータリー歴だとかということを出してあります。274地区的ロータリーの総予算が、約4億3,500万円ぐらいです。その中で、国際奉仕に使われる予算が約1,540万円、パーセントに直しますと3.4%ぐらいの数字になります。

それから、委員長さんの平均ロータリー歴が約9.1年くらいです。それから、国際委員会の平均委員数は6.4名ぐらい。そういった数字を、アベレージの中で見ていただければ、少しずつわかっていていただけると思います。予算比の中で、特に、非常に多い数字が出ておりますのが、多久クラブの21.4%、それから、長崎北東クラブの22%、ということで出ております。予算的に100万を起きたところは、佐賀北の130万、長崎北東の123万、長崎北の134万というところが、一番予算が多いみたいです。

設問IIに移らせていただきます。「国際青少年交換プロジェクトについて」と、今までに、この青少年の交換プロジェクトに参加したことがある、というクラブが、44回答中25クラブ、約半数以上が、この交換プロジェクトに、何らかの形で参加してある、ということです。送り出し、受け入れは、大体送り出して、受け入れる数字が、同じところが多いのですが、長崎東さんが1名送り出して、20名の受け入れ、という数字が出ております。

「障害となる問題点」では、ワープロに入れていく関係で、ちょっと字数等の問題がございましたので、要点のみを集約して、入れておりますけれども、その中で、ちょっと説明を要するところは、第4分区のところの、「受入側が英語を使いたがる、財源」とだけ書いてありますけれども、これは受け入れるための財源を、

次へ

前から確保しておく必要があると、ホームステイ側の日本人が、英語を使いたがり、日本語を勉強しようという留学生の勉強にならないんじやないか、というような御意見であります。

第5分区の中で、諫早北さんの、「経費、受入家庭の決定」とだけ書いてありますが、これは、約一人当りの滞在費用が、年間70万から80万必要ですので、受入れる側としての経費が、非常に負担増になるという御意見でした。

同じ第5分区の大村北クラブの、「言葉、学生の家族と受入側の連絡、」これは、ホスト国での言葉の問題だとか、ホストファミリーと学生の家族との電話連絡などの、そういった連絡事項が非常にしにくい、というような御意見が書いてございました。

それから、設問III「ロータリー財団について」ですが、伊万里西さんは、回答が来ておりませんでしたけれども、電話連絡したところ、現在財団寄付率が1万%超えているのは間違いないが、詳しくはわからないという電話連絡がございました。

平均寄付額の中で、5万円を超えているところが、唐津東、佐賀、佐賀西、佐世保、佐世保西、この5クラブであります。

それから、設問IV「米山記念奨学会について」は別にございませんので、見ていただければわかると思います。

それから、設問Vの「姉妹クラブについて、」というところですが、「障害となっている問題点その他、」というところで、言葉という問題が、各クラブから出ております。姉妹クラブとして特に圧倒的に多いのは、中華民国、韓国、これがほとんど大部分を占めておりますが、その次に、アメリカ、カナダ、フィリピン、ポルトガル、というような順番になっております。その中で、唐津西クラブが、韓国の左水営（麗水）と、浦項、それから、同じ名前ということで、唐津（タンジン）ロータリークラブ、韓国の中で3つ姉妹クラブを結んである、というのが目立っています。

VIは、「世界社会奉仕について、」ということで、これは、アンケートの中で記入していないところは、全部カットしておりますので、回答分だけ全部、これに書かさしていただきました。これも読んでいただければ、大体わかると思います。

それから、設問VIIの、「特別月間の計画について」、これはご覧いただければわかると思います。

詳細については、本城リーダーを中心に、質問等ございましたら、お願いしたいと思います。リーダー

先ほどは、一方的に、R Iと地区の情報を、皆様に伝達いたしましたが、後半は、皆様の各々のクラブの現況を集計させていただいたわけでございます。それで、副リーダーの江頭君と、集計の方法をいろいろ考えたんですが、設問1のところで、こういう質問をなぜ出したか、ということでございますが、国際奉仕の活動ということは、先程G S Eの問題とか、青少年交換の問題などいろいろ出しましたが、1年間の単年度では、なかなか終わってしまわないわけですね。私も、青少年の地区委員を、数年させていただきましたけれども、試験をして、そして送り出して、帰ってくるというところまでやりますと、通算3年ぐらいは経過を見なければならないわけですね。試験を受けるときの委員、それから、実際に出るときは別の委員、帰ってきたときはまた別の委員、ということになりますと、その送り出す学生の家族、本人も、どなたに御相談していいかわからない、くるくる変ってしまうということで、カウンセラーとか、コンサルタントの役目は果たせないと、更にシスタークラブなんかつくる時は、相手の方も、くるくる変わるということで、言葉の障害と同時に、距離、それから、1年で交代するということで、なかなかうまくいかない、ということも、私自身体験いたしました。定款細則を見ますと、ロータリー情報とか、職業分類が、3年の連続任期が好ましい、ということでございま

すが、国際奉仕は、別に書いてございません。調べてみたら、大体1年ぐらいでおかわりになっている。中には3年という方もございますが、2年ぐらいで、一人はお残りになるといいんですけれども、全員交代してしまうということになると、継続事業としてなかなか難しいだろうと思いまして、私、これを採ったわけでございます。皆様から、いろいろ御意見があれば、お聞かせいただきたいと思います。

それから、委員長は、かなりベテランの方がなっておられるようございます。

予算は、先ほど申し上げましたように、3.4%ぐらいで、中には非常に国際奉仕に力を入れておられるところがございます。国際奉仕というのは、何もそんなに予算がなければできないというわけではございませんので、先ほど申し上げましたように、2万円余ったからどうしようか、ということでも、十分国際奉仕の活動はできるわけでございます。どういうふうにしたらいいだろうか、ということを、提供するのが、この地区協議会でございまして、その方法のプロジェクトを、いろいろ今述べたわけでございます。

それから、青少年交換で、私委員をして感じたのは、学校の問題、それから、ホストファミリーの問題、もちろんお金はある程度積み立てたらできるわけでございますが、それから、もう、余り珍しくなくなったこと、プライベートに、私費留学がどんどんできるようになります。それで、ロータリーにお世話にならなくとも、自分の子供はプライベートにお金を出して行ける。しかも、円高で、非常に安くなつたからできる、ということで、かなり希望の方が減つておられるように伺っております。しかし、何と言いましても、ロータリーの組織で、学生を送り出して、向こうのホストファミリーが、家族同様にかわいがってくれるということは、私も娘をやりまして、非常にこの制度はいいなあ、というふうに思っております。このプロジェクトは、今後続けていくべきだらうと、私思って

おります。

それから、これが1年間ということではなく、短期間、夏休みだけだったらやってもいいというようなお話をございます。それで、夏休みだけ向こうにやる、というような方法も、今から検討されるんじゃなかろうかと思います。しかし、皆さん、語学が非常にうまい方が多いと思いますが、2カ月ぐらいでは、実質的な効果は上がらないですね。夏休みに私の息子の方もやりましたけれども、夏休みだけでは、結局、観光旅行みたいにして、帰ってくるだけで、本当に向こうの生活を身につけたいと思うのだったら、やっぱり、3カ月以上ないと、どんな若い人だって、身につかない、ということです。やはり、1年の交換というのは、十分意味があるんじゃなかろうかと、私は思います。

それから、ロータリー財団で、国際奉仕部会のリーダーを、何回か今までさせていただきまして、お金のことは、みんな、何パーセントとおっしゃるんですけど、実際、今度は、応募する学生の問題になりますと、まあ、地理的な問題とか、大学の所在地の問題で、どうしても、佐賀とか長崎とか、佐世保に、この統計をごらんになってもわかりますが、ほとんどここに集中している。ほかのクラブは、お金をお出しになるだけ、ということで、できれば、その土地の出身の方がおられたら、ぜひその学生を募集していただきたい、というふうに思うわけでございます。

米山もそうでございます。米山も東南アジアの学生をたくさん受けておられるところが、どうしても偏ってくるわけでございます。この統計を見ますと、佐世保地区は、圧倒的に募金もなさっておられます。そして、お世話も非常になさっておられるわけでございますが、今後日本の国際化ということになりますと、必ずしも先進国だけに目を向けずに、日本が、今から育てていかなければならぬ東南アジアの諸国に対しても、援助の手を伸べるべきではなかろうかと思うわけです。

次へ

国際奉仕部会

それから、国際交流も、現実には、韓国の、インタークト、ロータークトを派遣しておりますけれども、シスタークラブの結成に、国際交流は力を入れたい、というような、委員会の意向もお聞きいたしました。しかし、ここでも、言葉の障害ということで、韓国、台湾に重点的に比重が集まっているようでございます。ところが、台湾、韓国も、かつて日本の教育を受けた年配の方が、だんだん少なくなってきて、40代になりますと、英語の方が非常にいいということで、私のクラブも、台湾にシスタークラブがございますが、最初の方は、同じような年配で、非常に意思の疎通がうまくいっていただけで、非常に思ひの疎通がうまくいっていただけで、現在の若い会長になりますと、全然日本語がわからない。言葉がわからぬこと、うまくコミュニケーションができない、ということで、だんだん疎遠になってくるようなことも、私自身感じたわけでございます。

今からの若いロータリアンの方は、英語の方がうまいということで、新しい発展をするんじやなかろうかと思いますが。

そこで、世界社会奉仕の方に入りますが、先ほど、副リーダーの江頭君も言いましたように、非常に限られたクラブだけが活動なさってます。どういう方法があるか、教えてください、というふうに書いてあるクラブもございました。先ほど申し上げましたように、R I には、資料室がございまして、登録してございますので、小規模、中規模、大規模と、1,000ドル以下でも十分世界社会奉仕のプロジェクトに参加することができるわけでございます。申し込み用紙は、私のところにございますので、あとで、興味のある方はごらんになってください。

それから、ここで障害になるのが、海外情報の収集不足と、相手の国情が、非常にいろいろ混乱があるようでございます。先ほど、私が、委員長さんの任期を聞きましたが、ここに書いてあるのが、スリランカに、長崎北東クラブの方が、病院の建設のために、ランドリーを要望されたんで3台準備したけれども、その後、キ

ヤンディークラブから、何の連絡もなくて、絶ち消えた。恐らく会長の交代ではなかろうか、というようなことが書いてございます。単年度で、こういう計画をやろうとすると、こういう問題も起こってくるわけです。

それから、ポリオプラスのところで、諸熊委員長さんからレポートをいただいたんですが、血清冷蔵庫なんか送るんですけども、先ほど、カウンセラーがおっしゃったように、国情が余りにも違い過ぎると、冷蔵庫を送っても、冷蔵庫を使う電源がない。そうすると、血清を送っても冷蔵庫が使えないから、腐ってしまう。それから、きのう、笑い話でございますが、生ワクを飲ませようとしても、その知識が不足しておるんで、アメ玉をやった。そうしたら、同じような子供が、何回も来る。どうも見たようだと思うと、アメ玉欲しさに、生ワクを何遍も飲みにきていた。ものすごく知識が落ちている。だから、そういうふうな知識啓蒙もしなければならないのではなかろうか、というようなお話を聞いたわけでございます。

そういうふうに、国際奉仕というのは、相手国を非常に理解してやらなければ、同じ立場で考えてしてもなかなか奉仕活動の成果が上がりない、という点があるよう思うわけでございます。

じゃあ、先ほどの話に戻りまして、ほとんど今、地区内で、青少年交換も、米山もうまくいっております。ポリオも、予定をオーバーするところが出ております。先ほど、カウンセラーともお話ししましたが、G S E は、今からの若い人を教育する、そして、日本を国際化するために、継続事業としてやつたらどうだろうか。そういう気運を、まあ、今年、ガバナーが、じゃあしようかとされても、3分の2の御同意がなければできない。そして、計画を立てて、地区委員の方にお願いするにしても、これまた、1年ぐらいたつわけでございます。皆様どうでございましょう。G S E のプロジェクトに御賛同いただけるか。まあ、G S E なんか必要でな

いという方がもしおられたら、御意見をお伺いしたいと思うんですが、

隅田（伊万里）

ただいま、そのGSEに賛成かどうか、というおはかりでございますけれども、ロータリークラブというのは、理事会が決定しない限り、うんともすんとも言えないのが原則だと思いまして、我々国際奉仕の委員長が、ここで、単に、賛成です、反対ですということは言えないんじゃないかなと思いますので、ちょっと返答に困ります。

リーダー

それは、先ほど質問を受けたんですが、確かに、理事会に決定権があるわけでございまして、地区協議会では、そういうふうな賛同の声が出たということを申し上げるだけで、これが、クラブ決定の意思表示ではないわけです。正式には、ガバナーが、皆さんにお聞きになるわけで、私たちは、ガバナーに、地区協議会で、こういう話をしたら、皆さんから御賛同がありました、ということをお伝えするわけでございまして、クラブの意思決定ではないわけです。

皆様どうでしょうか、おれは絶対GSEなんか必要性を認めないとおっしゃれば、それもまた、ガバナーにお伝えするわけでございますが、皆さんのお気持ちをお聞かせいただければいいわけです。どうでございましょうか。

隅田（伊万里）

私個人といたしましては、一昨年でございましたか、おいでになりましたときに、あれは、多分唐津クラブと、どこかにお泊りになったと思うんですね。伊万里クラブは、多分海洋の温度差発電所と、どこかを御案内したと思うんですけども、ああいうふうなタイプで、伊万里クラブにおいでになるんだったら、僕は、余り意味がないような気がしたんですね。海洋発電をごらんになったんだけど、あそこにおいでになったのは、警察官とか、そういうふうな方で、全く興味を示したようなそぶりも見えなかった。私、そのときも国際奉仕委員長でございまして、

ついていったんですけれども、ああ、珍しいものを、日本の田舎でやってるなあ、というような感じだったような気がいたしました。したがいまして、この前のようなのだったら、余り意味がないと思います。あのときですね、ちょうど有田の陶器市の時期だったと思うんですね。伊万里とすれば、何かをお世話しなきゃいけないから、有田の陶器市に連れていきたいと思ったんですけども、やはり、先を越されまして佐賀クラブが、有田には連れていくから、おまたちは連れていくなと言われると、田舎の伊万里では、何をやっていいかわからなくなる、というふうな状態でございまして、まあ、長崎とか、唐津とかですね、観光地もあり、産業の大きいものもあるところは、かなりためになることをしてあげができると思うんですけども、伊万里みたいな片田舎で、産業と言えば、まあ、焼き物がある。有田に負けますから、どうしてもこれは。そういうところでは、受け入れてくれと言われましても、非常に困るということでございます。

リーダー

確かに、クラブの特殊性というものがございましてですね。まあ、受け入れるのは大変だけれども、送り出しの方に、お知り合いをお出しになるとか、もう、すべてのクラブが平等に受けて、同じ条件ということは、なかなか難しいと思うんです。まあ、隅田先生の御意見はいただきました。どなたか、ほかにございましょうか。

高城（島原）

ただいまの御意見とほとんど同じことなんですけれども、島原には、これといった産業もございませんし、大学もありません。研究機関もありません。そういうところですね、いわゆる、グループスタディー・エキスチェンジということで、メンバーの方に聞いてみると、プリンストンの人がおられたりですね。大都会の警察官がいたりということで、ちょっと、島原とはあまり関係がないような人が多いですね。

次へ

したがいまして、私思うには、やはり、GSEの方法論ですね、その地域によって、やはりやり方を変えるべきじゃないかと思いますね。長崎なんかでは、いわゆるスタディーをやっていただいて、島原では、リアルジェーション、ゆっくり遊んでいただく、というようなやり方ですね、やはり、よく、向こうの立場なんかも考えて、通り一遍にスケジュールをつくっていく、というのには問題があると、そういうことを痛切に感じたわけでございます。

リーダー

確かに、方法論としてはいろいろあると思いますね。だから、もし受け入れても、そのコース選定とか、そういうのは十分、地区委員の方にお願いいたしまして、検討する材料になると思います。各論はそうですが、総論として、どうでございましょう。GSEのシステムそれ自体に、余り意義がないと思われる方は、ほかにございますでしょうか。

隅田（伊万里）

この前、当地区から送り出しましたね。佐賀銀行の方とかいらっしゃったと思うんですけれども、あの方々はどうお考えでしょうか。現在。行ってよかったとお考えでしょうか。それとも、その後ナシのつぶてで、あの方々が、どのような生活をなさって、どうなさってるか、というのは、これは、交換留学生も一緒ですけれども、ロータリーの場合、どうも、フォローがよくないような気がするんですね。だから、あの方々が行って、非常にためになって、それが、現在の自分の社会において貢献している、ということははっきりすれば、送り出すことに意味があると思うんですけども、ただ行って、アメリカを見てきて、帰ってきて、ロータリーの会でちょっとだけ発表をして、それで終わってしまうのなら、全く意味がないんじゃないでしょうか。そのフォローについて、お伺いしたいと思います。

リーダー

確かに、ごもっともで、私、前半でも申し上

げましたが、ロータリー財団なんかの、学友会、OB会なんかで、次のロータリーの財団奨学生の方のオリエンテーションに御招待したけれども、おいでになる方は一人しかいない。あとの方は、住所もわからん、というようなことがあるから、名簿を確立したいと、富永委員長から私の方にレポートをいただきました。私が交換学生の委員をしているときにも、交換学生を送り出すときに、大人の感覚で、オリエンテーションしても、実際行く年若い学生たちは、非常に不安なわけです。だから、現実に行って、帰ってきた人たちの話を聞かせたいと思って、まあ、ここ1年、帰って来た人はフォローできるわけですが、数年前帰ってきた人は、もう、どこの大学に行ってるか、もうお嫁に行ってるかどうかわからない。これも、名簿がなかなかはっきりできないということで、現実に行った交換学生の方からでも、声が出ているわけです。

これは、私よくわかりませんけれども、先ほどから何回も申し上げるように、ロータリーというのは、1年で変わる。毎年国際奉仕委員長がお変わりになる。地区委員の方もお変わりになる、ということで、長い目でフォローというのがなかなかできないわけですね。ロータリーが、1年で変わることが非常にいいというメリットもありますが、1年間で変わることが、また、デメリットになっている点もあるわけです。たしかに、隅田先生のおっしゃることも、もっともだと思います。私も、このような非常に次元の高い話になりますと、わかりませんので、カウンセラーの出番ということでお願いしたいと思いますが、どうでしょう。

カウンセラー

先ほどの、研究グループの交換につきましては、当地区では、何回か経験をしているわけでございます。今のお話のことでございますが、あとで、レポートを、立派なものが、随分時間がたってから編さんされておりまして、それを、関係のクラブに配布しているようでございます。その中を見ますと、確かに、派遣された方は、

大変喜んでおられまして、非常に自分の将来のためにもなった、ということを書いていらっしゃるようでございます。ただ、そういうもののまとめが、非常に遅れておりまして、もう忘れたころにきておるようでございます。確かに、今リーダーもおっしゃるように、研究グループにせよ、財団の学生にせよ、交換学生にせよ、やることはやって、そのあのフォローアップが全くなされてない、ということで、これが、非常に大事なことでございまして、その後どうなってるのやら、非常に、皆さん気になることがなおざりにされておることは事実でございます。

私は、交換学生のことに関してだけは、直接タッチしておりますので、これだけは、名簿がきっちと揃っております。それで、新しい情報も、私知った場合は、名簿の訂正をお願いして、また、地区の仕事として、例えば、今の交換学生のローテックスというふうな名前ですね、担当の人を、もと交換学生であった、大村北クラブの佐古君に、責任者として、これまた、編さんをしてるわけでございます。

そういうぐあいに、行った方々のフォローアップを十分すれば、非常に効果が上がることとはわかるんでございますけれども、今のこの研究グループで派遣された方々については、確かにフォローアップが不十分でございます。しかし、個人的に、私も尋ねてみると、非常によかったですということで、その後、先方の方との交流というものを、個々に続けていらっしゃるようでございます。その点、まあ、若い方々は、案外積極的に動いていらっしゃることは事実でございます。我々から見れば、何でもそういうフォローアップがもっとあればなあと思いますけれども、皆さん方としては、それぞれ自分の実生活の中でまた、先方との交流というようなことで非常に効果は上がってるようでございます。

今リーダーが、先ほどから、ちょっとおっしゃいましたけれども、地区内の見学のスケジュ

ールなんかがですね、私ども見ておりますと、余りにも過密なスケジュールを立てられたようございます。それで、聞いてみますと、地区内の各クラブに平等に負担を願いしたい、というふうなお考えが、基本的にあったようでございます。今申されたように、自分のところに来ても、見学させるところも十分じゃないということが、事実と思います。計画を、余りまじめに立て過ぎてるわけなんですよ。もう、あのためにと思うて、緻密に、もうへとへとになってしまふとるわけですよ。実際、長崎あたりから、最後に行きますけれども、もうへとへとですよ。こういう計画じゃ無理ですよと、私は、側から申し上げたことがあるんですけれども、余りにもまじめに計画を立て過ぎていらっしゃる。そういうことで日本に来た以上ですね、これは、こっちの方の地区より、あとは東京とか、大阪あたりを見てもううて、帰った方がよっぽどためになるですよと言うたんですが、それはでけんというわけですね。そうじゃないんです。我々は、そんなに固いことは言わないですよ。ところが、受ける側の方が、ものすごく慎重に計画されるから、あんなになってしまいます。だから、まあ、委員会もずっと変わっていかれますから、そういうよくなかったことも出していただいてですね、そして、今日は、幸い地区委員の方もいらっしゃるようでございますから、そういうのもお聞きになって、次のときには、もっとうまく受け入れられるようにしてみたいものだと思います。

また、派遣された方々も、全然ナシのつぶでじゃ困る、というふうなことも、やっぱり知つていただきやならないことだと思うんです。

どうぞ、そういうことで、このロータリーがやってる研究グループ交換は、これはもうしたってしようがないなあ、ということじゃないと思います。皆さん方、いいプログラムだと思うけど、ただ、やり方には、今のような、いろんな、ちょっとおかしな点もたくさんあるようございますから、これは、今後ひとつ参考にし

次へ

て、それをうまく利用してやっていただければなあと思うわけでございます。

まあ、研究グループのことについては、いろいろ状況も変ってきております。前は、男だけのグループでしたけれども、このごろ、婦人のグループもいいようになっております。それも変わってきておりますし、去年も、隣の地区には、御婦人のグループが参りました、長崎の方は見物に来るわけです。そのお世話をさせられましたけれども、よそでは大らかに考えておるようございます。何しに来たのかなあと思うように、長崎に遊びに来たというわけですね。地区外に。こちらの方も、そのくらいの余裕を持ってですね、してもいいんじゃないかなあと、余りにも専門的なことに連れて回ってですね。へとへとの状態で帰しても、感激がないんじゃないかなと思いました。そのくらいに状況も変わっております。

それから、前は、2年ぐらいの割りで交換していたけれども、去年あたりから、単年度内で交換も、受け入れもやってよろしい、というぐあいに、また変わってきております。いろいろ状況が、研究グループは変わっております。そして、手続も、従来は、こちらが、例えば、あそこの地区をしたいなあと思うても、向こうの方が、もうよそとやってる、というようなことで、R I が、真ん中で世話しておったわけなんです。ところが、今度は、R I は出過ぎたことをすると、中央集権はけしからんという声が、また出た。それで、もう、R I も困ってしまって、それでは、どうぞ地区と地区とで話し合いをしてください、ということに、またなってるわけでございます。原則は。ところが、そうなれば、だれもせんわけですね。わざわざ、そういうことで、本当は、地区とよそのどこかの地区とのガバナー同士で話し合いをして、そして、スタートするのが一番いい方法だそうでございますが、それでは、なかなか相手もあることで、簡単にいかないということで、従来の真ん中で、もしお任せいただけるならば、お世話しましょ

う、ということだそうです。そのかわり、どの辺の地区としたいとか、例えば、アメリカならアメリカで、東海岸のどこかの地区とか、あるいは、オーストラリアの東海岸、あるいは西海岸の方の地区としたい、という大まかなことを申し入れていただく、そして、いつごろしたいかと、いつ、どちらが先に受け入れるをするのか、派遣をするのか、そんなことも知らしていただければ、お世話もいたしましょう、ということに、R I は、今なっとるようでございます。

そういうようなことで、せっかくの、これは、地区の我々が、ロータリー財団に寄付した、その利用仕方でございますので、たくさん寄付をこのようにしていらっしゃいますし、地区としては、そういう権利があるわけでございますので、そういう権利を、私たちは利用してもいいんじゃなかろうかと、こう思うわけでございます。しかも、この財団の管理委員会がですね、最終決定をするということでございますので、先ほどの、地区全体で受け入れることですから、ガバナーがやろうと、一人で思うても、地区的各クラブの3分の2以上のクラブが同意しなければだめと、こういうぐあいに決まりもなつとするわけでございます。それで、多分、私は、きょうはこういう研究グループ交換というのも、悪いことじゃない。非常にいいプログラムだから、うちの地区も、もうばつばつ参加をしてもいいんじゃなかろうか、ということで、こういう話が今出ておるわけでございます。

まだまだ、今から、今度は、ガバナーが、どういうお考えでされるか、そうなると、今度は、各クラブの賛同を得なければならぬわけです。そういう段階があるわけです。それで、まあ、今のような準備をするためには、1年はかかるんです。今までの経験で見ておりますと、実は、前來たのは、私がガバナーのときに、決めてきたのが1回目でございまして、派遣を先にして、受け入れを井田ガバナーのときにしたわけでございます。

まあ、そういうふうなことで、やるとしても、今のような周到な準備をしなきゃいけないので、かなり月日がたつわけでございます。それで、本当は、そういうガバナーが、地区大会のときに、全部お集まりですから、決議の中にするか、しないかを諮られて、そしてするのが一番いいわけでございます。そうなってからは、もう、再来年になるわけです。実際やろうと思えばですね。

そういうふうなことになってしましますので、このようなチャンスは、もう、先ほどおっしゃるように、この協議会か、あるいは地区大会か、2回しかないわけでございます。そういうふうなことで、なるべくなれば早目にそういうことをしよう、ということでスタートされれば、恐らく来年の5月か、6月か、そのころに、恐らく受け入れなり、派遣なり、というふうなことが可能じゃなかろうか、ということで、今の話が出とるようでございます。

どうぞ、いろいろ悪い点は、これは改めていかなきゃいけないことでございます。そういうことで、御理解をしていただいたらいかがかなあと思います。以上でございます。

リーダー

G S E の問題で、ちょっと紛争があったようではございますが、まあ、方法論として、いろいろあると思いますが、G S E というのは、R I の財団の大きな仕事でございまして、また、私たちも、財団のお金を、先ほどカウンセラーがおっしゃったように、募金しておるわけですね。それでうちの地区がしなければ、どこかほかの地区が、そのお金を使ってやるということで、方法論をよく検討して、もう、ちょっと時間がございませんので、皆様御賛同いただければ、拍手をしていただきたいと思いますが、どうでございましょうか。（拍手）

じゃあ、どうもありがとうございました。では、ガバナーに、そういう意向を伝えまして、方法論を十分検討して、もし実行なさるなら、していただきたい、ということを、御報告した

いと思います。

栗林（諫早西；G S E 地区委員）

もしですね、これが、実際に動くとなりましたら、現在地区委員が4人でございます。4分区からしか出でません。地区に6分区ございますから、実行の段階になつたらですね、もう少し、G S E の委員をふやしてもらうか、もしくは、財団全員でやって、協力していただくか、その辺をお願いしたいと思うんです。今いろいろ話を聞いておりましてね、私も、実は、ジェイムス（警察官）を受け入れました。いろんな問題がありました。私なりに、やるときはですね、もうちょっとどうかしたのをやりたいなあと考えましたし、ロータリアン必携も十分読みました。それをやるには、本当1年以上かかると思います。そのためには、4人では少のうございますから、できれば、何人かでも追加をお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

リーダー

よくわかりました。それも、ガバナーにお伝えいたしましたが、この前來たとき、私のクラブで引き受けたときには、地区委員を、臨時で2人、今日、副リーダーしております江頭君も、地区委員に入って、臨時に地区委員をふやしました。そして、受入体制をしたんですが、あまり熱心過ぎて、過密なスケジュールをつくってしまった、私も預かったんですけど、朝6時ごろからたたき起こして、観光に連れていくなど、夜は、もう、パーティー、パーティーで、11時過ぎごろ帰ってくるし、預かった家庭が大変被害をこうむった、そういう思い出もございますが、まあ、これも、善意で立てたスケジュールでございまして、帰るときは非常に喜んで、手紙までくれましたが、余りにも、日本人的なロータリアンの考え方というのが、アメリカとの考え方と、かなり違っているような感じがいたします。

それで、もう、時間があと5分ぐらいしかございませんが、交換学生にしても、財団奨学生

次へ

~~~~~ 国際奉仕部会 ~~~~

にしても、先ほどの、G S E にしても、若い方がおいでになって、外国を見てこられると、また、向こうの方がおいでになると、私も、かなり預かったり、自分の子供をやってりしておりますが、帰ってきて、うちの娘なんかにも、おまえ、ロータリーに来てお礼を言うて、自分はどういう経験した、ということを言いなさい、と言うけど、うまく表現ができないんですね。非常に感謝はしていると、自分は、これだけ成長したということを、親にはばつばつ言いますけれども、そういうことを具体的に言えない。しかし、うちの子供なんかを例に挙げますと、向こうに行って、日本の宗教を批判するようになったり、自分自身がクリスチヤンになって帰ってきたりなんかして、非常に精神的なバックボーンがうまくいったのか悪いのか。私は仏教徒でございますので、その辺で親子が対立する、という結果になりましたけれども、まあ、長い目で見ると、国際的な日本の孤立化から、そういう人たちを出すということによって、日本が国際化になる一つの手がかりはできるんじゃなかろうかと思います。私たち歳とてきますと、どうしても、頭では考えても、それがなかなか、若い人みたいに柔軟性がないので、孤立してしまう、ということになるわけでございます。

私の、司会がまずくて、とうとう時間切れになってしましましたが、先ほど申しましたように、地区協議会というのは、あくまでフォーラムではありません。R I の今年の方針を、皆様にお伝えして、R I はこういう方針で今年はやるんだから、御協力願いたいと、そういう情報を、クラブにお持ち帰りになって、そして、皆様のクラブの、ロータリアンの方に、いわゆる火をつけていただいて、活動をしていただきたい、ということをお願いするわけでございます。去年はポリオ、ポリオと、何か小児麻痺が、もう世界じゅうに蔓延したようなお話ばっかりでございましたけれども、ことしは、また、もとに戻って、ロータリーの原点に戻って、地道なロータリー活動をしようと、特に国際化の中

で、ロータリアンの奉仕活動というのは、非常に重要になってきております。今日、いろいろの資料をお渡しし、また、いろいろの協議をいたしましたが、その結果をお持ち帰りになりますと、どうぞ、皆さんのクラブで、いわゆる活性化行動に移していただきたいと思います。

長時間御協議いただきまして、ありがとうございました。

'87 ~ '88 交換学生一覧表

国名	氏名	性別	生年月日	スパンサークラブ ホストクラブ	出身高校 受入高校	学年	住 所	(自宅)電話	派遣地区クラブ	保護者名	備 考	'87~'88 国際奉仕委員長
豪	北島道夫	男	S45. 7. 1	謹 早 0957 22-3323	長崎県立 謹早高校	1	〒854 謹早市高城町22	0957 22-3406	946 オーストラリア	(父)和夫 (母)洋子	本年3月帰国済	角尾 澄夫
米	富永知美	女	S45. 3. 8	有 田 09554 3-3120	聖和女子学院	2	〒844 佐賀県西松浦郡有田町 468-3	09554 2-3560	717 Richfield Springs	(父)昌弘 (母)智子	ニューヨーク州 8月帰国予定	高原 武彦
米	峰由紀恵	女	S45. 3. 4	唐 津 09557 3-3336	佐学県立 唐津西高校	2	〒847 佐賀県唐津市養母田 462-2	09557 2-5580	717 Ithaca	(父)淳一 (母)マキエ	ニューヨーク州 8月帰国予定	坂本 安
米	空閑登紀子	女	S46. 2. 4	佐 賀 0952 22-7118	佐賀県立 佐賀西高校	1	〒840 佐賀市水ヶ江2丁目 8-13	0952 22-6464	Essex(795) Harwich-Dennis	(父)清高 (母)那恵子	マサチューセッツ州 8月帰国予定	松原 良治
米	弟子丸祐子	女	S44. 4. 16	佐賀北 0952 22-7120	佐賀県立 佐賀北高校	2	〒840-01 佐賀市若宮 1丁目17-9	0952 31-4089	Essex(751) Point-pleasant	(父)和博 (母)マショ	ニュージャージー州 8月帰国予定	森永秀史
米	原田真由美	女	S44. 4. 11	佐賀西 0952 22-7119	佐賀県立 佐賀西高校	2	〒840-01 佐賀市若宮 3丁目1-83	0952 31-6739	595 Alexandria	(父)英成 (母)朋子	ミネソタ州 8月帰国予定	伊東敏雄
米	吉野友紀	女	S46. 1. 16	長崎 0958 21-1009	長崎県立 長崎北陽台高校	1	〒859-06 長崎県西彼杵郡長与町 吉牟山郷1489-147	0958 33-7440	596 St.Paul	(父)寛三 (母)淑子	クラブレベル 8月帰国予定	高木忠一郎
豪	Desley Elizabeth Davies	f	1969. 8. 8	謹 早 0957 22-3323	謹西高校	2	〒854 謹早市東小路町6 謹早工商会議所内	0957 22-3323	946 Attadale	John Thelma	オーストラリア 本年3月帰国済	角尾 澄夫
米	Elizabeth Anne Shea	f	1969. 9. 24	有 田 09554 3-3120	佐賀県立 武雄高校	2	〒844 西松浦郡有田町中部丙 954-9 大有田焼会館3F	09554 3-3120	717 Sidney-New-York	John Judith	ニューヨーク州 8月帰国予定	高原 武彦
米	Matthew Lewis Rowles	m	1970. 10. 28	唐 津 09557 3-3336	佐賀県立 唐津西高校	2	〒847 唐津市大名小路54 唐津商工会館5階	09557 3-3336	717 Norwich.N.Y	Brandt Susan	ニューヨーク州 8月帰国予定	坂本 安
米	Hannah Alexandra Bassett	f	1971. 11. 20	佐賀北 0952 22-7120	佐学県立 佐賀北高校	1	〒840 佐賀市松原1-2-35 佐賀商工会議館3F	0952 22-7120	Essex Allentuan	Willion Pamela	ベンシルバニア 8月帰国予定	森永秀史
米	Heather Kathryn Monahan	f	1969. 5. 9	佐賀西 0952 22-7119	佐賀県立 佐賀清松高校	1	〒840 佐賀市松原1-2-35 佐賀商工会議館 クラブ佐賀内	0952 22-7119	595 Alexandria	Edward Saundra	ミネソタ州 8月帰国予定	伊東敏雄
米	Michael Dennis Abel	m	1971. 5. 25	長崎 0958 21-1009	長崎県立 長崎東高校	1	〒850 長崎市万才町6-38 明治生命館4F	0958 21-1009	596 St.Paul	Dennis Sandra	ミネソタ州 8月帰国予定	高木忠一郎

国際奉仕部会添付資料 (1)

(2)

'88～'89交換学生一覧表

国名	氏名	性別	生年月日	スルツクアブ ホストクラブ	出身高校 受入高校	学年	住 所	(自宅) 電話	派遣地区クラブ	保護者名	備考	'88～'89 国際奉仕委員長
豪	松田 功	男	S47. 2.25	佐世保	西海学園高校	1	〒857 佐世保市三浦町3番12号	0956 22-8054	946 Busselton RC	(父) 達成 (母) 晴美	本年3月出発済	石井千里
米	伊藤 ゆかこ	女	S47.12.5	島原	島原市立第一中学校	3	〒855 島原市城内1丁目1169	0957 63-0288	717 アメリカ	(父) 錠二 (母) 文子	8月出発予定	高木昭紀
米	宮崎 滋大	男	S47. 5. 9	雲仙	青雲中学校	3	〒854-06 南高来郡小浜町雲仙448番地	0957 73-3604	Essex アメリカ	(父) 高幸 (母) 美雅子	8月出発予定	福田力
米	大里 栄治	男	S45. 4.20	諫早北	鎮西学院高校	2	〒859-03 諫早市小豆崎町683番1	0957 24-1513	Essex アメリカ	(父) 清治 (母) 和子	8月出発予定	緒方聖
米	小城原 努	男	S47. 2.29	佐賀西	佐賀北高校	1	〒840 諫早市大財1丁目5番60号	0952 22-4321	585 アメリカ	(父) 直 (母) 文子	8月出発予定	前山周一
米	馬場 真理子	女	S47. 8.21	鹿島	鹿島西部中学校	3	〒849-13 鹿島市大字高津原1243番地	09546 2-0601	717 アメリカ	(父) 謙吾 (母) ヨシ子	8月出発予定	大坪稔
米	安達俊三	男	S45. 4.13	長崎	長崎西高校	3	〒852 長崎市富士見町24-7	0958 61-0341	St.Paul アメリカ	(父) 謙次郎 (母) 綾	8月出発予定 (クラブレベル)	福田実
豪	Janine Bruce	女	1970.3.20	佐世保	西海学園高校	3	〒857 佐世保市島原町10-12 親和銀行本店内	0956 22-7720	946 Melville	(父) Peter (母) Sandra	本年3月来日済	石井千里
米	Michael Donovan	男	1970.7.29	島原	島原中央高校	3	〒855 島原市高島2-7217 島原商工会議所	0957 62-2101		(父) Michael.W (母) Laura Louise	8月来日予定	高木昭紀
米	Marc Joseph Rancourt	男	1970.6.10	諫早北	鎮西学院高校	1	〒854 諫早市東小路町6 諫早商工会議所内	0957 22-3323		(父) Malcolm (母) Mary	8月来日予定	緒方聖
米	Christina Catherine Linhoff	女	1970.9.13	佐賀西	佐賀清和高校	3	〒840 佐賀市松原1-2-35 佐賀商工会館3階	0952 22-7119		(父) Joseph (母) Patricia	8月来日予定	前山周一
米	Shel Lorraine Strickland	女	1970.4.9	鹿島	鹿島実業高校	3	〒849-13鹿島市大字高津原 4296-41鹿島商工会館2階	09546 2-2624		(父) Terry (母) Catherine	8月来日予定	大坪稔
米	(未定)			長崎							クラブレベル 8月来日予定	

*この他にデンマーク・オーストラリア・日本(274地区)の3国間交換学生についてデンマークより要請があり
佐世保西RCをスポンサー及びホストクラブとして検討中

ロータリー財団寄付額一覧表

単位ドル

クラブ名	会員数 1987.12	当年度寄付額	寄付額累計	達成率 (%)	次の%へ必要な 寄付額
伊万里	49	0	20,841.94	5,000	15.51
伊万里西	38	2,330.00	39,848.99	11,000	201.24
唐津	66	65.00	35,030.31	5,800	27.95
唐津	59	1,057.00	35,501.81	6,000	118.32
唐津	47	1,047.00	14,112.24	3,200	116.16
多々久	32	16.12	5,259.61	300	69.60
神埼	31	0	0	0	270.00
小佐賀	39	452.81	10,447.68	2,800	197.20
佐賀買北	73	3,000.00	40,418.75	5,700	19.72
佐賀買南	62	60.00	18,486.62	3,300	487.93
佐賀買西	36	1,000.00	3,389.13	700	156.30
佐賀牛	68	9,672.16	41,114.63	6,200	33.81
有田	33	237.41	3,622.23	1,200	297.66
大野町石雄野	50	1,533.32	17,502.78	3,600	257.74
大野町石雄野	67	13,000.00	34,504.31	5,700	14.52
大野町石雄野	42	1,162.00	13,591.34	3,400	367.77
大野町石雄野	29	420.00	3,015.19	1,100	252.59
大野町石雄野	62	6,741.98	31,509.55	5,400	428.83
大野町石雄野	35	2,473.37	18,221.14	5,200	82.14
平生	46	9,047.72	31,888.33	8,200	166.76
平生	32	0	6,506.10	2,100	110.36
松	35	0	25,438.36	6,900	170.24
佐世保東	39	6,100.00	14,023.45	5,000	199.65
佐世保東	107	21,128.00	157,198.77	16,500	360.51
佐世保東	56	3,000.00	31,701.89	6,400	491.15
佐世保東	48	0	4,349.02	1,000	262.26
佐世保東	87	16,963.00	69,095.15	8,900	635.80
佐世保東	56	16,100.00	50,526.66	9,500	120.84
諫早	73	5,000.00	50,141.39	8,400	434.35
諫早	63	640.00	22,784.91	4,200	317.52
諫早	42	4,615.82	10,646.11	2,500	56.99
大村	64	1,900.00	25,166.59	4,600	425.25
大島	38	1,000.00	21,900.68	7,600	232.18
大島	60	3,000.00	27,068.98	5,000	80.62
大島	33	0	0	0	310.00
大島	31	4,000.00	23,215.38	8,300	185.92
福江	61	5,000.00	45,927.85	8,400	255.59
福江	54	3,000.00	25,715.69	6,200	59.28
長崎	37	1,500.00	13,722.19	4,100	68.40
長崎	96	1,140.00	58,375.36	7,800	755.30
長崎	85	1,940.00	66,161.57	9,100	474.79
長崎	50	9,400.00	36,068.07	9,200	278.64
長崎	85	333.33	56,037.24	6,800	270.04
長崎	88	12,759.71	58,961.75	7,300	817.52
長崎	67	660.00	8,272.79	1,600	27.39
合計	2,451	173,795.75	1,327,252.54		

・ポリオプラス寄付

1987年12月31日現在

（全 国）

地 区	都道府県名	2月末累計
250	北海道(東部)	41,268,819
251	北海道(西部)	51,845,330
252	岩手・宮城	52,611,315
253	山形・福島	32,758,170
254	青森・秋田	30,387,338
255	栃木・茨城	108,701,034
256	新潟・群馬	66,274,974
257	埼玉	67,148,712
258	東京(東部)・沖縄	81,825,226
259	神奈川	80,726,058
260	長野	30,198,300
261	石川・富山	34,101,144
262	静岡・山梨	45,406,457
263	岐阜・三重	49,478,370
264	大阪(市都)・和歌山	55,250,173
265	福井・奈良	108,987,140
266	大阪(北部)	85,159,686
267	愛媛・香川	68,452,088
268	兵庫	55,206,169
269	鳥取・島根・岡山	41,361,007
270	福岡	58,324,283
271	山口・広島	42,574,728
272	大分・熊本	38,762,816
273	宮崎・鹿児島	30,068,792
274	佐賀・長崎	55,898,203
275	東京(西部)	86,738,972
276	愛知	65,193,018
279	千葉	35,901,974
28地区合計		1,600,610,296

（第274地区）

分 区	ク ラ ブ 名	1988年2月末累計
第1分区	伊万里	940,000
	伊万里西	378,942
	唐津	2,078,800
	唐津東	1,722,784
	唐津西	160,674
	多久	407,200
	神埼	0
	小城	0
	佐賀	1,917,000
	佐賀北	1,430,800
	佐賀南	219,400
	佐賀西	1,719,000
	小津	292,000
	有田	1,233,200
	鹿島	1,949,800
	大町	1,729,000
	白石	900,400
	武雄	1,322,400
	嬉野	374,400
	平戸	2,064,600
	生月	0
	北松浦	658,660
	松浦	861,200
	佐世保	5,940,800
	佐世保東	1,357,800
	佐世保北	489,200
	佐世保南	3,103,100
	佐世保西	3,136,000
	諫早	3,027,600
	平戸北	40,000
	諫早西	650,000
	大村	437,630
	大村北	731,800
	大村南	1,058,000
	島原南	271,200
	島原仙	791,000
	福江	1,682,704
	福江中央	1,034,529
	東長崎	501,300
	長崎	890,515
	長崎東	2,451,000
	長崎北東	1,525,900
	長崎北	1,346,800
	長崎南	1,912,600
	長崎西	638,375
第6分区	3274地区(45277)	55,898,203

(3)

1987~'88年度ロータリー財団奨学生

氏名	推薦クラブ	課程	留学教育機関名	留学国	出身校
清水和宏	長崎	大学院	North Western University	アメリカ	長崎大学
岡田幸江	長崎北	大学院	Conservatorio di Musica "Santa Cecilia"	イタリア	活水女子短期大
香月ゆり	佐賀西	大学	Philipps-Universität Marburg	西ドイツ	佐賀大学

現在留学中

1988~'89年派遣 ロータリー財団奨学生名簿

種別	氏名	年度	推薦クラブ	留学国	留学大学	現住所又は実家の住所	出身校	専攻分野
大学課程	清水裕子	1988 →1989	長崎南	米国	南イリノイ大学 Southern Illinois University	〒652 長崎市青山町379 TEL 0958-46-0562	九州大学 文学部	英語教育
大学課程	長野敬二	1988 →1989	伊万里	米国	スタンフォード大学 Stanford University	〒156 東京都世田谷区 羽根木1-14-17-105, TEL 03-323-9541	慶應大学 法律学科	比較法学
大学院課程	原史子	1988 →1989	長崎	カナダ	トロント大学 University of Toronto	〒183 東京都府中市 新町竹沢1-67-25 TEL 0423-65-6905	大阪外国语大学 フラン西語科	比較教育学
大学院課程	金森美樹男	1988 →1989	佐世保南	米国	ピッツバーグ大学 University of Pittsburgh	〒857-11 佐世保市黒髪町6169-8 TEL 0956-33-6355	九州大学 機械工学科	機械工学
大学院課程	橋本嘉那子	1988 →1989	佐賀	西独	Albert-Ludwigs Universität Freiburg	〒842 佐賀県神埼町 三田川町吉田2900番地 TEL 0952-52-3775	東邦大学 ドイツ語学科	民俗学
大学院課程	高田章	1988 →1989	長崎	ベルギー	ブリュッセル自由大学 Université Libre de Bruxelles	〒115 東京都世田谷区 北沢3丁目37-23 北沢165号 TEL 03-468-5562	慶應大学 文学部	西洋近代 英術史

本年8~10月出発予定

米山寄付明細書

昭和62年12月31日現在

クラブ名	半期 一名当り	62/7~62/12入金分			過去累計分		
		普通寄付金	特別寄付金	合計	普通寄付金	特別寄付金	合計
伊万里	0	0	0	0	1,667,200	1,200,000	2,867,200
伊万里西	1,000	40,000	0	40,000	1,120,000	1,800,000	2,920,000
唐津	1,250	81,250	0	81,250	2,343,300	800,000	3,143,300
唐津東	1,000	57,000	0	57,000	1,824,750	2,335,000	4,159,750
唐津西	1,000	47,000	0	47,000	1,198,500	2,000,000	3,198,500
多久	1,000	32,000	0	32,000	32,000	0	32,000
神埼	500	15,500	0	15,500	40,000	0	40,000
小城	1,000	39,000	0	39,000	1,094,750	5,000	1,099,750
佐賀	1,250	87,500	0	87,500	2,569,500	1,880,000	4,449,500
佐賀北	1,000	60,000	0	60,000	1,575,500	600,000	2,175,500
佐賀南	500	15,500	0	15,500	45,000	0	45,000
佐賀西	1,250	88,250	0	88,250	2,364,400	2,100,000	4,464,400
牛津	1,000	33,000	0	33,000	734,250	50,000	784,250
有田	750	36,000	0	36,000	1,320,000	0	1,320,000
鹿島	750	50,250	0	50,250	1,500,950	300,000	1,800,950
大町	750	29,250	0	29,250	752,750	360,000	1,112,750
白石	1,500	45,000	0	45,000	262,500	600,000	862,500
武雄	1,250	78,750	50,000	128,750	2,032,150	637,000	2,669,150
峰野	1,000	37,000	0	37,000	992,500	0	992,500
平戸	1,000	42,000	300,000	342,000	1,312,850	600,000	1,912,850
生月	1,500	48,000	0	48,000	810,500	148,000	958,500
北松浦	1,500	55,500	0	55,500	1,041,500	1,788,000	2,797,500
松浦	500	17,500	0	17,500	391,000	0	391,000
佐世保	750	79,500	750,000	829,500	2,656,300	42,775,000	45,431,300
佐世保東	1,250	66,250	132,875	199,125	1,694,750	3,458,679	5,153,429
佐世保北	750	36,750	600,000	636,750	231,000	2,100,000	2,331,000
佐世保南	1,000	88,000	0	88,000	2,385,800	6,498,846	8,884,646
佐世保西	1,000	56,000	120,000	176,000	1,381,950	4,260,000	5,641,950
誠早	1,250	81,250	0	81,250	2,130,000	1,200,000	3,330,000
誠早北	2,000	128,000	0	128,000	1,354,500	600,000	1,954,500
誠早西	500	20,000	0	20,000	143,000	0	143,000
大村	750	48,000	0	48,000	1,494,600	1,800,000	3,294,600
大村北	1,000	38,000	0	38,000	655,000	2,490,000	3,145,000
島原	750	43,500	0	43,500	1,450,050	100,000	1,550,050
妻仙	1,250	36,250	0	36,250	1,185,500	300,000	1,485,500
福江	1,000	62,000	0	62,000	1,648,950	2,449,105	4,098,055
福江中央	1,250	67,500	720,000	787,500	1,079,250	2,203,647	3,282,897
東長崎	750	27,000	0	27,000	325,750	394,000	623,750
長崎	1,500	139,500	99,130	238,630	3,449,350	4,660,303	8,109,653
長崎東	1,200	96,000	0	96,000	2,294,900	1,500,000	3,794,900
長崎北東	1,250	63,750	0	63,750	1,031,250	1,005,000	2,036,250
長崎北	1,500	127,500	890,000	1,017,500	3,402,000	6,920,000	10,322,000
長崎南	1,500	121,500	0	121,500	3,391,050	3,103,000	6,494,050
長崎西	1,000	66,000	150,000	216,000	328,000	150,000	478,000
その他	0	0	0	0	0	1,977,500	1,977,500
地区合計		2,525,500	3,812,005	6,337,505	60,738,800	107,004,080	167,742,880

財團法人ロータリーミサン記念奨学会 1988年度奨学生

	氏名	性別	国籍	大学名	専攻	支給期間	世話クラブ
本年度選考合格者	1 ボッダー・サミール・クマー	男	バングラデシュ	長崎大学薬学部	医療薬科学	S 82.4~S 84.3	長崎南
	2 李 正 根	男	韓国	" 水産学部	水質管理学	"	長崎
	3 ゲー・イエン・ケン	男	マレーシア	佐賀大学理工学部	電気工学	"	佐賀北
	4 オン・ジャネット	女	"	長崎大学経済学部	貿易学	"	東長崎
	5 陳 逢 金	男	台湾	長崎大学	経済学	S 83.4~S 85.3	長崎東
	6 ヨウ・バン・リョウ	男	マレーシア	佐賀大学	建設工学	"	佐賀
	7 王 德 宝	男	"	"	機械工学	"	牛津
	8 紀 錦 霞	女	台湾	"	建設工学	"	佐賀
	9 金 光 植	男	韓国	長崎総合科学大学	流体工学	"	東長崎
	10 アラティ・アラトウカ・ラム・アリフ	男	インドネシア	長崎大学	経営学	S 83.4~S 84.3	長崎東
<補欠>							
	ウォン・トン・ワイ		ポルトガル(マカオ)	長崎県立国際経済大学	経済学		

第274地区姉妹友好クラブ一覧表

(昭和62年6月30日現在)

クラブ名	姉妹クラブ名	先方地区	締結年月日	満了年月日	備 考
唐津	駆 水	韓国 371	'70.11. 6		7/12-14駆水RC20周年式に9名参加。
唐津	大 甲	台湾 346	'76.11.28		11/30唐津RC30周年記念式に招待し、親睦を計る。
唐津東	員 林	台湾 346	'75. 2.20		継続中
唐津西	浦 項	韓国 370	'74. 6.13		〃
唐津西	左 水 営	韓国 371	'77. 3.16		87年5月左水営RC10周年記念式典に親睦訪問予定。
唐津西	唐 津	韓国 368	'84. 4. 2		87年4月2日唐津市事務所新築記念に境内に記念植樹。中学生の絵画等の交換。
佐賀	南 益 山	韓国 366	'73. 3.24		時期により10数年なら、メンバーが双方にもあって来ているので何らかの場合の必要な時刻、クラブ刊行物は交換している。
佐賀西	岡 レン山	台湾 347	'79. 2.27		2年毎更新
鹿 島	北 斗	台湾 346	'80. 3.13		87.2.6北斗RC10周年記念式典参加予定。
平 戸	台 南	台湾 347	'77. 5.16	'87. 1.11	更新予定
佐世保	台 南	台湾 347	'70.11.20		3年毎更新
佐世保	ラ・ホイヤー	アメリカ 534	'88. 1. 1	'89.12.30	3年毎更新。定期少年交換学生計画につき検討中。
佐世保南	ポイントロマ	アメリカ 534	'82.10.20		継続中
佐世保西	成 歐	韓国 368	'86. 4.24	'89. 4.24	〃
佐世保東	益山巡 墓	韓国 366	'86. 3. 3	'89. 3. 2	87.5.10当クラブ創立20周年式典に10名程度招待予定。
大 村	角 館	日本 254	'80. 2.23	'89. 2.22	3年毎更新。昨年度更新したので今後週報の交換を続け、角館の祭等に会員が参加して行く予定。
島 原	小 豆 島	日本 267	'78.		継続中
長崎	セントポール	アメリカ 596	'75.11. 6		長崎市がセントポール市と姉妹都市締結をしている関係上、毎年交換学生も交換し、永続化が考えられる。
長崎	マニラ	フィリピン 382	'85. 5.20		10/23長崎RC50周年記念行事にマニラRCを招待する予定。
長崎北	リウス・セントポール	アメリカ 596	'75. 9.29		毎年交互にプレゼント交換し、通信を取りあっている。
長崎北	京 都 北	日本 265	'77. 8.20		毎年趣向を変えて交互に訪問し合い想親を深めている。
長崎南	利 尻	日本 250	'88. 1. 1	'91.12.31	3年毎更新
長崎東	高 雄 西 区	台湾 347	'80. 7.14		3年毎更新
東長崎	南 仁 川	韓国 369	'83. 3.22	'86. 3.22	-解消-
長崎北東	基隆 東	台湾 345	'85. 2		姉妹締結はしていないが友好クラブとして毎年訪問交流している。
佐世保北	仁 州	韓国 369	'87. 5.28		継続中

186~87世界社会奉仕実施一覧表

種類	RIリストNo	プロジェクト内容	対象国	対象RC	金額	実施	備考
(1) 地区計画	1,819	児童図書館の拡張のため書籍、視聴覚設備、日用品、又は資金	インド	ジャムセドプール	USS\$1,000	'87.6.10	新規
(2) *	1,615	村落の農家に肥料を供給するためのバイオガス設備資金	インド	ウムレス	USS\$1,000	'87.6.10	新規
(3) *	1,914	銀河患者達が自立出来るよう環境指導をするための施設の建設資金	インド	フランガール	USS\$1,000	'87.6.10	新規
(4) *	1,994	一週間に250人の児童に食糧を与える給食施設のために、食品と台所用品の購入資金	フィリピン	パセインランガン	USS\$1,000	'87.6.10	新規
(5) *	2,098	難民のために100戸の恒久的住宅を提供するための資金	スリランカ	バディカラフ	USS\$1,000	'87.6.10	新規
(6) 佐世保西RC		便益を一任して寄贈	韓国	成歎RC	10万円	'87.4.22	姉妹クラブ協約1周年記念品としてロータリーの旗とバッヂ贈呈
(7) 長崎北RC	585	肺結核治療指導員養成費補助	ネパール	カドマンズRC	USS\$500	'87.3.2	新規

* 世界社会奉仕委員会において本年度（'87～'88）重要施策であるボリオプラスへの寄付を決定、地区予算の全額 864,000円を、4月20日実施しました。

長崎北東RC

- (1) RIの「ボリオ2005年プログラム」の一環として、1959-60年 322地区で発足した《スリランカ・ボリオ免疫付与事業基金》にKANDYロータリークラブを通して1,000ドルを寄付した。
- (2) KANDYロータリークラブの要請を受け、KANDY総合病院整備計画援助の一環として、中古品ランドリー機械（洗濯機と脱水機各1台）を送付。（費用 60万円）

(7)

長崎北RC

- (1) 過去10年に亘ってのネパール国カトマンズRCの要請による結核予防費援助（予算 150,000円）
第10回寄付金：500ドル（連絡費送金手数料共）
- (2) 「大村難民一時レセプションセンター」に収容されているベトナム難民への援助奉仕（予算：30,000円）
- (3) 中国残留孤児帰国者の一時収容施設「花丘寮」に入寮されている家族に、各家庭で使用していない衣料、家庭用品を贈る。
(予算：50,000円)



ロータリーの友
〒105 東京都港区芝公園2-6-3
9B C会館 電話 03-436-65512

1988年4月10日

国際ロータリー 第274地区
地区協議会国際奉仕部門リーダー

本城好春 様

ロータリーの友委員会
委員長 加藤進治

ロータリーの友英語版活用についてお願いの件

謹啓 時下益々ご清祥のおんとお慶び申し上げます。

このたびはご繁忙のところ貴地区協議会国際奉仕部門リーダーのご大任誠にご苦労様のことと存じます。

さて、早速ではございますが、ロータリーの友では1975年4月より英語版を年2回（4月と11月）刊行いたしております。

この英語版には、日本語版ロータリーの友誌より海外向けにふさわしい記事を転載するほか、日本の文化・社会・経済などの事情の紹介記事を掲載しております。

この英語版を国際奉仕の一助として、皆様にぜひともご活用賜りたいと存じ毎年ご協力をお願い申し上げている次第でございます。

特に1976-77年度よりは、地区ガバナー各位のご諒解を得て、各クラブ会員数の一割を目指にお買い上げご活用をお願い致しております。

つきましては、近日開催の貴地区協議会の席上、ご出席の次期クラブ幹事各位に、貴台よりこの旨ご伝達賜り、「友」英語版の一層の活用をご推進いただければ幸甚と存じます。

ご参考までに「友」英語版の詳細を別記いたし、併せて第28号誌を一部同封申し上げます。

謹白

ロータリーの友英語版の詳細

1. 掲載記事内容

日本語版「ロータリーの友」より海外向けにふさわしい記事を編集転載。その他日本の経済、社会、文化および一般事情紹介の記事を掲載。

2. 活用方法

(イ) 特に冬季号（グリーティング・カードつき）の場合、クリスマス・カードのかわりに、組み合わせ相手クラブ、海外の友人、知人または海外の取引先に贈呈。

(ロ) 例会で海外ビジターに贈呈。

(ハ) 海外の姉妹クラブに定期的に送付。

(ニ) 国際大会参加その他の海外旅行の際お土産として携行。

(ホ) Official Directory(R I 発行の全世界RCの名簿)を利用して、外国のRC会長に贈呈。（一例：同じ頭文字のクラブに贈る。）

(ヘ) 各種ロータリー交換学生に贈呈。

(ト) その他

3. 刊行回数

年間2回（新年度は29号誌と30号誌）

4. 刊行予定日

第29号誌は今年11月、第30号誌は明年4月

5. 単価1部 500円（④込）

6. ご注文方法

7月初旬に各クラブ幹事様宛にご案内状とご注文葉書を郵送いたします。

1988~89 RI D-274地区 地区協議会 国際奉仕部会 資料
設問 I. クラブ国際奉仕委員会について

分区	クラブ名	メンバ- (人)	残留 (人)	任期 (年)	委員長RC 履 (年)	国際奉仕予算 / クラブ総予算 = 予算比 (円) (円) 率(%)
第1分区	伊万里	4	0	1	5	200,000 / 10,028,422 2.0
	伊万里西	4	0	1	11	50,000 / 10,380,461 0.5
	唐津	4	2	2	7	450,000 / 14,570,000 3.1
	唐津東	6	1	?	14	450,000 / 12,867,886 3.5
	唐津西	3	0	1	11	350,000 / 9,543,217 3.6
	久多	10	2	1	3	150,000 / 700,000 21.4
第2分区	神崎	2	1	1	1	- / -
	小城	3	2	1	11	150,000 / 7,890,000 2.0
	佐賀	7	3	2	3	350,000 / 17,730,000 2.0
	佐賀北	4	未定	1~2	4	1,300,000 / 16,314,000 8.0
	佐賀南	3	3	3	15	80,000 / 7,830,000 1.0
	佐賀西	4	0	1	5	700,000 / 17,655,601 4.0
第3分区	佐賀牛	4	1	1	3	100,000 / 6,462,120 1.5
	有田	3	1	1	7	- / -
	鹿島	6	4	2	16	285,000 / 15,448,000 1.8
	大町	4	1	1	15	30,000 / 730,000 4.1
	白石	3	1	2.5	3	186,000 / 6,791,484 2.4
	雄武	3	1	1	25	605,000 / 15,026,000 4.0
第4分区	嬉野	4	1	1	9	100,000 / 1,200,000 8.3
	平戸	13	4	1	21	150,000 / 8,869,567 1.7
	生月	6	2	2	3	200,000 / 5,598,000 3.6
	北松浦	3	0	1	19	100,000 / 8,000,000 1.6
	松浦	4	2	1	5	75,000 / 7,079,539 1.1
	佐世保	20	-	1	15	392,000 / 22,328,911 1.8
第5分区	佐世保東	2	1	2	11	550,000 / 11,012,000 5.0
	佐世保北	8	2	1	4	550,000 / 11,077,082 5.0
	佐世保南	11	0	1	9	130,000 / 17,870,000 0.7
	佐世保西	11	4	1	19	924,000 / 11,594,000 8.0
	諫早	5	2	1	4	600,000 / 15,540,000 3.9
	諫早	6	0	-	14	400,000 / 13,770,000 2.9
第6分区	諫早	3	0	1	3	728,400 / 9,833,720 7.4
	大村	9	2	1	4	100,000 / 12,038,000 0.8
	大島	6	5	1	5	100,000 / 8,118,883 1.2
	島原	3	1	3	5	100,000 / 8,708,343 1.0
	島原	2	0	1	1	30,000 / 1,152,000 2.6
	雲仙	4	0	1	4	100,000 / 5,750,000 1.7
	福江	9	2	1	20	60,000 / 未定
	福江中央	10	1	1	13	215,000 / 4,340,000 5.0
	東長崎	5	2	2	7	300,000 / 11,738,209 2.6
	長崎	16	4	2	13	510,000 / 5,304,000 9.6
	長崎東	12	3	1	4	- / -
	長崎北	3	1	1	1	1,231,000 / 5,587,000 22.0
	長崎北	13	9	不定	11	1,340,000 / 21,201,835 6.3
	長崎南	12	1	1	22	390,000 / 20,773,000 1.9
	長崎西	9	1	1	3.5	640,000 / 17,544,716 3.6

次へ

— 国際奉仕部会 —

1988~89 RI D-274地区 地区協議会 国際奉仕部会 資料
設問 II. 国際青少年交換プロジェクトについて

分 区	クラブ名	実績数		本年度計画	短期間 招待計画	障客となる問題点
		参 加	実 績			
第1分区	伊万里	○	3	3	無定	1987-88社会奉仕に力を入れた
	伊万里	×	0	0	未定	
	唐津	○	4	8	無定	
	唐津	○	2	3	無定	
	唐津	○	1	1	無定	
	久多	×	—	—	—	
第2分区	崎城賀	×	—	—	—	公立高校のみで困難している 受入側が英語を用いたがる・財源 姉妹クラブ
	賀北	×	1	2	—	
	賀北	○	21	18	応募者無し 現在実施中	
	賀南	○	19	17	—	
	賀西	×	—	—	送1・受1	
	津	○	21	19	—	
第3分区	有鹿	○	2	2	無	1987-88社会奉仕に力を入れた
	大白	○	2	2	—	
	武	×	0	0	受1	
	焰	×	0	0	検討中	
	野	○	6	6	無	
	田島町	×	0	0	—	
第4分区	戸月	×	0	0	無	1987-88社会奉仕に力を入れた
	北松	×	0	0	無	
	佐世	×	0	0	—	
	保東	○	4	4	有	
	佐世	○	3	3	有	
	保南北	×	—	—	無	
第5分区	諫諫諫	○	6	6	有	受入家庭の固定化傾向 経費・受入家庭の決定 創立後日が浅く機が熟していない 言葉・学生の家族と受入側の連絡
	早	○	1	1	有	
	早	×	0	0	無	
	大	○	6	7	無	
	大	○	2	2	—	
	島	○	3	3	中	
第6分区	島雲	×	0	0	無	離島のため環境的に大変難しい 相手側(ミラ)の国情不安等 受入家庭の希望者が少ない
	江	×	0	0	—	
	江	○	1	1	—	
	長	○	28	27	無	
	長	○	1	20	無	
	長	○	2	2	—	
	長	○	1	13	中	
	長	○	0	0	—	
	長	×	—	—	—	
	長	×	—	—	—	
	長	×	—	—	—	
	長	×	—	—	—	

1988~89 RI D-274地区 地区協議会 国際奉仕部会 資料

説明 III. ロータリー財団について

*…ホール・ハス・ツル-中、新表彰方式(ホール・カス)による

分区	クラブ名	現在財團／創立=年平均伸び率(%)	会員数(名)	ホール・ハス・ツル-(名)	比率(%)	ホール・カス 寄付額(円)	平均寄付額(円)	受給者(名)	障害となる問題点
第1分区	伊万里	6,900 / 27 255.6	50	17 * 3	34.0	1,296,000	24,120	-	
	伊万里西	- / - -	41	30 * 8	73.2	1,528,942	37,291	0	
	唐津	5,800 / 31 187.1	64	39 * 15	60.9	2,694,000	42,093	-	
	唐津東	6,000 / 23 260.1	56	33 * 4	58.8	3,064,784	54,728	0	
	唐津西	2,700 / 18 150.0	51	4 * 0	7.8	955,208	18,730	0	
	多久	300 / 3 100.0	32	5 * 0	15.6	1,280,000	40,000	-	
第2分区	神崎城	- / - -	32	- - -	-	1,280,000	40,000	-	
	佐賀北	200 / 22 9.1	41	8 * 2	19.5	1,560,000	40,000	-	
	佐賀南	8,700 / 35 284.6	70	40 * 12	57.1	3,542,800	50,350	8(大学院 2:大学 6)	
	佐賀西	3,300 / 18 188.3	62	21 * 2	33.8	2,810,000	45,323	0	
	牛津	1,000 / 3 333.3	31	4 * 2	12.9	1,328,000	36,888	0	
	有田	1,200 / 11 109.1	32	26 * 2	39.4	3,389,000	51,384	1	
第3分区	鹿島町	3,600 / 26 138.5	51	12 * 2	23.5	2,159,968	42,352	-	
	大白石	5,700 / 22 259.1	66	32 * 15	48.5	2,720,600	41,221	-	
	武雄	3,100 / 15 206.7	42	7 * 1	16.7	1,769,000	42,119	-	
	嬉野	1,200 / 5 240.0	30	2 * 2	6.7	1,249,336	41,645	0	
	平生月	5,000 / 25 200.0	63	19 * 6	30.2	2,500,000	39,683	0	
	北松浦	5,200 / 17 305.9	37	9 * 0	24.3	1,480,000	40,000	0	
第4分区	佐世保	8,200 / 28 292.9	46	13 * 4	28.3	2,084,600	44,883	-	
	佐世保東	- / - -	32	4 * 0	12.5	128,000	4,000	0	
	佐世保北	6,900 / 19 363.2	35	15 * 0	42.9	321,600	9,189	0	
	佐世保南	17,800 / 37 481.1	105	109 * 40	104	7,092,800	67,550	2(大学院)	
	佐世保西	5,800 / 22 263.6	56	18 * 12	32.1	2,240,000	40,000	-	
	諫早	1,700 / 4 425.0	52	8 * 6	15.4	1,974,460	37,970	-	
第5分区	島原	8,900 / 30 296.7	86	42 * 22	48.8	3,231,100	37,571	-	
	島原南	9,500 / 19 500.0	57	38 * 26	66.7	3,671,800	64,418	0	
	諫早北	4,200 / 17 247.1	69	19 * 1	27.5	2,760,000	40,000	0	
	諫早西	- / 3 -	41	11 * 2	26.8	1,260,000	30,732	-	
	大村	4,600 / 28 164.3	64	12 * 1	18.8	857,630	13,400	0	
	大村北	5,600 / 12 466.7	39	22 * 0	56.4	830,000	2,1282	-	
第6分区	島原南	- / 24 -	59	21 * 4	35.6	1,074,000	1,8203	-	
	諫早南	- / - -	32	2 * 2	6.3	288,000	9000	-	
	諫早西	9,200 / 18 511.1	31	12 * 1	38.7	929,400	2,9981	0	
	福江	8,400 / 24 350.0	59	35 * 5	59.3	2,400,000	40,678	-	
	福江中央	6,200 / 13 476.9	55	22 * 8	40.0	1,168,929	21,217	0	
	東長崎	4,400 / 9 488.9	36	13 * 1	36.1	1,497,100	41,588	0	
第7分区	長崎	7,100 / 52 136.5	100	33 * 3	33.0	2,351,715	23,517	11(大学院 8:大学 1:他 2)	
	長崎東	- / - -	89	- - -	-	3,157,000	35,472	-	
	長崎北東	9,200 / 14 657.1	51	16 * 7	31.4	1,515,000	29,700	0	
	長崎北	6,800 / 30 226.7	84	53 * 11	63.1	1,944,800	23,152	6(大学院 4:大学 2)	
	長崎南	7,300 / 23 317.4	87	51 * 13	58.6	3,017,600	34,685	0	
	長崎西	- / 3.5 -	66	8 * 8	12.1	1,851,075	28,047	-	

次へ

— 国際奉仕部会 —

1988~89 RI D-274地区 地区協議会 国際奉仕部会 資料

設問 IV. 米山記念奨学会について

分区	クラブ名	表彰者／会員数=比率 (名) (名) (%)	表彰 法人	今まで世話をした奨学生の 人数と国籍	障害となっている問題
第1分区	伊万里	4 / 50 8.0	0		地理的問題
	伊万里西	5 / 41 12.2	0		
	唐津	2 / 64 3.1	0		
	唐津東	2 / 56 3.6	0	1:中華民国	
	唐津西	6 / 51 11.8	0		
	多久	0 / 32 0	0		
第2分区	神崎	- / - -	-		
	小城	- / - -	-		
	佐賀	6 / 70 8.6	0	1:パナム 1:マレーシア 1:台湾	
	佐賀北	2 / 62 3.2	0	1:マレーシア	
	佐賀南	0 / 31 0	0		
	佐賀西	7 / 68 10.6	0	1:マレーシア	
第3分区	牛津	- / - -	-	1:マレーシア	地元に大学がない
	有田	0 / 51 0	0		
	鹿島	1 / 66 1.5	-	1:台湾	
	大町	3 / 42 7.1	-		
	白石	2 / 30 6.7	-		
	雄知	1 / 63 1.6	-	1:中華民国	
第4分区	福浦	0 / 37 0	-		何か・カラ等へ力を入れた 大学が少ない
	平戸	1 / 46 2.2	0		
	生月	0 / 32 0	0		
	北松浦	3 / 35 8.6	0		
	松浦	0 / 35 0	-		
	佐世保	22 / 105 21.0	5	2:台湾	
第5分区	佐世保東	15 / 56 26.8	-		地元大学への留学生少
	佐世保北	8 / 52 15.4	0		
	佐世保南	20 / 86 23.3	0	2:台湾	
	佐世保西	6 / 57 10.5	3	3:中国	
	諫早	4 / 73 5.5	0		
	諫早北	0 / 69 0	0		
第6分区	諫早西	0 / 41 0	0		離島のため環境的に困難 受入家庭の希望者少
	大村	6 / 64 9.4	0		
	大村北	8 / 39 20.5	0	2:中国(米山奨学会対象外)	
	島原	0 / 59 0	0		
	島原南	- / - -	-		
	雲仙	1 / 31 3.2	0		
第7分区	福江	7 / 59 11.9	0		離島のため環境的に困難 受入家庭の希望者少
	福江中央	3 / 55 5.5	0		
	東長崎	1 / 36 2.8	0	4:マレーシア	
	長崎	9 / 100 9.0	0	15:台湾 4:マレーシア 1:中国 1:マダガスカル 1:韓国	
	長崎東	- / 89 -	-	1:マダガスカル 20:台湾	
	長崎北東	0 / 51 0	0	1:台湾	
第8分区	長崎北	25 / 84 29.8	0	16:台湾 2:マレーシア 1:香港	
	長崎南	8 / 87 9.2	1	5:台湾 1:インドネシア 1:マレーシア 1:韓国 1:シガル・ル 1:ルガラン	
	長崎西	- / - -	-		
	長崎西	- / - -	-		

1988~89 RI D-274地区 地区協議会 国際奉仕部会 資料

設問 V. 姉妹クラブについて

分区	クラブ名	有無	将来の計画	障害となっている問題・その他
第1分区	伊万里	無	無	必要性を認めない
	伊万里西	無	無	
	唐津	有	未定	言葉(日本語を話せる韓国、台湾の言葉人が少なくなってきた。)
	唐津東	有	考慮中	
	唐津西	有	未定	
第2分区	多久	一	—	
	神崎	—	—	
	小城	—	—	
	佐賀北	有	現在無	
	佐賀南	無	無	
第3分区	佐賀西	有	無	無
	牛津	—	—	
	有鹿	無	—	
	田島町	有	—	言葉
	大石	無	—	
第4分区	白雄	有	計画希望	(韓国のクラブと)
	武嬉野	無	—	
	平戸月	有	無	
	北松浦	—	—	
	佐世保	無	無	
第5分区	佐世保東	有	現在無	言葉、距離
	佐世保北	有	計画中	姉妹クラブの連絡の悪さ
	佐世保南	有	無	特に無し
	佐世保西	有	計画中	国内事情、言葉
	諫早	無	現在無	帰国留学生が文通に応じてくれない
第6分区	諫早北	無	計画中	
	諫早西	無	現在無	
	大村	有	考慮中	無し
	大村北	有	無	
	島原	—	—	
長崎	島原南	—	—	
	雲仙	無	無	無し
	福江	無	考慮中	無し
	福江中央	—	無	
	東長崎	無	無	
長崎	長崎東	有	無	ホストファミリーの決定に苦労
	長崎東	有	考慮中	訪問時のお土産など
	長崎北東	有	無	
	長崎北	有	—	
	長崎南	有	—	
長崎	長崎西	—	有	

クラブ名	姉妹クラブ名	交流状況
唐津	大甲RC(中華民国) 麗水RC(韓国)	毎年各々のクラブを訪問
唐津東	員林RC(中華民国)	14年間極めて親密な交流を続けている
唐津西	浦項RC(大韓民国) 左水營RC(〃) 唐津RC(〃) サンクン	交流状態普通
佐賀	南釜山RC(韓国)	週報・会報交換、行事招待、訪韓、訪日
佐賀西	岡山RC(中華民国) カンシャン	2年毎に更新、交互に訪問、刊行物交換
鹿島	北斗RC(中華民国) <友好クラブ>	来訪5回、訪問5回
武雄	竹山RC(中華民国) <友好クラブ>	特別行事の交流、旅行交流
平戸	台南RC(中華民国)	年1回交流、市ごとつて交流有り
佐世保	台南RC(中華民国) テキサスRC(米国)	台南とは2年に1回程訪問、テキサスとは文書交換
佐世保東	釜山蓮堤RC(韓国)	
佐世保北	仁川仁州RC(韓国)	締結時訪韓、5月に来日予定
佐世保南	ポートモルディブRC(米国)	毎年ショートステイを行っている
佐世保西	成歎RC(韓国)	毎年交互に訪問
大村	角館RC(日本)	
大村北	エリザベスRC(カナダ) <友好クラブ>	青少年委員長来日記念行事時メッセージ交換
長崎	セントマーチンRC(米国) マニラRC(フィリピン)	創立記念日に相互訪問
長崎東	高雄西RC(中華民国)	優秀
長崎北東	基隆東RC(中華民国)	年1回お互いに訪問
長崎北	カスピントマーチンRC(アメリカ)	年1回プレゼント交換
長崎南	マカオRC(葡ト港)	隔年ごとに相互訪問

次へ

国際奉仕部会

1888~89 RI D-274地区 地区協議会 国際奉仕部会 資料

*未掲載は無、又は解答無

VI. 世界社会奉仕について

① プロジェクト参加について	② クラブレベルで何か計画がありますか
唐津 東RC・・・有る	唐津東RC、多久RC・・・未定
白 石RC・・・ボリオ・プラス	武雄RC・・・日本ボリオ・プラスに計画に協力
武 雄RC・・・古切手収集、毛布送付	平戸RC・・・未定
佐 世 保RC・・・ボリオプラス	佐世保RC・・・農校生の古作業着をネパールに送る
佐世保西RC・・・古切手収集	佐世保南RC・・・地区レベルで行って頂くため3万円寄付している
諫 早RC・・・フィリピンへの衣類寄贈	大村RC・長崎東RC・・・事業計画考慮中
長 崎RC・・・RI並びに地区レベルのプロジェクトに参加	長崎北東RC・・・スリランカ・ボリオ基金に1,000\$寄付
長崎北東RC・・・スリランカ・ボリオ基金に1,000\$寄付	長崎北RC・・・ナウカN585「祁-ル結核予防協会への援助」
長 崎 北RC・・・はい	

③ 障害となっている問題点

- ・計画立案にあたっての海外情報の収集不足（諫早RC）
- ・援助地域でのニーズの把握が困難なこと（諫早北RC）
- ・環境的に困難（福江RC）
- ・予算の関係と相手国の国情によってクラブレベルではなかなか実現できない（長崎RC）
- ・以前スリランカに新病院建設に伴う備品としてランドリー（中古可）をとの要望があり、大型中古3台を準備したが、その後キャンデーRCよりなんの連絡もなく立ち消えになったことがある（会長交替？）（長崎北東RC）

VII. 国際交流について

○プロジェクト計画がありますか

- ・唐津 東RC・・・貝林RC訪問（期日未定）
- ・多 久RC・・・未定
- ・大 町RC・・・未定
- ・武 雄RC・・・未定
- ・船 野RC・・・近隣クラブの留学生を招待し、交流を深めたい
- ・平 戸RC・・・未定
- ・佐世保南RC・・・姉妹クラブへの親善訪問団の派遣
- ・諫 早 北RC・・・諫早市と行橋市とが姉妹都市関係のため何らかの形で関与することになると思われる（伊万里とは別）
- ・諫 早 西RC・・・市内の外国人留学生10数名を招待し懇親会を行う（毎年恒例）
- ・大 村 北RC・・・カナダのコーテニクラブとの交流を続けていきたい
- ・長 崎 東RC・・・考慮中

○障害となっている問題点

- ・知識の不足（伊万里RC）

IX. その他の事項について、意見希望など

- ・国際問題については、非常に幅が広いため、あまり広げると、地方のクラブとしては、資金・人員的にも難しくなるので、焦点をしぼってやるべきではないかと思います。又、国際交流においては、言葉の問題が常に障害となりますので、使用できる共通の言葉（例えば英語）を習熟することも必要ではないかと思います。（唐津RC）
- ・当クラブは発足後まだ日が浅く、各委員会毎の計画については検討中です。今後、鋭意努力してまいります。（神崎RC）
- ・長い間続きました古切手の利用が出来なくなりました様で、それに代わるものを作成すればと思います。（小城RC）
- ・当クラブは結成後日が浅く、現在主としてクラブの親睦を図りつつ、ロータリアンのあるべき姿を勉強中である。

資金面でも機が熟したら他クラブ同様の活動が出来るものと思います。（長崎西RC）

1988~89 RI D-274地区 地区協議会 国際奉仕部会 資料

設問 VII. 特別月間の計画について 1

分区	クラブ名	青 少 年 活 動 月 間	米 山 記 念 月 間	ロータリー財団月間
第1分区	伊万里	未定	未定	未定
	伊万里西	未定	未定	未定
	唐津	一	一	一
	唐津東	未定	未定	福岡の外国留学生のおくんち見物
	唐津西	未定	未定	一
	多々久	未定	未定	未定
第2分区	神崎城	一	一	一
	小城	一	一	一
	佐賀	青少年活動に携わっている人の卓話 青少年活動委員長卓話	奨学会の現状と功労者の推進 奨学生卓話	ロータリー財団の現状説明 ロータリー財団委員長卓話
	佐賀北	卓話	奨学会及び奨学生の紹介	ロータリー財団に関する説明
	佐賀南	青少年の犯罪等に関する卓話(佐賀警察)	一	一
	牛津	一	一	一
第3分区	有田	未定	未定	未定
	鹿島	一	卓話	ロータリー財団委員会による卓話
	大町	一	一	一
	白石	スポーツ行事後援等	功労者募集・卓話	初鹿児島等で会員の理解促進
	武雄	青少年犯罪防止卓話(武雄警察)	卓話	6,000%に向かって
	嬉野	無	無	無
第4分区	平生	交通安全キャンペン、街の清掃美化等	会員の理解を深め実績向上を期す	会員の理解を深め実績向上を期す
	戸月	未定	未定	未定
	北松浦	青少年委員会による卓話	職場訪問(職業奉仕月間)・卓話	卓話
	松浦	一	一	一
	佐世保	青少年活動委員長卓話	奨学会に関する卓話	ロータリー財団に関する説明
	佐世保東	一	一	一
第5分区	佐世保北	卓話	卓話	卓話
	佐世保南	未定	未定	未定
	佐世保西	IAC会員と老人ホーム訪問	無	委員長卓話
	諫早	IACとの意見交換	功労者及び功労法人への勧誘	ポール・ハリス・フェローへ勧誘
	諫早北	IACとの意見交換・指導	委員長卓話	委員長卓話
	諫早西	中学校園芸部の見学と研修	無	4名のポール・ハリス・フェロー獲得のキャンペン
第6分区	大村	諫早市少年ワカツム大会後援 考慮中	考慮中	考慮中
	大村北	月間意義の解説など	月間意義の解説と寄付の促進	月間意義の解説とポール・ハリス・フェロー増
	島原	一	一	一
	島原南	一	一	無
	雲仙	無	無	無
	福江	新会員の炉辺会合・卓話(ロータリー情報)	委員長による卓話	卓話(ロータリー情報)
第6分区	福江中央	未定	未定	未定
	東長崎	青少年に関する卓話	奨学生による卓話	ロータリー財団に関する卓話と寄付
	長崎	IACの会員を例会に招待	奨学生による卓話と募金活動	ロータリー財団に関する卓話と寄付
	長崎東	高雄西RCとの子弟の交換交流	考慮中	考慮中
	長崎北東	教育関係者卓話・少年ワカツム大会主催	米山梅吉氏、奨学会についての卓話	ロータリー財団委員長の卓話 慈科大留学生とIACのミーティング他
	長崎北	未定	未定	未定
	長崎南	未定	未定	未定
	長崎西	一	一	一

次へ

国際奉仕部会

1988~89 RI D-274地区 地区協議会 国際奉仕部会 資料

設問Ⅴ 特別月間の計画について 2

分区	クラブ名	世界理解月間	ポリオ・プラス月間	活動の障害になっている問題点
第1分区	伊万里	未定	未定	無
	伊万里西	未定	未定	一
	唐津	海外駐在経験の豊富な方による卓話	一	一
	唐津東	未定	未定	無
	唐津西	一	募金活動の強力な推進	一
	多久	未定	未定	無
第2分区	神崎	一	一	一
	小城	一	一	一
	佐賀	未定	キャンペーンの実績報告	一
	佐賀北	無	無	一
	佐賀南	一	キャンペーンの実績報告	一
	佐賀西	一	一	一
第3分区	牛津	一	品物を持ちよりカクショウをして売上を寄付	一
	有田	未定	未定	一
	鹿島	卓話	一	一
	大町	一	一	一
	白石	R I国際奉仕スライド上映	一	一
	武雄	アジア大会参加を要請する	100%完了。できれば100%以上を	一
第4分区	姫野	無	無	無
	平戸	会員の理解を深め実績向上を期す	会員の理解を深め実績向上を期す	一
	生月	未定	未定	一
	北松浦	無	無	一
	松浦	一	一	一
	佐世保	無	沿岸上映しづか・カラ計画の周知徹底を図る	一
第5分区	佐世保東	一	一	一
	佐世保北	卓話	卓話	小世帯の為予算面で苦しい
	佐世保南	未定	未定	無
	佐世保西	委員長ロータリー情報	委員長卓話	一
	諫早	無	未定	一
	諫早北	元分区代理か情報委員長の講演	6月中に募金完結、報告程度	各委員長の意識がまちまち
第6分区	諫早西	無	一	一
	大村	考慮中	チャリティ・バザー	一
	大村北	月間意義の解説など	地域の人達、団体に広報・募金活動	一
	島原	一	卓話	一
	島原南	一	一	一
	雲仙	無	無	無
第7分区	福江	国際理解の卓話(ロータリー情報)	目標達成(送金済み)	一
	福江中央	未定	未定	一
	東長崎	世界理解に関する卓話	ポリオ・プラスに関する卓話	無
	長崎	一般人の卓話	ポリオ・プラスの最終報告書	無
	長崎東	具体的に考慮中	当クラブは役割終了	無
	長崎北東	ロータリー情報委員長による卓話	ポリオ・プラス委員長による卓話	一
第8分区	長崎北	未定	未定	一
	長崎南	未定	未定	一
	長崎西	一	一	一

地区委員部会

S·A·A 玉置長衛(唐津)

各地区委員会毎に、次年度事業計画等についてご協議を頂いた。

拡大・会員増強、世界社会奉仕、インタークト、財団奨学・学友会報・雑誌・広報、国際青少年交換、ロータークト、研究グループ交換
職業奉仕、国際交流、R Y L A、米山奨学

ポリオプラス

以上13委員会



閉会のご挨拶

国際ロータリー第274地区

ガバナー 田中丸 善一郎

本日は、長時間に亘り終始ご熱心にご勉強を重ねて頂きましてご苦労さまでした。

カウンセラー及びリーダー・副リーダーの方には、特に有益なご指導を賜わり有難うございました。

各部会とも、たいへん熱心なご討議を頂き、只今リーダーの方々からご報告がありましたように、立派な成果をあげて頂きました。本日の地区協議会は大成功であったと思います。新年度への心構えが整った感が致します。

辻ガバナーのご指導のもとに、皆様方の絶大なるご協力によりまして、第274地区の各クラブが、より一層充実発展致しますように心からお祈り致します。

私の任期は間もなく終了致すことになりますが、地区ロータリアンの皆様のお力添えに対して、心から感謝しお礼を申し上げて、ご挨拶と致します。

閉会のことば

国際ロータリー第274地区

ガバナーノミニー 辻 庚一

閉会のことばを述べさせて頂きます。午後1時から始まりました本日の地区協議会、漸く終了の時間となりました。

特にご遠方の方、昨日からおいでになった方もいらっしゃいます。本当にお疲れ様でございました。

併しながら、そのお疲れの成果と申しましようか、随分頭の中がフレッシュになられたこと思います。

いよいよ7月1日から私共の年度が始まります。皆様方と共に、ロータリーの路線を上手に、そしてせいぱい努力して進んで行きたいと思います。

尚、本日は田中丸ガバナーを始め、カウンセラーの皆様、それからリーダー・副リーダーの皆様方、お世話を頂きましたことを厚く御礼申し上げます。

それから、会員の皆様方の今日の真摯なご討議によりまして、スタート真近の新しい年度が大いに盛り上がる事を期待致しております。

どうも有難うございました。心から御礼申し上げ閉会のことばと致します。

~~~~~(お詫び)~~~~~

各部門別研究会の発言者欄中、A・B・Cの標示は、録音テープにクラブ名・お名前の収録がなく、発言者不詳のためです。

当方の不手ぎわを深くお詫び申し上げます。

唐津RC, 記録委員会